

2020 年度（令和 2 年度）

臼杵市

男女共同参画社会づくりのための

意識調査 報告書

2021 年（令和 3 年）3 月

臼杵市



はじめに

市民の皆様には日頃より、臼杵市の男女共同参画推進事業の取組に関して、多大なるご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

国は男女共同参画社会の実現を「21世紀の我が国社会を決定する最重要課題」と位置づけています。

全国的かつ本格的な人口減少や高齢化が進む中、家庭・職場・地域における、結婚・出産・育児・介護といった数々のライフイベントに伴う課題は、もはや女性だけのものではなく、職業生活も男性のものだけではありません。加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大により顕在化した配偶者等からの暴力や性暴力の増加・深刻化、また女性の雇用への影響等が全国的に懸念されています。男女がお互いの人権を尊重し、多様な暮らし方や働き方が選択できる柔軟な社会づくりが求められています。

臼杵市においては、2017年（平成29年）3月に策定した「第2次臼杵市男女共同参画基本計画」に基づき、市民、企業、臼杵市など、皆が連携し、男女共同参画を総合的かつ計画的に推進して参りました。

このたび、前回調査から5年経過するにあたり、男女共同参画に関する臼杵市民の意識や実態を把握し、今後の施策をさらに効果的に進めるため、「臼杵市の男女共同参画社会づくりのための意識調査」を実施いたしました。

この報告書は、意識調査の結果を分析したものであり、今後、行政機関をはじめ関係団体及び地域の皆様に、幅広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本調査を実施するにあたり、ご協力いただきました市民の皆様にご心より厚くお礼申し上げます。

2021年（令和3年）3月

臼杵市長 中野 五郎

目次

第1章 調査の概要	1
1. 目的	1
2. 調査体制	1
3. 調査対象・方法	1
4. 実施期間	2
5. 回収状況	2
6. 調査の精度	3
第2章 調査結果の概要	4
■属性の集計（回答者のプロフィール）	4
■調査結果の概要＜総論＞	12
1. 男女共同参画社会について	13
2. 仕事・職場環境について	17
3. 教育・地域活動について	20
4. 配偶者・恋人間の暴力（DV）について	23
5. 人権について	25
6. 男女共同参画社会の実現とDV防止について	27
第3章 各調査の結果	29
1. 男女共同参画社会について	29
2. 仕事・職場環境について	56
3. 教育・地域活動について	74
4. 配偶者・恋人間の暴力（DV）について	89
5. 人権について	109
6. 男女共同参画社会の実現とDV防止について	119
資料編	128
●男女共同参画社会基本法	129
●臼杵市男女共同参画推進条例	130
●第2次臼杵市男女共同参画基本計画（抜粋）	134
●「臼杵市男女共同参画社会づくりのための意識調査」調査票	136

第 1 章 調査の概要

1. 目的

臼杵市の男女共同参画社会づくりの政策実現にむけ、社会情勢の変化や個人の生き方の多様化に伴う市民の意識・現状を把握するために実施した。

2. 調査体制

■根拠法令：臼杵市男女共同参画推進条例 第 16 条

学識経験者等で組織する「臼杵市男女共同参画推進懇話会」より調査の企画・分析に関して助言を得るとともに、調査の内容についても協議を行い、以下の点を考慮して調査を実施した。

- (1) 前回調査*の結果と比較検討ができ、調査目的の内容に合致するもの
- (2) 男女共同参画に対する現状の意識が数値として測れるもの
- (3) 国・県または類似団体等の実施した調査結果との検討が可能なものとする
- (4) 今後の男女共同参画施策における課題等を明らかにし、基本計画、施策内容等を検討する際、参考となる分析およびその方向性の提示をすること

※前回調査＝2015 年（平成 27 年）9 月実施

『男女共同参画社会づくりに向けての意識調査』

3. 調査対象・方法

調査対象	2020 年（令和 2 年）7 月 1 日現在、臼杵市に住民票を有する 18 歳以上の市民から 2,500 人を無作為抽出
調査方法	郵送調査

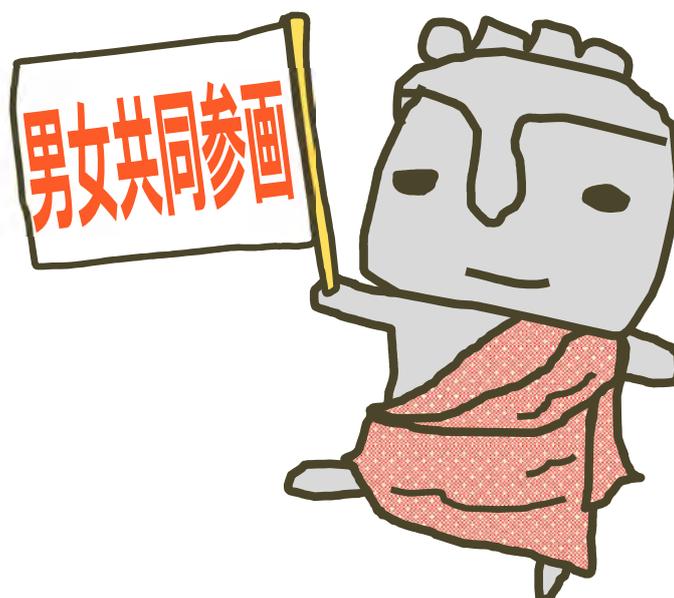
4. 実施期間

期間	内容
2020年（令和2年）8月1日	調査票発送
2020年（令和2年）8月1日～8月31日	調査票回収 ※1
2020年（令和2年）10月～2021年（令和3年）2月	集計・分析作業
2021年（令和3年）3月	調査報告書作成

※1 調査票回収期間は、8月31日までとしていたが、9月以降も調査票の返送があったため、回収期間を9月30日まで延長した。（お礼状は2回発送。）

5. 回収状況

	今回（R2）調査	前回（H27）調査
配布数	2,500	2,500
回収数	1,273	1,206
回収率	50.9%（1,273/2,500×100）	48.2%（1,206/2,500×100）



6. 調査の精度

今回の調査は、18歳以上の市民33,145人（母集団）から2,500人を無作為で抽出して実施した「標本調査」である。なお、18歳以上の市民全員を対象とした調査を「全数調査」という。

「標本調査」では、無作為に選ばれた一部の市民から得られた結果より、18歳以上の市民全体の値を推測するが、この際に生じる「標本調査の結果」と「全数調査の結果」の差を標本誤差という。

今回の標本誤差を、一般的に国などが行っている信頼水準95%¹（係数1.96）で計算した場合、誤差が最大となる回答比率50%においても±3%以内にするためには、統計学上、1,033以上の標本数が必要となるが、今回は1,273と、必要な標本数が得られたと言える。

標本誤差は、以下の公式によって算出される。

(標本誤差算出式)

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{p(100 - p)}{n}}$$

上式をもとにした本調査の標本誤差は、以下のとおりである。誤差が一番大きくなるのは、回答比率が50%の時であり、本調査で得られた標本サイズ（1,273）における誤差率は最大で±2.7%となっている。

回答比率	標本サイズ							
	200	800	1,000	1,033	1,100	1,273	1,500	2,000
10% または 90%	±4.2	±2.1	±1.9	±1.8	±1.8	±1.6	±1.5	±1.3
20% または 80%	±5.5	±2.8	±2.5	±2.4	±2.4	±2.2	±2.0	±1.8
30% または 70%	±6.4	±3.2	±2.8	±2.8	±2.7	±2.5	±2.3	±2.0
40% または 60%	±6.8	±3.4	±3.0	±3.0	±2.9	±2.7	±2.5	±2.1
50% または 50%	±6.9	±3.5	±3.1	±3.0	±3.0	±2.7	±2.5	±2.2

注) 表の見方：例えば、ある設問の回答者数が1,273人であり、その設問中のある選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は、±2.7%以内（57.3～62.7%）であると見ることができる。

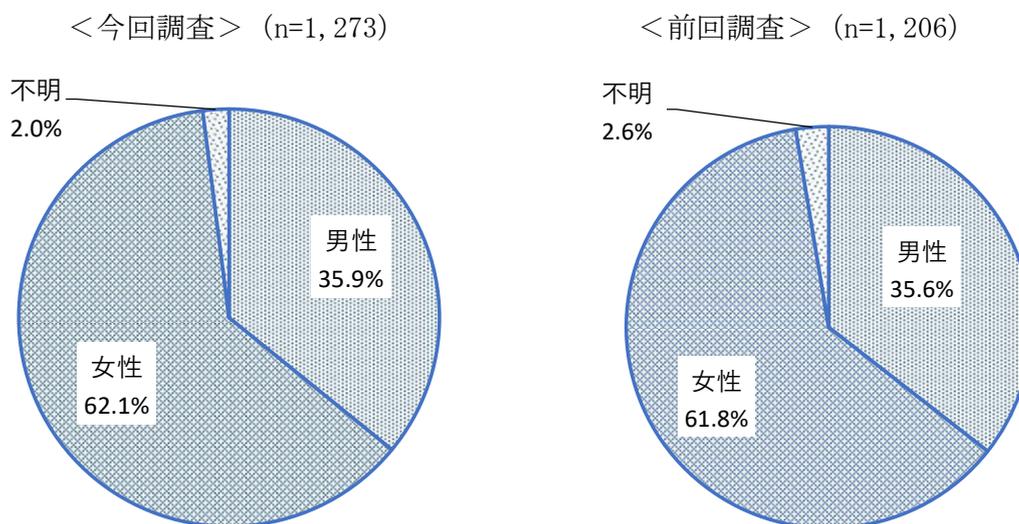
¹信頼水準95%：100回同じ調査を実施したときに、概ね95回まではこの精度が得られることを示す。

第2章 調査結果の概要

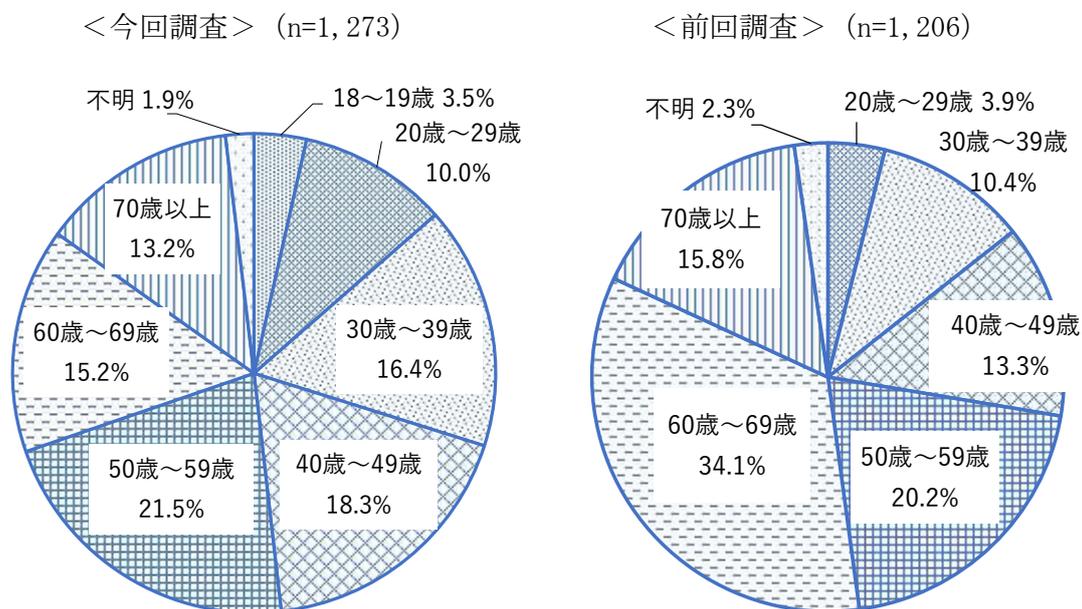
※報告書中に記載される
nの数字は標本数を指す。

■属性の集計（回答者のプロフィール）

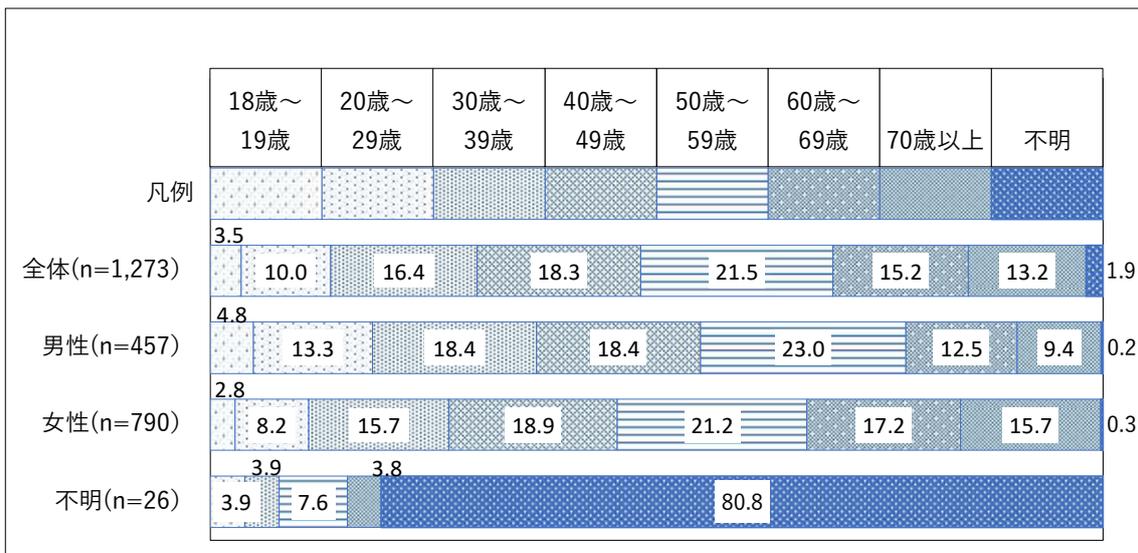
性別



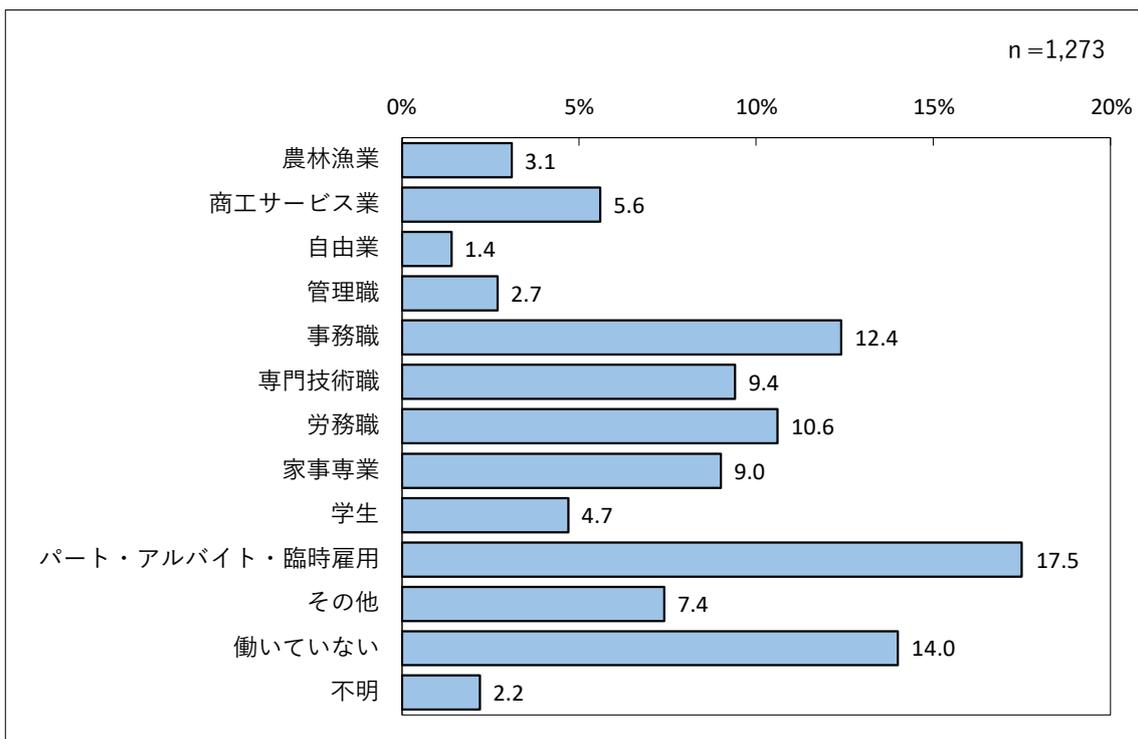
年齢

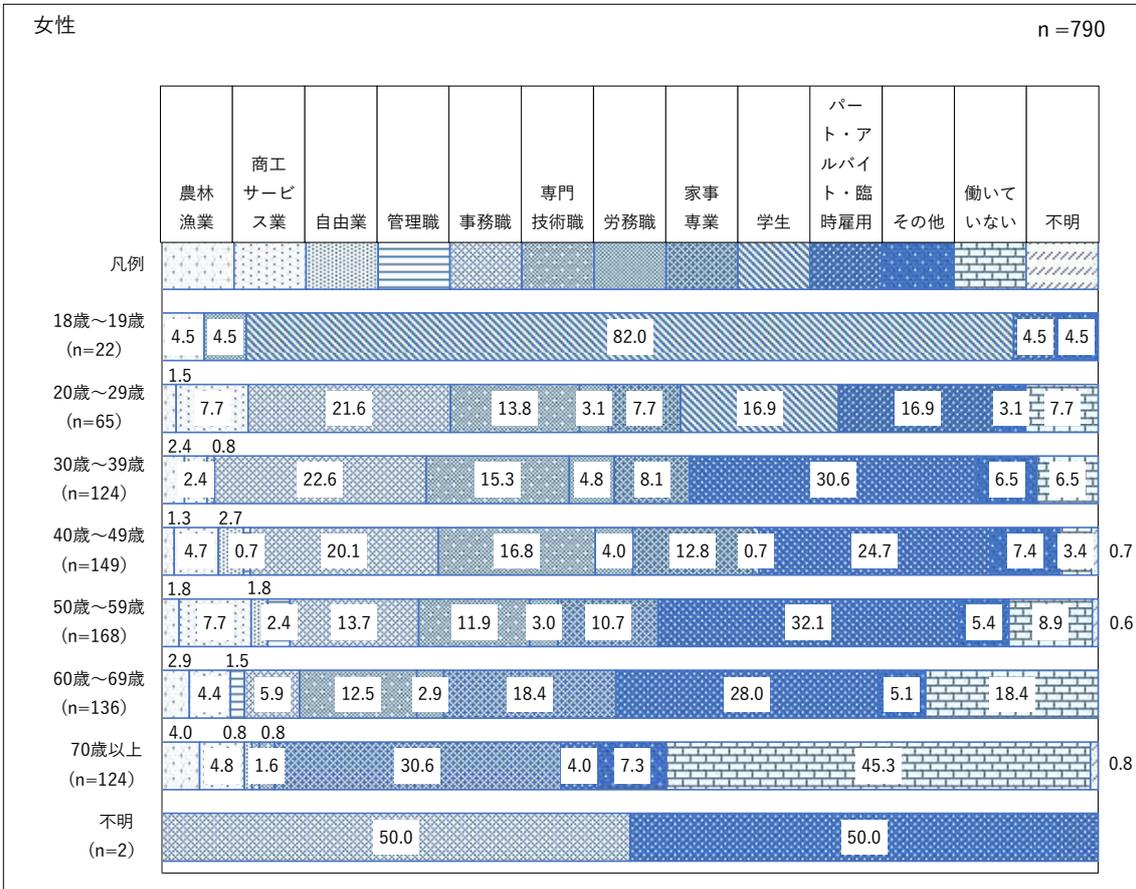
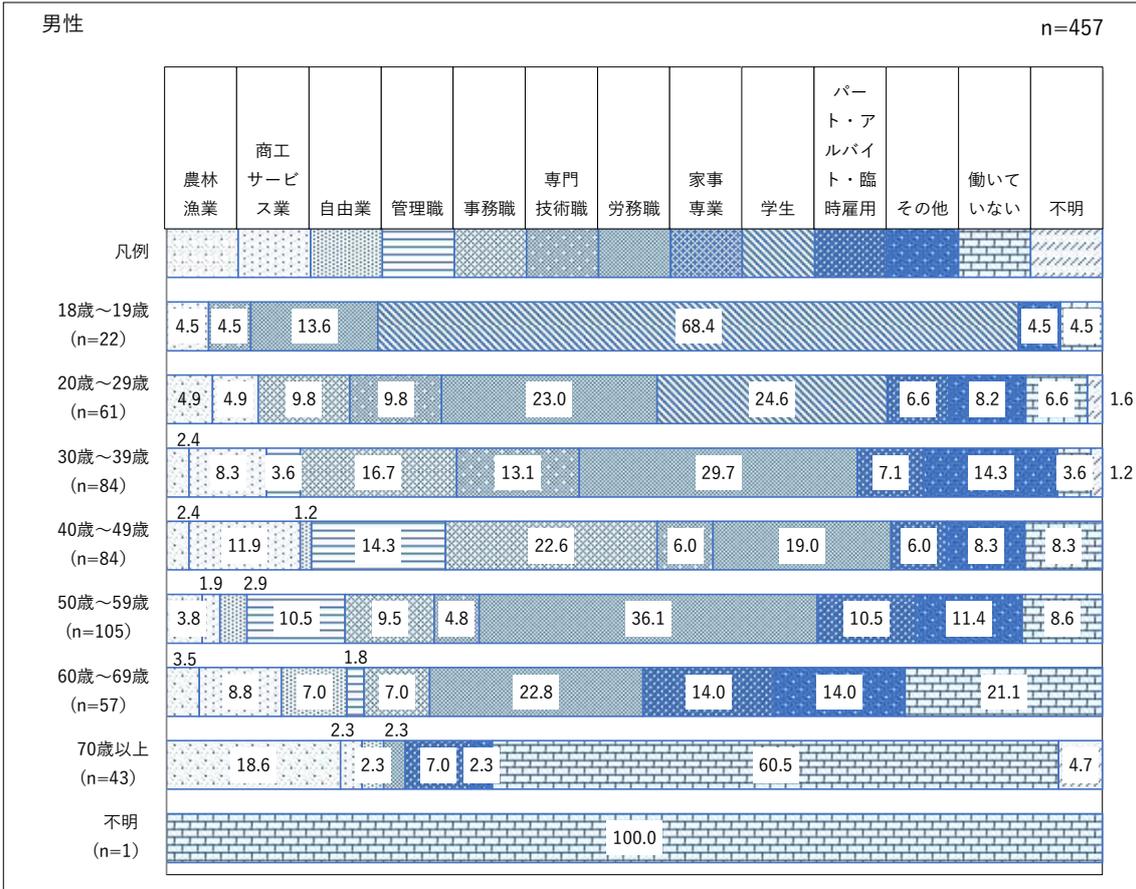


年齢



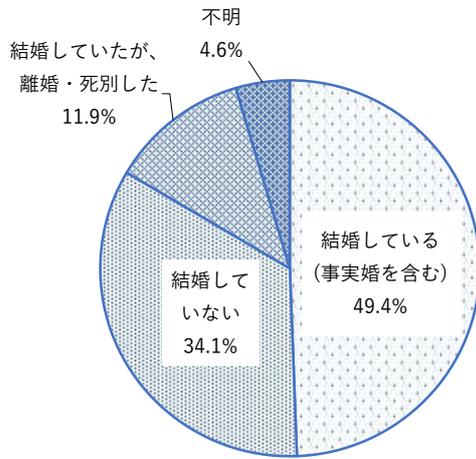
職業



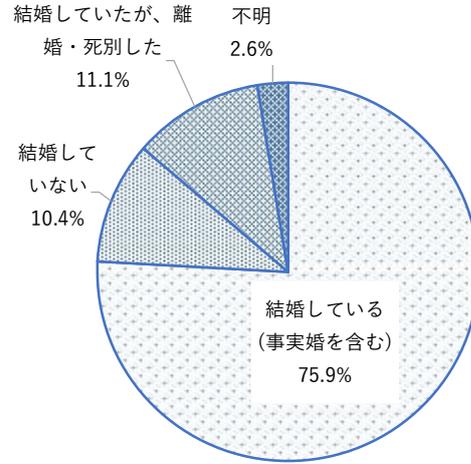


結婚

<今回調査> (n=1,273)



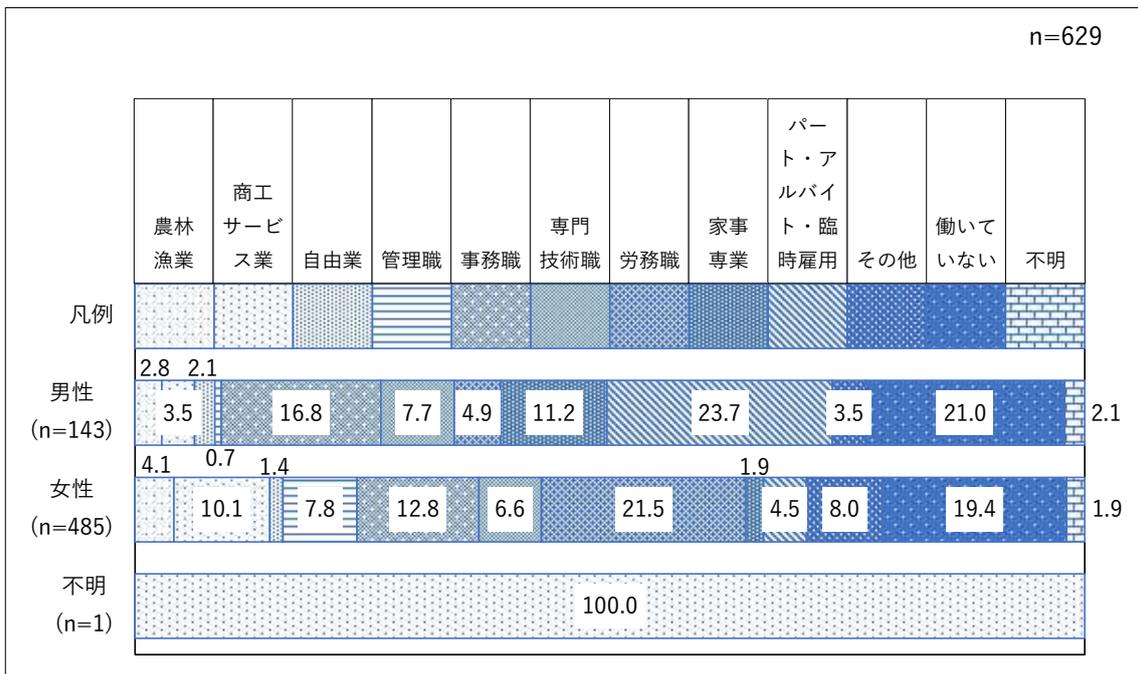
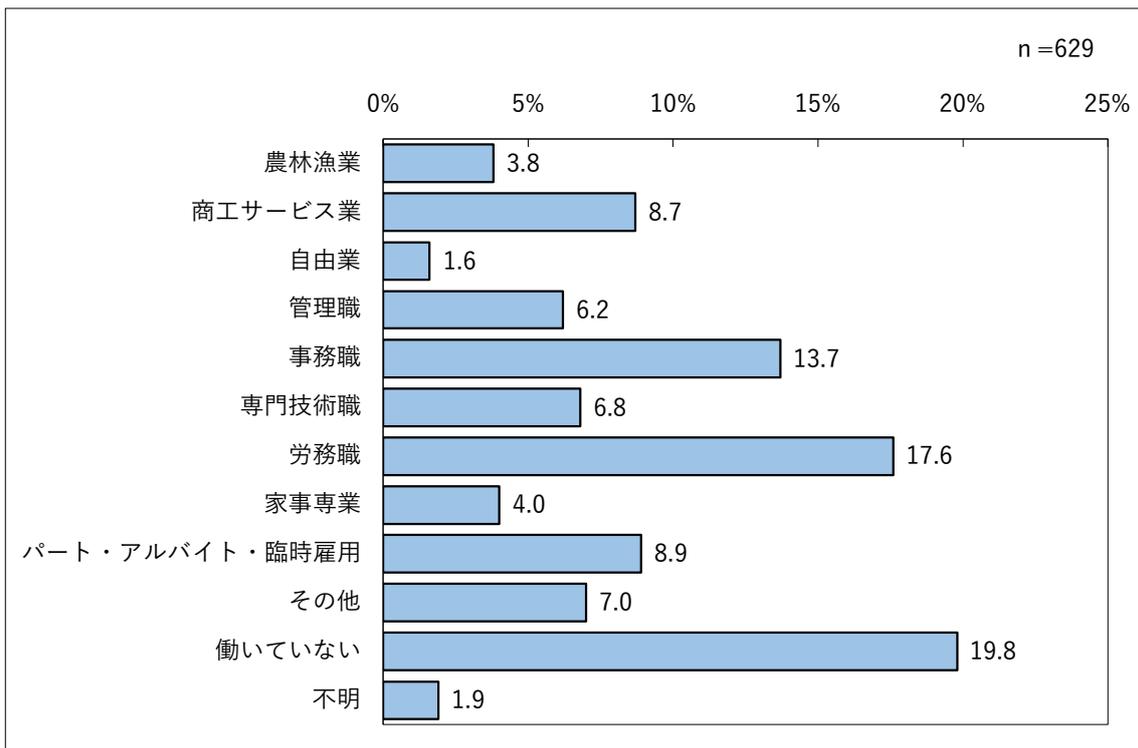
<前回調査> (n=1,206)



n=1,247

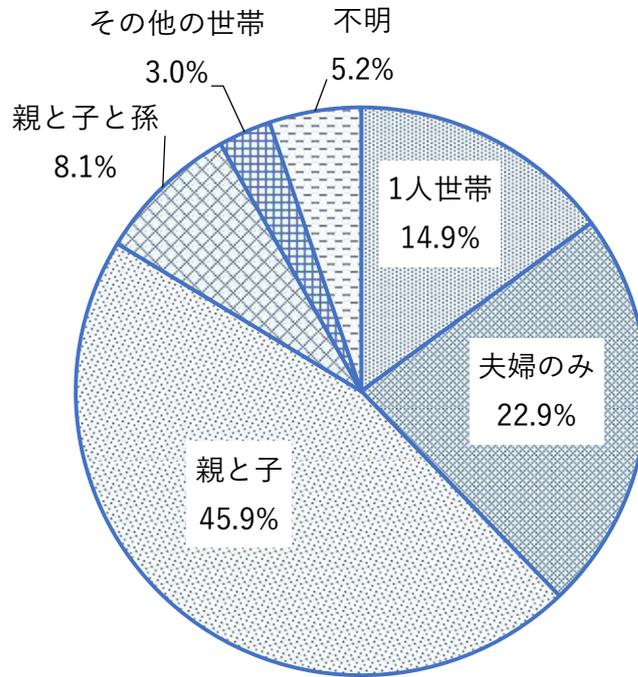
	結婚している (事実婚を含む)	結婚していない	結婚していたが、離婚・死別した	不明	
凡例					
18歳~19歳 (n=44)		97.7			2.3
20歳~29歳 (n=126)	15.1		83.3		1.6
30歳~39歳 (n=208)	48.1		43.8	6.3	1.8
40歳~49歳 (n=233)	52.8		33.9	11.6	1.7
50歳~59歳 (n=273)	50.2		30.8	16.1	2.9
60歳~69歳 (n=193)	68.9		11.9	16.1	3.1
70歳以上 (n=167)	68.3		3.0	21.6	7.1
不明 (n=3)	66.7			33.3	

配偶者の職業



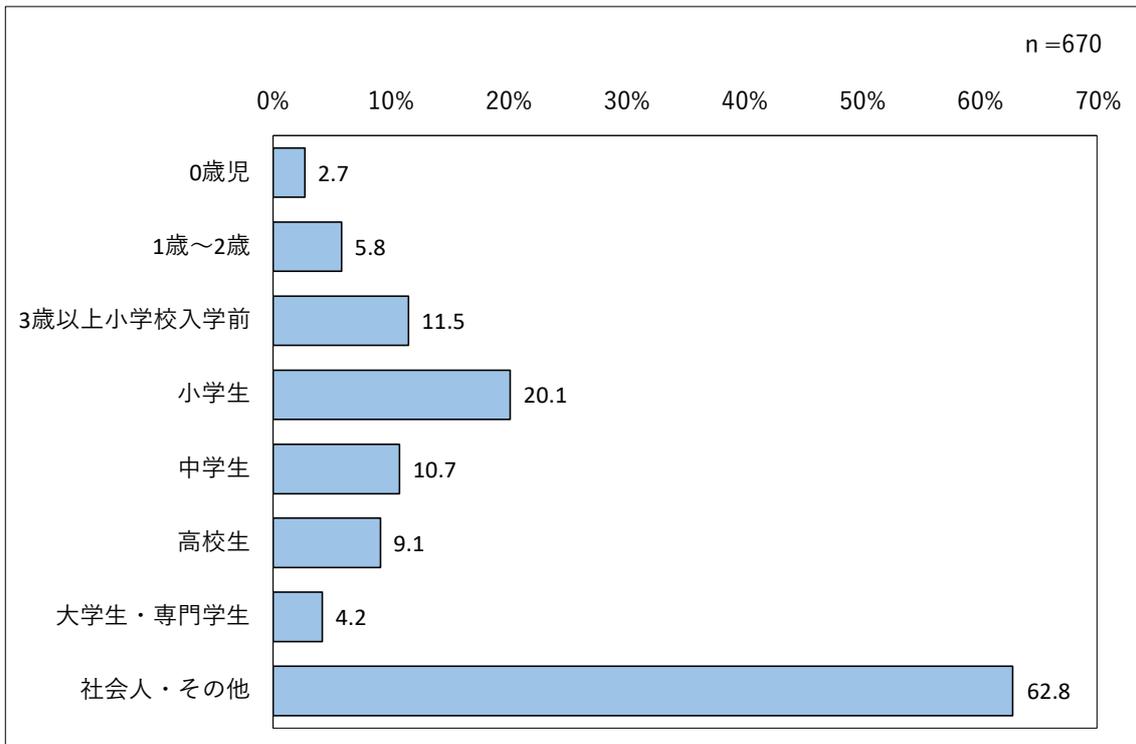
現在の家族構成

n=1,273



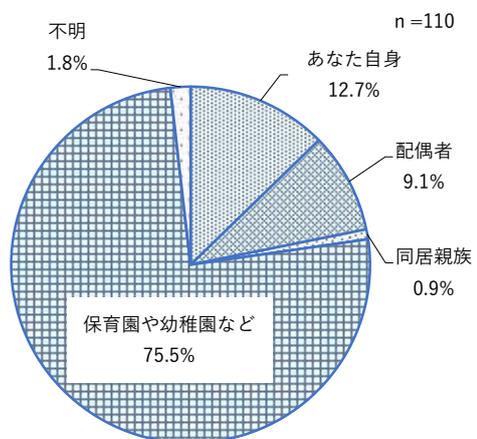
子どもの年齢 (複数回答)

n=670

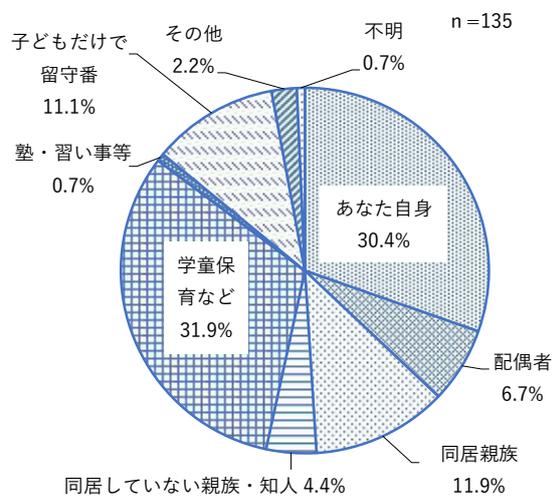


平日の日中の子どもの過ごし方（または一緒に過ごしている人）

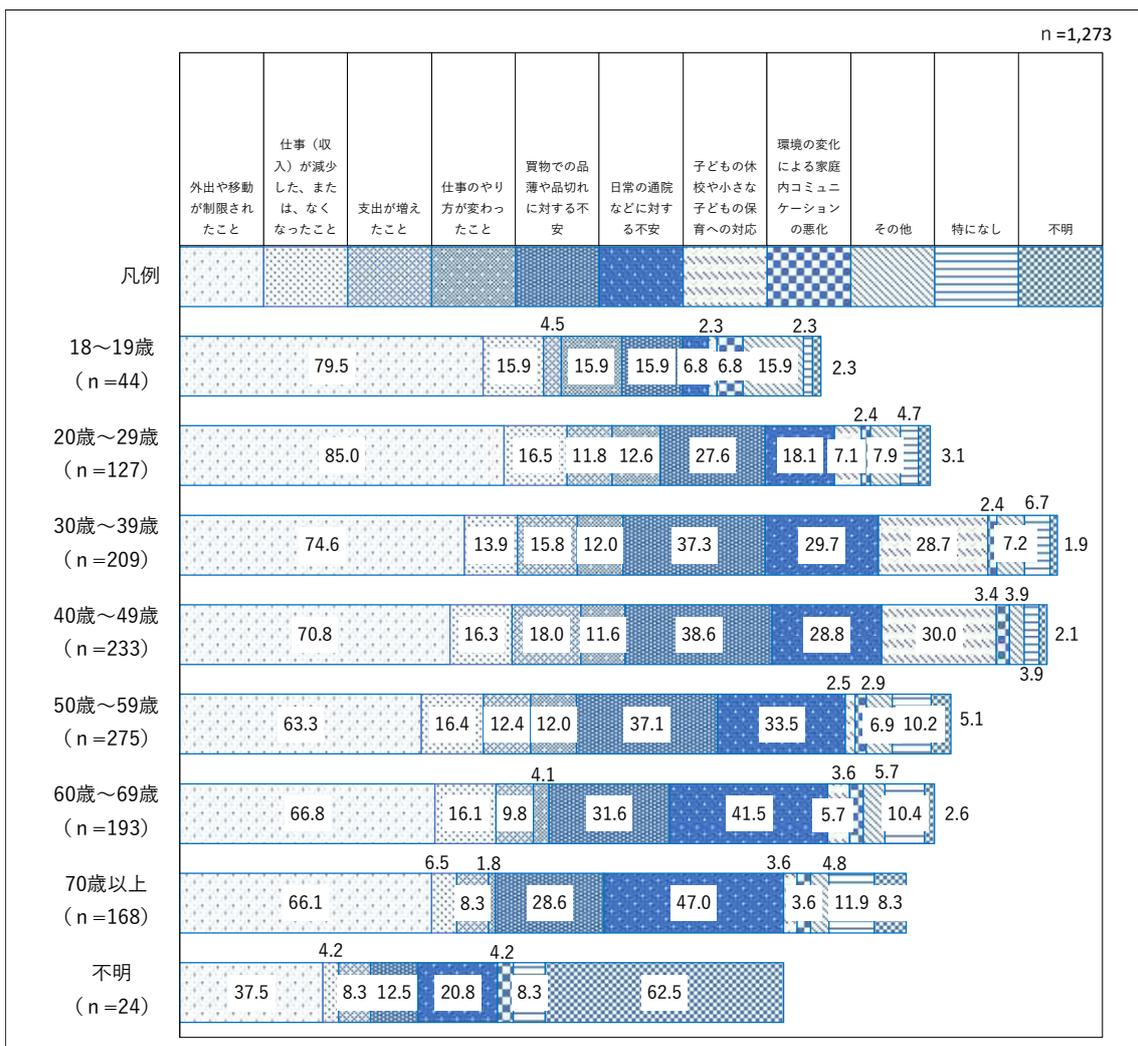
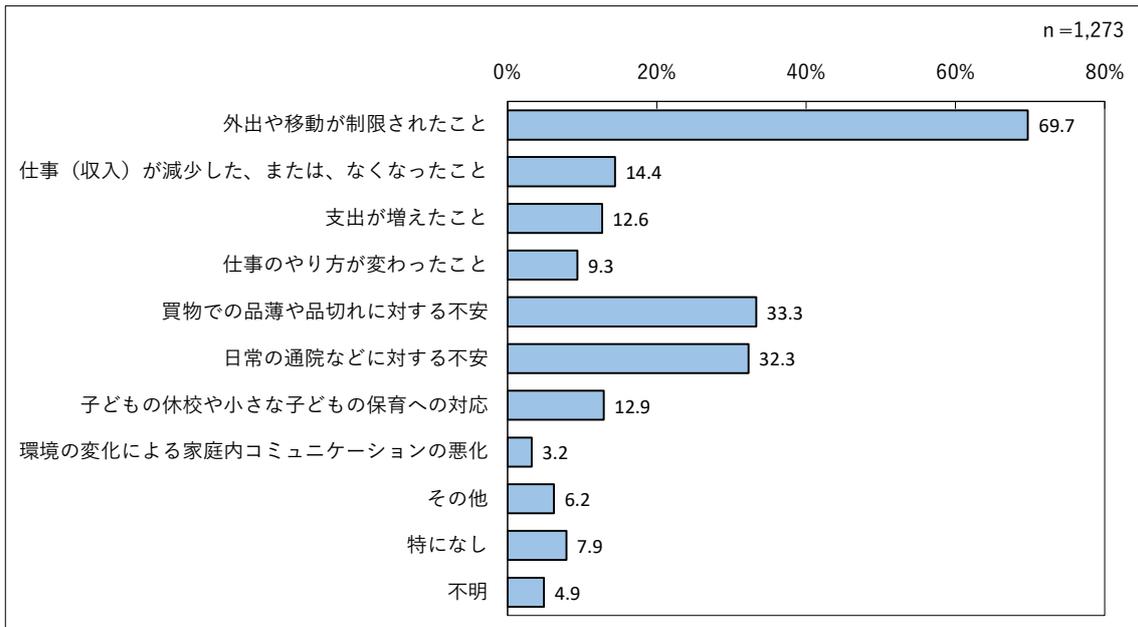
就学前



小学生



新型コロナウイルスによる社会変化の影響（複数回答）



■調査結果の概要<総論>

男女共同参画社会の実現には、「家庭」「地域」「仕事」の調和が重要である。中でも、家庭における男女共同参画（家族の理解）と、仕事における上司の理解や働き方の変革等は、女性の職業生活における活躍に大きく影響を与えるものである。

「男女共同参画社会づくりのための意識調査」（2020年（令和2年）実施）結果における「固定的性別役割分担意識」は、前回の意識調査（2015年（平成27年）実施。以下「前回調査」とする）と比較すると、「同感しない」と回答した割合が男女ともに増加しており、回答者の全体の約6割を占めた。時代の流れに応じて回答に変化がみられるものの、一方で男女とも30～40歳代においては「同感する」「どちらともいえない」という回答が他の年代に比べて微増していることがわかる。

家庭における男女の役割分担も未だ明確に存在し、社会のあらゆる場面においての性別による不平等感は改善されつつも、払拭するまでには至っていない。

こうした「固定的性別役割分担意識」の解消には、「職場における、育児・介護休暇等を取りやすくする環境づくり」によって親が性別による役割分担をなくしていくことが、結果的に「子どもの時からの家庭教育」にもつながるため、重要視されていることがわかった。

DV被害や人権侵害の実態についても、その多くは潜在化している。相談窓口の周知や家庭及び学校における教育は引き続き必要であるとともに、相談することの心理的、物理的なハードルを下げる働きかけも必要である。

一人ひとりの暮らしにかかわるすべてのプレーヤー、個人、地域、企業、臼杵市が、取組を続けていくことが重要である。

1. 男女共同参画社会について

- ・ 固定的性別役割分担意識（問 1）
- ・ 男女の平等意識（問 2）
- ・ 家庭内の仕事の分担状況（問 3）
- ・ 男性の育児・介護休暇（問 4・問 5）
- ・ ワーク・ライフ・バランス（問 6～問 8）

「男は仕事、女は家庭」のような固定的性別役割分担意識の変化について（問 1）

前回調査から「同感しない」という回答の割合は増加している。

「男は仕事、女は家庭」などと性別によって役割を固定する性別役割分担意識は、「同感しない」が 58.9%と半数以上を占めている。この値は前回調査より 10%以上増加している。男女別で比較しても、男性は 54.0%（前回調査比 9.2%の増）、女性は 62.7%（同 11.6%の増）となっている。しかし、男女を年代別でみると、男性は 30 歳代、女性は 30～40 歳代で「同感する」「どちらともいえない」という回答割合が他の年代に比べて微増している。

男女の地位の平等感について（問 2）

依然として、社会の中の多くの場面で男性優遇感が強いと認識されており、特に女性でそのように考える傾向が強い。男性では女性に比べて平等意識が強いため、性別による認識の差がみられる。

男性優遇感（＝「男性が優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）が強い項目は、前回調査に引き続いて「政治の場」「社会通念・しきたり・慣習」「社会全体」であった。

性別による傾向も前回調査と大きな変化はみられなかった。多くの項目において男性は「平等である」と回答した割合が高く、女性は「男性の方が優遇されている」と回答した割合が高い。性別による優遇感については、男女の意識の差が顕著に表れている。

「学校教育」以外では依然として男性優遇感が強く、社会における男女の平等意識の向上には多くの課題が残ると考えられる。

家庭での役割分担に対する【現状】と【理想】について（問3）

理想では多くの役割で「夫婦で協力」と考える傾向が男女ともに高いが、現状ではいずれかに偏っている。

家庭の役割について、【理想】では全ての項目で「夫婦で協力」との回答が高くなっているが、【現状】では「自分または配偶者」のどちらかに回答が偏っている状況である。食事や掃除・洗濯など日常的な家事については、約半数の回答者が夫婦のどちらかに役割が偏っていた。だが、前回調査と比較すると少しずつ偏りは解消に向かっている。

男性の育児・介護休業取得に対する意識について（問4・問5）

20歳代以下は比較的積極的に取るべきという意識が高い一方で、子育て世代である30～40歳代では消極的意見が約7割を占める。その原因としては育児・介護休業の取得に対して、社会全体の認識がまだ十分でないと考えられていることが挙げられる。

“男性の育児・介護休業取得に対する意識”については、「男性も育児・介護休業をとることは賛成だが、現実的にはとりづらいと思う」との回答が63.6%を占めている。前回調査は69.0%であったため、徐々にとりづらいとする意識は減少していると言える。反対に「男性も育児・介護休業を積極的にとるべきである」との回答割合が増加している。年代別では、20歳未満と20歳代は積極的に取るべきだと考える傾向がある。しかし、子育て世代が多い30～40歳代において、「現実的には取りづらい」との回答が65%以上を占めていることから、男性の育児・介護休業取得の現状は、理想よりも厳しいものだと考えられる。

「現実的には取りづらい」と回答した理由については「社会全体の認識が十分でない」という回答が30.3%、「仕事で周囲の人に迷惑がかかる」という回答が18.0%、また、「経済的に困る」という回答も13.2%となっている。男性の育児・介護休業の取得に対する社会全体の風潮を高めることや職場での意識改革、休業補償等の経済的な支援制度など総合的な施策が必要である。休業補償のように経済的支援が必要とされる理由については、男女間における賃金格差等が男性の積極的な家庭参加を阻んでいる要因の一つとなっていることが考えられる。

職場で男性の育児休業を取得できる体制を作り、育児・介護休業を取得する最初の一人を生み出していくことが各職場において必要な取組になると考えられる。

介護休業の場合は、取得者自身の年齢が高いことも予想されるため、さらに男性が介護休業を取得する難しさが出てくる。

「男性も積極的に取得すべきだ」という30歳未満の世代の意識が、実際の子育てや介護が必要となった際に実現できる社会になっているよう、啓発や制度浸透が今後の課題である。

生活の中で優先しているもの、優先したいもの（問6）

生活の中で「優先したいもの」と「優先しているもの」の間に差がみられる。特に男性においては「家庭」を優先したいと思いつつも、「仕事」を優先している現状が顕著にみられた。また、「個人」を優先したいとする意見が増えている。

生活の中で「優先したいもの」については、「家庭」、「仕事」、「個人」の順番に回答が多いのは前回調査と同じであるが、「家庭」の回答割合が前回78.8%、今回71.3%と、7.5%減少している。同様に、「仕事」は前回44.3%、今回41.0%となっている。一方、「個人」は前回調査では23.3%だが、今回調査は35.5%と10%以上増加している。

「実際に優先しているもの」については、前回調査の全体の割合では「家庭」が最も多かったが、今回調査では「仕事」となった。その理由のひとつとして、今回調査では前回調査より「結婚していない」と回答した割合が増加したことが挙げられる。

年代別でみると、20～50歳代と60歳代以上では、優先事項が大きく変わっていることがわかる。「優先しているもの」として、20～50歳代では「仕事」が最も多く、60歳代以上では「家庭」が多くなっている。

結婚の有無や年齢など個人を取り巻く環境によりその時々の優先事項は変わっていく。人生の中で、一人ひとりが優先したいことを実現できる社会環境づくりが必要である。

男性の家庭・地域への参加のために必要なことについて（問7）

全体では「職場環境の改善」が重要視されている。特に女性は、「職場環境」と同様に「子どもの時からの家庭教育」も重要視している。この傾向は、前回調査と同じである。

男性が女性とともに家庭生活（家事・育児・介護）や地域活動等へ参加するために必要なことは、全体では、「職場における、育児・介護休暇等を取りやすくする環境づくり」（53.0%）が前回調査に引き続き最も回答割合が高い。職場での育児・介護休暇等を取りやすくなる環境をつくるのが、男性の家庭参加を進める一歩となると思われる。次いで「子どもの時からの家庭教育」（43.2%）が高くなっている。この回答は性別による差が顕著にみられ、男性では37.0%、女性では47.5%という結果である。前回調査（男性32.9%、女性48.5%）と比較すると、その差は縮まっている。

今回調査で特徴的だったことは、「家庭における妻からの働きかけ」と回答した割合が大きく減少したことである。特に男性は前回調査が17.2%だったのに対し、今回調査では8.3%と半減している。

仕事と家庭生活の調和を取るためには、仕事においては「職場・上司の理解」と「仕事量」についての対策、家庭では、家族や周囲の理解・支援、配偶者・家族とのふれあいなど「理解・支援」が求められている。

仕事において必要なことは、前回調査が「育児休業中・介護休業中の経済的補償」（40.5%）が最も高かったのに対し、今回調査で最も高かったのは「家事・育児・介護参加への職場・上司の理解」（39.7%）であった。

家庭生活において必要なことは、「家族・周囲の理解・支援」（56.9%）が最も高く、次いで「配偶者・家族とのふれあいの充実」（39.7%）となっている。

年代によっても必要としていることが大きく異なっている。20～40歳代では、「配偶者・家族とのふれあい」が2番目に大きい割合を占めているのに対し、50歳代以上では「家事援助や介護支援の施設・サービスの充実」の占める割合が多くなる。このことから、50歳代以上では40歳代以下よりも家事や介護の負担が比較的大きくなっていることが考えられる。



2. 仕事・職場環境について

- ・ 女性の就労について（問 9・問 10）
- ・ 男女の仕事の内容や待遇（問 11）
- ・ 育児、介護休暇取得状況（問 12）
- ・ 退職について（問 13～問 15）

現在、仕事をしているかどうかについて（問 9）

全体の傾向は前回調査時点と大きく変わらず、「継続して働いている」が全体の半数以上を占めている。

「継続して働いている」の回答割合は性別で顕著に差がみられる。男性では 71.5% だが、女性では 46.4% と 25.1% の差となっている。女性の割合が低い理由は「結婚・育児のため一時やめたが、また働いている」「働いていたが結婚・育児のため仕事をやめた」との回答が、男性はそれぞれ 0.0% と 0.2% であったが、女性は 10.9% と 6.7% となっており、結婚・育児が女性の働き方に影響を与えていることが考えられる。

性別・年代別でみると、「現在働いている（＝継続して働いている＋結婚・育児のため仕事を一時やめたがまた働いている＋その他の事情で一時やめたがまた働いている）」の女性の割合は、20 歳代で 79.6%、30 歳代で 78.2%、40 歳代で 83.1% となっている。30 歳代で 1 割の減少が起こると言われる M 字カーブ²の状況はみられないが、30 歳代で若干割合が低下し、40 歳代で上昇していることがわかる。（20 歳代は「学生」を除いた人数で再計算を行った。）

女性が仕事を持つことについて（問 10）

2 人に 1 人が「仕事をもち続けたほうがよい」と回答しているが、年代によっては、「仕事をやめたほうがよい」と考える割合も高い。女性が人生設計に応じて、多様な働き方や暮らしを選択できるような社会づくりや啓発活動が重要である。

全体では、「結婚や出産にかかわらず仕事をもち続けたほうがよい」（56.8%）との回答が最も高く、2 人に 1 人が回答をしている。性別での差はみられないが、年代別で意識の差がみられる。全体では、仕事をもち続けたほうがよいとの回答が高い傾向にあり、40～50 歳代ではその割合が 6 割を超える。60 歳代以上では、「子どもができれば

²M 字カーブとは、『女性の労働力率が、結婚・出産期に当たる年代に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇するという、いわゆる M 字カーブを描く』ことをいう（内閣府男女共同参画局より）

仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」との回答割合が高くなっている。女性は、結婚や出産・育児を経験していく中で、様々な年代の人と関わりを持つ機会が増えるため、女性自身が周囲の意見に流されず、多様な働き方を自分で判断して選択できる社会づくりが重要である。そのため、女性が活用できる各種制度の浸透に努め、社会全体においても、結婚や出産によって女性の継続した就業が左右されるのではなく、多様な働き方、暮らし方を尊重できるような意識の醸成を幅広い年代に対して行っていくことが必要である。

職場での性別による不平等の有無について（問 11）

仕事において「職種」「賃金」「昇進・昇格」に不平等があるとの回答割合が高い。女性の役員・管理職登用を積極的に促し、性別にかかわらず、働き続けたい人が働き続けることができるよう、社会意識の醸成や企業等における積極的な取組が求められる。

職場での性別による不平等が「ある」と回答する割合が高かった項目は、「③職種」（今回 36.7%、前回 37.2%）「⑤賃金」（今回 36.1%、前回 42.0%）、「⑥昇進・昇格」（今回 35.8%、前回 39.0%）となっている。全ての項目で「不平等がない方がよい」との回答も 5 割から 7 割となっており、仕事において性別によるどんな不平等も不要であると考える割合が半数以上であることがわかる。

特に「ない方がよい」との回答割合が高かった項目は、「個人的なことを、必要以上に聞かれる」「飲み会等への強制」「女性は定年まで勤めにくい雰囲気がある」である。これらの内容は、早急に改善されるべき項目である。

男性が「ある」と回答した割合が高かった項目は、多い順に「③職種」（42.6%）「⑥昇進・昇格」（34.1%）「⑦残業時間」（33.0%）であった。女性で「ある」と回答した割合が高かった項目は、「⑤賃金」（38.9%）「⑩雑用を行う頻度」（37.9%）「⑥昇進・昇格」（36.9%）であった。

育児休業や介護休業の取得状況について（問 12）

「育児休業のみ」と回答した男性は 3%未満にとどまっている。男性の取得事例も活用し、積極的に男性の育児参加や制度の活用を促すことが必要である。

回答者の 82.0%が、育児休業・介護休業ともに取得したことがないと回答している。「両方とも取得」は 1.0%、「育児休業のみ」は 9.9%、「介護休業のみ」は 1.1%である。すべての回答において前回調査とほとんど変化がみられなかった。つまり、前回調査時点からあまり意識や状況が変化していないということがうかがえる。これ

までよりも一層、男性の育児休業・介護休業の取得率向上のための取組及び啓発が必要である。

退職について（問 13、問 14、問 15）

女性の退職の理由は、「結婚」や「妊娠・出産・子育て」が約4割以上となっている。

退職の主な理由は、「結婚」が16.1%（前回調査18.4%）、「転職」が16.5%（前回調査16.4%）となっている。「結婚」は女性が22.0%であるのに対し、男性は1.3%である。一方、「転職」は男性が32.3%なのに対して、女性は10.4%と、性別による差が顕著である。

「年齢が高くなった」と回答した割合が今回調査では7.1%（前回調査14.5%）と、前回調査と比較して大幅に減っており、年齢以外の理由による退職の回答が増えている。

年代別に見ると、30歳代では「妊娠・出産・子育て」が19.6%で最も多い回答である。40～50歳代では「転職」（40歳代21.4%、50歳代17.7%）が主な理由である。60歳代は「結婚」が20.0%で最も多い回答であった。70歳以上では「年齢が高くなった」が28.7%で最も多い回答である。

退職の時期については、全体の49.6%が「10年をこえる」と回答しており、男性より女性に多い。“納得して退職したか”については、「自分で希望して退職を選んだ」との回答が全体では73.2%と7割以上を占め、こちらも女性の方が多かった。「勤務を継続できない理由や雰囲気が生じ、仕方なく退職した」との回答は、全体では12.3%と1割を少し超える程度であるが、男性が12.4%（前回調査7.2%）、女性は12.5%（前回調査11.9%）となっており、男性における同回答の割合が増加した。



3. 教育・地域活動について

- ・ 子どもの学歴（問 16）
- ・ 子どもに身につけてほしいこと（問 17）
- ・ 地域活動における女性の参加や発言のしにくさ（問 18・問 19）

子どもに必要な学歴について（問 16）

男の子どもには「大学以上」の学歴が求められる傾向が高く、一方で、女の子どもは「高等学校」の学歴でよいとする傾向がみられた。

男の子どもについては、43.0%が「大学以上」と回答している。それに対し、女の子どもについては28.9%であり、男女間では14.1%の差があることがわかる。男の子どもについては、年代別でみると70歳以上は「大学以上」（54.2%）と2人に1人の割合で回答している。20歳代では、「大学以上」（36.2%）と「高等学校」（36.9%）が同程度の割合であり、他の年代との意識の違いがみられた。

女の子どもについては、年代によって顕著に差が表れている。40歳代以下の各年代では約3~4割が「高等学校」と回答しており、反対に50歳代以上になると「大学以上」と回答した割合の方が多くなる。

子どもに身につけてほしいことについて（問 17）

子どもの性別によって「身につけてほしいこと」には顕著に差がみられる。無意識に「男らしさ」「女らしさ」を備えることを求めていることがわかる。

男の子どもでは、「思いやり」（53.7%）、「礼儀正しさ」（50.1%）と2つの項目が50%を超えている。女の子どもに対しては、「思いやり」（71.1%）が突出しており、次いで「礼儀正しさ」（59.5%）、「家事能力」（43.8%）となっている。これは、男女が一人の人間として求められていることではなく、「男性」「女性」に求められる“役割”が無意識に反映されている結果と考えられる。具体的には、「職業能力」については男の子どもが32.4%に対し、女の子どもは13.5%で男の子どもの4割程度となっており、反対に「家事能力」については、女の子どもが43.8%に対し、男の子どもが17.4%とこちらも4割程度となっている。子育てにおいて、「男の子だから」「女の子だから」といった男女別の意識が根強く残っている限り、社会生活にも影響を与えていくことが考えられる。

地域活動について全体の約 4 割が「参加していない・参加したくない」と回答している。

今後の意向においては、「ボランティア活動（社会奉仕など）」が 26.0%で最も多い回答となったが、「参加していない・参加したくない」との回答も 2 番目に多い 25.1%である。

現在参加している地域活動については「特に参加していない・参加したくない」と回答した割合が 41.2%で最も多かった。次いで「自治会などの地域活動」が 23.4%となっているが、前回調査 31.8%より 8.4%減少している。その他の活動についても、「学校行事」を除いてほとんどが減少している。

地域活動への今後の参加意向については、「ボランティア活動」（26.0%）との回答割合が最も高く、4人に1人が回答している。「参加していない・参加したくない」と回答した割合は 25.1%であり、現在参加している地域活動の質問で「参加していない・参加したくない」と回答した割合よりも 16.1%減少していることから、将来的に地域活動に参加したいという意向があると考えられる。

地域活動に参加していない理由については、「時間がないから」との回答が最も高く（47.8%）、男性より女性の方が 1 割程度高くなっている。その他に性別による差がみられる回答は、男性の場合は「関心がない」「経済的に余裕がない」といった回答の割合が女性より高く、反対に女性は「高齢・病弱」「家族の理解や協力が得られない」といった回答の割合が男性より高くなっている。男性には、参加することのメリットを、女性には、参加しやすいきっかけづくりを提供することで、地域活動への参加率が向上する可能性が考えられる。

自治会等の活動が男性優位の活動になっているという認識が一定程度確認される。女性の積極的な参加を促しつつ、性別にかかわらず活動していけるよう男女それぞれの意識改善が必要である。

自治会などの地域の集まりや作業において、女性が参加・発言できにくい状況について聞いてみると、「そういうことはないと思う」が 33.9%となった。「できにくい状況や雰囲気があると思う」については、20.7%となっている。前回調査と比較すると、「そういうことはないと思う」は前回調査の 47.0%から 6.1%減少している。「できにくい状況や雰囲気があると思う」については、前回調査の 19.9%から今回調査の 20.7%となっておおむね横ばいである。なお、「わからない」と回答した割合は前回調査の 27.0%から今回調査では 39.4%と 12.4%増加した。問 18 で自治会などの活動に参加した回答の割合が低い年代ほど、「わからない」と回答した割合は大きくなる傾向がみられた。

「できにくい状況や雰囲気があると思う」と回答した理由については、「決定事項については、従来、男性が取り仕切っているので、女性が口を挟みにくい」（46.2%）が最も高いが、前回調査（50.0%）と比較すると、3.8%減少した。

4. 配偶者・恋人間の暴力（DV）について

- ・ DVの認識度（問 20）
- ・ DVの加害・被害経験、防止の必要性（問 21～問 25）

配偶者・恋人間の暴力（DV）について（問 20～問 25）

男性は全体的に「暴力である」と認識する割合が女性よりも低い傾向にある。

DV被害は他の人権侵害の被害よりも相談されにくく、特に男性が被害を受けた場合は、女性よりも相談しない傾向がある。DV被害を早期に顕在化し、被害者への必要な支援が遅れないようにするため、相談しやすい環境づくりや啓発活動を行う必要がある。

目に見える「身体的暴力」については、全ての項目で「どんな場合も暴力にあたると思う」と回答する割合が7割以上を占めている。それ以外の「精神的暴力」「性的暴力」「経済的暴力」は回答にばらつきがみられ、項目によって「暴力」との認識に差がみられる。項目全般にわたって女性よりも男性の方が「暴力の場合とそうでない場合がある」の回答割合が高くなる傾向がみられることから、「暴力と思うかどうか」については、性別で意識の差があるということがわかった。

実際の暴力の経験の有無では、ほとんどの項目で「されたことはない」との回答が男女ともに8割程度であるが、「されたことがある」との項目については、女性のほうが男性よりも数倍高い傾向がみられた。もちろん、男性が被害者となる場合もあるが、割合の差でみると女性が被害者になる割合が高いことがわかる。

暴力を受けた時の相談の有無については、「相談しなかった」との回答が全体で58.9%と突出して高い。前回調査65.2%と比較すると、6.3%減少している。相談の有無は性別によっても顕著に差がみられ、女性では55.6%、男性では74.6%が「相談しなかった」と回答している。

相談しなかった理由としては、全体では「自分にも悪いところがあった」との回答が39.4%と最も多かった。男性は「相談するほどのことではなかった」（41.0%）や「自分にも悪いところがあったと思った」（35.9%）のような回答の割合が高く、自己完結する傾向があるため、結果として深刻な状態になるまで支援の手が届かない状況に陥ってしまう傾向がある。被害者になる男性は、女性を傷つけてはいけないという倫理観や、男性はこうあるべきといった価値観に縛られてしまい身動きができなくなる場合もあるので、相談を受けた場合においても適切な支援につなげられるよう、啓発活動を行う必要がある。

相談した人や場所については、女性は「家族や親せき」「友人、知人」が高く（59.7%）、男性は「友人、知人」が高くなっている（60.0%）。

配偶者や恋人間の暴力を防止するために必要なことについては、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力がいけないことだと教える」との回答割合が 66.1%と最も高くなっている。暴力は世代を超えて連鎖することが懸念される。適切な教育を通し、保護者も子どもも暴力に対する正しい知識、対処法を学ぶことが重要である。

DVによる被害がなくなることが最も望ましいことであるが、暴力に対して不安や疑問に感じた際に、相談できる窓口が開設されているということについての周知も大切である。一方で加害者、被害者ともに、その行為が暴力だと気がつかない場合がある。さらに同居する子どもがいる場合は、子どもへの悪影響も考えられることから、地域や保育・教育機関等も広く対象とした啓発活動等も大切である。また被害の再発を防ぐために、DV加害者に対する更生教育プログラムの取組や被害者への情報提供も重要である。

5. 人権について

- ・ セクハラ等の加害・被害経験及び防止の必要性（問 26～問 30）
- ・ 女性の生涯にわたる心身の問題について（問 31）

人権侵害の経験について（問 26～問 29）

「セクハラ」「ストーカー」について、「されたことがある」との割合は、女性の方が高い。DV被害と同様に、男性が被害者の場合は相談しない傾向にあるため、被害にあった人に適切な支援が施されるよう、相談機関の積極的な情報提供が必要である。

「セクハラ」「ストーカー」については、全体的に「されたことはない」との回答が7～9割を占めている。「されたことがある」との回答は、男性よりも女性の方が回答割合が高い傾向がある。「性的被害」の各項目は、「セクハラ」「ストーカー」と比較しても「されたことがある」については回答割合が低い。ただし、全ての項目において、「されたことがある」という回答が0.1%でも存在していることは見逃してはならないことである。

人権侵害を受けた時の相談の有無については、「相談しなかった」との回答が全体で59.0%と高く、前回調査から変化はみられない。DV被害における相談の有無を比較すると、「相談した」「相談しなかった」の割合は同程度である。

相談しなかった理由としては、男性女性とも「相談するほどのことではないと思った」との回答が最も多かった。（男性45.3%、女性53.4%）

相談した人や場所について、男女とも「友人・知人」が最も高く、男性は50.0%、女性は62.5%であった。被害について相談した人や場所については、性別にかかわらず公的機関よりも身近な人に相談する傾向がみられた。そのため、被害を受けていない人も、身近な人から相談された場合に適切な場所へ被害者をつなげることができるような仕組みづくりも重要である。そのような社会的な安全網を広げることが、被害を最小限にとどめるための方法の一つになると考えられる。

セクハラ・ストーカー・性的被害等を防止するために必要なことについて（問 30）

「学校教育が必要」という回答が最も多い。大分県の調査結果よりも「相談窓口の充実」と回答した割合が高く、支援機関の情報提供などが求められている。

全体では、「学校で児童・生徒・学生に対し、人権問題や犯罪を防止するための教育を行う」が最も高く 61.4%（前回調査 59.6%）となっており、「学校教育」が必要である・大切であると考える人が多いことがわかる。性別による差はみられなかった。次いで「身近な相談窓口を増やす」が 53.7%（同 58.1%）となっている。性別で差がみられた項目は、男性で「地域で、防止啓発のための研修会、イベントなどを行う」との回答割合が女性よりも 5.9%高かった。

女性が生涯にわたり心身ともに健康であるために大事なこと（問 31）

「ライフステージに合わせた健康づくりの推進」が男女ともに高い。「自ら運動等を行う習慣を持つこと」との回答割合は男性より女性の方が高い。若い世代には、情報提供のニーズがある。

「ライフステージに合わせた健康づくりの推進」の回答割合が最も高く 51.8%で、性別による差はみられなかった。次いで「自ら運動等を行う習慣を持つこと」が全体では 45.0%であり、女性の方が男性より 1 割程度高い。

30 歳代以下では、「妊娠・出産・避妊・中絶・性感染症などに関する情報提供」や「心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の充実」についても回答割合が高くなっている。若い時から知識を身につけ、心身を大事することができるよう、教育、啓発やサポートが求められている。

6. 男女共同参画社会の実現とDV防止について

- ・ 男女共同参画の認知度（問 32）
- ・ 女性の参画（登用）（問 33）
- ・ 男女共同参画の実現（問 34）
- ・ 相談窓口で配慮してほしいこと（問 35）

男女共同参画関連用語の認知状況について（問 32）

「DV」の認知度は高いが、「女性の問題に対する窓口」の認知度は依然低く、周知の強化が必要である。

「④DV」が最も認知度が高く、61.4%（前回調査 53.6%）が「内容まで知っている」と回答している。「聞いたことがある」を含めると、8割以上が「聞いたことがある」「知っている」と回答している。「①男女共同参画社会」については「内容まで知っている」との回答が 27.7%（同 23.6%）であり「④DV」の約半数の回答となっているが、「聞いたことがある」との回答を含めると、約7割が回答していることから、言葉の認知度は上がっていることがわかる。

「③女性の問題に対する相談窓口」「⑤臼杵市男女共同参画基本計画」「⑥臼杵市男女共同参画推進条例」「⑦女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」については、「内容まで知っている」との回答は1割前後にとどまっている。

「④DV」の認知度は高い一方で、「③女性の問題に対する相談窓口」については、「内容まで知っている」「聞いたことがある」の回答を合わせると 57.6%であった。

女性の社会への参画が少ない理由（問 33）

男女ともに「男性優位の社会の仕組みや制度がある」と回答する割合が高い。

「男性優位の社会の仕組みや制度がある」が最も高く（26.9%）、突出した結果となっている。性別による差はみられなかった。性別による差がみられた項目としては、女性では「女はでしゃばるものではない」という社会通念がある」という回答が男性より高く、男性では「女性の登用に対する認識や理解が足りない」という回答が女性より高い傾向にある。

県の意識調査との比較においても、「男性優位の社会の仕組みや制度がある」との回答は同様に突出した結果であった。

男女共同参画社会の実現のため、

今後どのようなことに臼杵市が力を入れていくべきと思うかについて（問 34）

「保育・介護・病院などの施設やサービスを充実する」が最も高い。男性よりも女性のほうが、家庭面での支援を求める傾向がある。

全体では、「保育・介護・病院などの施設やサービスを充実する」が最も高く（35.5%）、女性の回答割合は男性よりも約 1 割高くなっている。男性は、「市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」（34.6%）との回答が高くなっている。同回答は女性も 32.3%と 2 番目に高い割合となっていることから、政策や制度の導入においては、女性の意見を反映できる体制づくりが求められていることがわかる。

女性に対する相談窓口などで配慮してほしいと思うこと（問 35）

「匿名で相談できること」は、性別を問わず配慮してほしいことがわかる。「24 時間相談ができる」や「同性の相談員がいる」という要望も多い。

全体でみると、半数以上の人々が「匿名で相談ができること」（53.5%）と回答していた。次いで「24 時間相談ができる」と「同性の相談員がいる」が同じ割合（46.7%）となった。

性別ごとにみても「匿名で相談ができること」と回答した割合は多い。違いとしては、女性は男性よりも「同性の相談員がいる」と回答した割合が約 10%高かった。（女性 51.0%、男性 41.4%）

年代別では、18 歳～59 歳では全体と同様の傾向となった。60 歳代では、「弁護士など、法的知識のある相談員がいる」（47.7%）との回答割合も高くなっている。70 歳以上では、「同性の相談員がいる」（37.5%）と回答した割合が最も高かった。

第3章 各調査の結果

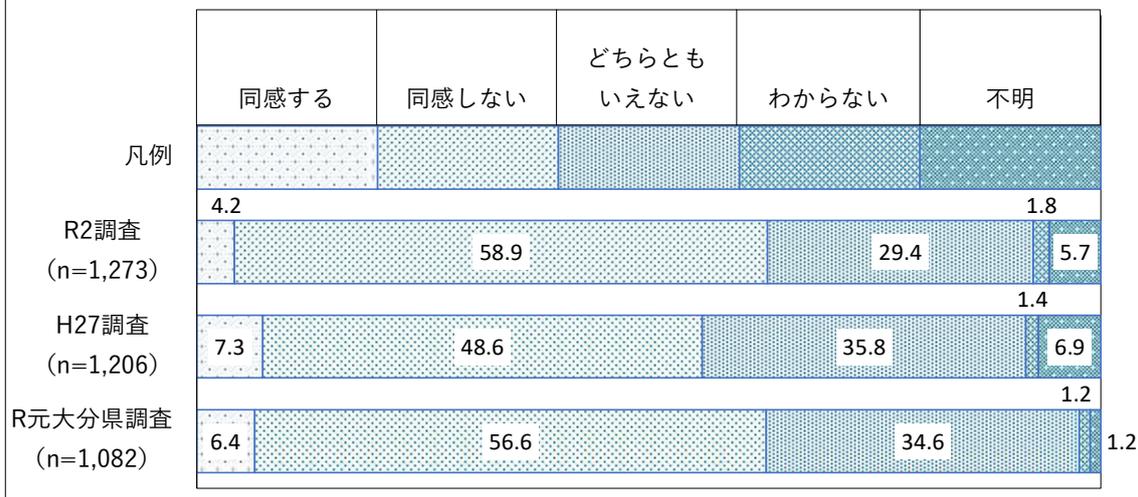
1. 男女共同参画社会について

問1. 「男は仕事、女は家庭」のように性別によって役割を固定する考え方がありますが、あなたはその考え方をどう思いますか。(1つに○)

- 「同感しない」との回答割合が最も高く、58.9%となっている。
- 「同感する」との回答割合は、前回と比べ男性の割合が約6%減っている。
- 男性、女性とも30～40歳代で「同感する」「どちらともいえない」という回答が他の年代に比べ増加していることがわかる。

		合計	問1.性別によって役割を固定する考え方について				
			同感する	同感しない	どちらとも いえない	わからない	不明
全体		1,273 100.0%	53 4.2%	751 58.9%	374 29.4%	23 1.8%	72 5.7%
性別	男性	457 100.0%	21 4.6%	247 54.0%	144 31.5%	14 3.1%	31 6.8%
	女性	790 100.0%	30 3.8%	496 62.7%	221 28.0%	6 0.8%	37 4.7%
	不明	26 100.0%	2 7.7%	8 30.8%	9 34.6%	3 11.5%	4 15.4%

問1 性別によって役割を固定する考え方について



H27 調査（以下、「前回調査」と表記する）と比較すると、「同感しない」と回答した割合が10%以上増加した。

		合計	問1.性別によって役割を固定する考え方について				
			同感する	同感しない	どちらとも いえない	わからない	不明
全体		457 100.0%	21 4.6%	247 54.0%	144 31.5%	14 3.1%	31 6.8%
男性	18～19歳	22 100.0%	0 0.0%	13 59.1%	6 27.3%	0 0.0%	3 13.6%
	20歳～29歳	61 100.0%	3 4.9%	36 59.0%	15 24.6%	3 4.9%	4 6.6%
	30歳～39歳	84 100.0%	3 3.6%	46 54.7%	29 34.5%	2 2.4%	4 4.8%
	40歳～49歳	84 100.0%	4 4.8%	54 64.3%	19 22.6%	1 1.2%	6 7.1%
	50歳～59歳	105 100.0%	4 3.8%	55 52.3%	38 36.2%	3 2.9%	5 4.8%
	60歳～69歳	57 100.0%	5 8.8%	27 47.3%	18 31.6%	3 5.3%	4 7.0%
	70歳以上	43 100.0%	2 4.7%	15 34.9%	19 44.1%	2 4.7%	5 11.6%
全体		790 100.0%	30 3.8%	496 62.7%	221 28.0%	6 0.8%	37 4.7%
女性	18～19歳	22 100.0%	0 0.0%	14 63.7%	3 13.6%	0 0.0%	5 22.7%
	20歳～29歳	65 100.0%	2 3.1%	42 64.5%	15 23.1%	2 3.1%	4 6.2%
	30歳～39歳	124 100.0%	6 4.8%	77 62.2%	36 29.0%	1 0.8%	4 3.2%
	40歳～49歳	149 100.0%	5 3.4%	88 59.0%	49 32.9%	1 0.7%	6 4.0%
	50歳～59歳	168 100.0%	4 2.4%	107 63.6%	49 29.2%	2 1.2%	6 3.6%
	60歳～69歳	136 100.0%	6 4.4%	93 68.4%	36 26.5%	0 0.0%	1 0.7%
	70歳以上	124 100.0%	7 5.6%	74 59.7%	32 25.8%	0 0.0%	11 8.9%

性別、年代別での回答をみると、男性は60歳代、女性は70歳以上で「同感する」との回答割合が高い傾向にあるが、男性では30歳代で、女性では30～40歳代で「同感する」や「どちらともいえない」といった回答が増加する傾向がみられる。

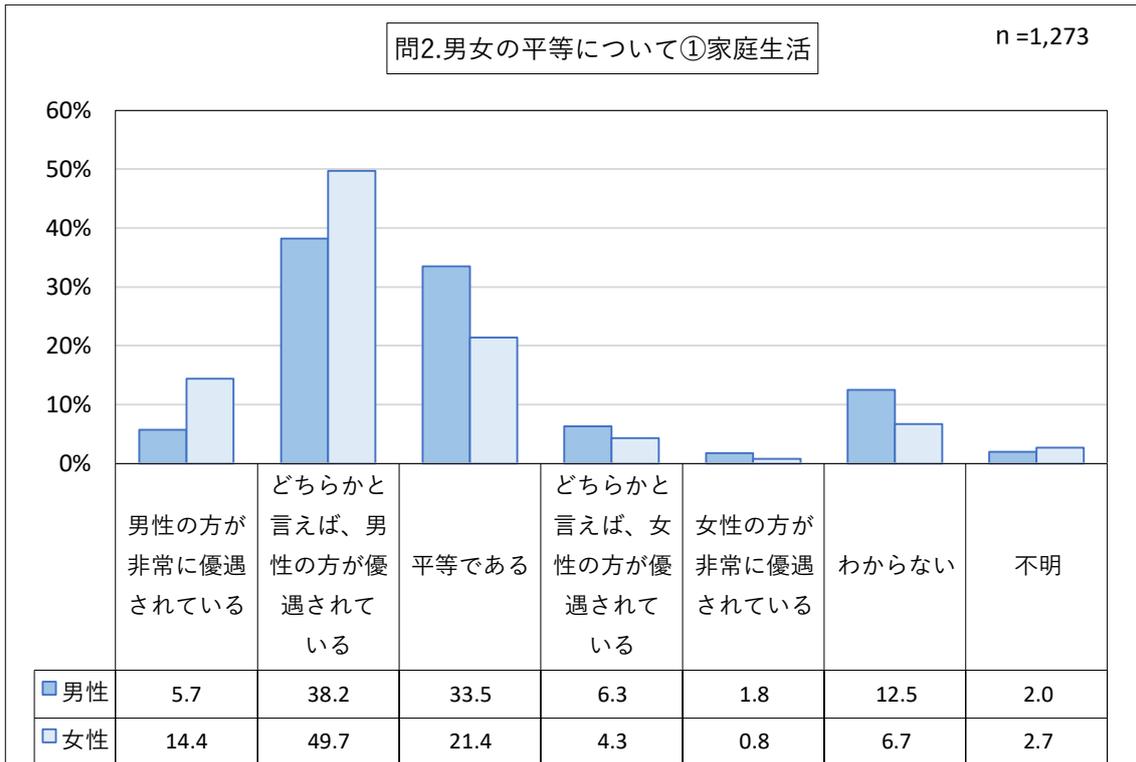
		合計	問1.性別によって役割を固定する考え方について				
			同感する	同感しない	どちらとも いけない	わからない	不明
全体		1,273 100.0%	53 4.2%	751 58.9%	374 29.4%	23 1.8%	72 5.7%
年齢	18歳～19歳	44 100.0%	0 0.0%	27 61.3%	9 20.5%	0 0.0%	8 18.2%
	20歳～29歳	127 100.0%	5 3.9%	79 62.3%	30 23.6%	5 3.9%	8 6.3%
	30歳～39歳	209 100.0%	9 4.3%	123 58.9%	65 31.1%	3 1.4%	9 4.3%
	40歳～49歳	233 100.0%	9 3.9%	142 60.8%	68 29.2%	2 0.9%	12 5.2%
	50歳～59歳	275 100.0%	8 2.9%	163 59.3%	88 32.0%	5 1.8%	11 4.0%
	60歳～69歳	193 100.0%	11 5.7%	120 62.1%	54 28.0%	3 1.6%	5 2.6%
	70歳以上	168 100.0%	9 5.4%	90 53.5%	51 30.4%	2 1.2%	16 9.5%
	不明	24 100.0%	2 8.3%	7 29.2%	9 37.5%	3 12.5%	3 12.5%

平成 27 年度年齢別データ

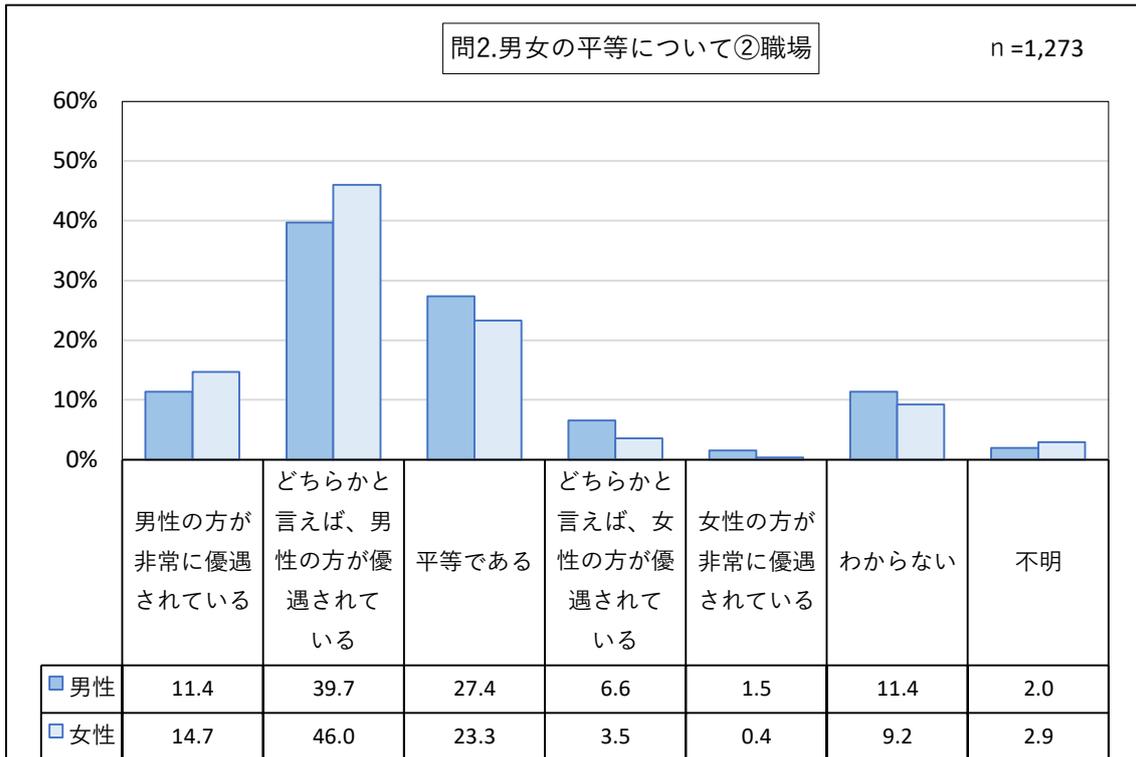
		合計	問1.性別によって役割を固定する考え方について				
			同感する	同感しない	どちらとも いけない	わからない	不明
全体		1,206 100.0%	88 7.3%	586 48.6%	432 35.8%	17 1.4%	83 6.9%
年齢	20歳～29歳	47 100.0%	0 0.0%	25 53.3%	16 34.0%	1 2.1%	5 10.6%
	30歳～39歳	126 100.0%	3 2.4%	67 53.2%	41 32.5%	6 4.8%	9 7.1%
	40歳～49歳	161 100.0%	11 6.8%	73 45.3%	69 42.9%	0 0.0%	8 5.0%
	50歳～59歳	244 100.0%	13 5.3%	128 52.5%	90 36.9%	3 1.2%	10 4.1%
	60歳～69歳	410 100.0%	41 10.0%	189 46.0%	147 35.9%	6 1.5%	27 6.6%
	70歳以上	190 100.0%	19 10.0%	92 48.4%	59 31.1%	1 0.5%	19 10.0%
	不明	28 100.0%	1 3.6%	12 42.8%	10 35.7%	0 0.0%	5 17.9%

問2. あなたは社会や生活の中で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
(1つに○)

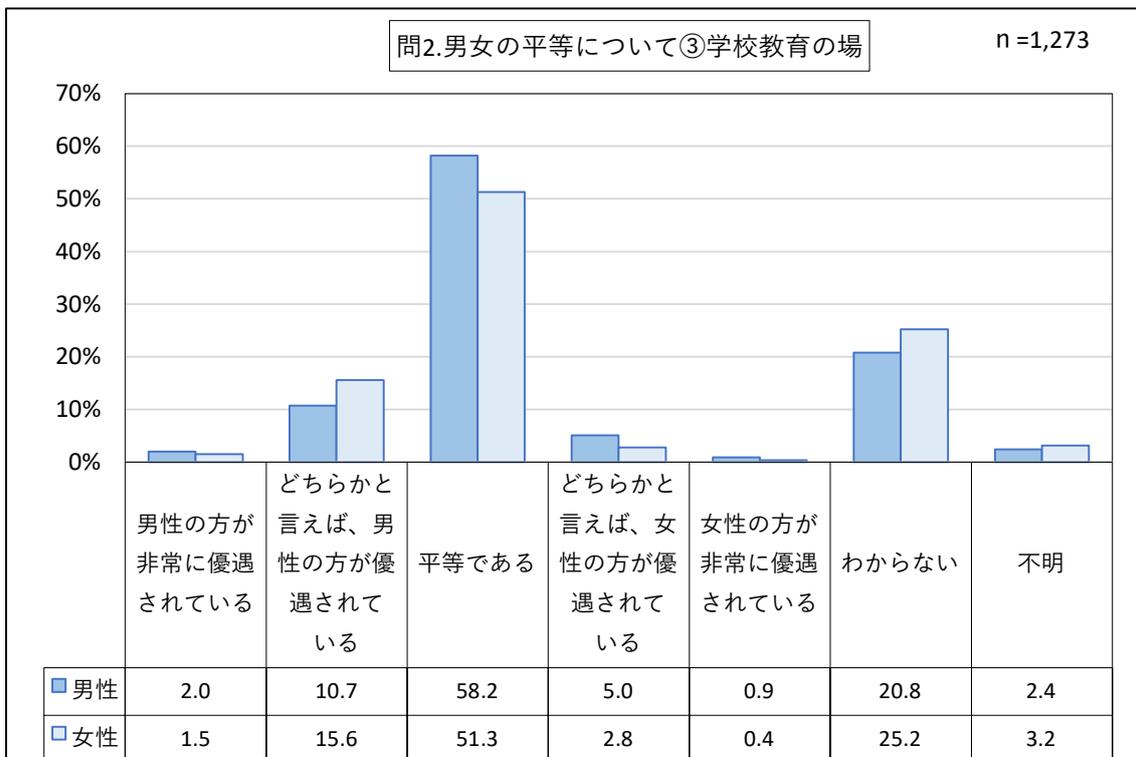
- 全体を通して、様々な場面で「男性の方が優遇されている」という回答割合が高い傾向にある。女性の方がその傾向が強い。
- 「学校教育」や「地域活動等」では、「平等である」との回答の割合が比較的高い。これらの項目において、「平等である」と回答する割合は、女性より男性の方が高い。男性よりも、女性の方が不平等感を抱いていることがわかる。



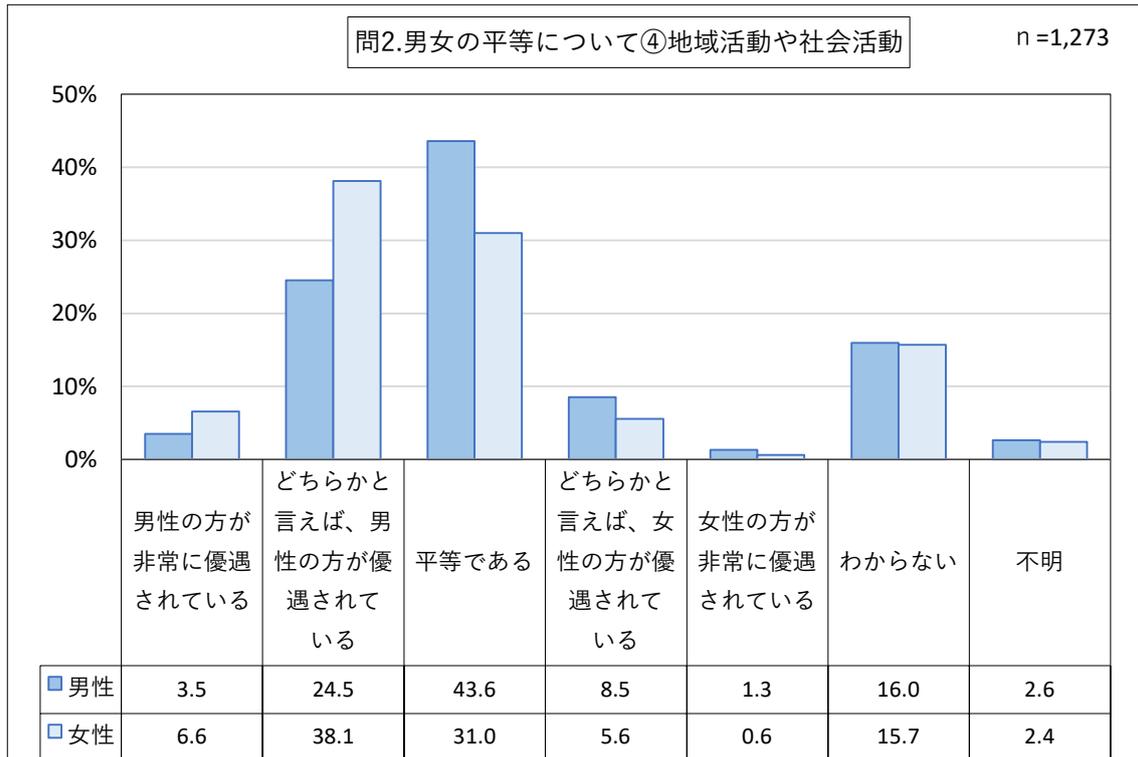
①家庭生活では、男女ともに「どちらかと言えば、男性の方が優遇されている」との回答が多数を占めている。男性は女性よりも1割以上高く「平等である」と回答している。「男性の方が非常に優遇されている」と回答した女性の割合は、男性の約2.5倍である。



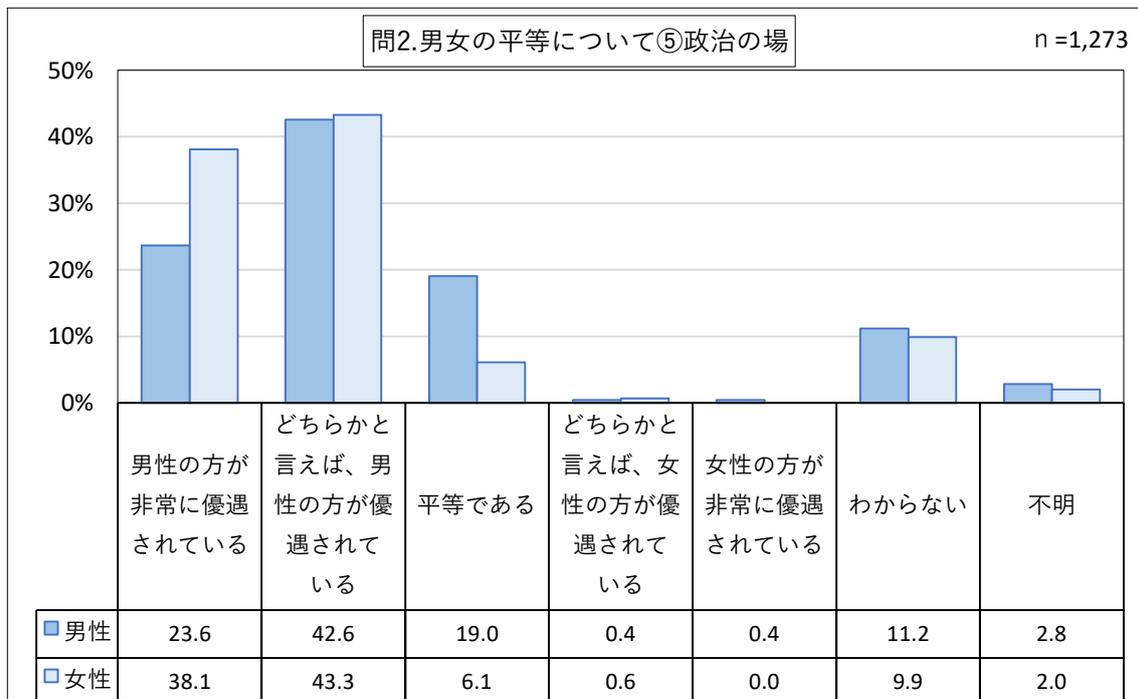
②職場では、男女ともに「どちらかと言えば、男性の方が優遇されている」との回答が多数を占めている。



③学校教育の場では、男女ともに「平等である」との回答が半数以上を占めている。「平等である」との回答は、女性よりも男性の方が高い割合である。

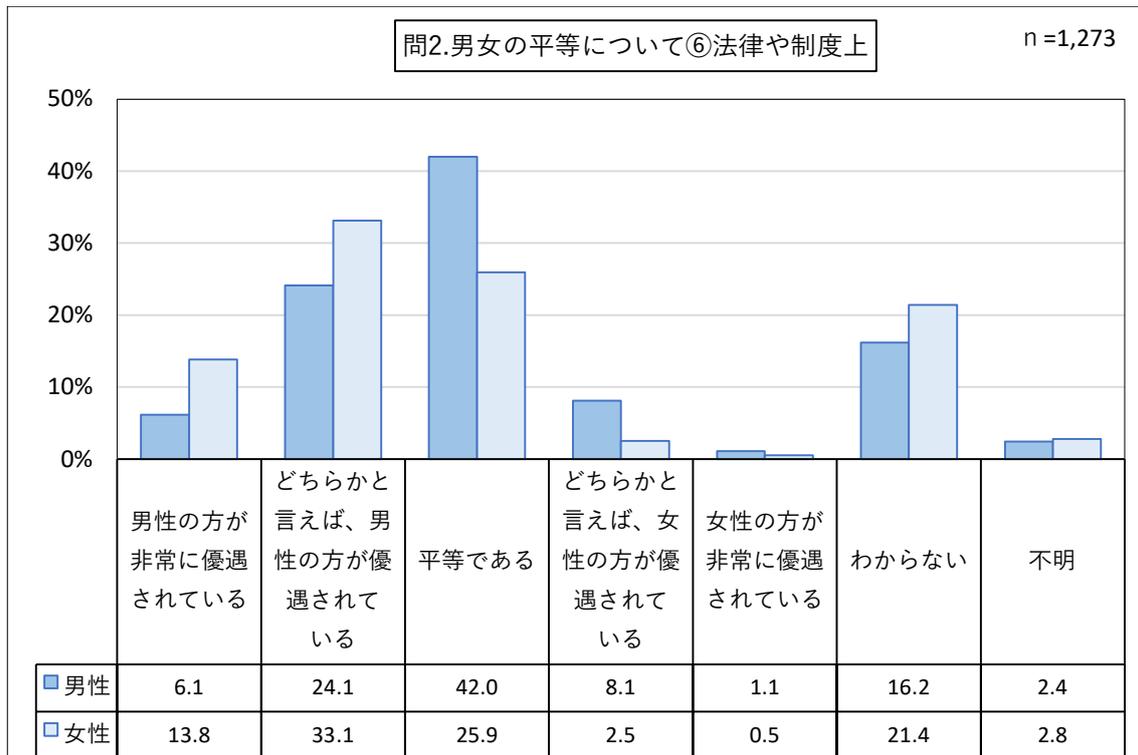


④地域活動や社会活動では、「どちらかと言えば、男性の方が優遇されている」「平等である」との回答が多数を占めている。「平等である」との回答は、女性よりも男性の方が1割以上高い割合である一方、「どちらかと言えば、男性の方が優遇されている」との回答は、男性よりも女性の方が1割以上高くなっている。

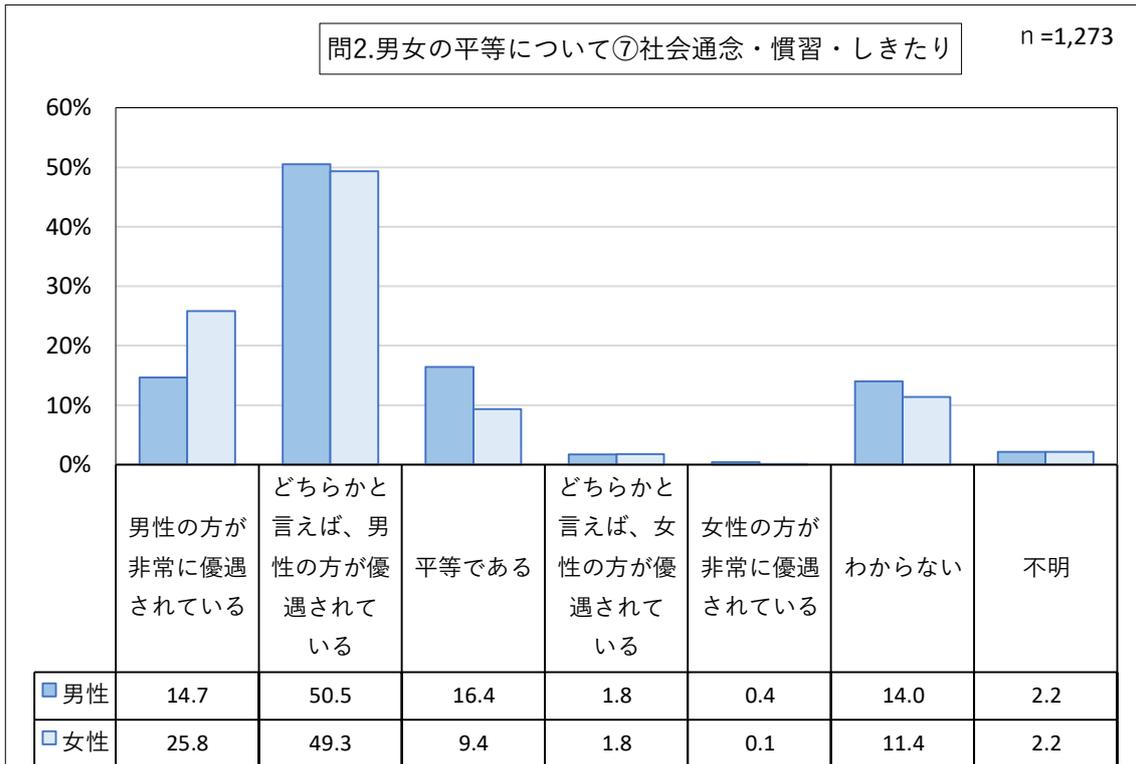


⑤政治の場では、「どちらかと言えば、男性の方が優遇されている」との回答が多数を占めている。「男性の方が非常に優遇されている」は男性よりも女性の方が1割以上

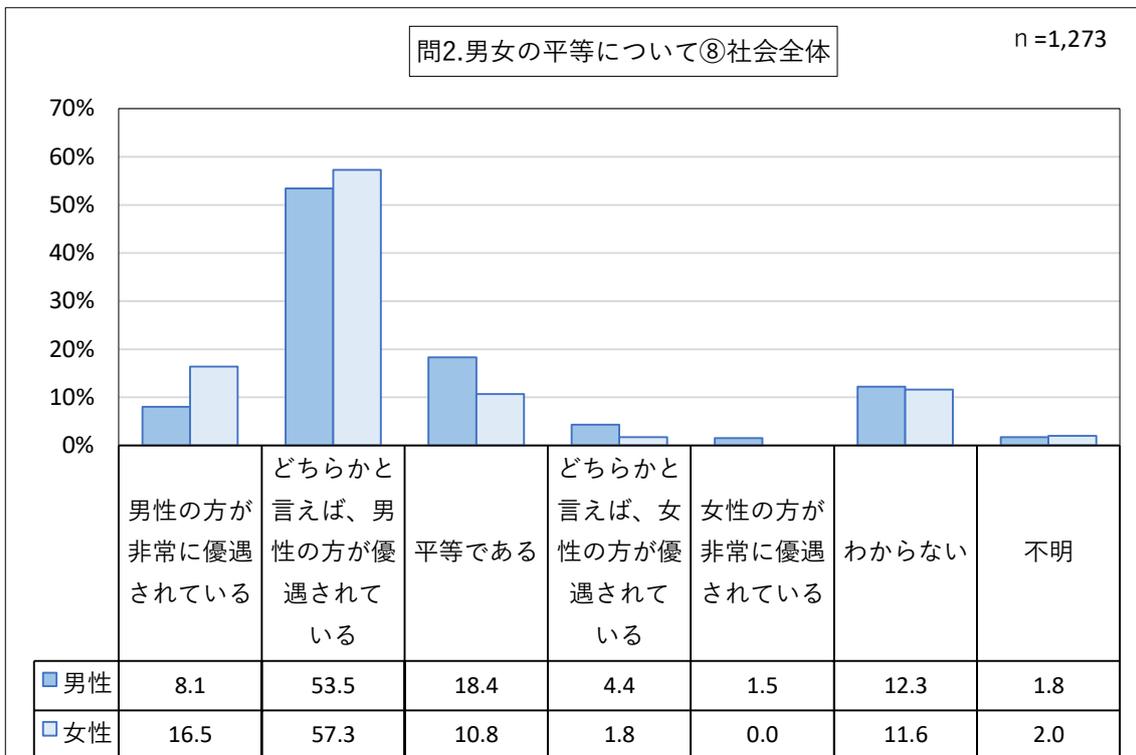
高い割合である。「平等である」は、男性は女性の約3倍高い割合である。



⑥法律や制度上では、「平等である」「どちらかと言えば、男性の方が優遇されている」が多数を占めている。「平等である」は女性より男性の方が約1.5倍高い割合である。



⑦政治の場社会通念・慣習・しきたりでは、「どちらかと言えば、男性の方が優遇されている」が、男女とも約半数を占めている。



⑧社会全体では、「どちらかと言えば、男性の方が優遇されている」が、男女とも約半数以上を占めている。

問2.男女の平等について

		男性の方が非常に優遇されている	どちらかと言えば、男性の方が優遇されている	平等である	どちらかと言えば、女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	不明	
凡例									
① 家庭生活	R2調査 (n=1,273)	11.2	45.4		25.8	5.2	8.7	1.1	2.6
	H27調査 (n=1,206)	9.4	50.8		24.3	5.4	3.9	5.5	0.7
	R元大分県調査 (n=1,082)	13.3	45.6		26.6	5.0	5.3	0.8	3.4
② 職場	R2調査 (n=1,273)	13.5	43.3		24.7	4.6	10.0	0.8	3.1
	H27調査 (n=1,206)	14.7	48.7		17.8	4.0	8.1	6.1	0.6
	R元大分県調査 (n=1,082)	12.7	42.5		24.6	5.2	9.0	5.1	0.9
③ 学校教育の場	R2調査 (n=1,273)	14.0	53.5		3.5	23.5		1.6	0.6
	H27調査 (n=1,206)	12.1	54.2		2.8	21.2	8.1	1.2	0.4
	R元大分県調査 (n=1,082)	13.6	55.5		3.5	18.8	6.8	1.7	0.1
④ 地域活動や 社会活動	R2調査 (n=1,273)	5.3	33.2		35.3	6.8	15.7	0.9	2.8
	H27調査 (n=1,206)	5.2	35.0		34.6	7.6	10.5	6.6	0.5

		問2.男女の平等について						
		男性の方が非常に優遇されている	どちらかと言えば、男性の方が優遇されている	平等である	どちらかと言えば、女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	不明
凡例								
⑤ 政治の場	R2調査 (n=1,273)	32.8	42.6		10.8	10.4	0.5	0.2
	H27調査 (n=1,206)	30.9	40.0		12.4	8.9	1.1	0.2
	R元大分県調査 (n=1,082)	32.2	41.0		11.9	9.7	0.9	0.2
⑥ 法律や制度上	R2調査 (n=1,273)	11.1	29.9	31.3	4.5	19.4	0.7	
	H27調査 (n=1,206)	9.7	28.9	32.0	4.8	17.1	0.5	7.0
	R元大分県調査 (n=1,082)	9.9	32.0	29.6	6.2	15.2	1.1	6.0
⑦ 社会通念・ 慣習・ しきたり	R2調査 (n=1,273)	21.6	49.6		11.9	1.8	12.3	0.2
	H27調査 (n=1,206)	22.2	52.7		9.3	1.7	7.4	0.5
	R元大分県調査 (n=1,082)	21.8	51.5		11.3	1.8	9.1	0.4
⑧ 社会全体	R2調査 (n=1,273)	13.3	55.6		13.5	2.7	11.9	0.6
	H27調査 (n=1,206)	11.4	59.4		12.4	2.7	8.0	0.2
	R元大分県調査 (n=1,082)	11.4	57.1		13.9	4.3	9.6	0.2

前回調査及びR元大分県調査（以下、「大分県調査」と表記する）と比較をすると、今回調査は「①家庭生活」「④地域活動や社会活動」「⑦社会通念・慣習・しきたり」において、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかと言えば、男性の方が優遇されている」を合わせた割合が最も低くなっている。他方、「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかと言えば、女性の方が優遇されている」を合わせた割合はほとんど差がみられない。

問3. あなたの家庭では、次の①～⑪までの役割を、主にどなたがされていますか（現状）。また、あなたの理想の分担はどのような形ですか。（1つに○）

●家庭における夫婦間の理想の役割分担は、「家計の管理」以外の項目で約5割以上が「夫婦で協力」と回答しているが、現状では「夫婦で協力」と回答した割合は2割以下の項目が多い。現状では「夫婦で協力」と回答した割合が高い項目は「⑦子どもの教育としつけ」「⑪家庭の問題における最終的な決定」の2項目で、約3割となっている。このことから家庭内の役割分担に偏りがあり、理想と現状に乖離があることがわかる。

問3.家庭の役割【現状】	合計	自分	配偶者	夫婦で協力	父 (実父・ 義父)	母 (実母・ 義母)	その他	不明
①家計の管理	1,273 100.0%	610 47.9%	153 12.0%	173 13.6%	39 3.1%	207 16.3%	45 3.5%	46 3.6%
②食料品などの買い物	1,273 100.0%	621 48.8%	109 8.6%	215 16.9%	13 1.0%	224 17.6%	51 4.0%	40 3.1%
③食事の支度(したく)	1,273 100.0%	642 50.5%	148 11.6%	105 8.2%	9 0.7%	282 22.2%	52 4.1%	35 2.7%
④食事の後片付け	1,273 100.0%	645 50.6%	122 9.6%	173 13.6%	14 1.1%	219 17.2%	61 4.8%	39 3.1%
⑤掃除・洗濯	1,273 100.0%	619 48.6%	118 9.3%	191 15.0%	11 0.9%	236 18.5%	55 4.3%	43 3.4%
⑥育児（乳幼児の世話）	1,273 100.0%	247 19.4%	64 5.0%	245 19.2%	2 0.2%	96 7.5%	158 12.4%	461 36.3%
⑦子どもの教育としつけ	1,273 100.0%	221 17.4%	37 2.9%	373 29.3%	4 0.3%	67 5.3%	144 11.3%	427 33.5%
⑧学校行事	1,273 100.0%	293 23.0%	62 4.9%	235 18.5%	9 0.7%	81 6.4%	148 11.6%	445 34.9%
⑨地域行事	1,273 100.0%	366 28.8%	141 11.1%	340 26.7%	102 8.0%	101 7.9%	85 6.7%	138 10.8%
⑩高齢者の世話・介護	1,273 100.0%	258 20.3%	43 3.4%	252 19.8%	4 0.3%	98 7.7%	228 17.9%	390 30.6%
⑪家庭の問題における最終的な決定	1,273 100.0%	292 22.9%	204 16.0%	381 30.1%	135 10.6%	68 5.3%	73 5.7%	120 9.4%

現状で「夫婦で協力」と回答した割合が高い項目は「⑦子どもの教育としつけ」「⑪家庭の問題における最終的な決定」の2項目であるが、約3割にとどまっている。

問3.家庭の役割【理想】	合計	自分	配偶者	夫婦で 協力	父 (実父・ 義父)	母 (実母・ 義母)	その他	不明
①家計の管理	1,273 100.0%	322 25.3%	103 8.1%	551 43.3%	15 1.2%	82 6.4%	37 2.9%	163 12.8%
②食料品などの買い物	1,273 100.0%	255 20.0%	76 6.0%	642 50.4%	5 0.4%	62 4.9%	67 5.3%	166 13.0%
③食事の支度(したく)	1,273 100.0%	230 18.1%	81 6.4%	643 50.5%	4 0.3%	74 5.8%	70 5.5%	171 13.4%
④食事の後片付け	1,273 100.0%	214 16.8%	49 3.8%	717 56.5%	7 0.5%	41 3.2%	74 5.8%	171 13.4%
⑤掃除・洗濯	1,273 100.0%	210 16.5%	46 3.6%	712 56.0%	7 0.5%	46 3.6%	71 5.6%	181 14.2%
⑥育児(乳幼児の世話)	1,273 100.0%	43 3.4%	21 1.6%	669 52.6%	0 0.0%	13 1.0%	89 7.0%	438 34.4%
⑦子どもの教育としつけ	1,273 100.0%	34 2.7%	10 0.8%	718 56.3%	2 0.2%	12 0.9%	81 6.4%	416 32.7%
⑧学校行事	1,273 100.0%	40 3.1%	23 1.8%	680 53.5%	3 0.2%	16 1.3%	83 6.5%	428 33.6%
⑨地域行事	1,273 100.0%	103 8.1%	75 5.9%	713 56.0%	44 3.5%	19 1.5%	73 5.7%	246 19.3%
⑩高齢者の世話・介護	1,273 100.0%	61 4.8%	11 0.9%	660 51.8%	4 0.3%	15 1.2%	141 11.1%	381 29.9%
⑪家庭の問題における最終的な決定	1,273 100.0%	114 9.0%	89 7.0%	722 56.7%	54 4.2%	15 1.2%	64 5.0%	215 16.9%

理想では、食事の準備に関すること（買い物、支度）よりも、食事の後片付けや掃除・洗濯の方が「夫婦で協力」と回答した割合が高くなっている。

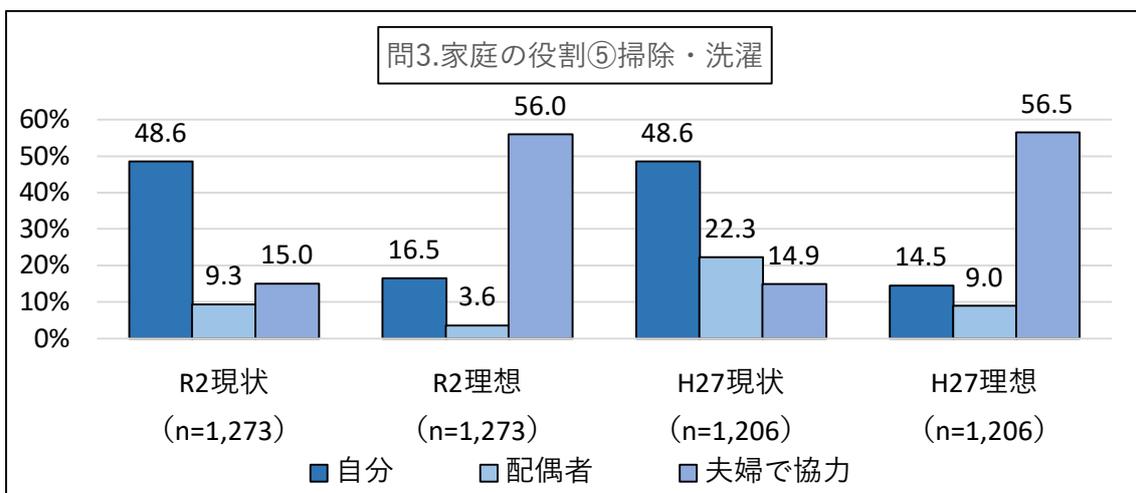
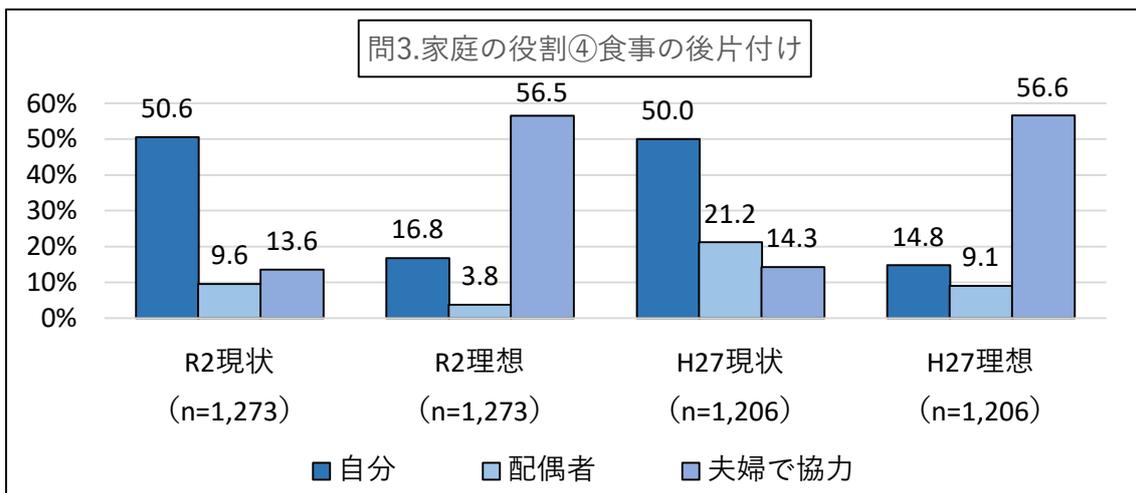
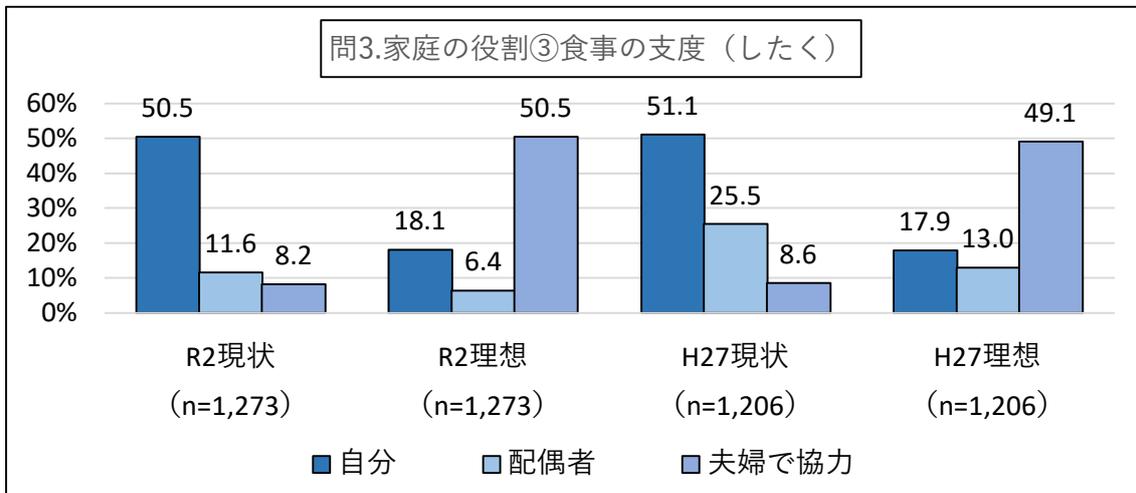
次の表は、男性及び女性ごとの、現状の役割について回答をまとめたものである。

設問	合計	問3.家庭の役割【現状】男性							
		自分	配偶者	夫婦で協力	父 (実父・ 義父)	母 (実母・ 義母)	その他	不明	
設問	①家計の管理	457 100.0%	152 33.3%	96 21.0%	50 10.9%	21 4.6%	94 20.6%	19 4.2%	25 5.4%
	②食料品などの買い物	457 100.0%	123 26.9%	90 19.7%	77 16.8%	8 1.8%	116 25.4%	20 4.4%	23 5.0%
	③食事の支度(したく)	457 100.0%	105 23.0%	127 27.8%	33 7.2%	6 1.3%	144 31.5%	21 4.6%	21 4.6%
	④食事の後片付け	457 100.0%	132 28.9%	93 20.4%	64 14.0%	9 2.0%	119 26.0%	19 4.2%	21 4.5%
	⑤掃除・洗濯	457 100.0%	120 26.3%	96 21.0%	60 13.1%	8 1.8%	131 28.7%	20 4.4%	22 4.7%
	⑥育児(乳幼児の世話)	457 100.0%	13 2.8%	58 12.7%	84 18.4%	1 0.2%	44 9.6%	79 17.3%	178 39.0%
	⑦子どもの教育としつけ	457 100.0%	24 5.3%	32 7.0%	127 27.8%	2 0.4%	29 6.3%	72 15.8%	171 37.4%
	⑧学校行事	457 100.0%	26 5.7%	54 11.8%	92 20.1%	5 1.1%	38 8.3%	69 15.1%	173 37.9%
	⑨地域行事	457 100.0%	151 33.0%	19 4.2%	94 20.6%	47 10.3%	41 9.0%	43 9.4%	62 13.5%
	⑩高齢者の世話・介護	457 100.0%	48 10.5%	31 6.8%	96 21.0%	2 0.4%	42 9.2%	94 20.6%	144 31.5%
	⑪家庭の問題における最終的な決定	457 100.0%	141 30.9%	13 2.8%	114 24.9%	66 14.4%	29 6.3%	33 7.2%	61 13.5%

設問	合計	問3.家庭の役割【現状】女性							
		自分	配偶者	夫婦で協力	父 (実父・ 義父)	母 (実母・ 義母)	その他	不明	
設問	①家計の管理	790 100.0%	446 56.5%	56 7.1%	119 15.1%	17 2.2%	110 13.9%	25 3.2%	17 2.0%
	②食料品などの買い物	790 100.0%	483 61.1%	19 2.4%	134 17.0%	5 0.6%	106 13.4%	30 3.8%	13 1.7%
	③食事の支度(したく)	790 100.0%	522 66.1%	21 2.7%	70 8.9%	3 0.4%	135 17.1%	29 3.7%	10 1.1%
	④食事の後片付け	790 100.0%	496 62.8%	29 3.7%	108 13.7%	5 0.6%	98 12.4%	41 5.2%	13 1.6%
	⑤掃除・洗濯	790 100.0%	484 61.3%	21 2.7%	128 16.2%	3 0.4%	103 13.0%	34 4.3%	17 2.1%
	⑥育児(乳幼児の世話)	790 100.0%	228 28.9%	6 0.8%	157 19.9%	1 0.1%	50 6.3%	78 9.9%	270 34.1%
	⑦子どもの教育としつけ	790 100.0%	195 24.7%	5 0.6%	238 30.1%	2 0.3%	37 4.7%	71 9.0%	242 30.6%
	⑧学校行事	790 100.0%	263 33.3%	8 1.0%	138 17.5%	4 0.5%	42 5.3%	78 9.9%	257 32.5%
	⑨地域行事	790 100.0%	209 26.5%	121 15.3%	237 30.0%	55 7.0%	59 7.5%	41 5.2%	68 8.5%
	⑩高齢者の世話・介護	790 100.0%	204 25.8%	12 1.5%	149 18.9%	2 0.3%	55 7.0%	132 16.7%	236 29.8%
	⑪家庭の問題における最終的な決定	790 100.0%	147 18.6%	187 23.7%	259 32.8%	69 8.7%	38 4.8%	39 4.9%	51 6.5%

男性は意見にばらつきが見られ、どの設問でも回答が40%以上を占めることがないが、女性は①～⑤の設問において「自分」との回答が5割以上を占めている。

特に理想と現状の乖離が大きい項目として、「③食事の支度」「④食事の後片付け」「⑤掃除・洗濯」を抽出した。それぞれの現状、理想の今回調査、前回調査は以下のようになっている。



日々の生活に欠かせないものが、乖離の大きい項目の上位を占めた。

問4. 男性も育児・介護休業をとることができますが、このことについてあなたはどのように思いますか。(1つに○)

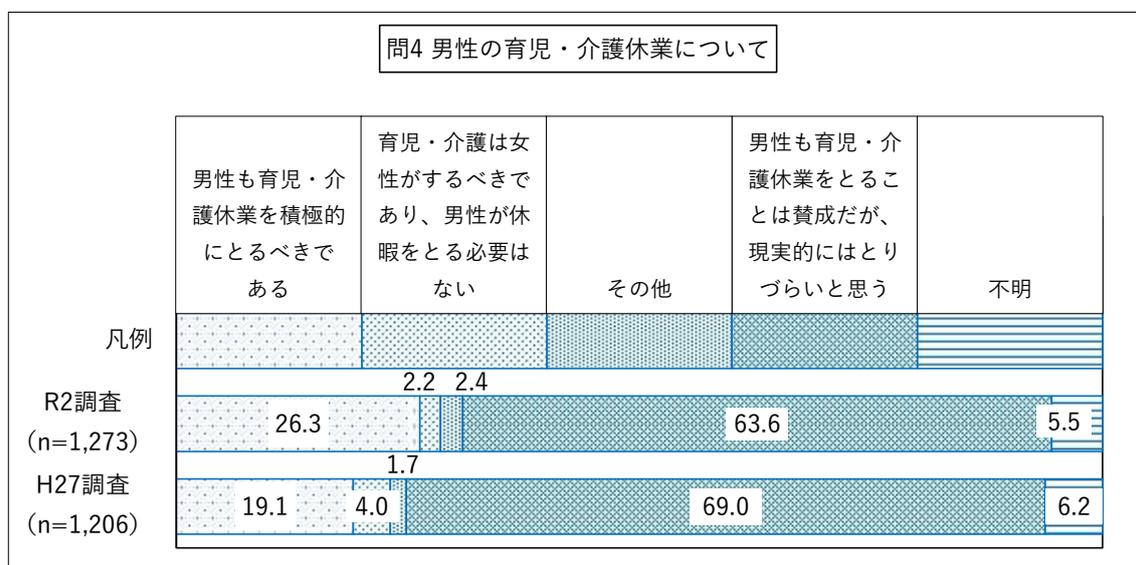
- 全体では、「男性も育児・介護休業をとることは賛成だが、現実的にはとりづら
いと思う」が高く63.6%となっている。
- 性別での差はみられない。
- 18～29歳は、「男性も育児・介護休業を積極的に取るべきである」との回答が30
歳代以上の回答よりも割合が高く、意識の差がみられる。
- 前回調査と比較すると「男性も育児・介護休業を積極的に取るべきである」の
回答が7.2%増加している。

		合計	問4.男性の育児・介護休業について				
			男性も育児・介護休業を積極的にとるべきである	育児・介護は女性がするべきであり、男性が休暇をとる必要はない	その他	男性も育児・介護休業をとることは賛成だが、現実的にはとりづら いと思う	不明
全体		1,273 100.0%	335 26.3%	28 2.2%	30 2.4%	810 63.6%	70 5.5%
性別	男性	457 100.0%	124 27.1%	11 2.4%	10 2.2%	285 62.4%	27 5.9%
	女性	790 100.0%	207 26.2%	16 2.0%	18 2.3%	513 64.9%	36 4.6%
	不明	26 100.0%	4 15.4%	1 3.8%	2 7.7%	12 46.2%	7 26.9%

性別による大きな差はみられなかった。

		合計	問4.男性の育児・介護休業について				
			男性も育児・介護休業を積極的にとるべきである	育児・介護は女性がするべきであり、男性が休暇をとる必要はない	その他	男性も育児・介護休業をとることは賛成だが、現実的にはとりづら いと思う	不明
全体		1,273 100.0%	335 26.3%	28 2.2%	30 2.4%	810 63.6%	70 5.5%
年齢	18歳～19歳	44 100.0%	20 45.5%	1 2.3%	0 0.0%	21 47.7%	2 4.5%
	20歳～29歳	127 100.0%	44 34.6%	2 1.6%	2 1.6%	75 59.1%	4 3.1%
	30歳～39歳	209 100.0%	44 21.1%	2 1.0%	9 4.3%	149 71.2%	5 2.4%
	40歳～49歳	233 100.0%	56 24.0%	4 1.7%	7 3.0%	154 66.1%	12 5.2%
	50歳～59歳	275 100.0%	72 26.2%	3 1.1%	8 2.9%	182 66.2%	10 3.6%
	60歳～69歳	193 100.0%	54 28.0%	8 4.1%	1 0.5%	121 62.7%	9 4.7%
	70歳以上	168 100.0%	41 24.4%	7 4.2%	1 0.6%	97 57.7%	22 13.1%
	不明	24 100.0%	4 16.7%	1 4.2%	2 8.3%	11 45.8%	6 25.0%

30～50 歳代では、「男性も育児・介護休業をとることは賛成だが、現実的にはとりづらと思う」との回答が全体の割合よりも高くなっている。特に、30 歳代は 7 割を超える高い結果となっている。それでも、20 歳代は「男性も育児・介護休業を積極的にとるべきである」との回答の割合も全体の割合より高く、30 歳代よりも約 1.5 倍高くなっている。30 歳代より年齢が低くなるにつれて、意識の違いがあることがわかる。



前回調査と比較すると、「男性も育児・介護休業を積極的にとるべきである」という回答の割合が 7.2%増加し、「男性も育児・介護休業をとることは賛成だが、現実的にはとりづらと思う」との回答が 5.4%減少した。また、「育児・介護は女性がすべきであり、男性が休暇をとる必要はない」との回答は、約半分になっている。

このことから、男性も育児・介護に取り組む方がよいという意識は高まっていると考えられる。

問5. 問4で「4. 男性も育児・介護休業をとることは賛成だが、現実的にはとりづら
いと思う」と答えられた方は、その理由をお聞かせください。(1つに○)

●全体では、「男性がとることについて、社会全体の認識が十分でない」との回答
が最も高く 30.2%、次いで「仕事で周囲の人に迷惑がかかる」との回答が 18.0%
となっている。

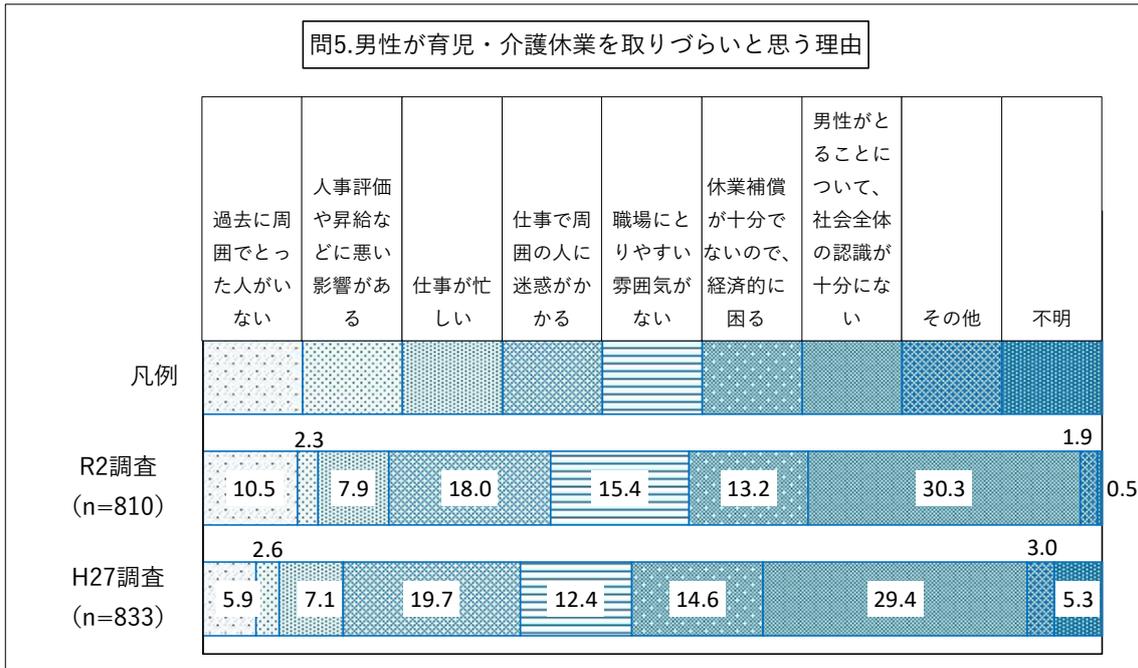
		合計	問5.男性が育児・介護休業を取りづらと思う理由								
			過去に周囲 でとった人 がない	人事評価や 昇給などに 悪い影響が ある	仕事が忙し い	仕事で周囲 の人に迷惑 がかかる	職場にとり やすい雰囲気 がない	休業補償が 十分でない ので、経済 的に困る	男性がとる ことについて、社会 全体の認識が 十分でない	その他	不明
全体		810 100.0%	85 10.5%	19 2.3%	64 7.9%	146 18.0%	125 15.4%	107 13.2%	245 30.3%	15 1.9%	4 0.5%
性別	男性	285 100.0%	32 11.2%	7 2.5%	19 6.7%	58 20.4%	53 18.6%	39 13.7%	72 25.1%	3 1.1%	2 0.7%
	女性	513 100.0%	52 10.1%	11 2.1%	44 8.6%	86 16.8%	72 14.0%	64 12.5%	171 33.4%	12 2.3%	1 0.2%
	不明	12 100.0%	1 8.3%	1 8.3%	1 8.3%	2 16.7%	0 0.0%	4 33.4%	2 16.7%	0 0.0%	1 8.3%

女性は、「男性がとることについて、社会全体の認識が十分でない」と回答した割合
が 33.3%と高く、男性よりも 8%高い。

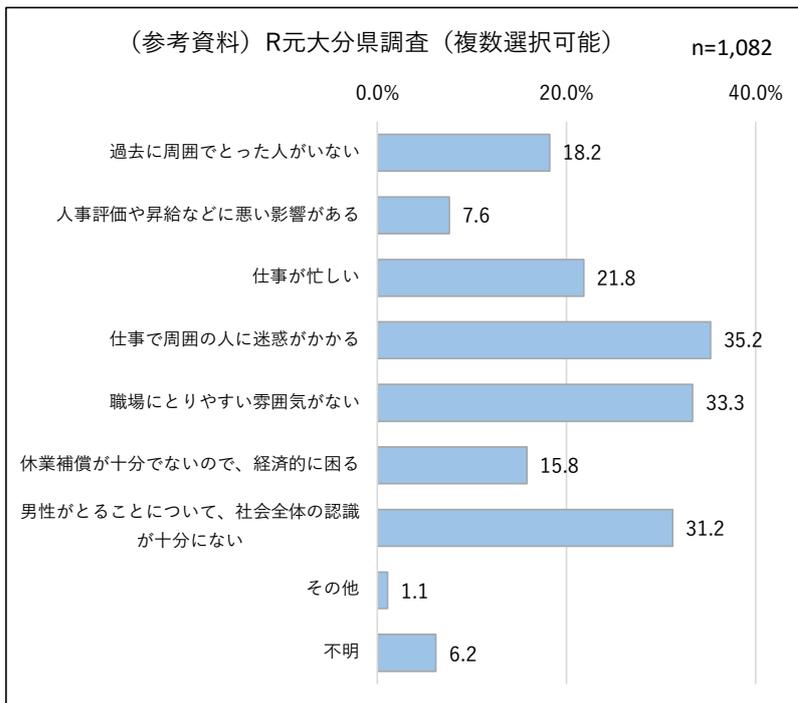
		合計	問5.男性が育児・介護休業を取りづらと思う理由								
			過去に周囲 でとった人 がない	人事評価や 昇給などに 悪い影響が ある	仕事が忙し い	仕事で周囲 の人に迷惑 がかかる	職場にとり やすい雰囲気 がない	休業補償が 十分でない ので、経済 的に困る	男性がとる ことについて、社会 全体の認識が 十分でない	その他	不明
全体		810 100.0%	85 10.5%	19 2.3%	64 7.9%	146 18.0%	125 15.4%	107 13.2%	245 30.3%	15 1.9%	4 0.5%
年齢	18歳～19歳	21 100.0%	1 4.8%	0 0.0%	3 14.3%	2 9.5%	5 23.8%	3 14.3%	7 33.3%	0 0.0%	0 0.0%
	20歳～29歳	75 100.0%	9 12.0%	5 6.7%	2 2.7%	9 12.0%	12 16.0%	12 16.0%	22 29.3%	4 5.3%	0 0.0%
	30歳～39歳	149 100.0%	23 15.4%	4 2.7%	13 8.7%	25 16.8%	19 12.8%	19 12.8%	44 29.5%	2 1.3%	0 0.0%
	40歳～49歳	154 100.0%	14 9.1%	4 2.6%	17 11.0%	30 19.5%	25 16.2%	24 15.6%	37 24.1%	3 1.9%	0 0.0%
	50歳～59歳	182 100.0%	20 11.0%	3 1.6%	10 5.5%	35 19.2%	38 20.9%	21 11.5%	50 27.6%	3 1.6%	2 1.1%
	60歳～69歳	121 100.0%	10 8.3%	1 0.8%	5 4.1%	25 20.7%	13 10.7%	21 17.4%	45 37.2%	1 0.8%	0 0.0%
	70歳以上	97 100.0%	7 7.2%	0 0.0%	13 13.4%	18 18.6%	12 12.4%	5 5.2%	39 40.1%	2 2.1%	1 1.0%
	不明	11 100.0%	1 9.1%	2 18.1%	1 9.1%	2 18.2%	1 9.1%	2 18.2%	1 9.1%	0 0.0%	1 9.1%

「男性がとることについて、社会全体の認識が十分でない」との回答は、70歳代が最
も高く、約 4 割が回答していた。最も低い年代は、40歳代となっていた。他の年代で
は、それほど高くなかったが、各年代で約 3 割近くが回答している。

40歳代以上では「仕事で周囲の人に迷惑がかかる」との回答割合が 30歳代以下と比
べて高い傾向にある。一方で、30歳代以下では「過去に周囲で取った人がいない」「職
場にとりやすい雰囲気がない」との回答割合が高い。



前回調査と比較すると傾向として大きな変化はないものの、「過去に周囲でとった人がいない」との回答が前回調査の約2倍となっていた。



上のグラフは大分県調査の結果である。大分県調査は2つまで選択可能であることから、割合による比較が行えないため、回答の傾向による比較を行うこととした。臼杵市では「男性がとることについて、社会全体の認識が十分でない」という回答が他の回答よりも高い傾向にあるが、大分県調査では同程度の割合で「仕事で周囲の人に迷惑がかかる」「職場にとりやすい雰囲気がない」との回答が挙げられている。

問6. あなたは、次の1～6のうち、優先したいものはどれですか。また、実際には何を優先していますか。(○は2つまで)

【優先したいものについて】

- 全体では、「家庭」との回答が最も高く71.3%であった。次いで「仕事」が41.0%、「個人」が35.5%であった。前回調査から順位の変更はないが、今回調査では「家庭」の回答が減少し、「個人」の回答が増加した。
- 男性、女性ともに「家庭」と回答する割合が最も高いが、女性は「家庭」と回答する割合が男性より高く、男性は「仕事」を優先したいと回答する割合が女性より高いことがわかる。
- どの年代でも最も優先したいものは「家庭」であるが、若い世代は「仕事」や「個人」、そして年代が上がるにつれて、より「家庭」中心に、そして70歳以上になると「地域」へと回答が変化している。

		合計	問6.優先したいもの						
			仕事	家庭	地域	個人	すべて	わからない	不明
全体		1,273 100.0%	522 41.0%	908 71.3%	70 5.5%	452 35.5%	62 4.9%	37 2.9%	57 4.5%
性別	男性	457 100.0%	230 50.3%	281 61.5%	34 7.4%	150 32.8%	26 5.7%	17 3.7%	21 4.6%
	女性	790 100.0%	282 35.7%	615 77.8%	36 4.6%	299 37.8%	36 4.6%	18 2.3%	27 3.4%
	不明	26 100.0%	10 38.5%	12 46.2%	0 0.0%	3 11.5%	0 0.0%	2 7.7%	9 34.6%

男女とも「家庭」と回答した割合が最も大きいのが、女性の方が回答が集中している。

		合計	問6.優先したいもの						
			仕事	家庭	地域	個人	すべて	わからない	不明
全体		1,273 100.0%	522 41.0%	908 71.3%	70 5.5%	452 35.5%	62 4.9%	37 2.9%	57 4.5%
年齢	18歳～19歳	44 100.0%	21 47.7%	29 65.9%	0 0.0%	17 38.6%	4 9.1%	2 4.5%	1 2.3%
	20歳～29歳	127 100.0%	52 40.9%	87 68.5%	7 5.5%	55 43.3%	6 4.7%	4 3.1%	7 5.5%
	30歳～39歳	209 100.0%	79 37.8%	159 76.1%	2 1.0%	90 43.1%	11 5.3%	3 1.4%	5 2.4%
	40歳～49歳	233 100.0%	96 41.2%	174 74.7%	7 3.0%	89 38.2%	13 5.6%	8 3.4%	6 2.6%
	50歳～59歳	275 100.0%	125 45.5%	194 70.5%	12 4.4%	100 36.4%	11 4.0%	7 2.5%	8 2.9%
	60歳～69歳	193 100.0%	80 41.5%	133 68.9%	12 6.2%	69 35.8%	9 4.7%	3 1.6%	9 4.7%
	70歳以上	168 100.0%	61 36.3%	121 72.0%	30 17.9%	30 17.9%	7 4.2%	8 4.8%	12 7.1%
	不明	24 100.0%	8 33.3%	11 45.8%	0 0.0%	2 8.3%	1 4.2%	2 8.3%	9 37.5%

どの年代でも「家庭」が最も高い割合を占めている。多くの年代では「仕事」の割合が「家庭」の次に高いが、20～30歳代では「個人」と回答した割合が次点となっている。

また、18～19歳は、他の年代と比べて「家庭」との回答が低く、「仕事」と「すべて」との回答が多い。30～40歳代では、回答者の75%近くが「家庭」と回答をしている。「地域」との回答は70歳以上に多い。

問6. あなたは、次の1～6のうち、優先したいものはどれですか。また、実際には何を優先していますか。(〇は2つまで)

【実際に優先しているものについて】

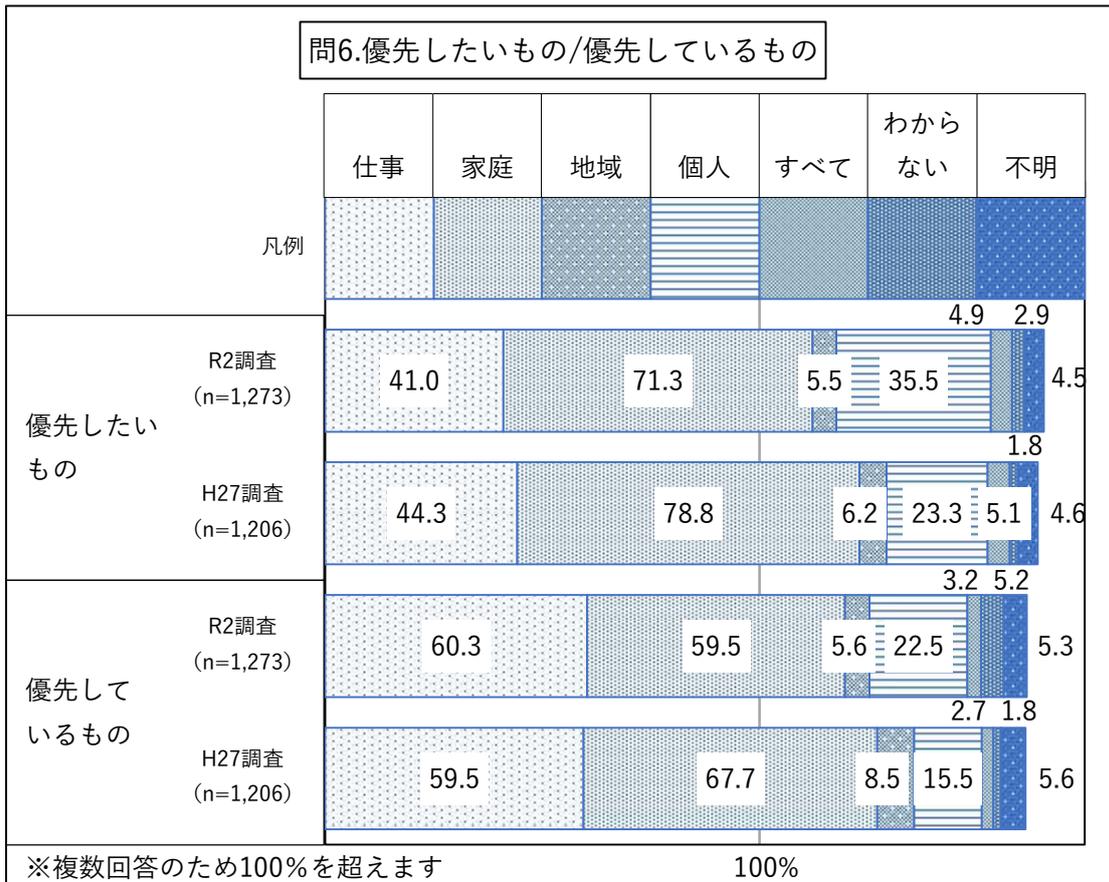
- 全体では「仕事」との割合が最も高く60.3%、次いで「家庭」が59.5%である。
- 優先したいものは男女ともに「家庭」との回答が上位だったが、男性は実際に優先しているものとして、「仕事」との回答が高いことがわかる。女性においても「仕事」と回答した割合は、理想より2割高い回答であった。
- 若い世代ほど「仕事」との回答割合が高く、60歳代以上で「家庭」の割合が高くなる。理想と現実の乖離が大きいのは20歳代で、理想と現実が最も近いのは70歳代である。30～50歳代は、理想よりも「仕事」に重きを置いているが、「仕事」「家庭」のどちらも優先していると回答していた。

		合計	問6.実際に優先しているもの						
			仕事	家庭	地域	個人	すべて	わからない	不明
全体		1,273 100.0%	767 60.3%	758 59.5%	71 5.6%	287 22.5%	41 3.2%	66 5.2%	67 5.3%
性別	男性	457 100.0%	311 68.1%	206 45.1%	32 7.0%	126 27.6%	16 3.5%	27 5.9%	22 4.8%
	女性	790 100.0%	445 56.3%	540 68.4%	38 4.8%	160 20.3%	25 3.2%	38 4.8%	35 4.4%
	不明	26 100.0%	11 42.3%	12 46.2%	1 3.8%	1 3.8%	0 0.0%	1 3.8%	10 38.5%

男性は「仕事」と回答する割合が最も高く68.1%であり、優先したいと回答した割合よりも約2割高い。女性は「家庭」と回答する割合が最も高く68.4%であり、優先したいと回答した割合よりも約1割低い。

		合計	問6.実際に優先しているもの						
			仕事	家庭	地域	個人	すべて	わからない	不明
全体		1,273 100.0%	767 60.3%	758 59.5%	71 5.6%	287 22.5%	41 3.2%	66 5.2%	67 5.3%
年齢	18歳～19歳	44 100.0%	19 43.2%	11 25.0%	0 0.0%	20 45.5%	0 0.0%	12 27.3%	1 2.3%
	20歳～29歳	127 100.0%	81 63.8%	54 42.5%	3 2.4%	45 35.4%	3 2.4%	9 7.1%	8 6.3%
	30歳～39歳	209 100.0%	143 68.4%	130 62.2%	3 1.4%	53 25.4%	6 2.9%	5 2.4%	6 2.9%
	40歳～49歳	233 100.0%	152 65.2%	147 63.1%	3 1.3%	51 21.9%	7 3.0%	13 5.6%	9 3.9%
	50歳～59歳	275 100.0%	181 65.8%	167 60.7%	13 4.7%	49 17.8%	11 4.0%	12 4.4%	12 4.4%
	60歳～69歳	193 100.0%	120 62.2%	126 65.3%	16 8.3%	41 21.2%	4 2.1%	4 2.1%	10 5.2%
	70歳以上	168 100.0%	63 37.5%	111 66.1%	32 19.0%	27 16.1%	10 6.0%	10 6.0%	11 6.5%
	不明	24 100.0%	8 33.3%	12 50.0%	1 4.2%	1 4.2%	0 0.0%	1 4.2%	10 41.7%

20～50歳代では、「仕事」との回答が最も高い。18～19歳では、「個人」との回答が45.5%と、どの年代よりも高く、一方で「家庭」との割合は全体の半分以下となっている。60歳代以上になると「仕事」の割合はやや減少し、「家庭」「地域」の割合が高くなっている。



優先したいものを前回調査と比較すると、「家庭」との回答割合が7.5%減少し、「個人」の回答割合が12.2%増加している。

同様に、優先しているものを前回調査と比較すると、「家庭」の割合が8.2%減少し、「個人」の割合が7%増加している。

問7. 今後、男性が女性とともに家庭生活(家事、育児、介護)や地域活動等へ参加をしていくために必要なことは何だと思えますか。(〇は2つまで)

●全体では、「職場における、育児・介護休暇等を取りやすくする環境づくり」が最も高く 53.0%となっている。次いで高いのが、「子どものときからの家庭教育」で 43.2%となっている。

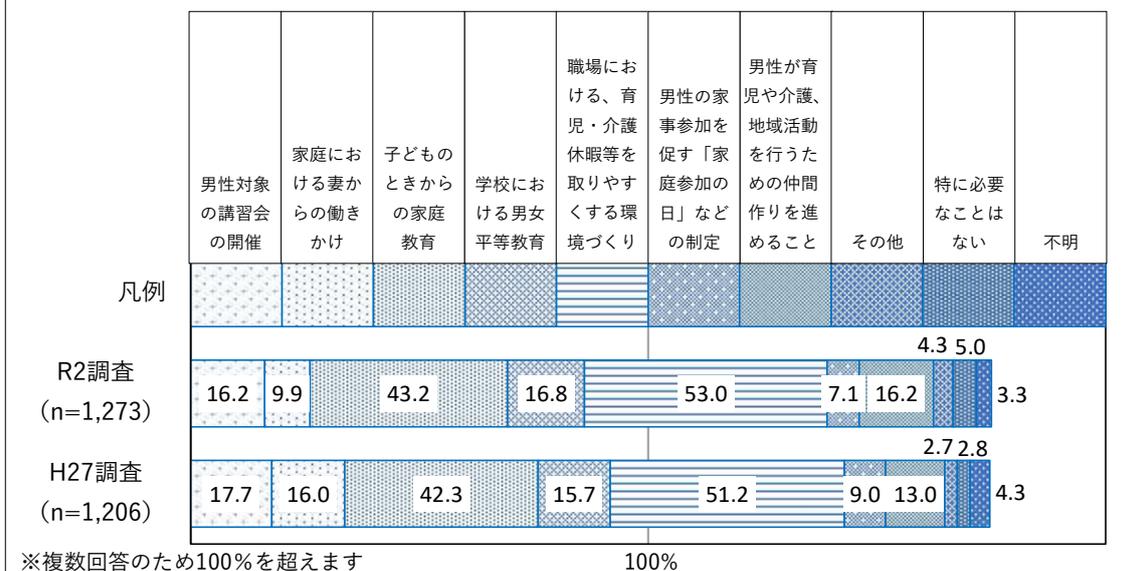
		問7. 男性が家庭生活等へ参加するために必要なこと										
合計		男性対象の講習会の開催	家庭における妻からの働きかけ	子どものときからの家庭教育	学校における男女平等教育	職場における、育児・介護休暇等を取りやすくする環境づくり	男性の家事参加を促す「家庭参加の日」などの制定	男性が育児や介護、地域活動を行うための仲間作りを進めること	その他	特に必要なことはない	不明	
全体		1,273 100.0%	206 16.2%	126 9.9%	550 43.2%	214 16.8%	675 53.0%	90 7.1%	206 16.2%	55 4.3%	64 5.0%	42 3.3%
性別	男性	457 100.0%	75 16.4%	38 8.3%	169 37.0%	89 19.5%	242 53.0%	35 7.7%	72 15.8%	24 5.3%	30 6.6%	13 2.8%
	女性	790 100.0%	126 15.9%	84 10.6%	375 47.5%	124 15.7%	427 54.1%	54 6.8%	133 16.8%	29 3.7%	33 4.2%	19 2.4%
	不明	26 100.0%	5 19.2%	4 15.4%	6 23.1%	1 3.8%	6 23.1%	1 3.8%	1 3.8%	2 7.7%	1 3.8%	10 38.5%

女性は男性よりも「子どものときからの家庭教育」と回答した割合が高く 47.5%であり、男性よりも約10%高い。

		問7. 男性が家庭生活等へ参加するために必要なこと										
合計		男性対象の講習会の開催	家庭における妻からの働きかけ	子どものときからの家庭教育	学校における男女平等教育	職場における、育児・介護休暇等を取りやすくする環境づくり	男性の家事参加を促す「家庭参加の日」などの制定	男性が育児や介護、地域活動を行うための仲間作りを進めること	その他	特に必要なことはない	不明	
全体		1273 100.0%	206 16.2%	126 9.9%	550 43.2%	214 16.8%	675 53.0%	90 7.1%	206 16.2%	55 4.3%	64 5.0%	42 3.3%
年齢	18歳～19歳	44 100.0%	11 25.0%	1 2.3%	14 31.8%	13 29.5%	24 54.5%	3 6.8%	6 13.6%	4 9.1%	1 2.3%	1 2.3%
	20歳～29歳	127 100.0%	15 11.8%	7 5.5%	46 36.2%	21 16.5%	79 62.2%	13 10.2%	24 18.9%	6 4.7%	7 5.5%	3 2.4%
	30歳～39歳	209 100.0%	22 10.5%	16 7.7%	91 43.5%	29 13.9%	127 60.8%	17 8.1%	39 18.7%	14 6.7%	13 6.2%	2 1.0%
	40歳～49歳	233 100.0%	33 14.2%	20 8.6%	117 50.2%	41 17.6%	127 54.5%	21 9.0%	35 15.0%	9 3.9%	7 3.0%	3 1.3%
	50歳～59歳	275 100.0%	40 14.5%	26 9.5%	127 46.2%	48 17.5%	157 57.1%	13 4.7%	42 15.3%	11 4.0%	13 4.7%	9 3.3%
	60歳～69歳	193 100.0%	43 22.3%	28 14.5%	79 40.9%	28 14.5%	93 48.2%	14 7.3%	33 17.1%	5 2.6%	11 5.7%	5 2.6%
	70歳以上	168 100.0%	38 22.6%	24 14.3%	70 41.7%	33 19.6%	62 36.9%	7 4.2%	26 15.5%	5 3.0%	12 7.1%	10 6.0%
	不明	24 100.0%	4 16.7%	4 16.7%	6 25.0%	1 4.2%	6 25.0%	2 8.3%	1 4.2%	1 4.2%	0 0.0%	9 37.5%

60歳代までは、「職場における環境づくり」の回答が最も高くなっている。

問7. 男性が家庭生活等へ参加するために必要なこと



前回調査と比較すると、「家庭における妻からの働きかけ」の割合が 6.1%減少した一方で、「職場における、育児・介護休暇等を取りやすくする環境づくり」と「男性が育児や介護、地域活動を行うための仲間作りを進めること」と回答した割合がそれぞれ 1.8%、3.2%増加している。

問8. 男女ともに、仕事と家庭生活の調和を実現していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【仕事について】

●全体では「家事・育児・介護参加への職場・上司の理解」が最も高く、39.7%、次いで「仕事量・残業時間の減少」が36.9%となっている。

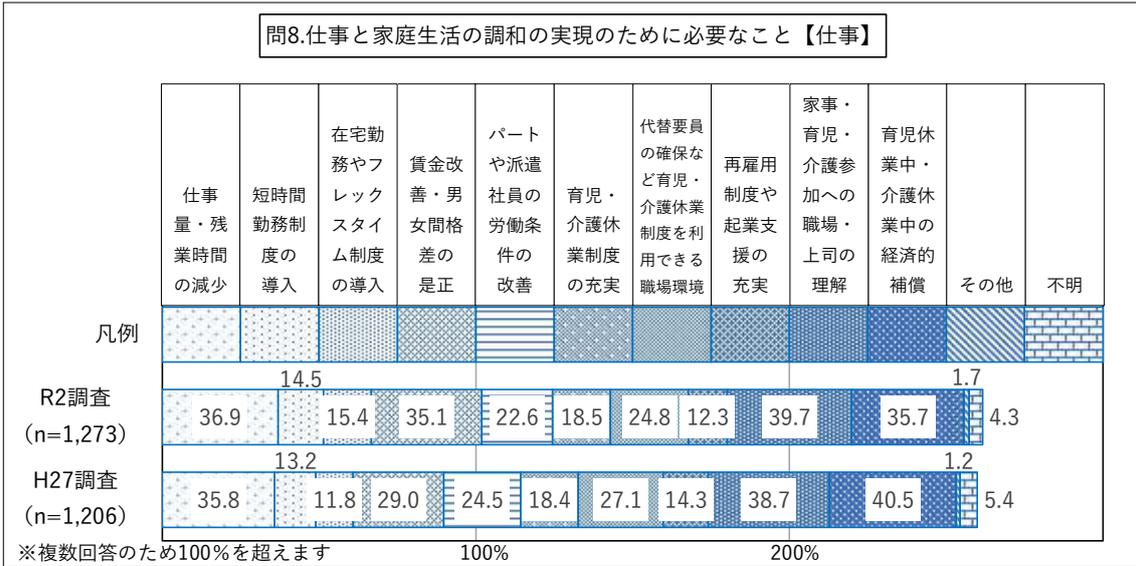
	合計	問8.仕事と家庭生活の調和の実現のために必要なこと【仕事】												
		仕事量・ 残業時間 の減少	短時間勤 務制度の 導入	在宅勤務 やフレッ クスタイ ム制度の 導入	賃金改 善・男女 間格差の 是正	パートや 派遣社員 の労働条 件の改善	育児・介 護休業制 度の充実	代替要員 の確保な ど育児・ 介護休業 制度を利用 できる 職場環境	再雇用制 度や起業 支援の 充実	家事・育 児・介護 参加への 職場・上 司の理解	育児休業 中・介護 休業中の 経済的 補償	その他	不明	
全体	1,273 100.0%	470 36.9%	184 14.5%	196 15.4%	447 35.1%	288 22.6%	235 18.5%	316 24.8%	157 12.3%	506 39.7%	455 35.7%	22 1.7%	55 4.3%	
性別	男性	457 100.0%	182 39.8%	57 12.5%	73 16.0%	165 36.1%	99 21.7%	79 17.3%	114 24.9%	67 14.7%	160 35.0%	162 35.4%	9 2.0%	20 4.4%
	女性	790 100.0%	283 35.8%	124 15.7%	122 15.4%	274 34.7%	183 23.2%	154 19.5%	200 25.3%	86 10.9%	340 43.0%	290 36.7%	11 1.4%	28 3.5%
	不明	26 100.0%	5 19.2%	3 11.5%	1 3.8%	8 30.8%	6 23.1%	2 7.7%	2 7.7%	4 15.4%	6 23.1%	3 11.5%	2 7.7%	7 26.9%

男性の回答で最も高いのは「仕事量・残業時間の減少」で39.8%であった。この割合は女性よりも4%高くなっている。

他方、女性は「家事・育児・介護参加への職場・上司の理解」が43.0%で最も高い。

	合計	問8.仕事と家庭生活の調和の実現のために必要なこと【仕事】												
		仕事量・ 残業時間 の減少	短時間勤 務制度の 導入	在宅勤務 やフレッ クスタイ ム制度の 導入	賃金改 善・男女 間格差の 是正	パートや 派遣社員 の労働条 件の改善	育児・介 護休業制 度の充実	代替要員 の確保な ど育児・ 介護休業 制度を利用 できる 職場環境	再雇用制 度や起業 支援の 充実	家事・育 児・介護 参加への 職場・上 司の理解	育児休業 中・介護 休業中の 経済的 補償	その他	不明	
全体	1,273 100.0%	470 36.9%	184 14.5%	196 15.4%	447 35.1%	288 22.6%	235 18.5%	316 24.8%	157 12.3%	506 39.7%	455 35.7%	22 1.7%	55 4.3%	
年齢	18歳～19歳	44 100.0%	22 50.0%	8 18.2%	7 15.9%	15 34.1%	7 15.9%	15 34.1%	12 27.3%	4 9.1%	19 43.2%	14 31.8%	0 0.0%	1 2.3%
	20歳～29歳	127 100.0%	52 40.9%	26 20.5%	20 15.7%	40 31.5%	30 23.6%	31 24.4%	20 15.7%	13 10.2%	55 43.3%	51 40.2%	2 1.6%	3 2.4%
	30歳～39歳	209 100.0%	91 43.5%	32 15.3%	35 16.7%	73 34.9%	33 15.8%	38 18.2%	57 27.3%	18 8.6%	100 47.8%	94 45.0%	7 3.3%	2 1.0%
	40歳～49歳	233 100.0%	83 35.6%	31 13.3%	51 21.9%	89 38.2%	46 19.7%	44 18.9%	54 23.2%	25 10.7%	102 43.8%	81 34.8%	3 1.3%	3 1.3%
	50歳～59歳	275 100.0%	97 35.3%	36 13.1%	42 15.3%	99 36.0%	73 26.5%	41 14.9%	80 29.1%	35 12.7%	101 36.7%	101 36.7%	3 1.1%	8 2.9%
	60歳～69歳	193 100.0%	54 28.0%	29 15.0%	23 11.9%	74 38.3%	51 26.4%	35 18.1%	51 26.4%	34 17.6%	63 32.6%	60 31.1%	3 1.6%	11 5.7%
	70歳以上	168 100.0%	65 38.7%	20 11.9%	16 9.5%	52 31.0%	42 25.0%	29 17.3%	41 24.4%	23 13.7%	59 35.1%	52 31.0%	3 1.8%	20 11.9%
	不明	24 100.0%	6 25.0%	2 8.3%	2 8.3%	5 20.8%	6 25.0%	2 8.3%	1 4.2%	5 20.8%	7 29.2%	2 8.3%	1 4.2%	7 29.2%

20～40歳代においては、「家事・育児・介護参加への職場・上司の理解」と回答する割合が多い傾向にあり、「育児休業中・介護休業中の経済的補償」と回答する割合も高い。40～60歳代になると、「賃金改善・男女間格差の是正」の割合が高くなっている。



前回調査と比較すると、「賃金改善・男女間格差の是正」と回答した割合が6.1%増加した一方で、「育児休業中・介護休業中の経済的補償」と回答した割合が4.8%減少している。

問8. 男女ともに、仕事と家庭生活の調和を実現していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【家庭生活について】

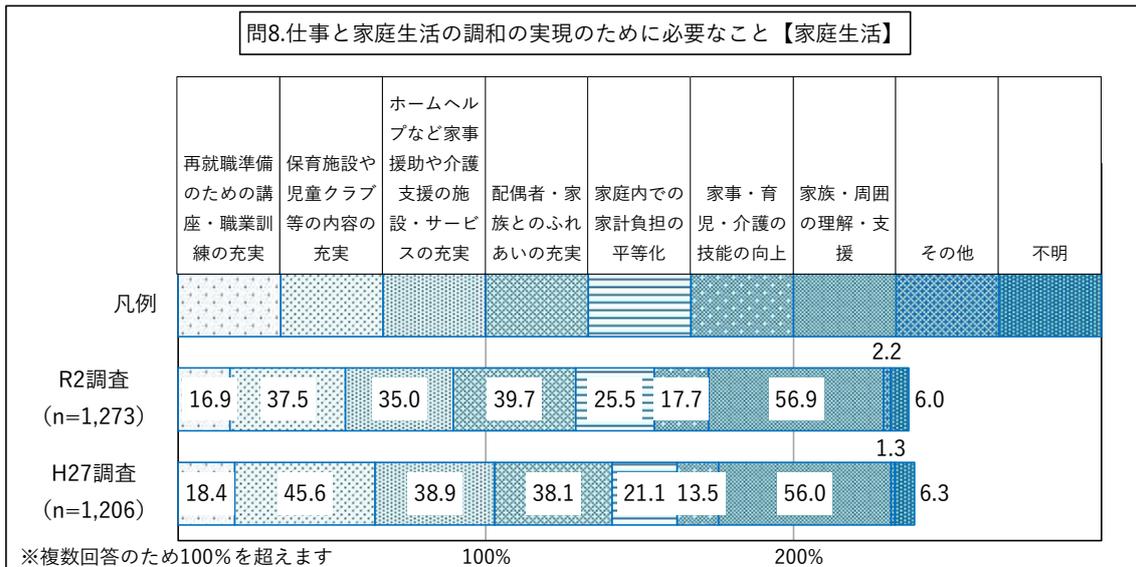
●全体では「家族・周囲の理解・支援」が最も高く、56.9%、次いで「配偶者・家族とのふれあいの充実」が39.7%となっている。中でも「家族・周囲の理解・支援」は男性より女性の割合が高い。

		合計	問8.仕事と家庭生活の調和の実現のために必要なこと【家庭生活】								
			再就職準備のための講座・職業訓練の充実	保育施設や児童クラブ等の内容の充実	ホームヘルプなど家事援助や介護支援の施設・サービスの充実	配偶者・家族とのふれあいの充実	家庭内での家計負担の平等化	家事・育児・介護の技能の向上	家族・周囲の理解・支援	その他	不明
全体		1,273 100.0%	215 16.9%	477 37.5%	446 35.0%	506 39.7%	325 25.5%	225 17.7%	724 56.9%	28 2.2%	76 6.0%
性別	男性	457 100.0%	98 21.4%	148 32.4%	134 29.3%	198 43.3%	133 29.1%	103 22.5%	229 50.1%	11 2.4%	32 7.0%
	女性	790 100.0%	113 14.3%	324 41.0%	307 38.9%	300 38.0%	188 23.8%	119 15.1%	491 62.2%	15 1.9%	36 4.6%
	不明	26 100.0%	4 15.4%	5 19.2%	5 19.2%	8 30.8%	4 15.4%	3 11.5%	4 15.4%	2 7.7%	8 30.8%

「家族・周囲の理解・支援」以外の回答で女性が男性より割合が高かったのは、「保育施設や児童クラブ等の内容の充実」「ホームヘルプなど家事援助や介護支援の施設・サービスの充実」となっている。

		合計	問8.仕事と家庭生活の調和の実現のために必要なこと【家庭生活】								
			再就職準備のための講座・職業訓練の充実	保育施設や児童クラブ等の内容の充実	ホームヘルプなど家事援助や介護支援の施設・サービスの充実	配偶者・家族とのふれあいの充実	家庭内での家計負担の平等化	家事・育児・介護の技能の向上	家族・周囲の理解・支援	その他	不明
全体		1,273 100.0%	215 16.9%	477 37.5%	446 35.0%	506 39.7%	325 25.5%	225 17.7%	724 56.9%	28 2.2%	76 6.0%
年齢	18歳～19歳	44 100.0%	9 20.5%	16 36.4%	11 25.0%	23 52.3%	15 34.1%	14 31.8%	23 52.3%	0 0.0%	1 2.3%
	20歳～29歳	127 100.0%	28 22.0%	52 40.9%	27 21.3%	58 45.7%	47 37.0%	19 15.0%	75 59.1%	2 1.6%	5 3.9%
	30歳～39歳	209 100.0%	37 17.7%	97 46.4%	62 29.7%	97 46.4%	56 26.8%	44 21.1%	118 56.5%	5 2.4%	5 2.4%
	40歳～49歳	233 100.0%	42 18.0%	82 35.2%	81 34.8%	98 42.1%	63 27.0%	49 21.0%	135 57.9%	7 3.0%	6 2.6%
	50歳～59歳	275 100.0%	41 14.9%	95 34.5%	116 42.2%	92 33.5%	65 23.6%	43 15.6%	162 58.9%	7 2.5%	14 5.1%
	60歳～69歳	193 100.0%	30 15.5%	70 36.3%	79 40.9%	65 33.7%	49 25.4%	25 13.0%	113 58.5%	4 2.1%	17 8.8%
	70歳以上	168 100.0%	23 13.7%	60 35.7%	65 38.7%	63 37.5%	26 15.5%	28 16.7%	95 56.5%	2 1.2%	21 12.5%
	不明	24 100.0%	5 20.8%	5 20.8%	5 20.8%	10 41.7%	4 16.7%	3 12.5%	3 12.5%	1 4.2%	7 29.2%

「家族・周囲の理解・支援」以外の回答において、49歳以下では、「配偶者・家族とのふれあいの充実」の割合が高く、50歳以上になると「ホームヘルプなど家事援助や介護支援の施設・サービスの充実」の割合が高くなる。18～19歳では、「配偶者・家族とのふれあいの充実」が他の年代より高く、5割を超える。



前回調査と比較すると、「保育施設や児童クラブ等の内容の充実」「ホームヘルプなど家事援助や介護支援の施設・サービスの充実」と回答した割合がそれぞれ8.1%、3.9%減少している。その一方で、「配偶者・家族とのふれあいの充実」「家庭内での家計負担の平準化」「家事・育児・介護の技術の向上」と回答した割合はそれぞれ1.6%、4.4%、4.2%増えている。

この結果より、外的な要因よりも内的な要因が重視されていることが考えられる。

2. 仕事・職場環境について

問9. あなたと仕事の関係は次のどれですか。(1つに○)

- 全体では、「継続して働いている」との回答が高く 55.3%となっている。
- 年齢別にみると、30～40歳代は一度やめたが現在も働いているという割合が多いのに対し、それ以上の年齢になると現在は働いていないとの割合が多くなる。

	合計	問9.仕事との関係												
		継続して働いている	働いていたが、結婚・育児のため一時やめ、また働いている	働いていたが、その他の事情で一時やめ、また働いている	働いていたが、結婚・育児のため仕事をやめた	働いていたが、その他の事情で仕事をやめた	働いていたが、その他の事情で仕事をやめた	これまで働いたことはない	定年退職により現在働いていない	現在、学生である	現在、産前産後休暇中、育児休暇中である	現在、介護休暇中である	その他	不明
全体	1,273 100.0%	704 55.3%	87 6.8%	57 4.5%	56 4.4%	122 9.6%	20 1.6%	94 7.4%	54 4.2%	10 0.8%	4 0.3%	36 2.8%	29 2.3%	
性別	男性	457 100.0%	327 71.5%	0 0.0%	16 3.5%	1 0.2%	30 6.6%	6 1.3%	34 7.4%	25 5.5%	0 0.0%	1 0.2%	9 2.0%	8 1.8%
	女性	790 100.0%	367 46.4%	86 10.9%	41 5.2%	53 6.7%	90 11.4%	14 1.8%	58 7.3%	29 3.7%	10 1.3%	3 0.4%	26 3.3%	13 1.6%
	不明	26 100.0%	10 38.5%	1 3.8%	0 0.0%	2 7.7%	2 7.7%	0 0.0%	2 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.8%	8 30.8%

「継続して働いている」との回答は、特に男性の方が女性より高く 71.5%となっている。また、「現在、産前産後休暇中、育児休暇中である」との回答は女性のみみられ、「現在、介護休暇中である」との回答も、女性の方が割合は高い。

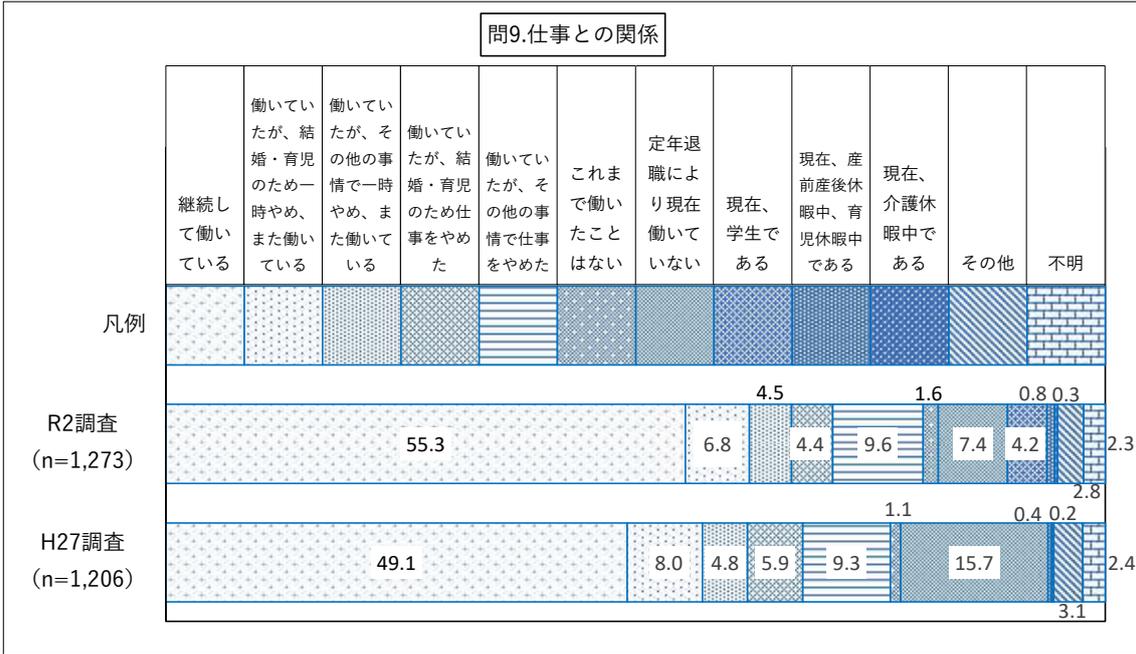
女性は、男性よりも回答にばらつきがみられる。

	合計	問9.仕事との関係												
		継続して働いている	働いていたが、結婚・育児のため一時やめ、また働いている	働いていたが、その他の事情で一時やめ、また働いている	働いていたが、結婚・育児のため仕事をやめた	働いていたが、その他の事情で仕事をやめた	働いていたが、その他の事情で仕事をやめた	これまで働いたことはない	定年退職により現在働いていない	現在、学生である	現在、産前産後休暇中、育児休暇中である	現在、介護休暇中である	その他	不明
全体	1,273 100.0%	704 55.3%	87 6.8%	57 4.5%	56 4.4%	122 9.6%	20 1.6%	94 7.4%	54 4.2%	10 0.8%	4 0.3%	36 2.8%	29 2.3%	
年齢	18歳～19歳	44 100.0%	10 22.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 6.8%	0 0.0%	29 65.9%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.3%	1 2.3%
	20歳～29歳	127 100.0%	79 62.2%	4 3.1%	3 2.4%	5 3.9%	5 3.9%	2 1.6%	0 0.0%	24 18.9%	2 1.6%	0 0.0%	2 1.6%	1 0.8%
	30歳～39歳	209 100.0%	145 69.4%	21 10.0%	10 4.8%	11 5.3%	11 5.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 3.3%	0 0.0%	3 1.4%	1 0.5%
	40歳～49歳	233 100.0%	164 70.4%	26 11.2%	6 2.6%	10 4.3%	21 9.0%	0 0.0%	1 0.4%	1 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	3 1.3%	1 0.4%
	50歳～59歳	275 100.0%	173 62.9%	24 8.7%	19 6.9%	7 2.5%	34 12.4%	1 0.4%	5 1.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.4%	7 2.5%	4 1.5%
	60歳～69歳	193 100.0%	95 49.1%	9 4.7%	16 8.3%	8 4.1%	25 13.0%	5 2.6%	26 13.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%	5 2.6%	3 1.6%
	70歳以上	168 100.0%	30 17.9%	2 1.2%	3 1.8%	13 7.7%	24 14.3%	8 4.8%	60 35.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.2%	15 8.9%	11 6.5%
	不明	24 100.0%	8 33.3%	1 4.2%	0 0.0%	2 8.3%	2 8.3%	1 4.2%	2 8.3%	0 0.0%	1 4.2%	0 0.0%	0 0.0%	7 29.2%

50歳代までは、「継続して働いている」との回答割合が特に高い。30～40歳代になると、「結婚等のため一時やめ、また働いている」との回答が約1割みられ、50歳代でも1割に近い回答がある。それ以外に「結婚等のため仕事をやめた」との回答の割合が70歳以上及び30歳代では、それぞれ7.7%、5.3%と他の年代よりも高くなっている。

「現在、産前産後休暇中、育児休暇中である」との回答は、20歳代、30歳代のみ回答があり、それぞれ1.6%、3.3%であった。

「現在、介護休暇中である」との回答は、50歳以上のみみられる。



前回調査と比較すると、「継続して働いている」と回答した割合は6.2%増加し、「定年退職により現在働いていない」と回答した割合は8.3%減少している。

問 10. 一般的に、女性が仕事をもつことについて、あなたはどのように思いますか。

(1 つに○)

- 年代を問わず、「結婚や出産にかかわらず仕事をもち続けた方がよい」との回答が多い。
- 「結婚や出産にかかわらず仕事をもち続けた方がよい」と「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」の2つで回答の7割以上を占めていることから、女性が仕事をもつことについては肯定的とみられる。

	合計	問10.女性が仕事を持つことについて								
		結婚や出産にかかわらず仕事をもち続けた方がよい	結婚するまでは仕事をもつ方がよい	子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい	子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい	仕事をもたない方がよい	その他	わからない	不明	
全体	1,273 100.0%	723 56.8%	23 1.8%	31 2.4%	328 25.8%	2 0.2%	70 5.5%	77 6.0%	19 1.5%	
性別	男性	457 100.0%	257 56.2%	10 2.2%	17 3.7%	109 23.9%	1 0.2%	22 4.8%	35 7.7%	6 1.3%
	女性	790 100.0%	456 57.7%	13 1.6%	14 1.8%	213 27.0%	1 0.1%	48 6.1%	36 4.6%	9 1.1%
	不明	26 100.0%	10 38.4%	0 0.0%	0 0.0%	6 23.1%	0 0.0%	0 0.0%	6 23.1%	4 15.4%

男女とも「仕事をもち続ける」または「再び仕事をもつ」と回答した割合が高い。

	合計	問10.女性が仕事を持つことについて								
		結婚や出産にかかわらず仕事をもち続けた方がよい	結婚するまでは仕事をもつ方がよい	子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい	子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい	仕事をもたない方がよい	その他	わからない	不明	
全体	1,273 100.0%	723 56.8%	23 1.8%	31 2.4%	328 25.8%	2 0.2%	70 5.5%	77 6.0%	19 1.5%	
年齢	18歳～19歳	44 100.0%	19 43.1%	1 2.3%	3 6.8%	12 27.3%	0 0.0%	4 9.1%	4 9.1%	1 2.3%
	20歳～29歳	127 100.0%	73 57.4%	3 2.4%	7 5.5%	27 21.3%	1 0.8%	8 6.3%	7 5.5%	1 0.8%
	30歳～39歳	209 100.0%	125 59.8%	3 1.4%	6 2.9%	45 21.5%	0 0.0%	20 9.6%	10 4.8%	0 0.0%
	40歳～49歳	233 100.0%	146 62.5%	2 0.9%	2 0.9%	52 22.3%	0 0.0%	13 5.6%	16 6.9%	2 0.9%
	50歳～59歳	275 100.0%	168 61.0%	4 1.5%	6 2.2%	56 20.4%	1 0.4%	13 4.7%	25 9.1%	2 0.7%
	60歳～69歳	193 100.0%	112 58.0%	1 0.5%	5 2.6%	59 30.6%	0 0.0%	10 5.2%	5 2.6%	1 0.5%
	70歳以上	168 100.0%	72 42.7%	9 5.4%	2 1.2%	70 41.7%	0 0.0%	2 1.2%	5 3.0%	8 4.8%
	不明	24 100.0%	8 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	7 29.2%	0 0.0%	0 0.0%	5 20.8%	4 16.7%

40～50 歳代では、「結婚や出産にかかわらず仕事をもち続けた方がよい」との回答が6割以上である。60 歳代以上では、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」と回答した割合が他の年代より高い。

		問10.女性が仕事を持つことについて								
		結婚や出産にかかわらず仕事をもち続けた方がよい	結婚するまでは仕事をもつ方がよい	子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい	子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい	仕事をもたない方がよい	その他	わからない	不明	
凡例										
R2調査 (n=1,273)		56.8				1.8	2.4	25.8	0.2	5.5 6.0
H27調査 (n=1,206)		48.9				2.5	3.2	35.2	0.9	3.7
R元大分県調査 (n=1,082)		55.1				1.8	3.2	22.0	0.3	8.4 4.3 4.9

大分県調査及び前回調査と比較したところ、今回調査は大分県調査に近い傾向がみられた。大分県調査がR元年に実施されていることから、女性が仕事を持つことについて、出産後も仕事をもち続けた方がよいという意識にシフトしつつあることが考えられる。

●女性が仕事を持つことについての考え別にみる現在の仕事の状況について

問10.女性が仕事を持つことについて	合計	問9.仕事との関係											
		継続して働いている	働いていたが、結婚・育児のため一時やめ、また働いている	働いていたが、その他の事情で一時やめ、また働いている	働いていたが、結婚・育児のため仕事をやめた	働いていたが、その他の事情で仕事をやめた	これまで働いたことはない	定年退職により現在働いていない	現在、学生である	現在、産前産後休業中、育児休業中である	現在、介護休業中である	その他	不明
全体	1,273	704	87	57	56	122	20	94	54	10	4	36	29
	100.0%	55.3%	6.8%	4.5%	4.4%	9.6%	1.6%	7.4%	4.2%	0.8%	0.3%	2.8%	2.3%
結婚や出産にかかわらず仕事をもち続けた方がよい	723	463	40	35	17	54	4	49	32	7	2	17	3
	100.0%	63.9%	5.5%	4.8%	2.4%	7.5%	0.6%	6.8%	4.4%	1.0%	0.3%	2.4%	0.4%
結婚するまでは仕事をもつ方がよい	23	8	1	1	5	3	0	3	1	0	0	1	0
	100.0%	35.1%	4.3%	4.3%	21.7%	13.0%	0.0%	13.0%	4.3%	0.0%	0.0%	4.3%	0.0%
子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい	31	16	1	1	1	6	0	1	3	0	0	2	0
	100.0%	51.6%	3.2%	3.2%	3.2%	19.4%	0.0%	3.2%	9.7%	0.0%	0.0%	6.5%	0.0%
子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい	328	146	29	14	24	39	13	37	11	2	1	6	6
	100.0%	44.5%	8.8%	4.3%	7.3%	11.9%	4.0%	11.3%	3.4%	0.6%	0.3%	1.8%	1.8%
仕事をもたない方がよい	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	70	30	11	4	5	6	1	3	5	1	1	3	0
	100.0%	43.0%	15.7%	5.7%	7.1%	8.6%	1.4%	4.3%	7.1%	1.4%	1.4%	4.3%	0.0%
わからない	77	36	5	2	4	14	2	1	2	0	0	7	4
	100.0%	46.7%	6.5%	2.6%	5.2%	18.2%	2.6%	1.3%	2.6%	0.0%	0.0%	9.1%	5.2%
不明	19	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
	100.0%	15.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	84.2%

「結婚や出産にかかわらず仕事をもち続けた方がよい」と回答した人の63.9%は実際に「継続して働いている」と回答している。「働いていたが、結婚・育児(出産)のため一時やめ、また働いている」が5.5%、「働いていたが、結婚・育児(出産)のため仕事をやめた」が2.4%となっており、「結婚や出産にかかわらず仕事をもち続けた方がよい」と回答した人のうち、7.9%の回答者が、結婚、出産(育児)のために仕事をやめている現状である。

問 11. あなたの職場では、①～⑬のように性別による不平等の有無がありますか。また、そのような考え方をどう思いますか。(1つに○)

●「ある」と回答した割合が「ない」と回答した割合よりも多いものとして、「雇用形態」「職種」「賃金」「昇進・昇格」「役員・管理職への登用」がある。

●性別による不平等の有無

		問11.性別による不平等			
凡例		ある	ない	わからない	不明
① 募集・採用の機会	全体 (n=1,247)	27.1	33.6	31.4	7.9
	男性 (n=457)	30.9	31.7	32.6	4.8
	女性 (n=790)	25.2	35.2	30.6	9.0
② 雇用形態	全体 (n=1,247)	35.2	29.9	25.0	9.9
	男性 (n=457)	32.3	32.2	27.4	8.1
	女性 (n=790)	36.9	29.2	23.8	10.1
③ 職種	全体 (n=1,247)	36.7	30.2	22.1	11.0
	男性 (n=457)	42.6	26.5	23.2	7.7
	女性 (n=790)	33.5	33.0	21.3	12.2
④ 研修・訓練の機会	全体 (n=1,247)	18.2	45.0	24.5	12.3
	男性 (n=457)	16.8	49.9	23.9	9.4
	女性 (n=790)	18.6	43.3	24.9	13.2
⑤ 賃金	全体 (n=1,247)	36.1	29.3	24.1	10.5
	男性 (n=457)	31.8	31.7	28.4	8.1
	女性 (n=790)	38.9	28.2	21.9	11.0
⑥ 昇進・昇格	全体 (n=1,247)	35.8	28.4	24.8	11.0
	男性 (n=457)	34.1	32.2	26.0	7.7
	女性 (n=790)	36.9	26.6	24.3	12.2
⑦ 残業時間	全体 (n=1,247)	28.0	40.0	21.2	10.8
	男性 (n=457)	33.0	37.1	22.5	7.4
	女性 (n=790)	25.4	42.4	20.3	11.9

問11.性別による不平等

		ある	ない	わからない	不明
凡例					
⑧ 結婚・妊娠・出産時に退職を促される	全体 (n=1,247)	16.7	41.1	31.0	11.2
	男性 (n=457)	13.8	38.7	39.4	8.1
	女性 (n=790)	18.4	43.4	26.1	12.1
⑨ 産前・産後休業の取得のしやすさ	全体 (n=1,247)	24.4	29.2	34.6	11.8
	男性 (n=457)	19.9	28.2	44.0	7.9
	女性 (n=790)	26.8	30.5	29.5	13.2
⑩ 育児休業の取得のしやすさ	全体 (n=1,247)	25.5	27.3	35.4	11.8
	男性 (n=457)	22.5	26.5	43.1	7.9
	女性 (n=790)	27.3	28.2	31.4	13.1
⑪ 雑用を行う頻度	全体 (n=1,247)	33.9	34.2	21.3	10.6
	男性 (n=457)	27.1	37.2	27.8	7.9
	女性 (n=790)	37.8	33.0	17.7	11.5
⑫ 個人的なことを、必要以上に聞かれる	全体 (n=1,247)	16.0	46.5	26.1	11.4
	男性 (n=457)	14.7	45.3	31.9	8.1
	女性 (n=790)	17.0	47.7	22.8	12.5
⑬ 飲み会等への強制	全体 (n=1,247)	13.0	53.4	23.3	10.3
	男性 (n=457)	15.3	53.2	25.2	6.3
	女性 (n=790)	11.8	54.6	21.9	11.7
⑭ 女性は定年まで勤めにくい雰囲気がある	全体 (n=1,247)	15.1	47.8	27.2	9.9
	男性 (n=457)	14.7	42.6	35.1	7.6
	女性 (n=790)	15.3	51.6	22.5	10.6
⑮ 役員・管理職への登用	全体 (n=1,247)	31.6	27.7	30.6	10.1
	男性 (n=457)	30.4	28.9	33.5	7.2
	女性 (n=790)	32.7	27.3	29.1	10.9

職場における不平等について「ある」と回答する割合が高かった項目は、男性では「③職種」が最も高く 42.6%、次いで「⑥昇進・昇格」34.1%、「⑦残業時間」が 33.0%、「②雇用形態」32.3%となっている。女性では、「⑤賃金」が最も高く 38.9%、次いで「⑪雑用を行う頻度」が 37.9%、「②雇用形態」「⑥昇進・昇格」が 36.9%、「③職種」が 33.5%となっている。

反対に不平等が「ない」と回答する割合が高かった項目は、性別にかかわらず「⑬飲み会等への強制」が高く、次に男性では「④研修・訓練の機会」が、女性では「⑭女性は定年まで勤めにくい雰囲気がある」となっている。

下記のグラフは質問項目より抜粋して前回調査と比較したものである。

		問11.性別による不平等			
		ある	ない	わからない	不明
凡例					
① 募集・採用の機会	R2調査 (n=1,273)	27.1	33.6	31.4	7.9
	H27調査 (n=1,206)	32.9	30.2	26.1	10.8
⑤ 賃金	R2調査 (n=1,273)	36.1	29.3	24.1	10.5
	H27調査 (n=1,206)	42.0	25.7	19.6	12.7
⑫ 個人的なことを、必要以上に聞かれる	R2調査 (n=1,273)	16.0	46.5	26.1	11.4
	H27調査 (n=1,206)	13.8	46.9	24.5	14.8

質問①や⑤のように、「ある」と回答した割合が減少し、「ない」と回答した割合が増加するような、不平等が改善傾向にあるとみられる項目が多くある一方で、⑫のように前回調査と比較して「ある」と回答した割合が増加するような項目もみられた。

●性別による不平等の有無に対する考え方

		問11.性別による不平等の有無に対する考え方		
		あってもよい	ない方がよい	不明
凡例				
① 募集・採用の機会	全体 (n=1,247)	16.3	70.0	13.7
	男性 (n=457)	17.9	69.2	12.9
	女性 (n=790)	15.8	71.4	12.8
② 雇用形態	全体 (n=1,247)	23.3	61.3	15.4
	男性 (n=457)	23.6	61.1	15.3
	女性 (n=790)	23.7	62.2	14.1
③ 職種	全体 (n=1,247)	28.6	54.7	16.7
	男性 (n=457)	31.5	53.4	15.1
	女性 (n=790)	27.6	56.2	16.2
④ 研修・訓練の機会	全体 (n=1,247)	24.4	58.4	17.2
	男性 (n=457)	23.6	60.0	16.4
	女性 (n=790)	25.1	58.6	16.3
⑤ 賃金	全体 (n=1,247)	16.5	66.7	16.8
	男性 (n=457)	17.1	67.6	15.3
	女性 (n=790)	16.6	67.1	16.3
⑥ 昇進・昇格	全体 (n=1,247)	19.4	64.3	16.3
	男性 (n=457)	20.6	64.7	14.7
	女性 (n=790)	19.0	65.1	15.9
⑦ 残業時間	全体 (n=1,247)	18.9	64.9	16.2
	男性 (n=457)	23.6	61.3	15.1
	女性 (n=790)	16.5	68.1	15.4
⑧ 結婚・妊娠・出産時に退職を促される	全体 (n=1,247)	4.6	78.2	17.2
	男性 (n=457)	4.2	79.4	16.4
	女性 (n=790)	4.8	78.9	16.3

		問11.性別による不平等の有無に対する考え方		
		あってもよい	ない方がよい	不明
凡例				
⑨ 産前・産後 休業の取得の しやすさ	全体 (n=1,247)	25.0	56.9	18.1
	男性 (n=457)	25.6	57.6	16.8
	女性 (n=790)	24.9	57.8	17.3
⑩ 育児休業の 取得のしやすさ	全体 (n=1,247)	24.7	56.8	18.5
	男性 (n=457)	24.9	57.8	17.3
	女性 (n=790)	24.9	57.3	17.8
⑪ 雑用を行う 頻度	全体 (n=1,247)	13.0	70.3	16.7
	男性 (n=457)	13.6	69.8	16.6
	女性 (n=790)	12.7	71.9	15.4
⑫ 個人的な ことを、必要 以上に聞かれ る	全体 (n=1,247)	2.2	82.5	15.3
	男性 (n=457)	3.1	81.8	15.1
	女性 (n=790)	1.5	84.3	14.2
⑬ 飲み会等へ の強制	全体 (n=1,247)	3.0	81.7	15.3
	男性 (n=457)	4.4	80.9	14.7
	女性 (n=790)	2.2	83.4	14.4
⑭ 女性は定年 まで勤めにくい 雰囲気がある	全体 (n=1,247)	4.2	79.3	16.5
	男性 (n=457)	5.3	78.5	16.2
	女性 (n=790)	3.7	80.9	15.4
⑮ 役員・管理 職への登用	全体 (n=1,247)	8.4	75.0	16.6
	男性 (n=457)	9.6	75.3	15.1
	女性 (n=790)	7.8	76.1	16.1

全体的に「ない方がよい」の割合が高くなっている。「あってもよい」との回答の割合が比較的高いもの（割合が男女いずれかで25%を超えているもの）としては、「③職種」「④研修・訓練の機会」「⑨産前・産後休業の取得のしやすさ」が挙げられる。

下記のグラフは、「あってもよい」と回答した割合が減少した項目を抜粋して、前回調査と比較したものである。

		問11.性別による不平等への考え方		
		あってもよい	ない方がよい	不明
凡例				
④ 研修・訓練の機会	R2調査 (n=1,273)	24.4	58.4	17.2
	H27調査 (n=1,206)	32.8	46.1	21.1
⑤ 賃金	R2調査 (n=1,273)	16.5	66.7	16.8
	H27調査 (n=1,206)	21.0	57.7	21.3
⑥ 昇進・昇格	R2調査 (n=1,273)	19.4	64.3	16.3
	H27調査 (n=1,206)	25.6	53.2	21.2
⑪ 雑用を行う頻度	R2調査 (n=1,273)	13.0	70.3	16.7
	H27調査 (n=1,206)	19.7	58.8	21.5

不平等への考え方については、全体的に「あってもよい」との回答割合が減少し、「ない方がよい」と回答した割合が増加した。中でも顕著なのが上記グラフの4項目である。

問 12. あなたは育児休業や介護休業を取得したことがありますか。(1つに○)

- 「両方とも取得したことがない」との回答が多く、これらの休業を取得することが、性別、年代問わずまだ一般的ではないことがうかがえる。

		合計	問12.育児休業や介護休業の取得の経験				
			両方とも取得したことがある	育児休業のみ取得したことがある	介護休業のみ取得したことがある	両方とも取得したことがない	不明
全体		1,273 100.0%	13 1.0%	126 9.9%	14 1.1%	1,044 82.0%	76 6.0%
性別	男性	457 100.0%	1 0.2%	10 2.2%	1 0.2%	421 92.1%	24 5.3%
	女性	790 100.0%	12 1.5%	116 14.7%	13 1.6%	606 76.8%	43 5.4%
	不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	17 65.4%	9 34.6%

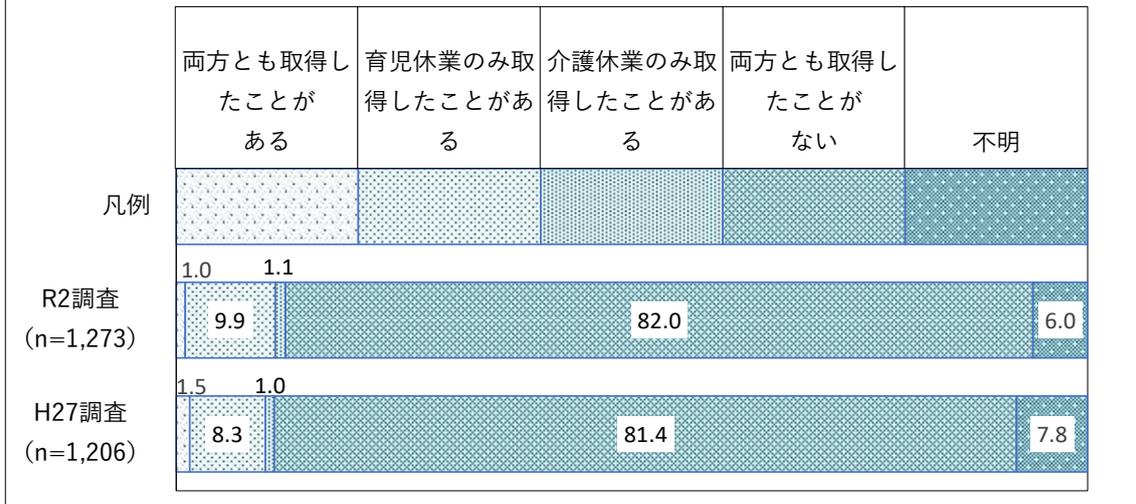
男性の「育児休業のみ取得したことがある」と回答した人は457人中10人おり、回答割合は2.2%となっている。

他方、女性は「育児休業のみ取得したことがある」と回答した割合が14.7%であり、男性の約6.5倍となっている。また、女性で「休業を取得したことがある」回答を合わせると17.8%となり、男性の同2.6%と比較すると約7倍になる。

		合計	問12.育児休業や介護休業の取得の経験				
			両方とも取得したことがある	育児休業のみ取得したことがある	介護休業のみ取得したことがある	両方とも取得したことがない	不明
全体		1,273 100.0%	13 1.0%	126 9.9%	14 1.1%	1,044 82.0%	76 6.0%
年齢	18歳～19歳	44 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	41 93.2%	3 6.8%
	20歳～29歳	127 100.0%	1 0.8%	5 3.9%	0 0.0%	115 90.6%	6 4.7%
	30歳～39歳	209 100.0%	0 0.0%	37 17.7%	0 0.0%	166 79.4%	6 2.9%
	40歳～49歳	233 100.0%	5 2.1%	36 15.5%	1 0.4%	188 80.7%	3 1.3%
	50歳～59歳	275 100.0%	1 0.4%	18 6.5%	5 1.8%	247 89.8%	4 1.5%
	60歳～69歳	193 100.0%	1 0.5%	19 9.8%	2 1.0%	156 80.9%	15 7.8%
	70歳以上	168 100.0%	5 3.0%	9 5.4%	6 3.6%	118 70.1%	30 17.9%
	不明	24 100.0%	0 0.0%	2 8.3%	0 0.0%	13 54.2%	9 37.5%

いずれかの休業を取得したことがある割合が最も高いのは40歳代の18.0%である。次いで30歳代が17.7%となっている。

問12.育児休業や介護休業の取得の経験



前回調査との比較では、「育児休業のみ取得したことがある」との回答が 1.6%増加した一方で、「両方とも取得したことがある」は 0.5%の減少、「両方とも取得したことがない」は 0.6%の増加となり、育児休業や介護休業の取得に関わる状況はほとんど変化していないと思われる。

問 13. 一度でも退職したことがある方にお聞きします。あなたがその仕事をやめた理由は何か。何度か退職した場合は、最も新しいことについてお答えください。(1つに○)

※割合は「不明」を除いて集計を行った。

●全体で見ると、割合が最も高い「転職」が16.5%、次の「結婚」が16.1%となっており、転職の理由にはばらつきがあると言える。

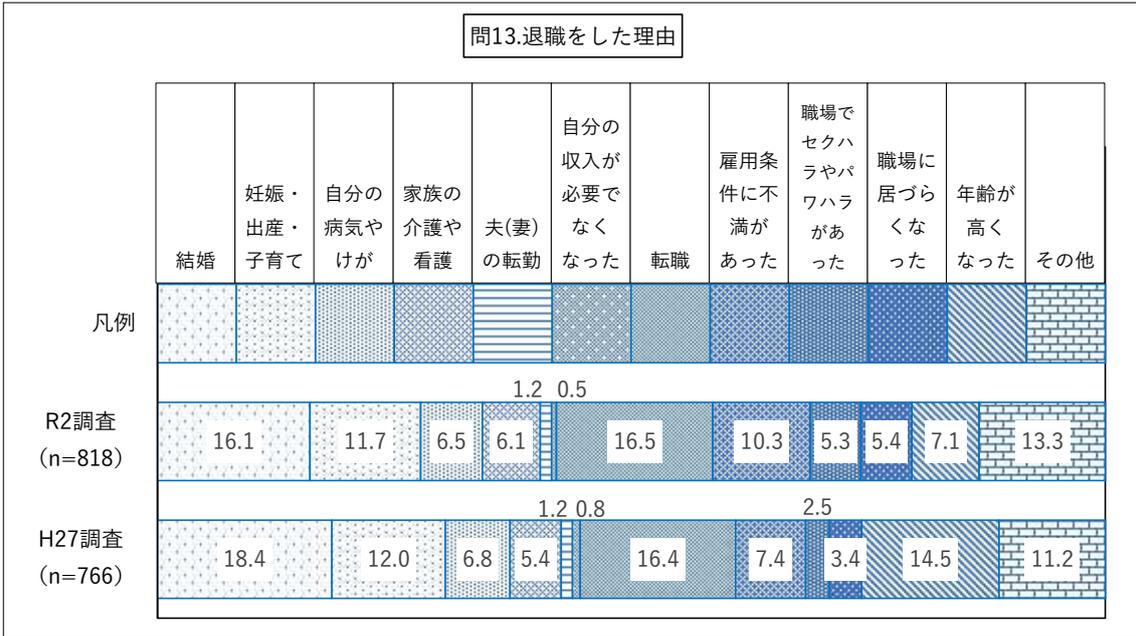
	合計	問13.退職をした理由													
		結婚	妊娠・出産・子育て	自分の病気やけが	家族の介護や看護	夫(妻)の転勤	自分の収入が必要でなくなった	転職	雇用条件に不満があった	職場でセクハラやパワハラがあった	職場に居づらくなった	年齢が高くなった	その他	不明	
全体	818 100.0%	132 16.1%	96 11.7%	53 6.5%	50 6.1%	10 1.2%	4 0.5%	135 16.5%	84 10.3%	43 5.3%	44 5.4%	58 7.1%	109 13.3%	455	
性別	男性	233 100.0%	3 1.3%	0 0.0%	15 6.4%	11 4.7%	0 0.0%	1 0.4%	75 32.3%	40 17.2%	15 6.4%	21 9.0%	17 7.3%	35 15.0%	224
	女性	569 100.0%	125 22.0%	94 16.5%	36 6.3%	37 6.5%	10 1.8%	3 0.5%	59 10.4%	44 7.7%	28 4.9%	22 3.9%	38 6.7%	73 12.8%	221
	不明	16 100.0%	4 24.8%	2 12.5%	2 12.5%	2 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%	3 18.8%	1 6.3%	10

男性は「転職」の割合が最も高く32.3%となっている。女性は「結婚」が22.0%、「妊娠・出産・子育て」が16.5%と、この2項目については、ほぼ女性のみが回答をしている。

	合計	問13.退職をした理由													
		結婚	妊娠・出産・子育て	自分の病気やけが	家族の介護や看護	夫(妻)の転勤	自分の収入が必要でなくなった	転職	雇用条件に不満があった	職場でセクハラやパワハラがあった	職場に居づらくなった	年齢が高くなった	その他	不明	
全体	818 100.0%	132 16.1%	96 11.7%	53 6.5%	50 6.1%	10 1.2%	4 0.5%	135 16.5%	84 10.3%	43 5.3%	44 5.4%	58 7.1%	109 13.3%	455	
年齢	18歳～19歳	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	43
	20歳～29歳	43 100.0%	3 7.0%	7 16.3%	3 7.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 18.6%	5 11.6%	4 9.3%	1 2.3%	0 0.0%	12 27.9%	84
	30歳～39歳	134 100.0%	21 15.7%	26 19.6%	4 3.0%	1 0.7%	2 1.5%	0 0.0%	20 14.9%	20 14.9%	9 6.7%	14 10.4%	1 0.7%	16 11.9%	75
	40歳～49歳	164 100.0%	21 12.8%	31 18.9%	12 7.3%	5 3.0%	1 0.6%	1 0.6%	35 21.4%	18 11.0%	11 6.7%	11 6.7%	0 0.0%	18 11.0%	69
	50歳～59歳	211 100.0%	35 16.6%	11 5.2%	21 10.0%	19 9.0%	2 0.9%	3 1.4%	37 17.7%	30 14.2%	10 4.7%	8 3.8%	6 2.8%	29 13.7%	64
	60歳～69歳	144 100.0%	29 20.0%	12 8.3%	7 4.9%	13 9.0%	0 0.0%	0 0.0%	26 18.1%	8 5.6%	8 5.6%	6 4.2%	17 11.8%	18 12.5%	49
	70歳以上	108 100.0%	21 19.4%	7 6.5%	5 4.6%	10 9.3%	5 4.6%	0 0.0%	8 7.4%	3 2.8%	0 0.0%	3 2.8%	31 28.7%	15 13.9%	60
	不明	13 100.0%	2 15.4%	2 15.4%	1 7.7%	2 15.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.7%	3 23.0%	1 7.7%	11

回答が1件である18歳～19歳を除き、最も多い回答の占める割合が30%に満たないことから、退職の理由についての傾向はみられないと言える。

その中でも、20～40歳代では、「結婚」を機会に退職した割合よりも「妊娠・出産・子育て」で退職した割合が高く、50歳代以上になると「結婚」で退職した割合の方が高くなっていることが読み取れる。



前回調査と比較すると、「年齢が高くなった」との回答の割合が、14.5%から7.1%に減少している。また、「結婚」と回答した割合も2.3%減少している。

問 14. あなたが退職したのは、今から何年前ですか。(1つに○)

- 全体では、「10年をこえる」が最も高く 49.6%となっている。次いで「3～5年」が 18.7%であり、これは 20 歳代の回答が大きく影響していると考えられる。
- 年代ごとの回答数に占める退職経験者の割合が最も高いのは 50 歳代で 275 人中 211 人(76.7%)となっている。しかし、70 歳以上では 168 人中 108 人(64.3%)となり、退職経験者の割合が 50 歳代よりも低い。

		合計	問14.退職をした時期				
			2年以内	3～5年	6～10年	10年をこえる	不明
全体		818 100.0%	115 14.1%	153 18.7%	130 15.9%	406 49.6%	14 1.7%
性別	男性	233 100.0%	33 14.2%	51 21.9%	37 15.9%	109 46.7%	3 1.3%
	女性	569 100.0%	81 14.2%	101 17.8%	91 16.0%	287 50.4%	9 1.6%
	不明	16 100.0%	1 6.3%	1 6.3%	2 12.5%	10 62.4%	2 12.5%

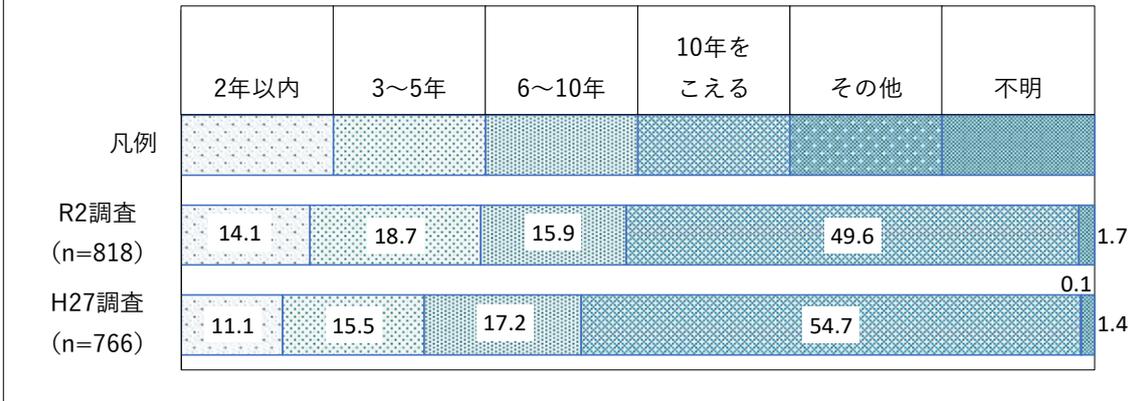
「10年をこえる」との回答は女性の方が男性よりも 3.7%高くなっている。

「3～5年」との回答が男性では 21.9%、女性では 17.8%と約 4%の差がみられる。

		合計	問14.退職をした時期				
			2年以内	3～5年	6～10年	10年をこえる	不明
全体		818 100.0%	115 14.1%	153 18.7%	130 15.9%	406 49.6%	14 1.7%
年齢	18歳～19歳	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	20歳～29歳	43 100.0%	20 46.5%	19 44.2%	3 7.0%	1 2.3%	0 0.0%
	30歳～39歳	134 100.0%	26 19.4%	30 22.4%	42 31.3%	36 26.9%	0 0.0%
	40歳～49歳	164 100.0%	15 9.1%	26 15.9%	30 18.3%	92 56.1%	1 0.6%
	50歳～59歳	211 100.0%	28 13.3%	38 18.0%	33 15.6%	110 52.2%	2 0.9%
	60歳～69歳	144 100.0%	16 11.1%	28 19.4%	10 6.9%	87 60.5%	3 2.1%
	70歳以上	108 100.0%	7 6.5%	11 10.2%	10 9.3%	74 68.4%	6 5.6%
	不明	13 100.0%	2 15.4%	1 7.7%	2 15.4%	6 46.1%	2 15.4%

40 歳代以上になると約 5～7 割が 10 年以上前に退職したと回答している。

問14.退職をした時期



前回調査との比較をすると、「2年以内」「3~5年」と回答した割合がそれぞれ3.0%、3.2%増加し、「6~10年」「10年をこえる」と回答した割合は、それぞれ1.3%、5.1%減少している。

問 15. その退職は、ご自身が納得して選択した退職でしたか。(1つに○)

●全体では、「自分で希望して退職を選んだ」が最も高く 73.2%と突出している。この傾向は、性別、年齢にかかわらずみられることから、自身で退職を選択した人が多いと考えられる。次いで、「勤務を継続できない理由や雰囲気が生じ、仕方なく退職した」が 12.3%となっている。

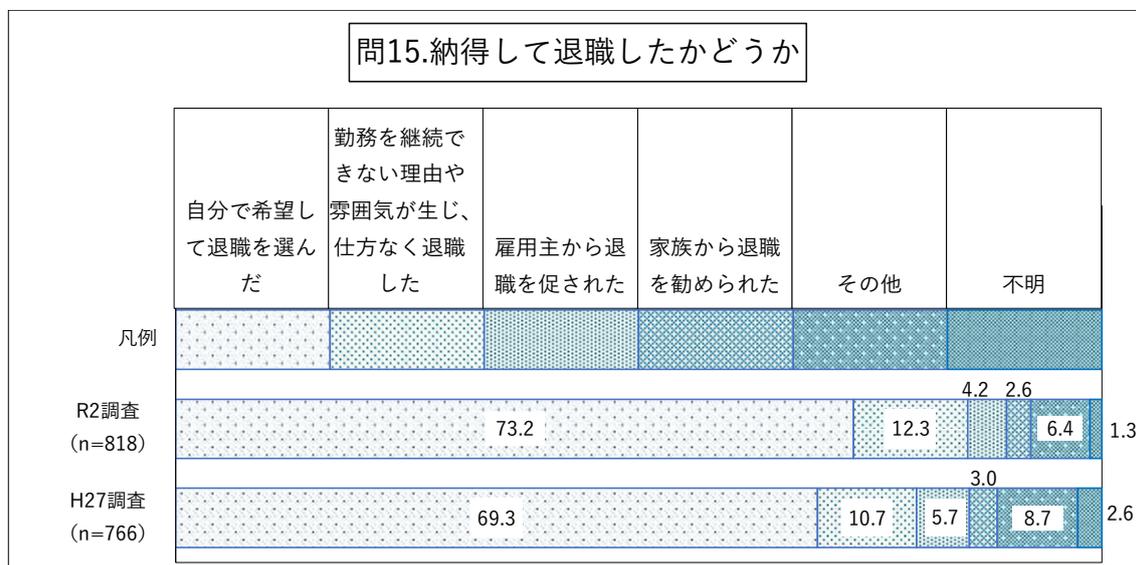
		合計	問15.納得して退職したかどうか					不明
			自分で希望して退職を選んだ	勤務を継続できない理由や雰囲気が生じ、仕方なく退職した	雇用主から退職を促された	家族から退職を勧められた	その他	
全体		818 100.0%	599 73.2%	101 12.3%	34 4.2%	21 2.6%	52 6.4%	11 1.3%
性別	男性	233 100.0%	164 70.3%	29 12.4%	16 6.9%	6 2.6%	12 5.2%	6 2.6%
	女性	569 100.0%	426 74.9%	71 12.5%	16 2.8%	15 2.6%	37 6.5%	4 0.7%
	不明	16 100.0%	9 56.1%	1 6.3%	2 12.5%	0 0.0%	3 18.8%	1 6.3%

男性では「雇用主から退職を促された」との回答が、女性よりも約4%多くなっている。

		合計	問15.納得して退職したかどうか					不明
			自分で希望して退職を選んだ	勤務を継続できない理由や雰囲気が生じ、仕方なく退職した	雇用主から退職を促された	家族から退職を勧められた	その他	
全体		818 100.0%	599 73.2%	101 12.3%	34 4.2%	21 2.6%	52 6.4%	11 1.3%
年齢	18歳～19歳	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	20歳～29歳	43 100.0%	30 69.8%	9 20.9%	0 0.0%	1 2.3%	3 7.0%	0 0.0%
	30歳～39歳	134 100.0%	102 76.1%	20 14.9%	4 3.0%	4 3.0%	4 3.0%	0 0.0%
	40歳～49歳	164 100.0%	122 74.5%	25 15.2%	8 4.9%	3 1.8%	5 3.0%	1 0.6%
	50歳～59歳	211 100.0%	158 74.9%	22 10.4%	12 5.7%	8 3.8%	10 4.7%	1 0.5%
	60歳～69歳	144 100.0%	110 76.4%	12 8.3%	2 1.4%	3 2.1%	14 9.7%	3 2.1%
	70歳以上	108 100.0%	70 64.7%	11 10.2%	6 5.6%	2 1.9%	14 13.0%	5 4.6%
	不明	13 100.0%	6 46.1%	2 15.4%	2 15.4%	0 0.0%	2 15.4%	1 7.7%

回答が1件の18～19歳代以外の年代では、約7割の回答者が「自分で希望して退職

を選んだ」と回答している。「勤務を継続できない理由や雰囲気が生じ、仕方なく退職した」との割合は、20～40歳代で高い傾向がみられた。「雇用主から退職を促された」との回答は、20歳代以下ではみられなかったが、30歳代以上で若干の回答があった。



前回調査との比較を行うと、「自分で希望して退職を選んだ」との回答が69.3%から73.2%に増加した。

3. 教育・地域活動について

問16. 子どもの学歴はどこまで必要だと思いますか。(1つに○)

【男の子どもについて】

●全体では、「大学以上」が最も高く、43.0%が回答している。次いで「高等学校」が24.7%となっており、専門学校や短大、高専よりも回答された割合が高い。

		合計	問16.子どもに必要なと思う学歴【男の子ども】					不明
			高等学校	専門学校	短大・高専	大学以上	その他	
全体		1,273 100.0%	314 24.7%	127 10.0%	81 6.4%	549 43.0%	136 10.7%	66 5.2%
性別	男性	457 100.0%	156 34.1%	46 10.1%	22 4.8%	173 37.9%	39 8.5%	21 4.6%
	女性	790 100.0%	157 19.9%	76 9.6%	58 7.3%	367 46.5%	94 11.9%	38 4.8%
	不明	26 100.0%	1 3.8%	5 19.2%	1 3.8%	9 34.8%	3 11.5%	7 26.9%

男性は、女性よりも「高等学校」と回答した割合が14.2%高い。

		合計	問16.子どもに必要なと思う学歴【男の子ども】					不明
			高等学校	専門学校	短大・高専	大学以上	その他	
全体		1,273 100.0%	314 24.7%	127 10.0%	81 6.4%	549 43.0%	136 10.7%	66 5.2%
年齢	18歳～19歳	44 100.0%	15 34.1%	3 6.8%	1 2.3%	20 45.4%	4 9.1%	1 2.3%
	20歳～29歳	127 100.0%	47 36.9%	10 7.9%	10 7.9%	46 36.2%	11 8.7%	3 2.4%
	30歳～39歳	209 100.0%	64 30.6%	16 7.7%	15 7.2%	91 43.5%	19 9.1%	4 1.9%
	40歳～49歳	233 100.0%	72 30.9%	21 9.0%	9 3.9%	89 38.1%	30 12.9%	12 5.2%
	50歳～59歳	275 100.0%	61 22.2%	26 9.5%	16 5.8%	114 41.4%	41 14.9%	17 6.2%
	60歳～69歳	193 100.0%	32 16.6%	27 14.0%	14 7.3%	91 47.1%	21 10.9%	8 4.1%
	70歳以上	168 100.0%	21 12.5%	17 10.1%	16 9.5%	91 54.2%	8 4.8%	15 8.9%
	不明	24 100.0%	2 8.3%	7 29.2%	0 0.0%	7 29.2%	2 8.3%	6 25.0%

ほぼすべての年代で「大学以上」と回答した割合が「高等学校」と回答した割合よりも高いのに対して、20歳代は、「高等学校」「大学以上」との回答がほぼ同じ割合になっている。70歳以上では、半数以上が「大学以上」と回答している。

問 16. 子どもの学歴はどこまで必要だと思いますか。(1 つに○)

【女の子どもについて】

- 全体では、「大学以上」が最も高く 28.9%となっているが、次点である「高等学校」との差が男の子どもと比べて小さい。
- 男の子どもと比べると、「大学以上」は 14.1%低い。一方、「専門学校」では 3.5%高く、「短大・高専」では 7.7%高い結果となっている。

		合計	問16. 子どもに必要なと思う学歴【女の子ども】					不明
			高等学校	専門学校	短大・高専	大学以上	その他	
全体		1,273 100.0%	335 26.3%	172 13.5%	179 14.1%	368 28.9%	136 10.7%	83 6.5%
性別	男性	457 100.0%	159 34.9%	54 11.8%	45 9.8%	130 28.4%	39 8.5%	30 6.6%
	女性	790 100.0%	175 22.2%	114 14.4%	129 16.3%	236 29.9%	95 12.0%	41 5.2%
	不明	26 100.0%	1 3.8%	4 15.4%	5 19.2%	2 7.7%	2 7.7%	12 46.2%

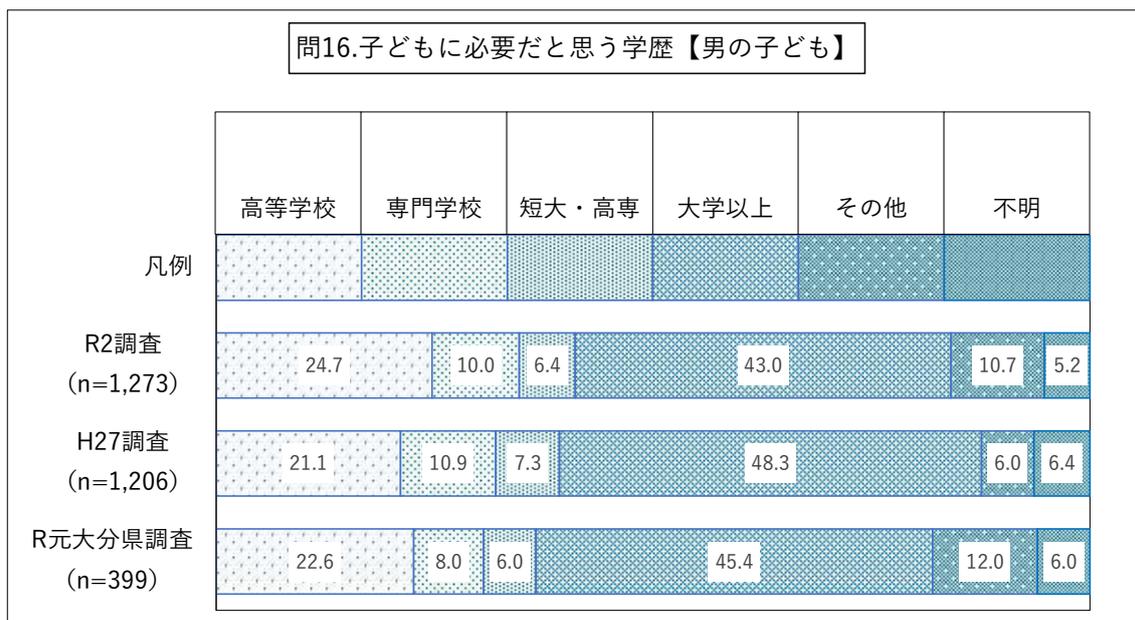
男性は女の子どもに必要なと思う学歴として「高等学校」と回答する割合が最も高く、女性では「大学以上」と回答する割合が最も高い。

		合計	問16. 子どもに必要なと思う学歴【女の子ども】					不明
			高等学校	専門学校	短大・高専	大学以上	その他	
全体		1,273 100.0%	335 26.3%	172 13.5%	179 14.1%	368 28.9%	136 10.7%	83 6.5%
年齢	18歳～19歳	44 100.0%	16 36.4%	3 6.8%	4 9.1%	14 31.8%	4 9.1%	3 6.8%
	20歳～29歳	127 100.0%	49 38.5%	12 9.4%	17 13.4%	35 27.6%	11 8.7%	3 2.4%
	30歳～39歳	209 100.0%	68 32.5%	20 9.6%	28 13.4%	67 32.1%	18 8.6%	8 3.8%
	40歳～49歳	233 100.0%	73 31.3%	25 10.7%	31 13.3%	65 27.9%	30 12.9%	9 3.9%
	50歳～59歳	275 100.0%	69 25.1%	35 12.7%	30 10.9%	82 29.8%	42 15.3%	17 6.2%
	60歳～69歳	193 100.0%	33 17.1%	39 20.2%	32 16.6%	59 30.6%	22 11.4%	8 4.1%
	70歳以上	168 100.0%	25 14.9%	32 19.0%	33 19.6%	46 27.4%	8 4.8%	24 14.3%
	不明	24 100.0%	2 8.3%	6 25.0%	4 16.7%	0 0.0%	1 4.2%	11 45.8%

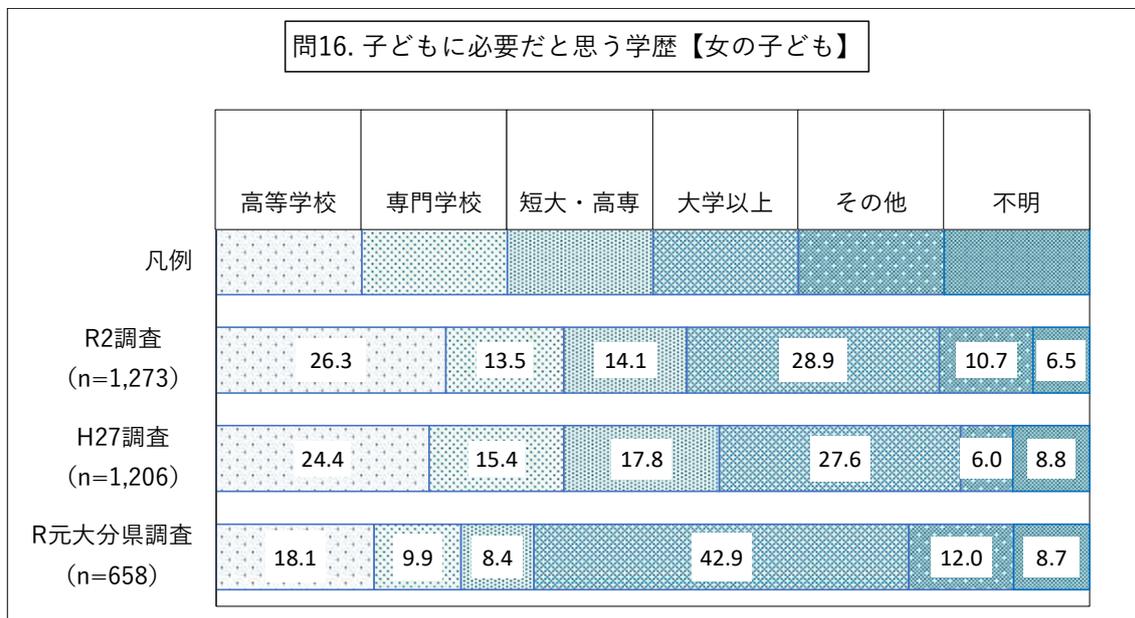
40 歳代以下と 50 歳代以上で回答に傾向がみられる。50 歳代以上では「大学以上」との回答が最も多く、次いで「高等学校」「専門学校」となっているが、40 歳代以下では「高等学校」が最も多く、次いで「大学以上」と回答している。「短大・高専」「専門学校」と回答する割合は、年齢が上がるほど高くなる傾向がみられる。

どの年代も女の子どもより男の子どもの方が「大学以上」と回答している割合が高くなっている。

次に、前回調査及び大分県調査との比較グラフである。



男の子どもについて、今回調査は前回調査及び大分県調査と比較して、「高等学校」と回答した割合が最も大きく、他方で「大学以上」と回答した割合は最も小さくなっている。そのほか、大分県調査よりも前回調査、今回調査とも「専門学校」という回答の割合が大きい。



女の子どもについては、前回調査から、「短大・高専」と回答した割合が3%を超える減少をした以外は、2%以内の変化にとどまっている。

大分県調査と比較をすると、今回調査は「高等学校」と回答した割合で8.2%多く、他方で「大学以上」と回答した割合は14.1%少なくなっている。

問 17. 家庭の中で子どもを育てる場合、子どもに身に付けてほしいことは何ですか。
(○は3つまで)

【男の子どもについて】

●全体では、「思いやり」が最も高く 53.7%、次いで「礼儀正しさ」が 50.1%となっている。

		合計	問17.子どもに身に付けてほしいこと【男の子ども】									
			家事能力	職業能力	礼儀正しさ	行動力	勤勉さ	思いやり	協調性	自立心	忍耐力	不明
全体		1,273 100.0%	222 17.4%	413 32.4%	638 50.1%	390 30.6%	158 12.4%	684 53.7%	350 27.5%	433 34.0%	321 25.2%	44 3.5%
性別	男性	457 100.0%	64 14.0%	165 36.1%	253 55.4%	139 30.4%	71 15.5%	230 50.3%	128 28.0%	143 31.3%	100 21.9%	14 3.1%
	女性	790 100.0%	155 19.6%	241 30.5%	374 47.3%	248 31.4%	84 10.6%	447 56.6%	215 27.2%	289 36.6%	216 27.3%	21 2.7%
	不明	26 100.0%	3 11.5%	7 26.9%	11 42.3%	3 11.5%	3 11.5%	7 26.9%	7 26.9%	1 3.8%	5 19.2%	9 34.6%

		合計	問17.子どもに身に付けてほしいこと【男の子ども】									
			家事能力	職業能力	礼儀正しさ	行動力	勤勉さ	思いやり	協調性	自立心	忍耐力	不明
全体		1,273 100.0%	222 17.4%	413 32.4%	638 50.1%	390 30.6%	158 12.4%	684 53.7%	350 27.5%	433 34.0%	321 25.2%	44 3.5%
年齢	18歳～19歳	44 100.0%	8 18.2%	16 36.4%	31 70.5%	9 20.5%	4 9.1%	26 59.1%	10 22.7%	12 27.3%	12 27.3%	1 2.3%
	20歳～29歳	127 100.0%	27 21.3%	36 28.3%	75 59.1%	28 22.0%	9 7.1%	90 70.9%	42 33.1%	32 25.2%	27 21.3%	2 1.6%
	30歳～39歳	209 100.0%	50 23.9%	65 31.1%	109 52.2%	71 34.0%	24 11.5%	124 59.3%	60 28.7%	72 34.4%	37 17.7%	2 1.0%
	40歳～49歳	233 100.0%	45 19.3%	58 24.9%	115 49.4%	68 29.2%	35 15.0%	147 63.1%	57 24.5%	84 36.1%	62 26.6%	5 2.1%
	50歳～59歳	275 100.0%	46 16.7%	89 32.4%	132 48.0%	77 28.0%	40 14.5%	135 49.1%	89 32.4%	91 33.1%	75 27.3%	12 4.4%
	60歳～69歳	193 100.0%	29 15.0%	76 39.4%	90 46.6%	71 36.8%	22 11.4%	102 52.8%	42 21.8%	76 39.4%	47 24.4%	3 1.6%
	70歳以上	168 100.0%	14 8.3%	64 38.1%	75 44.6%	62 36.9%	22 13.1%	54 32.1%	44 26.2%	64 38.1%	57 33.9%	12 7.1%
	不明	24 100.0%	3 12.5%	9 37.5%	11 45.8%	4 16.7%	2 8.3%	6 25.0%	6 25.0%	2 8.3%	4 16.7%	7 29.2%

「礼儀正しさ」は 18～19 歳が他の年代よりも約 1～2 割程度高くなっている。20 歳代から 60 歳代では「思いやり」との回答が最も高い割合を占めている。「家事能力」「礼儀正しさ」は年代が低くなるほど高い傾向にある。

問 17. 家庭の中で子どもを育てる場合、子どもに身に付けてほしいことは何ですか。
(○は3つまで)

【女の子どもについて】

- 全体では、「思いやり」が最も高く 71.1%、次いで「礼儀正しさ」が 59.5%となっている。
- 「家事能力」は家庭生活の代表的な項目として、「職業能力」は仕事における代表的な項目として位置付けられる。「男の子ども」「女の子ども」それぞれに対して、この2つの項目の割合の差が回答者の性別や年代を問わず顕著であることから、固定的性別役割分担意識が子育てをする中でも根強く残っていることがわかる。

		合計	問17.子どもに身に付けてほしいこと【女の子ども】									
			家事能力	職業能力	礼儀正しさ	行動力	勤勉さ	思いやり	協調性	自立心	忍耐力	不明
全体		1,273 100.0%	557 43.8%	172 13.5%	758 59.5%	186 14.6%	119 9.3%	905 71.1%	353 27.7%	344 27.0%	204 16.0%	50 3.9%
性別	男性	457 100.0%	190 41.6%	71 15.5%	278 60.8%	71 15.5%	61 13.3%	311 68.1%	128 28.0%	110 24.1%	56 12.3%	19 4.2%
	女性	790 100.0%	358 45.3%	100 12.7%	469 59.4%	112 14.2%	56 7.1%	584 73.9%	219 27.7%	231 29.2%	145 18.4%	22 2.8%
	不明	26 100.0%	9 34.6%	1 3.8%	11 42.3%	3 11.5%	2 7.7%	10 38.5%	6 23.1%	3 11.5%	3 11.5%	9 34.6%

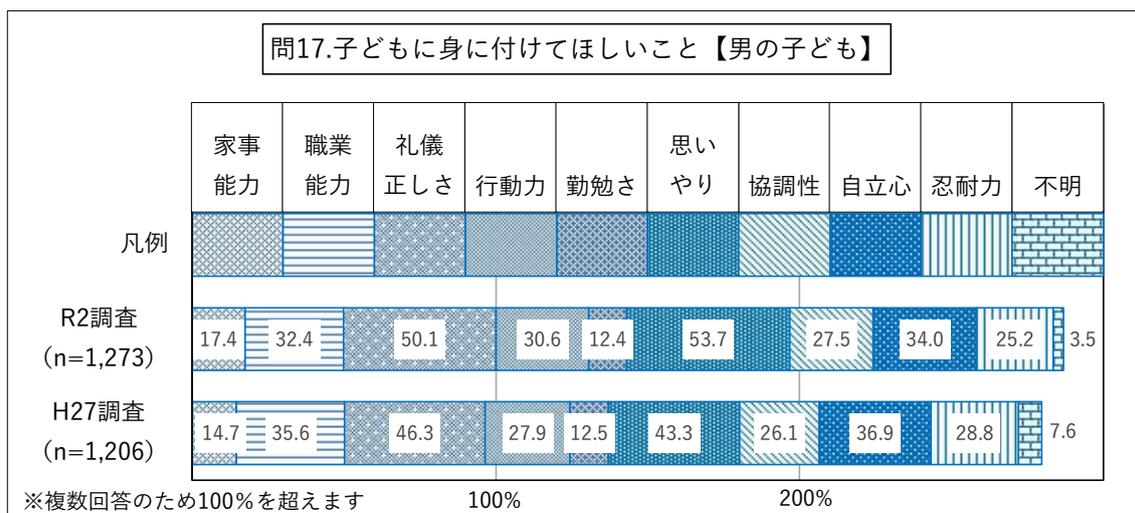
		合計	問17.子どもに身に付けてほしいこと【女の子ども】									
			家事能力	職業能力	礼儀正しさ	行動力	勤勉さ	思いやり	協調性	自立心	忍耐力	不明
全体		1,273 100.0%	557 43.8%	172 13.5%	758 59.5%	186 14.6%	119 9.3%	905 71.1%	353 27.7%	344 27.0%	204 16.0%	50 3.9%
年齢	18歳～19歳	44 100.0%	18 40.9%	3 6.8%	32 72.7%	5 11.4%	3 6.8%	33 75.0%	9 20.5%	13 29.5%	8 18.2%	2 4.5%
	20歳～29歳	127 100.0%	70 55.1%	17 13.4%	81 63.8%	16 12.6%	9 7.1%	96 75.6%	44 34.6%	22 17.3%	13 10.2%	1 0.8%
	30歳～39歳	209 100.0%	84 40.2%	29 13.9%	127 60.8%	48 23.0%	18 8.6%	144 68.9%	74 35.4%	54 25.8%	24 11.5%	5 2.4%
	40歳～49歳	233 100.0%	87 37.3%	29 12.4%	125 53.6%	39 16.7%	30 12.9%	170 73.0%	57 24.5%	72 30.9%	45 19.3%	11 4.7%
	50歳～59歳	275 100.0%	115 41.8%	34 12.4%	163 59.3%	37 13.5%	30 10.9%	198 72.0%	78 28.4%	80 29.1%	47 17.1%	9 3.3%
	60歳～69歳	193 100.0%	90 46.6%	36 18.7%	111 57.5%	21 10.9%	17 8.8%	144 74.6%	47 24.4%	59 30.6%	33 17.1%	3 1.6%
	70歳以上	168 100.0%	84 50.0%	21 12.5%	109 64.9%	16 9.5%	11 6.5%	112 66.7%	39 23.2%	40 23.8%	33 19.6%	11 6.5%
	不明	24 100.0%	9 37.5%	3 12.5%	10 41.7%	4 16.7%	1 4.2%	8 33.3%	5 20.8%	4 16.7%	1 4.2%	8 33.3%

「家事能力」は20歳代と70歳以上で50%以上となっている。

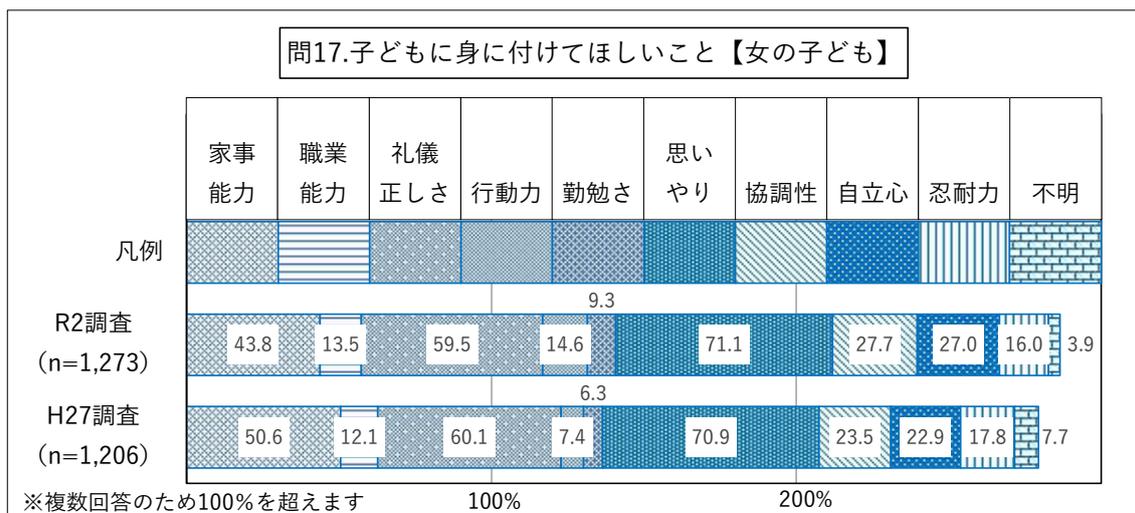
「職業能力」は18～19歳が最も低く、他の年代の回答割合と比較して2分の1程度となっている。

「行動力」は30～40歳代で高くなっており、特に30歳代は他の年代の1.5～2.5倍近い割合となっている。

次のグラフは、前回調査との比較を表したグラフである。



男の子どもでは、前回調査と比較すると、「思いやり」という回答の割合が最も差が大きく、10.4%増加している。そのほか、「家事能力」「礼儀正しさ」が約3%の増加、反対に「職業能力」は3.2%減少している。



女の子どもで前回調査と比較すると、「家事能力」との回答が6.8%減少した一方、「行動力」と回答した割合はほぼ倍になっている。また、「協調性」も4.2%増加している。

問 18. あなたは地域社会において、現在どのような活動に参加していますか。また、今後どのような活動に参加したいですか。(〇はいくつでも)

【現在について】

●全体では、「特に参加していない」が最も高く 41.2%、次いで「自治会などの地域活動」が 23.4%となっている。

		問18.地域社会での活動【現在】														
		合計	ボランティア活動(社会奉仕など)	学校行事	老人クラブ	自治会などの地域活動	女性の会を含めた女性団体・グループ等の地域活動	スポーツ、レクリエーション活動	スポーツ、レクリエーション活動以外の趣味活動	文化・教養・学習活動・公民館活動	宗教活動	政治活動	その他	特に参加していない・参加したくない	不明	
全体		1,273 100.0%	181 14.2%	212 16.7%	51 4.0%	298 23.4%	51 4.0%	182 14.3%	107 8.4%	143 11.2%	24 1.9%	13 1.0%	12 0.9%	525 41.2%	85 6.7%	
性別	男性	457 100.0%	84 18.4%	55 12.0%	13 2.8%	145 31.7%	2 0.4%	80 17.5%	40 8.8%	36 7.9%	6 1.3%	9 2.0%	5 1.1%	171 37.4%	34 7.4%	
	女性	790 100.0%	92 11.6%	155 19.6%	37 4.7%	148 18.7%	46 5.8%	101 12.8%	66 8.4%	101 12.8%	18 2.3%	4 0.5%	7 0.9%	347 43.9%	43 5.4%	
	不明	26 100.0%	5 19.2%	2 7.7%	1 3.8%	5 19.2%	3 11.5%	1 3.8%	1 3.8%	6 23.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 26.9%	8 30.8%	

男性・女性共に「特に参加していない」が最も高く、それぞれ 37.4%、43.9%となっている。次いで男性では「自治会などの地域活動」が 31.7%、女性では「学校行事」が 19.6%となっている。

男女で回答に差があるものとしては、男性は女性よりも「ボランティア活動」「自治会などの地域活動」などの割合が高く、女性は男性よりも、「学校行事」「女性の会を含めた女性団体・グループ等の地域活動」「特に参加していない」の割合が高い。

		問18.地域社会での活動【現在】														
		合計	ボランティア活動(社会奉仕など)	学校行事	老人クラブ	自治会などの地域活動	女性の会を含めた女性団体・グループ等の地域活動	スポーツ、レクリエーション活動	スポーツ、レクリエーション活動以外の趣味活動	文化・教養・学習活動・公民館活動	宗教活動	政治活動	その他	特に参加していない・参加したくない	不明	
全体		1,273 100.0%	181 14.2%	212 16.7%	51 4.0%	298 23.4%	51 4.0%	182 14.3%	107 8.4%	143 11.2%	24 1.9%	13 1.0%	12 0.9%	525 41.2%	85 6.7%	
年齢	18歳～19歳	44 100.0%	8 18.2%	17 38.6%	0 0.0%	5 11.4%	0 0.0%	6 13.6%	6 13.6%	3 6.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.3%	16 36.4%	3 6.8%	
	20歳～29歳	127 100.0%	23 18.1%	15 11.8%	0 0.0%	11 8.7%	0 0.0%	24 18.9%	11 8.7%	8 6.3%	1 0.8%	2 1.6%	3 2.4%	64 50.4%	14 11.0%	
	30歳～39歳	209 100.0%	19 9.1%	53 25.4%	0 0.0%	44 21.1%	2 1.0%	32 15.3%	18 8.6%	15 7.2%	0 0.0%	2 1.0%	4 1.9%	85 40.7%	9 4.3%	
	40歳～49歳	233 100.0%	24 10.3%	89 38.2%	2 0.9%	48 20.6%	4 1.7%	27 11.6%	11 4.7%	9 3.9%	2 0.9%	0 0.0%	2 0.9%	95 40.8%	9 3.9%	
	50歳～59歳	275 100.0%	32 11.6%	17 6.2%	1 0.4%	80 29.1%	7 2.5%	26 9.5%	12 4.4%	24 8.7%	6 2.2%	2 0.7%	0 0.0%	134 48.7%	15 5.5%	
	60歳～69歳	193 100.0%	30 15.5%	9 4.7%	9 4.7%	54 28.0%	16 8.3%	31 16.1%	21 10.9%	31 16.1%	12 6.2%	4 2.1%	0 0.0%	74 38.3%	15 7.8%	
	70歳以上	168 100.0%	41 24.4%	10 6.0%	38 22.6%	51 30.4%	19 11.3%	34 20.2%	27 16.1%	47 28.0%	2 1.2%	3 1.8%	2 1.2%	52 31.0%	12 7.1%	
	不明	24 100.0%	4 16.7%	2 8.3%	1 4.2%	5 20.8%	3 12.5%	2 8.3%	1 4.2%	6 25.0%	1 4.2%	0 0.0%	0 0.0%	5 20.8%	8 33.3%	

70歳以上は学校行事を除く様々な活動で、他の年代より割合が高くなっている。「学校行事」は、学生の多い18～19歳を除いて30歳代・40歳代が突出しており約2～3割が回答している。反対に30～40歳代は「ボランティア活動」が低い傾向にある。50歳代以上は「自治会などの活動」が他の年代よりも高い傾向にある。20歳代は2人に1人が「特に参加していない」と回答している。

問 18. あなたは地域社会において、現在どのような活動に参加していますか。また、今後どのような活動に参加したいですか。(〇はいくつでも)

【今後について】

- 全体では、「ボランティア活動(社会奉仕など)」が最も高く 26.0%、次いで「特に参加していない・参加したくない」が 25.1%となっている。
- 「特に参加していない・参加したくない」との回答は、【現在】よりも 16.1%低くなっている。このことから、何らかの活動に参加したいという意識はあると考えられる。

		問18.地域社会での活動【今後】													
		合計	ボランティア活動(社会奉仕など)	学校行事	老人クラブ	自治会などの地域活動	女性の会を含めた女性団体・グループ等の地域活動	スポーツ、レクリエーション活動	スポーツ、レクリエーション活動以外の趣味活動	文化・教養・学習活動・公民館活動	宗教活動	政治活動	その他	特に参加していない・参加したくない	不明
全体		1,273 100.0%	331 26.0%	172 13.5%	68 5.3%	263 20.7%	72 5.7%	262 20.6%	213 16.7%	208 16.3%	19 1.5%	20 1.6%	8 0.6%	319 25.1%	225 17.7%
性別	男性	457 100.0%	138 30.2%	66 14.4%	25 5.5%	141 30.9%	8 1.8%	104 22.8%	73 16.0%	57 12.5%	7 1.5%	13 2.8%	2 0.4%	110 24.1%	80 17.5%
	女性	790 100.0%	192 24.3%	106 13.4%	43 5.4%	120 15.2%	61 7.7%	158 20.0%	138 17.5%	149 18.9%	12 1.5%	7 0.9%	6 0.8%	203 25.7%	131 16.6%
	不明	26 100.0%	1 3.8%	0 0.0%	0 0.0%	2 7.7%	3 11.5%	0 0.0%	2 7.7%	2 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 23.1%	14 53.8%

男性では、「自治会などの地域活動」が高く 30.9%、女性では「特に参加していない・参加したくない」が 25.7%となっている。

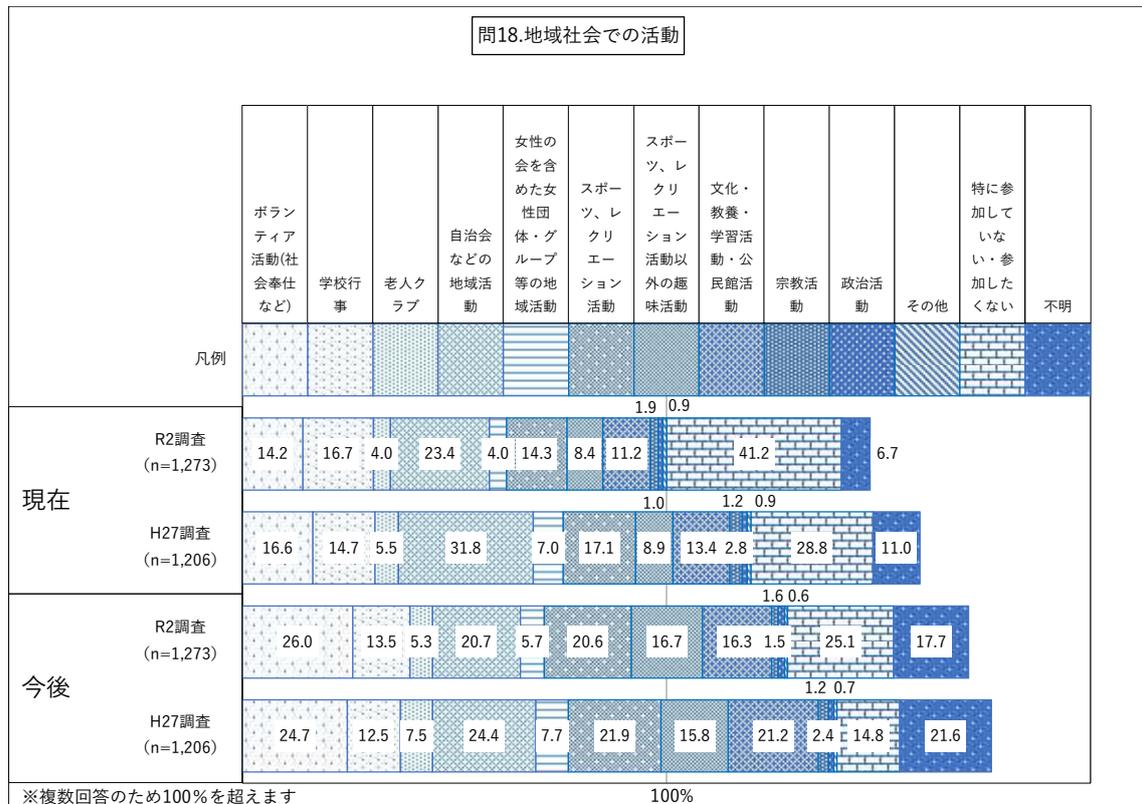
男女で回答に差があるものとしては、男性は女性よりも「ボランティア活動」「自治会などの地域活動」「スポーツ、レクリエーション活動」との割合が高い。

女性は男性よりも、「女性の会を含めた女性団体・グループ等の地域活動」「文化・教養・学習活動・公民館活動」との割合が高い。

		問18.地域社会での活動【今後】													
		合計	ボランティア活動(社会奉仕など)	学校行事	老人クラブ	自治会などの地域活動	女性の会を含めた女性団体・グループ等の地域活動	スポーツ、レクリエーション活動	スポーツ、レクリエーション活動以外の趣味活動	文化・教養・学習活動・公民館活動	宗教活動	政治活動	その他	特に参加していない・参加したくない	不明
全体		1,273 100.0%	331 26.0%	172 13.5%	68 5.3%	263 20.7%	72 5.7%	262 20.6%	213 16.7%	208 16.3%	19 1.5%	20 1.6%	8 0.6%	319 25.1%	225 17.7%
年齢	18歳～19歳	44 100.0%	23 52.3%	18 40.9%	3 6.8%	7 15.9%	3 6.8%	13 29.5%	10 22.7%	5 11.4%	0 0.0%	4 9.1%	0 0.0%	5 11.4%	6 13.6%
	20歳～29歳	127 100.0%	43 33.9%	26 20.5%	5 3.9%	21 16.5%	3 2.4%	37 29.1%	21 16.5%	16 12.6%	1 0.8%	3 2.4%	3 2.4%	29 22.8%	24 18.9%
	30歳～39歳	209 100.0%	41 19.6%	50 23.9%	3 1.4%	48 23.0%	6 2.9%	47 22.5%	33 15.8%	21 10.0%	1 0.5%	4 1.9%	3 1.4%	67 32.1%	21 10.0%
	40歳～49歳	233 100.0%	58 24.9%	53 22.7%	4 1.7%	47 20.2%	6 2.6%	48 20.6%	42 18.0%	33 14.2%	2 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	68 29.2%	29 12.4%
	50歳～59歳	275 100.0%	72 26.2%	11 4.0%	7 2.5%	65 23.6%	13 4.7%	53 19.3%	40 14.5%	40 14.5%	3 1.1%	3 1.1%	1 0.4%	86 31.3%	38 13.8%
	60歳～69歳	193 100.0%	49 25.4%	9 4.7%	14 7.3%	36 18.7%	17 8.8%	38 19.7%	33 17.1%	51 26.4%	8 4.1%	3 1.6%	1 0.5%	29 15.0%	44 22.8%
	70歳以上	168 100.0%	44 26.2%	4 2.4%	32 19.0%	37 22.0%	21 12.5%	25 14.9%	33 19.6%	41 24.4%	3 1.8%	3 1.8%	0 0.0%	32 19.0%	49 29.2%
	不明	24 100.0%	1 4.2%	1 4.2%	0 0.0%	2 8.3%	3 12.5%	1 4.2%	1 4.2%	1 4.2%	1 4.2%	1 4.2%	0 0.0%	3 12.5%	14 58.3%

年代で傾向が大きく分かれる。20歳代では、「ボランティア活動」や「スポーツ・レクリエーション活動」「特に参加していない・参加したくない」の割合が高くなっている。「学校行事」は、40歳代以下で割合が高い。「自治会などの活動」については、30～50歳代および70歳以上で高くなっている。「文化・教養・学習活動・公民館活動」との回答は、60歳代以上で割合が高い。

次のグラフは、地域社会での活動の【現在】と【今後】について、前回調査との比較を行ったものである。



【現在】については、「特に参加していない・参加したくない」が最も大きく変化しており、12.4%の増加となっている。このほか、「学校行事」と回答した割合が2.0%増加しているほかは、ほぼ減少している。

【今後】について前回調査と比較すると、「特に参加していない・参加したくない」と回答した割合が10.3%の増加となっており、最も大きく変化している。

問 18 付問. 問 18 で「⑫特に参加していない・参加したくない」と答えた方におたずねします。あなたが、活動に参加していないのはどのような理由からですか。
(〇は3つまで)

※現在についての回答です。

●全体では、「時間がないから」が最も高く 47.8%となっている。男女ともに、最も高い回答となっている。

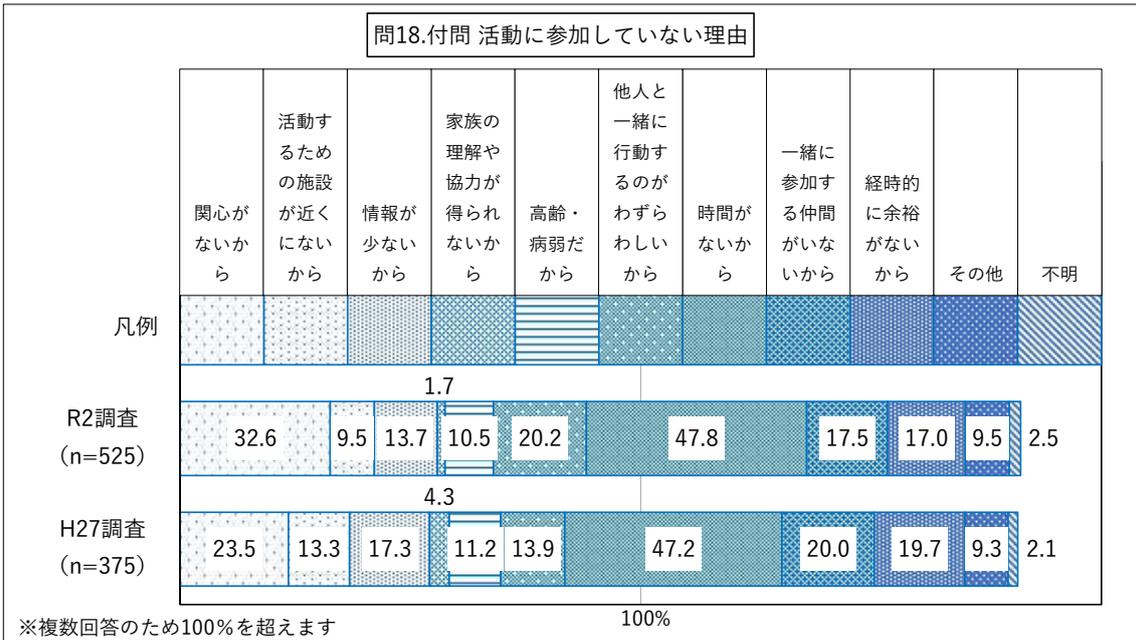
	合計	問18.付問 活動に参加していない理由【現在】											
		関心がな いから	活動する ための施 設が近く にない から	情報が少 ないから	家族の理 解や協力 が得られ ないから	高齢・病 弱だから	他人と一 緒に行動 するのが わずらわ しいから	時間がない から	一緒に参 加する仲 間がない から	経済的に 余裕がない から	その他	不明	
全体	525 100.0%	171 32.6%	50 9.5%	72 13.7%	9 1.7%	55 10.5%	106 20.2%	251 47.8%	92 17.5%	89 17.0%	50 9.5%	13 2.5%	
性別	男性	171 100.0%	66 38.6%	17 9.9%	22 12.9%	0 0.0%	11 6.4%	37 21.6%	70 40.9%	34 19.9%	35 20.5%	13 7.6%	6 3.5%
	女性	347 100.0%	104 30.0%	33 9.5%	48 13.8%	9 2.6%	42 12.1%	68 19.6%	177 51.0%	57 16.4%	52 15.0%	37 10.7%	7 2.0%
	不明	7 100.0%	1 14.3%	0 0.0%	2 28.6%	0 0.0%	2 28.6%	1 14.3%	4 57.1%	1 14.3%	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%

男性は女性よりも「関心がいないから」「経済的に余裕がないから」との割合が高い。他方、女性は「時間がないから」「高齢・病弱だから」と回答した割合が高い。

	合計	問18.付問 活動に参加していない理由【現在】											
		関心がな いから	活動する ための施 設が近く にない から	情報が少 ないから	家族の理 解や協力 が得られ ないから	高齢・病 弱だから	他人と一 緒に行動 するのが わずらわ しいから	時間がない から	一緒に参 加する仲 間がない から	経済的に 余裕がない から	その他	不明	
全体	525 100.0%	171 32.6%	50 9.5%	72 13.7%	9 1.7%	55 10.5%	106 20.2%	251 47.8%	92 17.5%	89 17.0%	50 9.5%	13 2.5%	
年齢	18歳～19歳	16 100.0%	3 18.8%	3 18.8%	2 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%	10 62.5%	1 6.3%	0 0.0%	2 12.5%	2 12.5%
	20歳～29歳	64 100.0%	24 37.5%	3 4.7%	11 17.2%	2 3.1%	1 1.6%	5 7.8%	28 43.8%	13 20.3%	17 26.6%	2 3.1%	3 4.7%
	30歳～39歳	85 100.0%	29 34.1%	6 7.1%	12 14.1%	2 2.4%	3 3.5%	17 20.0%	45 52.9%	15 17.6%	12 14.1%	10 11.8%	3 3.5%
	40歳～49歳	95 100.0%	36 37.9%	7 7.4%	14 14.7%	0 0.0%	4 4.2%	21 22.1%	55 57.9%	18 18.9%	18 18.9%	9 9.5%	1 1.1%
	50歳～59歳	134 100.0%	44 32.8%	11 8.2%	17 12.7%	4 3.0%	10 7.5%	33 24.6%	65 48.5%	25 18.7%	24 17.9%	15 11.2%	2 1.5%
	60歳～69歳	74 100.0%	24 32.4%	13 17.6%	9 12.2%	1 1.4%	7 9.5%	21 28.4%	36 48.6%	15 20.3%	8 10.8%	5 6.8%	1 1.4%
	70歳以上	52 100.0%	10 19.2%	6 11.5%	6 11.5%	0 0.0%	29 55.8%	7 13.5%	8 15.4%	4 7.7%	8 15.4%	7 13.5%	1 1.9%
	不明	5 100.0%	1 20.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%	4 80.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%

60歳代以下で最も割合の高い回答は「時間がないから」である。年代によっては半数以上を占めている。70歳以上では「高齢・病弱だから」が最も多い回答となっている。

「時間がない」との回答割合が高いのは18～19歳となっている。3つまでの複数回答ができる設問で、全回答の6割以上を占めているのは特徴的と言える。また、18～19歳では、「活動するための施設が近くにないから」が、全体の割合より約1割高い。「経済的余裕がない」との回答は、20歳代で高くなっており、他の年代より約1割高くなっていることがわかる。



前回調査と比較すると、「関心がないから」という回答の占める割合が 9.1%増加している。そのほか「他人と一緒に行動するのがわずらわしいから」という回答も 6.3%増加している。

問 18 付問. 問 18 で「⑫特に参加していない・参加したくない」と答えた方におたずねします。あなたが、活動に参加していないのはどのような理由からですか。

(○は3つまで)

※今後についての回答です。

●全体では、「関心がないから」が最も高く 42.6%となっている。次いで「時間がないから」(42.3%)、「他人と一緒に行動するのがわずらわしいから」(28.5%)と続く。問 18 で今後も「特に参加していない・参加したくない」と回答した人は、そもそも活動する意欲が低いと考えられる。

	合計	問18.付問 活動に参加していない理由【今後】											
		関心がないから	活動するための施設が近くにないから	情報が少ないから	家族の理解や協力が得られないから	高齢・病弱だから	他人と一緒に行動するのがわずらわしいから	時間がないから	一緒に参加する仲間がいないから	経済的に余裕がないから	その他	不明	
全体	319 100.0%	136 42.6%	23 7.2%	32 10.0%	5 1.6%	37 11.6%	91 28.5%	135 42.3%	56 17.6%	60 18.8%	24 7.5%	6 1.9%	
(1) 性別	男性	110 100.0%	54 49.1%	8 7.3%	9 8.2%	0 0.0%	9 8.2%	31 28.2%	35 31.8%	22 20.0%	23 20.9%	7 6.4%	5 4.5%
	女性	203 100.0%	81 39.9%	15 7.4%	23 11.3%	5 2.5%	27 13.3%	59 29.1%	96 47.3%	33 16.3%	36 17.7%	17 8.4%	1 0.5%
	不明	6 100.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	4 66.7%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%

男女で回答に差があるものとしては、男性では女性よりも「関心がないから」と回答した割合が高く、女性は男性よりも「時間がないから」と回答した割合が高い。

	合計	問18.付問 活動に参加していない理由【今後】											
		関心がないから	活動するための施設が近くにないから	情報が少ないから	家族の理解や協力が得られないから	高齢・病弱だから	他人と一緒に行動するのがわずらわしいから	時間がないから	一緒に参加する仲間がいないから	経済的に余裕がないから	その他	不明	
全体	319 100.0%	136 42.6%	23 7.2%	32 10.0%	5 1.6%	37 11.6%	91 28.5%	135 42.3%	56 17.6%	60 18.8%	24 7.5%	6 1.9%	
(2) 年齢	18歳～19歳	5 100.0%	1 20.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%
	20歳～29歳	29 100.0%	15 51.7%	0 0.0%	3 10.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 10.3%	11 37.9%	5 17.2%	11 37.9%	2 6.9%	1 3.4%
	30歳～39歳	67 100.0%	30 44.8%	5 7.5%	8 11.9%	2 3.0%	3 4.5%	17 25.4%	34 50.7%	9 13.4%	12 17.9%	7 10.4%	1 1.5%
	40歳～49歳	68 100.0%	33 48.5%	3 4.4%	9 13.2%	0 0.0%	4 5.9%	22 32.4%	37 54.4%	15 22.1%	12 17.6%	4 5.9%	1 1.5%
	50歳～59歳	86 100.0%	34 39.5%	7 8.1%	6 7.0%	3 3.5%	6 7.0%	27 31.4%	35 40.7%	17 19.8%	17 19.8%	7 8.1%	2 2.3%
	60歳～69歳	29 100.0%	14 48.3%	4 13.8%	3 10.3%	0 0.0%	3 10.3%	13 44.8%	11 37.9%	4 13.8%	2 6.9%	1 3.4%	0 0.0%
	70歳以上	32 100.0%	8 25.0%	3 9.4%	2 6.3%	0 0.0%	21 65.6%	7 21.9%	3 9.4%	5 15.6%	6 18.8%	2 6.3%	0 0.0%
	不明	3 100.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

「関心がないから」との回答割合は 20 歳代が最も高く、次いで 60 歳代となっている。「高齢・病弱だから」を回答した割合が高いのは、70 歳以上となっている。「時間がない」は主に 30～40 歳代が高くなっている。これは全体の割合よりも 1 割以上高い。

「経済的余裕がない」との回答は、20 歳代で高くなっており、他の年代の 2 倍程度となっていることがわかる。

問 19. 自治会などの地域の集まりや作業の中で、女性も男性と共に参加したり、男性と同じように発言したりすることができにくい雰囲気や状況はあると思いますか。(1つに○)

●全体では、「わからない」が最も高く 39.4%となっており、男女ともに、最も高い回答となっている。問 18 の【現在】の回答と組み合わせると、「自治会などの地域活動」と回答した割合が低い年代ほど、「わからない」と回答した割合が高い。これは、問 19 を回答するための情報を持ち合わせていないからと推測される。

		合計	問19.自治会等の集まりで女性が参加できる雰囲気について			
			そういうことはないと思う	わからない	できにくい雰囲気や状況があると思う	不明
全体		1,273 100.0%	432 33.9%	502 39.4%	263 20.7%	76 6.0%
性別	男性	457 100.0%	167 36.5%	192 42.1%	76 16.6%	22 4.8%
	女性	790 100.0%	262 33.2%	303 38.3%	183 23.2%	42 5.3%
	不明	26 100.0%	3 11.5%	7 26.9%	4 15.4%	12 46.2%

女性は、男性よりも「できにくい雰囲気や状況があると思う」との回答の割合が 6.6% 高く、23.2%となっている。

		合計	問19.自治会等の集まりで女性が参加できる雰囲気について			
			そういうことはないと思う	わからない	できにくい雰囲気や状況があると思う	不明
全体		1,273 100.0%	432 33.9%	502 39.4%	263 20.7%	76 6.0%
年齢	18歳～19歳	44 100.0%	11 25.0%	26 59.1%	6 13.6%	1 2.3%
	20歳～29歳	127 100.0%	19 15.0%	84 66.1%	21 16.5%	3 2.4%
	30歳～39歳	209 100.0%	41 19.6%	119 57.0%	41 19.6%	8 3.8%
	40歳～49歳	233 100.0%	72 30.9%	99 42.5%	49 21.0%	13 5.6%
	50歳～59歳	275 100.0%	93 33.8%	104 37.8%	69 25.1%	9 3.3%
	60歳～69歳	193 100.0%	97 50.3%	34 17.6%	46 23.8%	16 8.3%
	70歳以上	168 100.0%	96 57.1%	30 17.9%	28 16.7%	14 8.3%
	不明	24 100.0%	3 12.5%	6 25.0%	3 12.5%	12 50.0%

年代別で傾向がみられる。18～39歳の約半数が「わからない」と回答している。50歳代は4人に1人が「できにくい雰囲気があると思う」と回答している。60歳代以上は、半数以上が「そういうことはないと思う」と回答している。

問 19 付問. 問 19 で「3. できにくい雰囲気や状況があると思う」と答えた方におたずねします。それはどんな雰囲気や状況だと思いますか。(〇は2つまで)

- 「決定事項については、従来、男性が取り仕切っているので、女性が口を挟みにくい」が最も高く 46.0%となっている。次いで「お茶出しや皿洗いなどは女性だけがする暗黙の役割分担がある」との回答が 32.7%を占めている。
- 2 番目以降に多い回答については、性別や年代によって差がみられる。

		問19.付問 できにくいと思う理由									
合計		役員は男性のみで、女性の意見が受け入れられにくい	決定事項については、従来、男性が取り仕切っているので、女性が口を挟みにくい	主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれる	お茶だしや皿洗いなどは女性だけがする暗黙の役割分担がある	地域活動で女性が発言することはしゃべりだと思われがちである	地域活動に参加できるような家族の理解や協力がいない	参加する女性側の努力がまだ足りない	その他	不明	
全体	263 100.0%	73 27.8%	121 46.0%	71 27.0%	86 32.7%	78 29.7%	4 1.5%	17 6.5%	15 5.7%	3 1.1%	
性別	男性	76 100.0%	19 25.0%	32 42.1%	21 27.6%	19 25.0%	23 30.3%	0 0.0%	6 7.9%	7 9.2%	1 1.3%
	女性	183 100.0%	53 29.0%	87 47.5%	49 26.8%	64 35.0%	55 30.1%	4 2.2%	10 5.5%	8 4.4%	2 1.1%
	不明	4 100.0%	1 25.0%	2 50.0%	1 25.0%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%

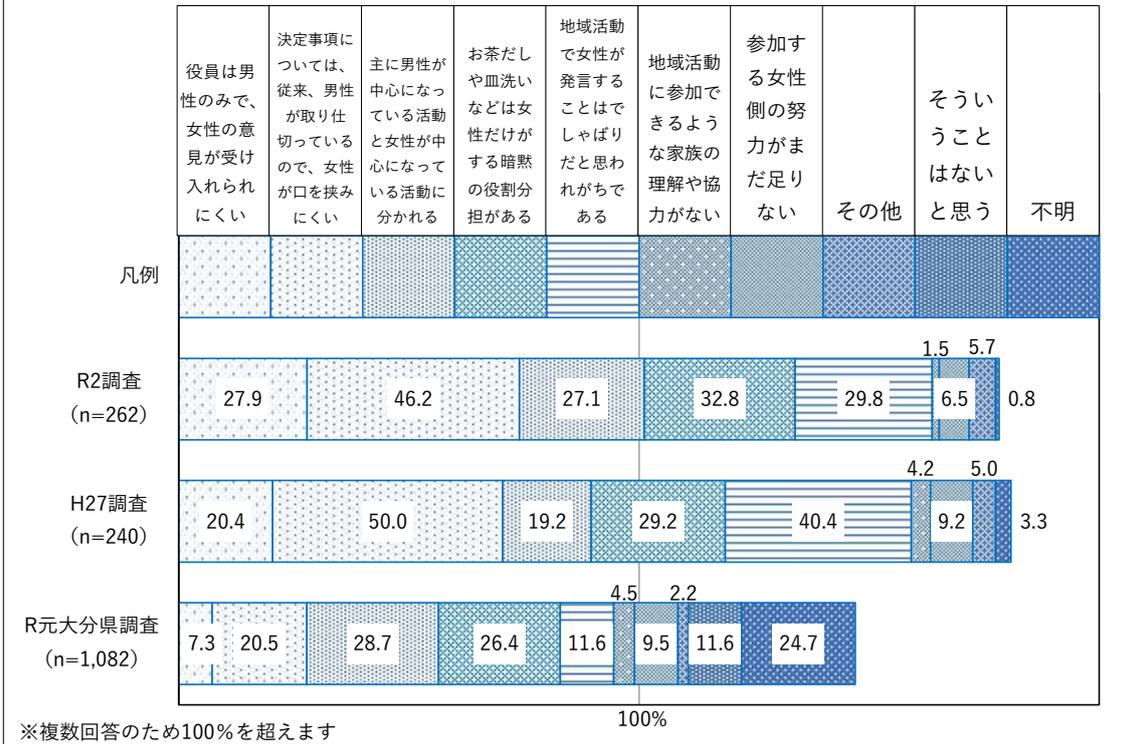
「決定事項については、従来、男性が取り仕切っているので、女性が口を挟みにくい」が男女ともに、最も高い回答となっている。

男女で回答に差があるものとしては、女性は男性よりも「お茶だしや皿洗いなどは女性だけがする暗黙の役割分担がある」との割合が 10%以上高く、35.0%となっている。

		問19.付問 できにくいと思う理由									
合計		役員は男性のみで、女性の意見が受け入れられにくい	決定事項については、従来、男性が取り仕切っているので、女性が口を挟みにくい	主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれる	お茶だしや皿洗いなどは女性だけがする暗黙の役割分担がある	地域活動で女性が発言することはしゃべりだと思われがちである	地域活動に参加できるような家族の理解や協力がいない	参加する女性側の努力がまだ足りない	その他	不明	
全体	263 100.0%	73 27.8%	121 46.0%	71 27.0%	86 32.7%	78 29.7%	4 1.5%	17 6.5%	15 5.7%	3 1.1%	
年齢	18歳～19歳	6 100.0%	1 16.7%	0 0.0%	5 83.3%	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	2 33.3%	0 0.0%
	20歳～29歳	21 100.0%	4 19.0%	13 61.9%	4 19.0%	13 61.9%	5 23.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	30歳～39歳	41 100.0%	13 31.7%	16 39.0%	9 22.0%	17 41.5%	12 29.3%	1 2.4%	0 0.0%	4 9.8%	1 2.4%
	40歳～49歳	49 100.0%	17 34.7%	26 53.1%	11 22.4%	16 32.7%	12 24.5%	0 0.0%	2 4.1%	2 4.1%	0 0.0%
	50歳～59歳	69 100.0%	18 26.1%	27 39.1%	20 29.0%	23 33.3%	25 36.2%	1 1.4%	7 10.1%	3 4.3%	1 1.4%
	60歳～69歳	46 100.0%	14 30.4%	27 58.7%	15 32.6%	9 19.6%	15 32.6%	1 2.2%	2 4.3%	1 2.2%	0 0.0%
	70歳以上	28 100.0%	5 17.9%	11 39.3%	6 21.4%	7 25.0%	8 28.6%	0 0.0%	6 21.4%	3 10.7%	0 0.0%
	不明	3 100.0%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%

18 歳～19 歳を除き、おおよそ「決定事項については、従来、男性が取り仕切っているので、女性が口を挟みにくい」が比較的割合の高い回答となっている。50～60 歳代は、「地域活動で女性が発言することはしゃべりだと思われがちである」と回答する割合が他の年代よりも高い。

問19.付問 できにくいと思う理由



大分県調査と比較すると、前回調査、今回調査とも「役員は男性のみで、女性の意見が受け入れられにくい」と「決定事項については、従来、男性が取り仕切っているので、女性が口を挟みにくい」という回答の割合が倍以上となっている。

また、前回調査との比較を行うと、「地域活動で女性が発言することはでしゃばりだと思われがちである」の回答の割合が 10.6%減少している。

4. 配偶者・恋人間の暴力（DV）について

問20. あなたの配偶者または恋人が、次の表にあげるようなことをした場合、あなたは、それを暴力だと思いますか。（1つに○）

- 身体的暴力については、「暴力にあたると思う」と回答する割合が7割～9割を占めている。
- 精神的暴力、性的暴力、経済的暴力、社会的暴力は、項目によって回答に差がみられる。これらの種類の暴力は、身体的暴力のように目に見える直接的な被害へ至るものが少ないため、個人の認識の差が表れていることがわかる。

	合計	問20.暴力と思うかについて				
		どんな場合も暴力にあたると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたると思わない	不明	
身体的暴力	①殴る・蹴る・平手で打つ	1,273 100.0%	1,064 83.6%	127 10.0%	4 0.3%	78 6.1%
	②髪を引っ張る	1,273 100.0%	1,076 84.6%	91 7.1%	8 0.6%	98 7.7%
	③突き飛ばす	1,273 100.0%	996 78.2%	168 13.2%	14 1.1%	95 7.5%
	④物を投げつける	1,273 100.0%	1,003 78.8%	163 12.8%	12 0.9%	95 7.5%
	⑤首を絞める	1,273 100.0%	1,160 91.2%	14 1.1%	3 0.2%	96 7.5%
	⑥刃物などでおどす	1,273 100.0%	1,153 90.5%	16 1.3%	6 0.5%	98 7.7%
	⑦殴るふりをしておどす	1,273 100.0%	938 73.7%	207 16.3%	27 2.1%	101 7.9%
精神的暴力	①無視する	1,273 100.0%	536 42.1%	532 41.8%	109 8.6%	96 7.5%
	②大声で怒鳴る	1,273 100.0%	699 54.9%	440 34.6%	40 3.1%	94 7.4%
	③人格を否定するような暴言を吐く	1,273 100.0%	998 78.4%	168 13.2%	19 1.5%	88 6.9%
	④生命・身体に対する脅迫	1,273 100.0%	1,096 86.1%	74 5.8%	8 0.6%	95 7.5%
性的暴力	①避妊に協力しない	1,273 100.0%	741 58.2%	332 26.1%	77 6.0%	123 9.7%
	②性行為の強要	1,273 100.0%	889 69.8%	239 18.8%	29 2.3%	116 9.1%
	③ポルノビデオ等を無理やり見せる	1,273 100.0%	880 69.1%	210 16.5%	56 4.4%	127 10.0%
	④リベンジポルノ	1,273 100.0%	984 77.3%	98 7.7%	27 2.1%	164 12.9%
	⑤中絶の強要	1,273 100.1%	885 69.6%	245 19.2%	21 1.6%	122 9.6%
経済的暴力	①生活費を渡さない・使わせない	1,273 100.0%	905 71.1%	236 18.5%	25 2.0%	107 8.4%
	②借金の強要	1,273 100.0%	1,020 80.1%	122 9.6%	19 1.5%	112 8.8%
	③外で働くことを禁じる	1,273 100.0%	696 54.7%	406 31.9%	60 4.7%	111 8.7%
	④「誰のおかげで生活できているんだ」など見下す	1,273 100.0%	969 76.1%	174 13.7%	23 1.8%	107 8.4%
社会的暴力	①外出を制限する	1,273 100.0%	863 67.8%	262 20.6%	40 3.1%	108 8.5%
	②交友関係や電話を細かくチェックする	1,273 100.0%	796 62.5%	327 25.7%	41 3.2%	109 8.6%

問20.暴力と思うかについて【身体的暴力】

		どんな場合も暴力にあたると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたると思わない	不明
凡例					
① 殴る・蹴る・平手で打つ	男性 (n=457)	80.6		13.1	5.9
	女性 (n=790)	86.4		8.5	4.8
	不明 (n=26)	50.0		50.0	
② 髪を引っ張る	男性 (n=457)	82.7		8.3	8.1
	女性 (n=790)	86.9		6.5	6.1
	不明 (n=26)	42.3	7.7	50.0	
③ 突き飛ばす	男性 (n=457)	75.7		15.3	7.7
	女性 (n=790)	81.0		12.2	5.9
	不明 (n=26)	38.5	7.7	50.0	3.8
④ 物を投げつける	男性 (n=457)	76.6		14.7	7.4
	女性 (n=790)	81.3		12.0	6.1
	不明 (n=26)	42.3	3.8	50.1	
⑤ 首を絞める	男性 (n=457)	89.5		2.4	7.9
	女性 (n=790)	93.4		0.4	5.9
	不明 (n=26)	50.0		50.0	
⑥ 刃物などでおどす	男性 (n=457)	89.9		1.8	7.9
	女性 (n=790)	92.5		0.9	6.1
	不明 (n=26)	42.3	3.8	53.9	
⑦ 殴るふりをしておどす	男性 (n=457)	71.0		18.2	7.7
	女性 (n=790)	76.7		15.1	6.6
	不明 (n=26)	26.9	19.2	53.9	

「①殴る・蹴る・平手で打つ」について、「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した男性の割合は女性より約5%多くなっている。また、「③突き飛ばす」「⑦殴るふりをしておどす」についても、女性より男性の方が、「暴力の場合とそうでない場合がある」の回答割合が高かった。また、「⑤首を絞める」「⑥刃物でおどす」といったような、程度や状況によっては生死にかかわるもの、恐怖を強く感じるものに関しては、

「どんな場合も暴力にあたると思う」との回答が男性でほぼ9割、女性で9割以上となっている。

		問20.暴力と思うかについて【精神的暴力】			
		どんな場合も暴力にあたると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたると思わない	不明
凡例					
① 無視する	男性 (n=457)	39.6		43.1	9.6 7.7
	女性 (n=790)	44.4		41.4	8.1 6.1
	不明 (n=26)	15.4	30.8	3.8	50.0
② 大声で怒鳴る	男性 (n=457)	48.7		39.2	4.4 7.7
	女性 (n=790)	59.3		32.5	2.4 5.8
	不明 (n=26)	30.8	15.4	3.8	50.0
③ 人格を否定するような暴言を吐く	男性 (n=457)	77.4		13.8	2.2 6.6
	女性 (n=790)	80.4		12.8	1.1 5.7
	不明 (n=26)	34.6	15.4		50.0
④ 生命・身体に対する脅迫	男性 (n=457)	83.6		8.3	0.7 7.4
	女性 (n=790)	89.0		4.3	0.6 6.1
	不明 (n=26)	42.3	7.7		50.0

精神的な暴力について、「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した割合は、いずれも女性より男性のほうが高い傾向となっている。「④生命・身体に対する脅迫」については、男性の「暴力の場合とそうでない場合がある」割合が女性の約2倍だった。

問20.暴力と思うかについて【性的暴力】

		どんな場合も暴力にあたると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	不明
凡例					
① 避妊に協力しない	男性 (n=457)	54.5		29.1	6.3 10.1
	女性 (n=790)	61.8		24.4	6.1 7.7
	不明 (n=26)	15.4	23.1	61.5	
② 性行為の強要	男性 (n=457)	70.8		18.2	2.2 8.8
	女性 (n=790)	70.8		19.1	2.4 7.7
	不明 (n=26)	23.1	19.2	57.7	
③ ポルノビデオ等を無理やり見せる	男性 (n=457)	70.0		16.0	3.9 10.1
	女性 (n=790)	70.4		16.7	4.7 8.2
	不明 (n=26)	15.4	19.2	3.8	61.6
④ リベンジポルノ	男性 (n=457)	77.6		7.9	2.0 12.5
	女性 (n=790)	78.8		7.5	2.3 11.4
	不明 (n=26)	23.1	11.5	65.4	
⑤ 中絶の強要	男性 (n=457)	69.0		20.1	1.3 9.6
	女性 (n=790)	71.6		18.7	1.9 7.8
	不明 (n=26)	19.2	19.2	61.6	

「①避妊に協力しない」の項目で、女性より男性のほうが「暴力の場合とそうでない場合がある」との割合が高い。その差は他の項目よりも大きく4.7%となっている。他の項目については、男女の差はみられなかった。

		問20.暴力と思うかについて【経済的暴力】			
		どんな場合も暴力にあたると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	不明
凡例					2.2
① 生活費を渡さない・使わせ ない	男性 (n=457)	65.0		24.7	8.1
	女性 (n=790)	75.7		15.4	7.0
	不明 (n=26)	38.5	3.8	57.7	
					2.0
② 借金の強要	男性 (n=457)	79.4		9.8	8.8
	女性 (n=790)	82.0		9.5	7.2
	不明 (n=26)	34.6	7.7	57.7	
					1.3
③ 外で働くことを禁じる	男性 (n=457)	53.0		31.9	9.2
	女性 (n=790)	57.1		32.0	6.8
	不明 (n=26)	11.5	26.9	3.8	57.8
					5.9
④ 「誰のおかげで生活できているんだ」などと見下す	男性 (n=457)	74.4		14.7	8.5
	女性 (n=790)	78.5		13.2	6.8
	不明 (n=26)	34.6	11.5	53.9	
					2.4
					1.5

「①生活費を渡さない・使わせない」の項目で、女性より男性のほうが「暴力の場合とそうでない場合がある」との割合が高い。その差は問 20 の全項目の中で一番大きく 9.3%となっている。他の項目については、男女の差はみられなかった。

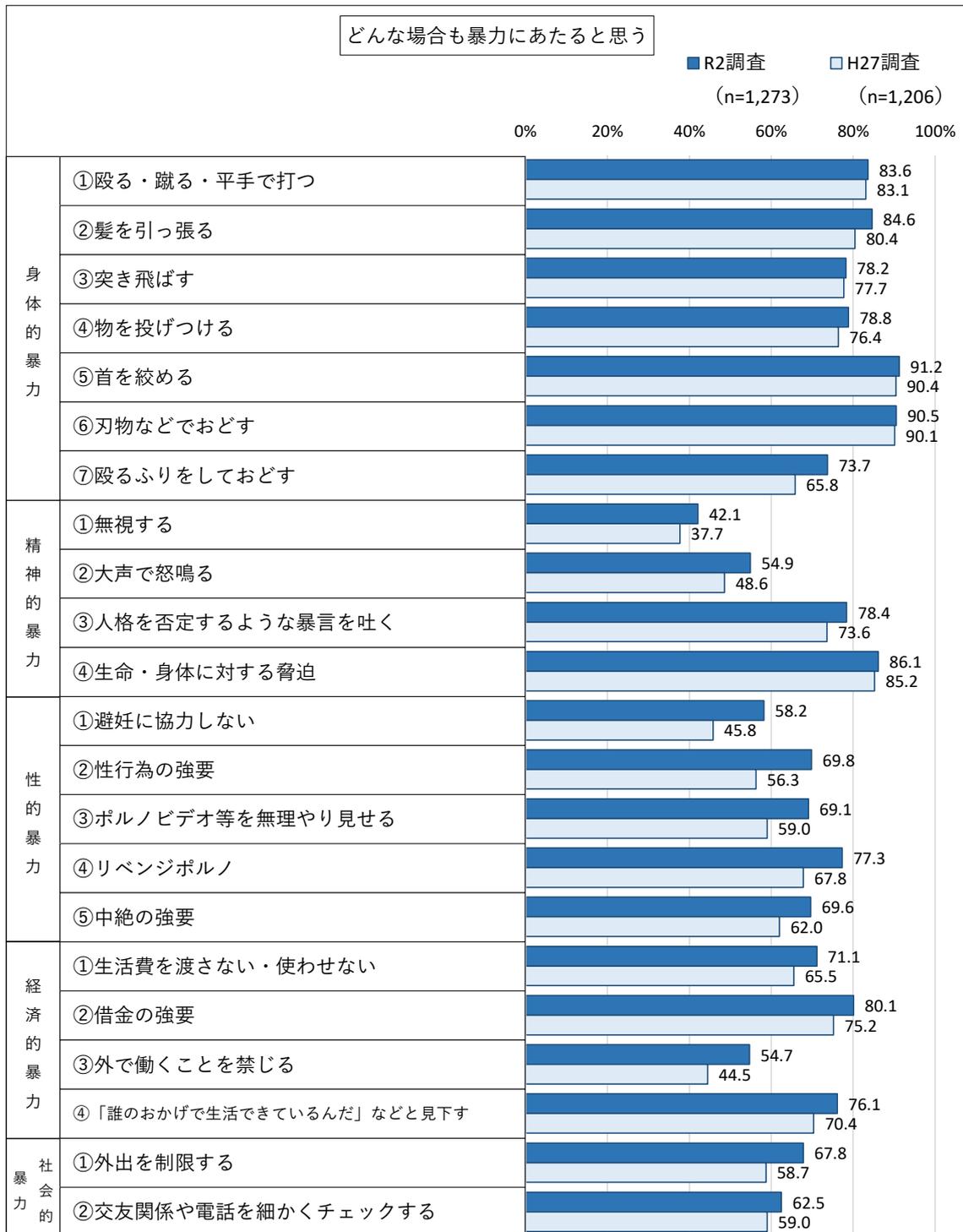
経済面においては、「問 11 性別による不平等の有無」における女性の回答結果で「賃金」の格差が最も高い結果となっていた。賃金に対する男女間の格差があることが、経済的暴力につながっていくことも懸念される。

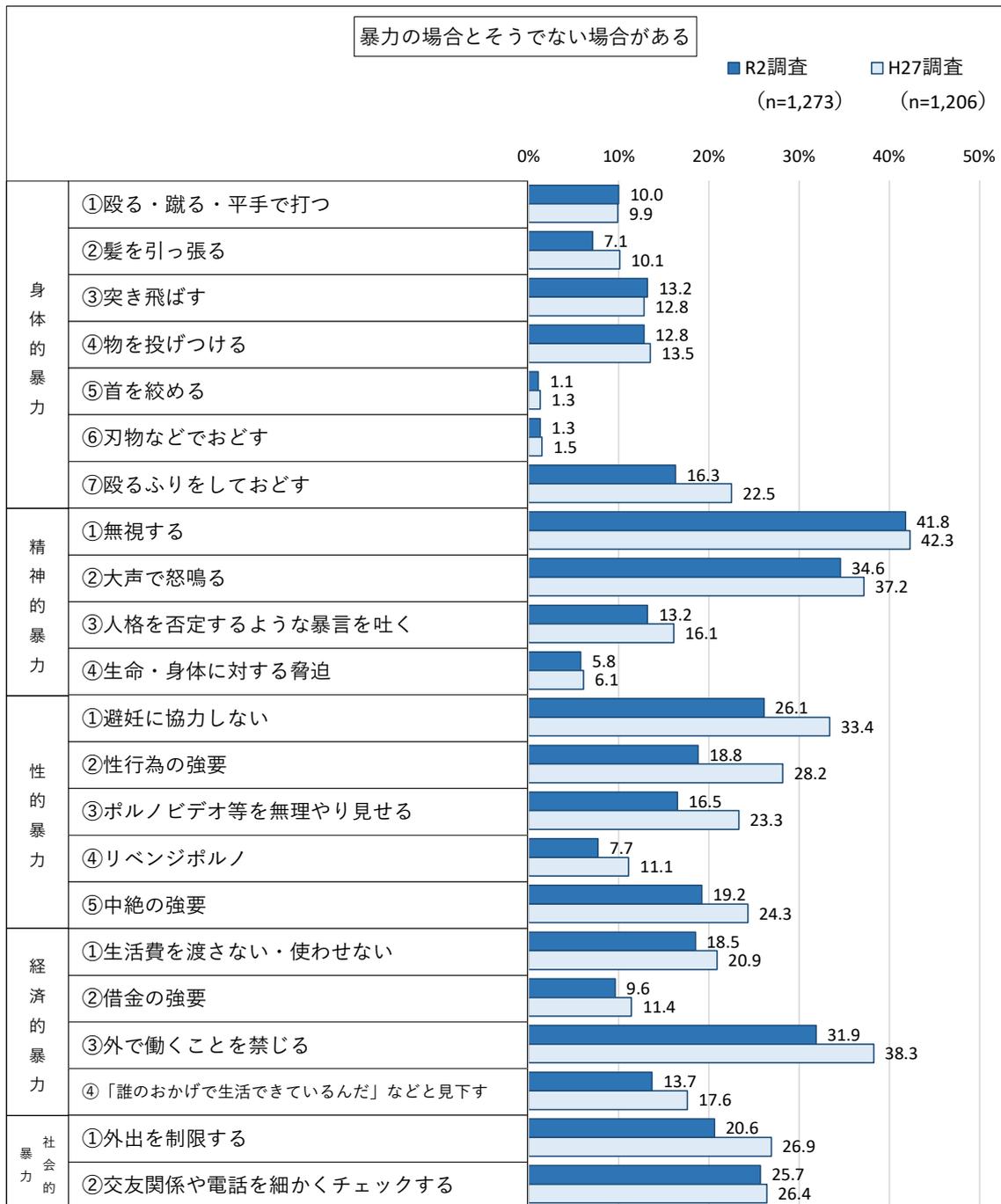
問20.暴力と思うかについて【社会的暴力】					
		どんな場合も暴力にあたると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	不明
凡例					
① 外出を制限する	男性 (n=457)	65.0		24.7	2.2 8.1
	女性 (n=790)	75.7	3.8	15.4	1.9 7.0
	不明 (n=26)	38.5		57.7	
					2.0 8.8
② 交友関係や電話を細かくチェックする	男性 (n=457)	79.4		9.8	1.3 7.2
	女性 (n=790)	82.0		9.5	
	不明 (n=26)	34.6	7.7	57.7	

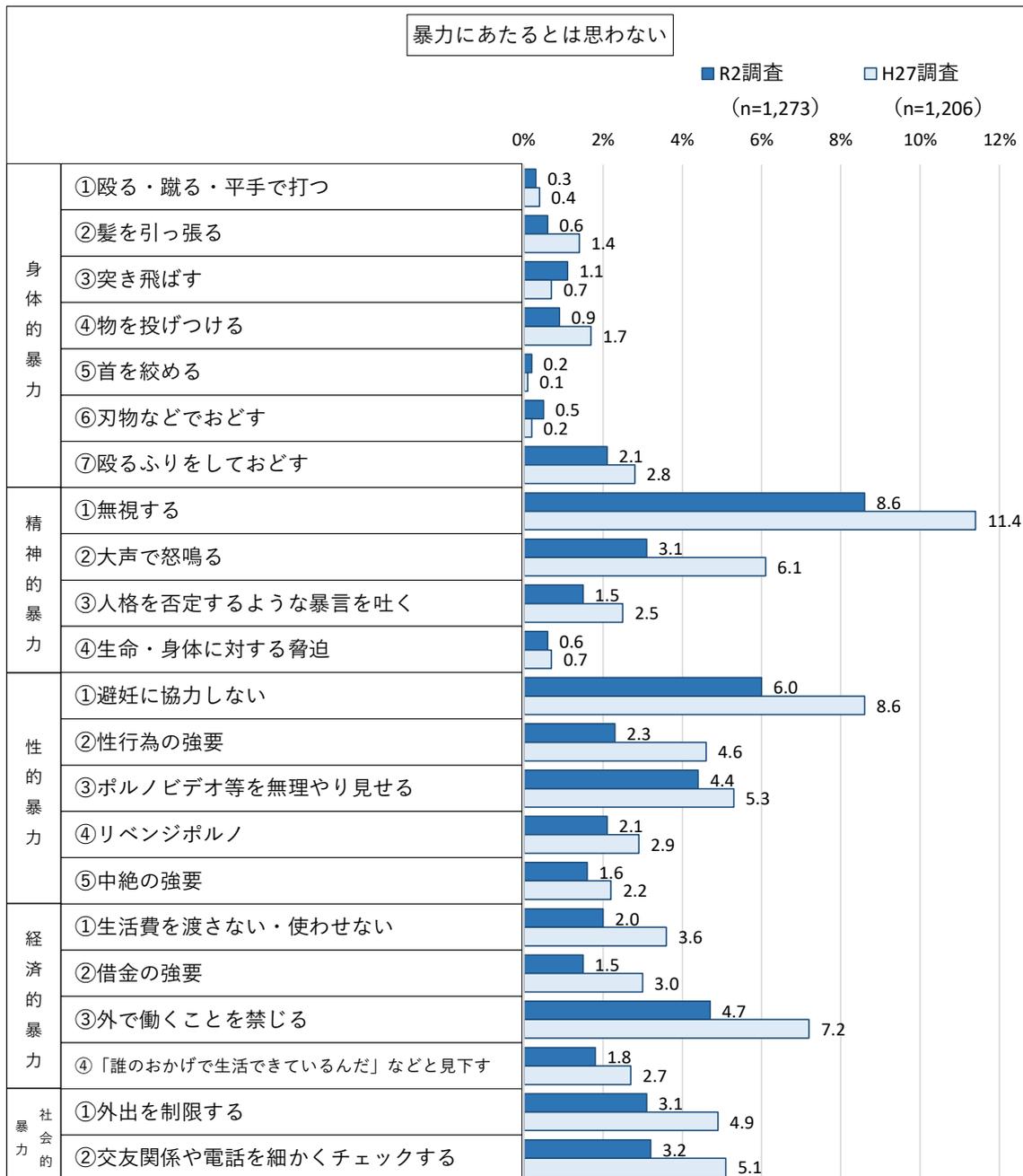
社会的暴力に関するいずれの項目でも、男女間の意識の差がみられる。特に男性のほうが女性より「暴力の場合とそうでない場合がある」との割合が高くなっている。



下記のグラフは、暴力の分類ごとに、前回調査で比較できる項目を抜粋したものである。







身体的暴力である「③突き飛ばす」については、前回調査よりも今回調査の方が、「暴力の場合とそうでない場合がある」の回答割合が増加した。

精神的暴力である「①無視する」については、前回調査よりも「どんな場合も暴力にあたると思う」という割合が、4.4%増加している。

性的暴行の「②性行為の強要」については、前回調査と比較して「どんな場合も暴力にあたると思う」との回答の割合が13.5%増加した。

経済的暴力の「①生活費を渡さない・使わせない」では、前回調査より「どんな場合も暴力にあたると思う」の割合が5.6%増えた。

社会的暴力の2項目については、いずれも「暴力にあたると思わない」との回答が約3%に減少している。

問 21. あなたは、配偶者または恋人などの親密な男女の関係にある人との間で、次の項目のような経験はありますか。(1つに○)

- 男性は「されたことはない」との回答が女性よりも高い割合となる傾向がある。女性は、「されたことがある」へ回答する割合が男性よりも高い。男性の「されたことがある」との回答は、全体的に0%に近いものが多い。
- ※「されたことがある」は「何度もある(されたことがある。3年以内)」「1,2度ある(されたことがある。3年以内)」「それ以前(されたことがある。)」を合算している。

【身体への攻撃】		合計	問21.暴力の経験						
			何度もある (されたこ とがある。3 年以内)	1.2度ある (されたこ とがある。3 年以内)	それ以前 (されたこ とがある)	ない	したことが ある	不明	
性別	①たたく、突き飛ばす	全体	1,273	16	37	69	1,011	38	102
			100.0%	1.3%	2.9%	5.4%	79.4%	3.0%	8.0%
		男性	457	4	8	11	378	27	29
			100.0%	0.9%	1.8%	2.4%	82.7%	5.9%	6.3%
		女性	790	12	28	57	622	11	60
		100.0%	1.5%	3.5%	7.2%	78.8%	1.4%	7.6%	
		不明	26	0	1	1	11	0	13
		100.0%	0.0%	3.8%	3.8%	42.3%	0.0%	50.1%	
	②殴る、蹴る	全体	1,273	8	23	44	1,070	20	108
			100.0%	0.6%	1.8%	3.5%	84.0%	1.6%	8.5%
		男性	457	1	4	7	398	14	33
			100.0%	0.2%	0.9%	1.5%	87.1%	3.1%	7.2%
	女性	790	7	19	36	661	6	61	
	100.0%	0.9%	2.4%	4.6%	83.6%	0.8%	7.7%		
	不明	26	0	0	1	11	0	14	
	100.0%	0.0%	0.0%	3.8%	42.3%	0.0%	53.9%		
③体を傷つける可能性のある物で殴る	全体	1,273	4	5	11	1,126	17	110	
		100.0%	0.3%	0.4%	0.9%	88.5%	1.3%	8.6%	
	男性	457	0	1	3	412	7	34	
		100.0%	0.0%	0.2%	0.7%	90.2%	1.5%	7.4%	
	女性	790	4	4	7	703	10	62	
	100.0%	0.5%	0.5%	0.9%	89.0%	1.3%	7.8%		
	不明	26	0	0	1	11	0	14	
	100.0%	0.0%	0.0%	3.8%	42.3%	0.0%	53.9%		

「①たたく、突き飛ばす」について、女性は「されたことがある」との回答が12.2%となっており、男性の2.4倍となっている。反対に男性は、「したことがある」との回答が5.9%となっており、女性の約4倍となっている。

「②殴る、蹴る」について、女性は「されたことがある」との回答が7.9%となっており、男性の3倍となっている。反対に男性は、「したことがある」との回答が3.1%となっており、女性の約4倍となっている。

「③体を傷つける可能性のあるもので殴る」について、男性の90.2%が「されたことはない」と回答している。性別で大きな差はみられない。

【威嚇やおどし】			合計	問21.暴力の経験					
				何度もある (されたこ とがある。3 年以内)	1.2度ある (されたこ とがある。3 年以内)	それ以前 (されたこ とがある)	ない	したことが ある	不明
性別	①「殺す」「怪我をさせる」などと言っておどす	全体	1273 100.0%	6 0.5%	10 0.8%	22 1.7%	1110 87.2%	14 1.1%	111 8.7%
		男性	457 100.0%	0 0.0%	2 0.4%	3 0.7%	411 89.9%	8 1.8%	33 7.2%
		女性	790 100.0%	6 0.8%	8 1.0%	18 2.3%	688 87.0%	6 0.8%	64 8.1%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.8%	11 42.3%	0 0.0%	14 53.9%
	②殴るふりをしておどす	全体	1,273 100.0%	11 0.9%	18 1.4%	36 2.8%	1,073 84.3%	30 2.4%	105 8.2%
		男性	457 100.0%	0 0.0%	3 0.7%	5 1.1%	395 86.4%	22 4.8%	32 7.0%
		女性	790 100.0%	11 1.4%	15 1.9%	31 3.9%	666 84.3%	8 1.0%	59 7.5%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 46.2%	0 0.0%	14 53.8%
	③刃物などを突き付けておどす	全体	1,273 100.0%	4 0.3%	4 0.3%	12 0.9%	1,129 88.7%	15 1.2%	109 8.6%
		男性	457 100.0%	0 0.0%	2 0.4%	2 0.4%	411 90.0%	9 2.0%	33 7.2%
		女性	790 100.0%	4 0.5%	2 0.3%	10 1.3%	706 89.3%	6 0.8%	62 7.8%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 46.2%	0 0.0%	14 53.8%
	④家具や食器、日用品を投げたり壊すなどして、おどす	全体	1,273 100.0%	7 0.5%	22 1.7%	36 2.8%	1,064 83.7%	36 2.8%	108 8.5%
		男性	457 100.0%	0 0.0%	2 0.4%	3 0.7%	399 87.3%	19 4.2%	34 7.4%
		女性	790 100.0%	7 0.9%	20 2.5%	32 4.1%	654 82.7%	17 2.2%	60 7.6%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.8%	11 42.3%	0 0.0%	14 53.9%

①の言葉でおどす行為は、男性女性とも9割近くが「されたことがない」と回答している。

②の態度でおどす行為は、男性の86.4%が「されたことがない」と回答している。また4.8%が「したことがある」と回答している。女性の7.2%が「されたことがある」と回答している。

③刃物等でおどす行為は、性別で大きな差はみられない。

④物を投げたりしておどす行為は、女性の7.5%が「されたことがある」と回答している。同項目の男性の回答は1.1%のため、およそ7倍に上る。

【精神的・経済的に追い詰めること】		合計	問21.暴力の経験						
			何度もある (されたこと がある。3 年以内)	1.2度ある (されたこと がある。3 年以内)	それ以前 (されたこと がある)	ない	したことが ある	不明	
性別	①何を言っても長時間 無視し続ける	全体	1,273 100.0%	28 2.2%	41 3.2%	40 3.1%	966 75.9%	90 7.1%	108 8.5%
		男性	457 100.0%	3 0.7%	14 3.1%	6 1.3%	361 78.9%	42 9.2%	31 6.8%
		女性	790 100.0%	25 3.2%	27 3.4%	34 4.3%	593 75.0%	48 6.1%	63 8.0%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 46.2%	0 0.0%	14 53.8%
		②「誰のおかげで生活 できているんだ」「か いしょうなし」「死 ね」などとののしる	全体	1,273 100.0%	14 1.1%	17 1.3%	29 2.3%	1,086 85.3%	18 1.4%
	男性	457 100.0%	2 0.4%	2 0.4%	3 0.7%	406 88.9%	11 2.4%	33 7.2%	
	女性	790 100.0%	12 1.5%	15 1.9%	26 3.3%	669 84.7%	7 0.9%	61 7.7%	
	不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 42.3%	0 0.0%	15 57.7%	
	③大切にしている物を わざと捨てたり壊した りする	全体	1,273 100.0%	9 0.7%	10 0.8%	21 1.6%	1,105 86.9%	21 1.6%	107 8.4%
	男性	457 100.0%	2 0.4%	3 0.7%	2 0.4%	411 89.9%	8 1.8%	31 6.8%	
	女性	790 100.0%	7 0.9%	7 0.9%	19 2.4%	682 86.4%	13 1.6%	62 7.8%	
	不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 46.2%	0 0.0%	14 53.8%	
	④社会的な活動や就職 などを許さない	全体	1,273 100.0%	5 0.4%	4 0.3%	10 0.8%	1,132 89.0%	12 0.9%	110 8.6%
	男性	457 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	418 91.5%	7 1.5%	32 7.0%	
	女性	790 100.0%	5 0.6%	4 0.5%	10 1.3%	702 88.9%	5 0.6%	64 8.1%	
	不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 46.2%	0 0.0%	14 53.8%	
	⑤交友関係や電話・外 出・手紙などのやりと り、お金の使い道を細 かく監視・制限する	全体	1,273 100.0%	7 0.5%	13 1.0%	24 1.9%	1,101 86.6%	18 1.4%	110 8.6%
	男性	457 100.0%	1 0.2%	1 0.2%	3 0.7%	413 90.4%	7 1.5%	32 7.0%	
	女性	790 100.0%	6 0.8%	12 1.5%	21 2.7%	676 85.5%	11 1.4%	64 8.1%	
	不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 46.2%	0 0.0%	14 53.8%	
⑥生活費などの必要な 金を渡さない、食事を させない	全体	1,273 100.0%	10 0.8%	4 0.3%	10 0.8%	1,131 88.8%	10 0.8%	108 8.5%	
男性	457 100.0%	1 0.2%	1 0.2%	1 0.2%	416 91.1%	5 1.1%	33 7.2%		
女性	790 100.0%	9 1.1%	3 0.4%	9 1.1%	703 89.1%	5 0.6%	61 7.7%		
不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 46.2%	0 0.0%	14 53.8%		

「①無視する」は、女性の10.9%が「されたことがある」と回答しており、男性の約2倍となっている。

「③大切なものを壊す」は、女性は4.2%が「されたことがある」と回答しており、男性の約3倍となっている。

「⑤行動の監視、制限する」は、男性の9割が「されたことはない」と回答している。女性の5%が、「されたことがある」と回答している。

【性に関すること】			合計	問21.暴力の経験					
				何度もある (されたこ とがある。3 年以内)	1.2度ある (されたこ とがある。3 年以内)	それ以前 (されたこ とがある)	ない	したことが ある	不明
性別	①見たくないのに、ポ ルノビデオやポルノ雑 誌を見せる	全体	1,273 100.0%	1 0.1%	3 0.2%	4 0.3%	1,144 89.9%	12 0.9%	109 8.6%
		男性	457 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.2%	416 91.1%	6 1.3%	34 7.4%
		女性	790 100.0%	1 0.1%	3 0.4%	3 0.4%	716 90.6%	6 0.8%	61 7.7%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 46.2%	0 0.0%	14 53.8%
	②相手がいやがってい るのに、性的な行為を 強要する	全体	1,273 100.0%	11 0.9%	11 0.9%	29 2.3%	1,094 85.8%	19 1.5%	109 8.6%
		男性	457 100.0%	0 0.0%	1 0.2%	0 0.0%	408 89.3%	14 3.1%	34 7.4%
		女性	790 100.0%	11 1.4%	10 1.3%	29 3.7%	674 85.3%	5 0.6%	61 7.7%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 46.2%	0 0.0%	14 53.8%
	③避妊に協力しない	全体	1,273 100.0%	13 1.0%	2 0.2%	16 1.3%	1,123 88.1%	11 0.9%	108 8.5%
		男性	457 100.0%	2 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	416 91.1%	6 1.3%	33 7.2%
		女性	790 100.0%	11 1.4%	2 0.3%	16 2.0%	695 88.0%	5 0.6%	61 7.7%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 46.2%	0 0.0%	14 53.8%
	④中絶を強要する	全体	1,273 100.0%	5 0.4%	6 0.5%	7 0.5%	1,131 88.9%	12 0.9%	112 8.8%
		男性	457 100.0%	0 0.0%	1 0.2%	1 0.2%	413 90.4%	7 1.5%	35 7.7%
		女性	790 100.0%	5 0.6%	5 0.6%	6 0.8%	706 89.4%	5 0.6%	63 8.0%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 46.2%	0 0.0%	14 53.8%

「①見たくないものを見せる」は、性別で大きな差はみられない。

「②性的行為の強要」は、男性は「されたことはない」との回答が 89.3%、女性は 85.3%で約 4%の差がみられる。また、女性の 6.4%が、「されたことがある」と回答しており、全体的に男性と女性で差がみられる。

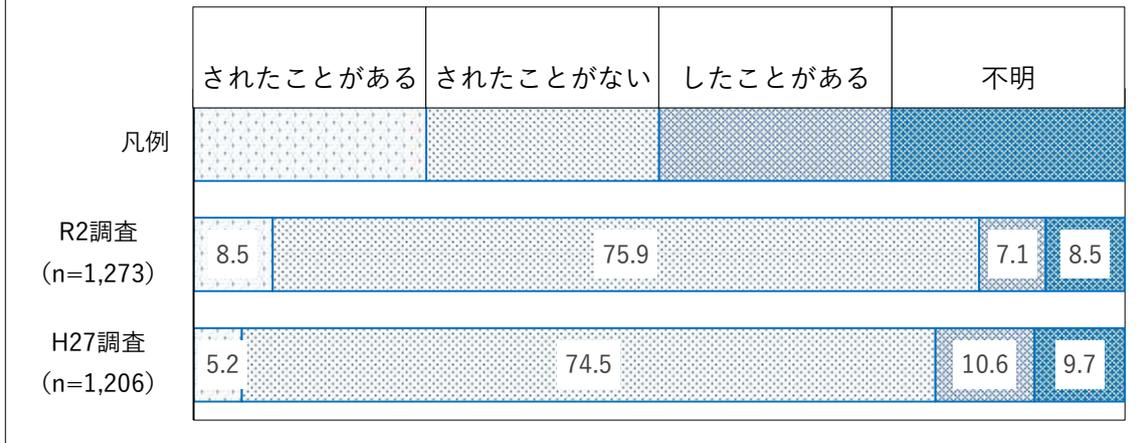
「③避妊に非協力」は、「されたことがある」は女性が高く 3.7%であり、男女間で 3.3%の差がみられる。一方で「したことがある」は男性が高く 1.3%で、0.7%の差がみられる。

「④中絶の強要」は、男女で約 9 割が「されたことはない」と回答している。

「されたことがある」は女性が多く、「したことがある」は男性が多い。



問21.暴力の経験【精神的】①無視する



上記グラフは、前回調査との差が大きかった項目である。ほとんどの項目において、前回調査との差があまりない。その中において、上記グラフの「【精神的】①無視する」の項目は、前回調査より「されたことがある」と回答した割合が3.3%増えている。

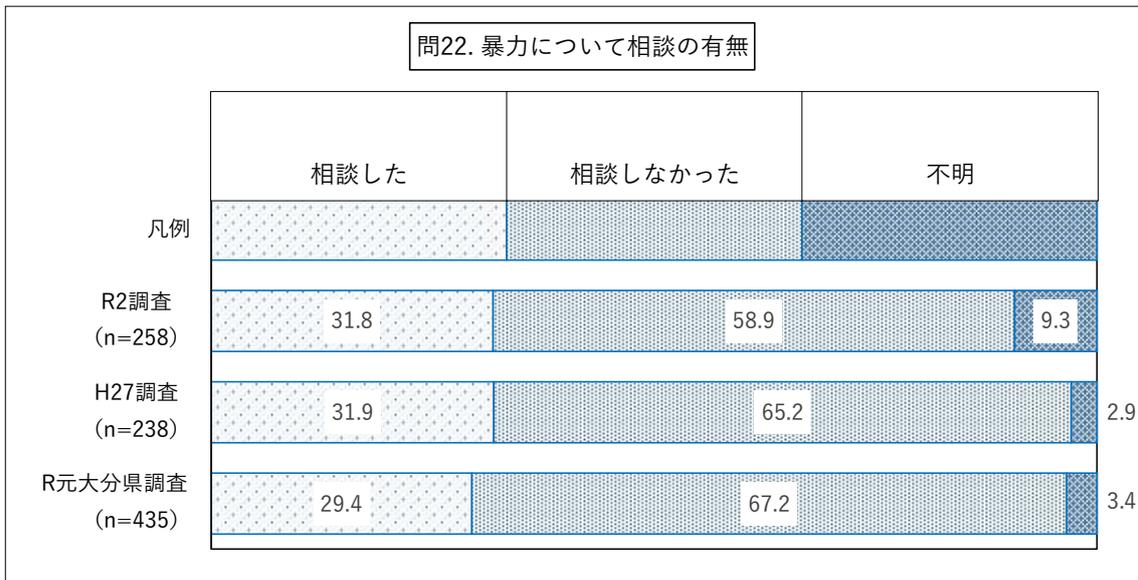
問 22. 問 21 で「されたことがある」と回答した方にお聞きします。あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(1 つに○)

●全体では、「相談しなかった」が最も高く 58.9%となっている。

		合計	問22. 暴力について相談の有無		
			相談した	相談しなかった	不明
全体		258 100.0%	82 31.8%	152 58.9%	24 9.3%
性別	男性	51 100.0%	9 17.6%	38 74.6%	4 7.8%
	女性	205 100.0%	72 35.1%	114 55.6%	19 9.3%
	不明	2 100.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%

男性と女性の差を見ると、女性は「相談した」との回答が男性の約 2 倍にあたる 35.1% となっている。

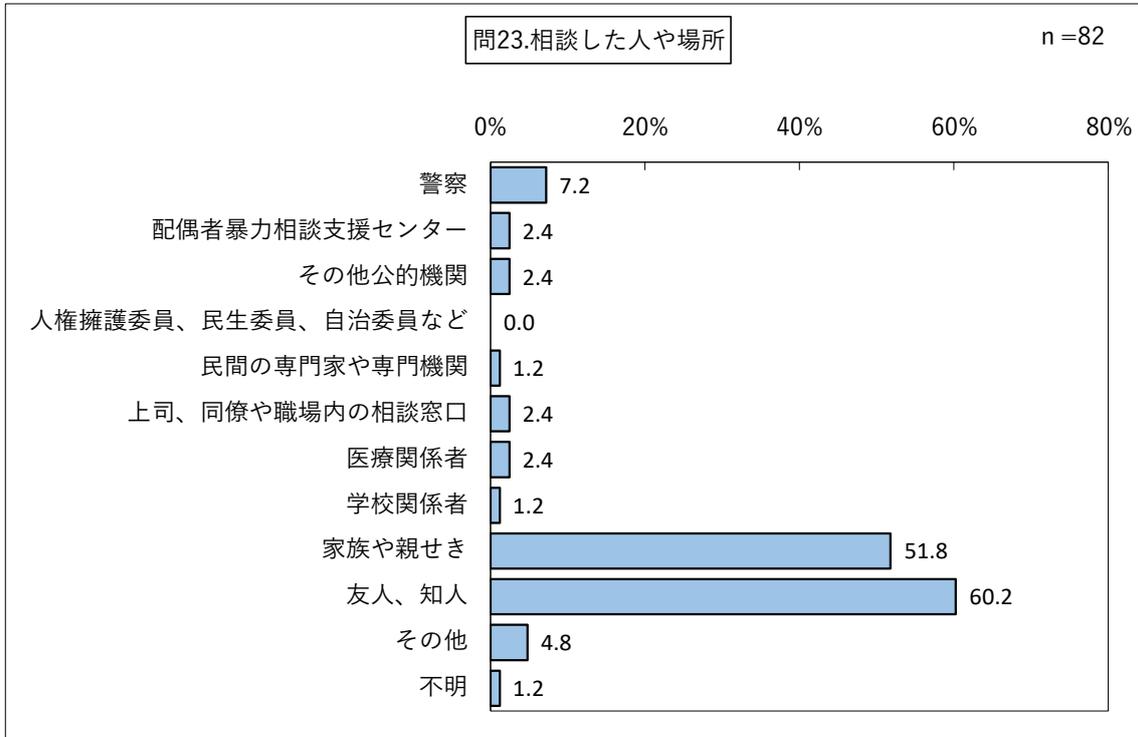
男性は「相談しなかった」との回答が、女性よりも 19.0% 高く回答しており、74.6% となっている。



大分県調査及び前回調査と比較すると、あまり大きな差はみられなかった。

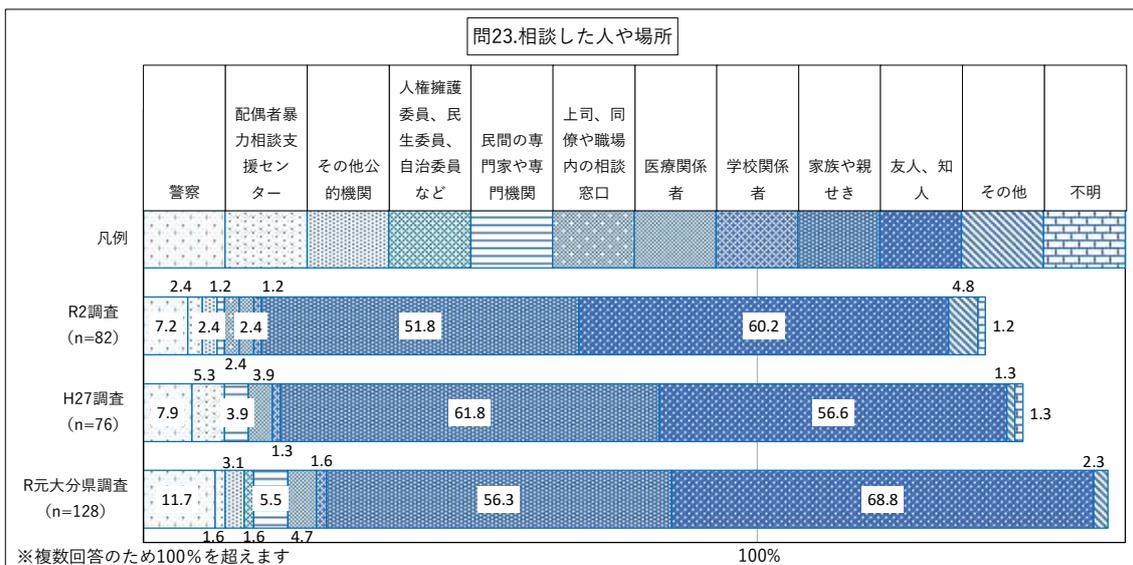
問 23. 問 22 で「1. 相談した」と答えた方にお聞きします。あなたが相談した人（場所）を教えてください。（〇はいくつでも）

●全体では、「友人、知人」が最も高く 60.2%、次いで「家族や親せき」が 51.8% となっている。



	合計	問23. 相談した人や場所											
		警察	配偶者暴力相談支援センター	その他公的機関	人権擁護委員、民生委員、自治委員など	民間の専門家や専門機関	上司、同僚や職場内の相談窓口	医療関係者	学校関係者	家族や親せき	友人、知人	その他	不明
全体	82	6	2	2	0	1	2	2	1	43	50	4	1
	100.0%	7.2%	2.4%	2.4%	0.0%	1.2%	2.4%	2.4%	1.2%	51.8%	60.2%	4.8%	1.2%
性別													
男性	9	2	1	0	0	0	1	0	1	0	6	1	1
	100.0%	20.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	10.0%	0.0%	60.0%	10.0%	10.0%
女性	72	4	1	2	0	1	1	2	0	43	43	3	0
	100.0%	5.6%	1.4%	2.8%	0.0%	1.4%	1.4%	2.8%	0.0%	59.7%	59.7%	4.2%	0.0%
不明	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

男性は「友人、知人」と回答した人が多く、女性は「友人、知人」に加えて「家族や親戚」と回答した人も多い。男性より女性の方が回答者数が多く、そのため女性の方が男性よりも様々な機関等に相談をしているという結果が表れている。



前回調査と比較すると、「配偶者暴力相談支援センター」と回答した割合は約半分（今回調査 2.4%、前回調査 5.3%）になっている。また、いずれの調査結果も「家族や親せき」「友人、知人」と回答した割合が大半を占めているが、前回調査では「家族や親せき」と回答した割合が最も多かったのに対して、今回調査では「友人、知人」の割合が最も多くなっている。

問 24. 問 22 で「2. 相談しなかった」と答えた方にお聞きします。あなたが、誰（どこ）にも相談しなかったのはなぜですか。（〇はいくつでも）

●全体では、「自分にも悪いところがあった」と思った」が最も高く 40.1%、次いで「相談するほどのことではないと思った」が 39.5%、「相談しても無駄だと思った」が 32.2%となっている。

（項目が多いため、表を上下 2 段に分けて掲載）

	合計	問24. 相談しなかった理由									
		誰（どこ）に相談してよいかわからなかった	恥ずかしくて誰にも言えなかった	相談しても無駄だと思った	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った	配偶者、恋人などに「誰にも言うな」と脅された	相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていたらいいと思った	世間体が悪い	他人を巻き込みたくなかった	
全体	155 100.0%	16 10.3%	25 16.1%	49 31.6%	12 7.7%	2 1.3%	7 4.5%	48 31.0%	15 9.7%	23 14.8%	
性別	男性	39 100.0%	5 12.8%	4 10.3%	12 30.8%	1 2.6%	0 0.0%	1 2.6%	10 25.6%	3 7.7%	
	女性	116 100.0%	11 9.5%	21 18.1%	37 31.9%	11 9.5%	2 1.7%	6 5.2%	38 32.8%	12 10.3%	
	不明	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	

	合計	問24. 相談しなかった理由									
		他人に知られると、これまで通りの付き合いができなくなると思った	そのことについて思い出しにくかった	自分にも悪いところがあると思った	相手の行為は愛情の表現だと思った	相手と別れた後の自立に不安があったから	相談するほどのことではないと思った	それがDV（暴力）だと思わなかった	その他	不明	
全体	155 100.0%	15 9.7%	8 5.2%	61 39.4%	13 8.4%	6 3.9%	60 38.7%	11 7.1%	7 4.5%	7 4.5%	
性別	男性	39 100.0%	1 2.6%	1 2.6%	14 35.9%	2 5.1%	0 0.0%	16 41.0%	2 5.1%	1 2.6%	
	女性	116 100.0%	14 12.1%	7 6.0%	47 40.5%	11 9.5%	6 5.2%	44 37.9%	9 7.8%	6 5.2%	
	不明	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	

男性と女性の差を見ると、男性が女性よりも高い割合であった項目は「誰（どこ）に相談してよいかわからなかった」が 12.8%、「相談するほどのことではないと思った」が 41.0%となっている。

女性のみ「配偶者、恋人などに「誰にも言うな」と脅された」「相手と別れた後の自立に不安があったから」との回答が得られている。

	割合が多かった回答上位3件		
	1	2	3
R2調査 (n=155)	自分にも悪いところがある と思った 39.4%	相談するほどのことではな いと思った 38.7%	相談しても無駄だと思った 31.6%
H27調査 (n=155)	自分にも悪いところがある と思った 39.4%	相談するほどのことではな いと思った 33.5%	自分さえ我慢すれば、なん とかこのままやっていける と思った 31.0%
R元大分県調査 (n=182)	相手と別れた後の自立に不 安があったから 48.6%	相談しても無駄だと思った 36.3%	自分さえ我慢すれば、なん とかこのままやっていける と思った 34.6%

今回調査と前回調査、及び大分県調査の中で、回答した割合が多かった理由の上位3件を比較した。

前回調査との比較では、3番目に多かった回答に違いがみられた。

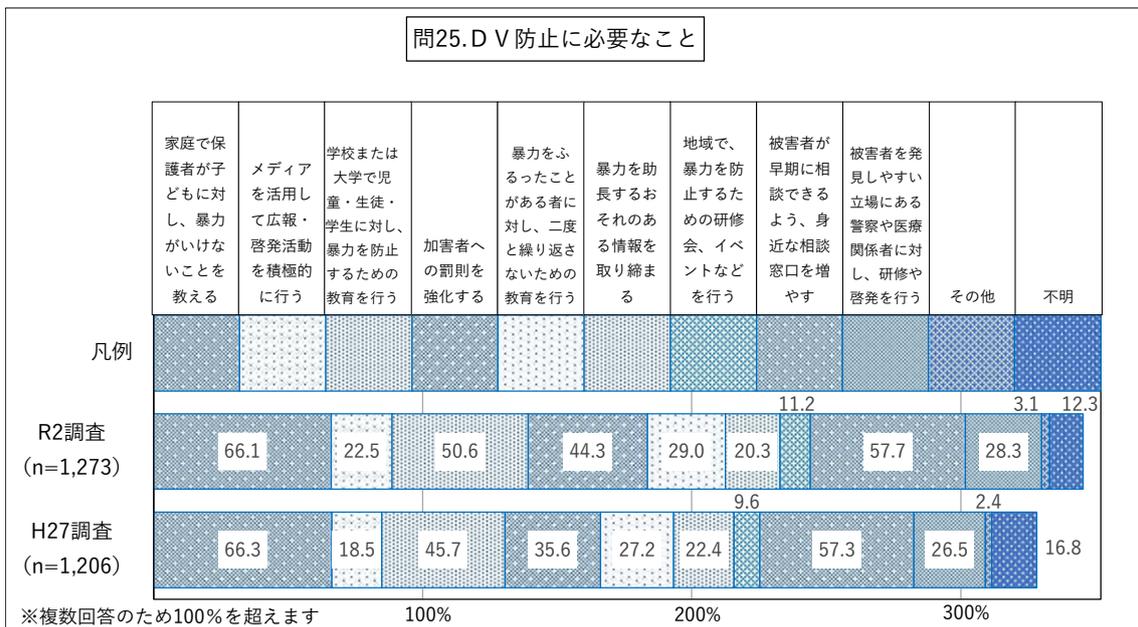
大分県調査では、「相手と別れた後の自立に不安があったから」との回答割合が最も高いという特徴がみられた。

問 25. 配偶者や恋人間(こいびとかん)の暴力を防止するためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

●全体では、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力がいけないことを教える」が最も高く66.1%、次いで「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が57.7%となっている。

	合計	問25.D V 防止に必要なこと											
		家庭で保護者が子どもに対し、暴力がいけないことを教える	メディアを活用して広報・啓発活動を積極的に行う	学校または大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	加害者への罰則を強化する	暴力をふったことがある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	暴力を助長するおそれのある情報を取り締まる	地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者に対し、研修や啓発を行う	その他	不明	
全体	1,273 100.0%	842 66.1%	287 22.5%	644 50.6%	564 44.3%	369 29.0%	258 20.3%	143 11.2%	734 57.7%	360 28.3%	40 3.1%	156 12.3%	
性別	男性	457 100.0%	306 67.0%	103 22.5%	239 52.3%	213 46.6%	132 28.9%	80 17.5%	62 13.6%	257 56.2%	129 28.2%	7 1.5%	49 10.7%
	女性	790 100.0%	529 67.0%	181 22.9%	401 50.8%	348 44.1%	233 29.5%	175 22.2%	78 9.9%	472 59.7%	229 29.0%	33 4.2%	88 11.1%
	不明	26 100.0%	7 26.9%	3 11.5%	4 15.4%	3 11.5%	4 15.4%	3 11.5%	3 11.5%	5 19.2%	2 7.7%	0 0.0%	19 73.1%

男性と女性の差を見ると、女性は「暴力を助長するおそれのある情報を取り締まる」との回答が男性よりも4.7%高く、22.2%となっている。



前回調査よりも、「加害者への罰則を強化する」との回答割合が8.7%増加した。また、「学校または大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」と回答する割合も4.9%高くなった。

5. 人権について

問26. あなたは、これまでに次のような行為を職場の上司・同僚、学校やサークルなどの指導者・関係者、近所や地域などで付き合いのある人にしたり、されたりしたことはありますか。相手について、異性および同性に関係なくお答えください。(1つに○)

●全体的に「されたことがある」との回答は低い割合である。特に性的被害については回答割合が低い。しかし、これらの各項目において、「されたことがある」という回答が若干名でも存在していることは見逃してはならないことである。

【セクハラ】			合計	問26. 人権侵害の経験				
				3年以内	それ以前	ない	したことがある	不明
性別	①「男のくせに」「女のくせに」等の発言	全体	1,273 100.0%	55 4.3%	64 5.0%	1,036 81.4%	14 1.1%	104 8.2%
		男性	457 100.0%	23 5.0%	12 2.6%	385 84.2%	6 1.3%	31 6.9%
		女性	790 100.0%	32 4.1%	52 6.6%	641 81.1%	8 1.0%	57 7.2%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 38.5%	0 0.0%	16 61.5%
	②結婚はまだ?等をしつこく言う	全体	1,273 100.0%	110 8.6%	104 8.2%	945 74.2%	11 0.9%	103 8.1%
		男性	457 100.0%	33 7.2%	14 3.1%	374 81.8%	7 1.5%	29 6.4%
		女性	790 100.0%	77 9.7%	89 11.3%	563 71.3%	4 0.5%	57 7.2%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	1 3.8%	8 30.8%	0 0.0%	17 65.4%
	③性的な冗談や質問をしつこく言う	全体	1,273 100.0%	78 6.1%	86 6.8%	989 77.7%	14 1.1%	106 8.3%
		男性	457 100.0%	21 4.6%	7 1.5%	388 84.9%	10 2.2%	31 6.8%
		女性	790 100.0%	57 7.2%	79 10.0%	592 74.9%	4 0.5%	58 7.4%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 34.6%	0 0.0%	17 65.4%
	④性的なうわさを流す	全体	1,273 100.0%	20 1.6%	25 2.0%	1,110 87.2%	8 0.6%	110 8.6%
		男性	457 100.0%	5 1.1%	0 0.0%	416 91.0%	4 0.9%	32 7.0%
		女性	790 100.0%	15 1.9%	25 3.2%	685 86.7%	4 0.5%	61 7.7%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 34.6%	0 0.0%	17 65.4%
	⑤異性の容姿等を話題にする	全体	1,273 100.0%	38 3.0%	44 3.5%	1,050 82.5%	36 2.8%	105 8.2%
		男性	457 100.0%	6 1.3%	5 1.1%	392 85.7%	24 5.3%	30 6.6%
		女性	790 100.0%	32 4.1%	39 4.9%	649 82.2%	12 1.5%	58 7.3%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 34.6%	0 0.0%	17 65.4%

【セクハラ】			合計	問26. 人権侵害の経験				
				3年以内	それ以前	ない	したことがある	不明
性別	⑥ヌード写真等を見せる	全体	1,273 100.0%	8 0.6%	12 0.9%	1,137 89.3%	10 0.8%	106 8.4%
		男性	457 100.0%	2 0.4%	1 0.2%	416 91.0%	7 1.5%	31 6.9%
		女性	790 100.0%	6 0.8%	11 1.4%	712 90.1%	3 0.4%	58 7.3%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 34.6%	0 0.0%	17 65.4%
	⑦接待等でお酌等を強要する	全体	1,273 100.0%	41 3.2%	94 7.4%	1,022 80.3%	11 0.9%	105 8.2%
		男性	457 100.0%	4 0.9%	4 0.9%	410 89.7%	7 1.5%	32 7.0%
		女性	790 100.0%	37 4.7%	90 11.4%	603 76.3%	4 0.5%	56 7.1%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 34.6%	0 0.0%	17 65.4%
	⑧さわる、抱きつく	全体	1,273 100.0%	50 3.9%	100 7.9%	999 78.5%	19 1.5%	105 8.2%
		男性	457 100.0%	4 0.9%	2 0.4%	406 88.8%	13 2.8%	32 7.1%
		女性	790 100.0%	46 5.8%	98 12.4%	584 73.9%	6 0.8%	56 7.1%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 34.6%	0 0.0%	17 65.4%
	⑨地位を利用して性的な関係を迫る	全体	1,273 100.0%	10 0.8%	23 1.8%	1,125 88.4%	9 0.7%	106 8.3%
		男性	457 100.0%	2 0.4%	1 0.2%	419 91.7%	4 0.9%	31 6.8%
		女性	790 100.0%	8 1.0%	22 2.8%	697 88.2%	5 0.6%	58 7.4%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 34.6%	0 0.0%	17 65.4%

【ストーカー】			合計	問26. 人権侵害の経験				
				3年以内	それ以前	ない	したことがある	不明
性別	①つきまとい・まぢぶせ	全体	1,273 100.0%	21 1.6%	50 3.9%	1,086 85.3%	9 0.7%	107 8.5%
		男性	457 100.0%	1 0.2%	7 1.5%	411 89.9%	6 1.3%	32 7.1%
		女性	790 100.0%	20 2.5%	43 5.4%	666 84.3%	3 0.4%	58 7.4%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 34.6%	0 0.0%	17 65.4%
	②盗聴・盗撮	全体	1,273 100.0%	6 0.5%	4 0.3%	1,147 90.1%	7 0.5%	109 8.6%
		男性	457 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	421 92.1%	4 0.9%	32 7.0%
		女性	790 100.0%	6 0.8%	4 0.5%	717 90.8%	3 0.4%	60 7.5%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 34.6%	0 0.0%	17 65.4%

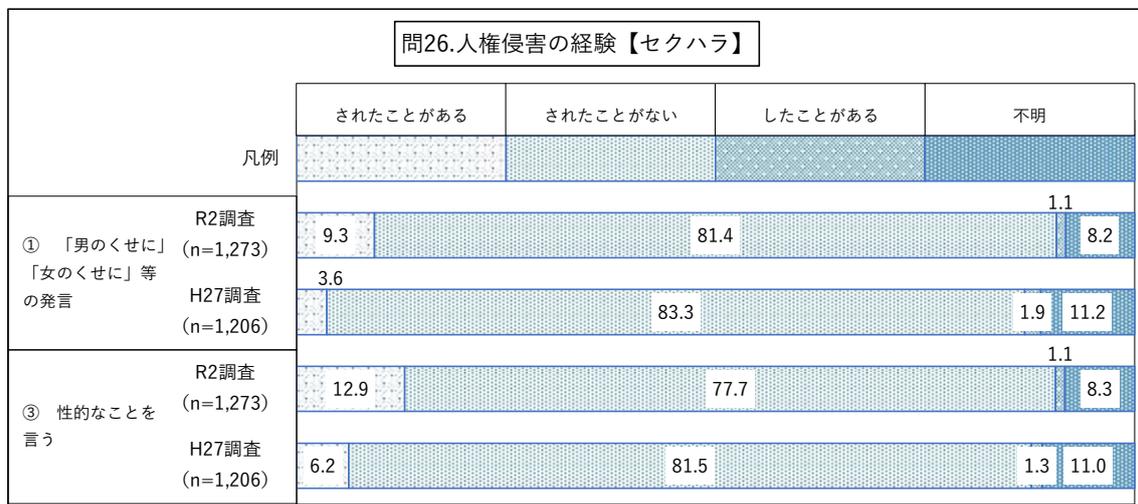
【ストーカー】			合計	問26. 人権侵害の経験					
				3年以内	それ以前	ない	したことがある	不明	
性別	③無言電話	全体	1,273	31	53	1,076	6	107	
			100.0%	2.4%	4.2%	84.5%	0.5%	8.4%	
		男性	457	4	3	415	4	31	
			100.0%	0.9%	0.7%	90.8%	0.9%	6.7%	
		女性	790	27	50	652	2	59	
			100.0%	3.4%	6.3%	82.5%	0.3%	7.5%	
		不明	26	0	0	9	0	17	
			100.0%	0.0%	0.0%	34.6%	0.0%	65.4%	
		④敷地内・家宅侵入	全体	1,273	10	9	1,138	8	108
				100.0%	0.8%	0.7%	89.4%	0.6%	8.5%
			男性	457	3	0	418	4	32
				100.0%	0.7%	0.0%	91.4%	0.9%	7.0%
			女性	790	7	9	711	4	59
				100.0%	0.9%	1.1%	90.0%	0.5%	7.5%
			不明	26	0	0	9	0	17
				100.0%	0.0%	0.0%	34.6%	0.0%	65.4%
		⑤不審な言動・行動	全体	1,273	15	25	1,113	10	110
				100.0%	1.2%	2.0%	87.4%	0.8%	8.6%
			男性	457	4	1	415	5	32
				100.0%	0.9%	0.2%	90.8%	1.1%	7.0%
			女性	790	11	24	689	5	61
				100.0%	1.4%	3.0%	87.2%	0.6%	7.8%
			不明	26	0	0	9	0	17
				100.0%	0.0%	0.0%	34.6%	0.0%	65.4%
		⑥不審なメール等	全体	1,273	21	22	1,112	7	111
				100.0%	1.6%	1.7%	87.4%	0.5%	8.8%
			男性	457	1	0	419	4	33
				100.0%	0.2%	0.0%	91.7%	0.9%	7.2%
		女性	790	20	22	684	3	61	
			100.0%	2.5%	2.8%	86.6%	0.4%	7.7%	
		不明	26	0	0	9	0	17	
			100.0%	0.0%	0.0%	34.6%	0.0%	65.4%	
	⑦罵倒・脅迫	全体	1,273	17	23	1,114	7	112	
			100.0%	1.3%	1.8%	87.5%	0.5%	8.9%	
		男性	457	5	2	413	4	33	
			100.0%	1.1%	0.4%	90.4%	0.9%	7.2%	
		女性	790	12	21	692	3	62	
			100.0%	1.5%	2.7%	87.6%	0.4%	7.8%	
		不明	26	0	0	9	0	17	
			100.0%	0.0%	0.0%	34.6%	0.0%	65.4%	

【性的被害】		合計	問26. 人権侵害の経験					
			3年以内	それ以前	ない	したことがある	不明	
性別	①ピラまき	全体	1,273 100.0%	0 0.0%	2 0.2%	1,151 90.4%	7 0.5%	113 8.9%
		男性	457 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	418 91.5%	4 0.9%	35 7.6%
		女性	790 100.0%	0 0.0%	2 0.3%	724 91.6%	3 0.4%	61 7.7%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 34.6%	0 0.0%	17 65.4%
	②暴行	全体	1,273 100.0%	4 0.3%	6 0.5%	1,143 89.8%	7 0.5%	113 8.9%
		男性	457 100.0%	0 0.0%	1 0.2%	418 91.5%	4 0.9%	34 7.4%
		女性	790 100.0%	4 0.5%	5 0.6%	716 90.6%	3 0.4%	62 7.9%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 34.6%	0 0.0%	17 65.4%
	③SNS等に投稿	全体	1,273 100.0%	5 0.4%	2 0.2%	1,141 89.6%	8 0.6%	117 9.2%
		男性	457 100.0%	2 0.4%	1 0.2%	416 91.0%	4 0.9%	34 7.5%
		女性	790 100.0%	3 0.4%	1 0.1%	716 90.6%	4 0.5%	66 8.4%
		不明	26 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 34.6%	0 0.0%	17 65.4%

セクハラについては、「されたことがある（3年以内、それ以前の合計）」の回答は、男性より女性の方が回答割合が高い傾向にある。ストーカーについては、セクハラほど「されたことがある」の割合が高くはないが、「つきまとい・まちぶせ」「無言電話」の2つの項目で主に女性の回答がみられた。

性的被害については、「されたことがない」の回答が多数を占め、性別による差もみられなかった。

下のグラフは、前回調査と比較して、「されたことがある」との回答割合が倍以上増した回答を抽出したものである。いずれも【セクハラ】に分類した項目となっている。

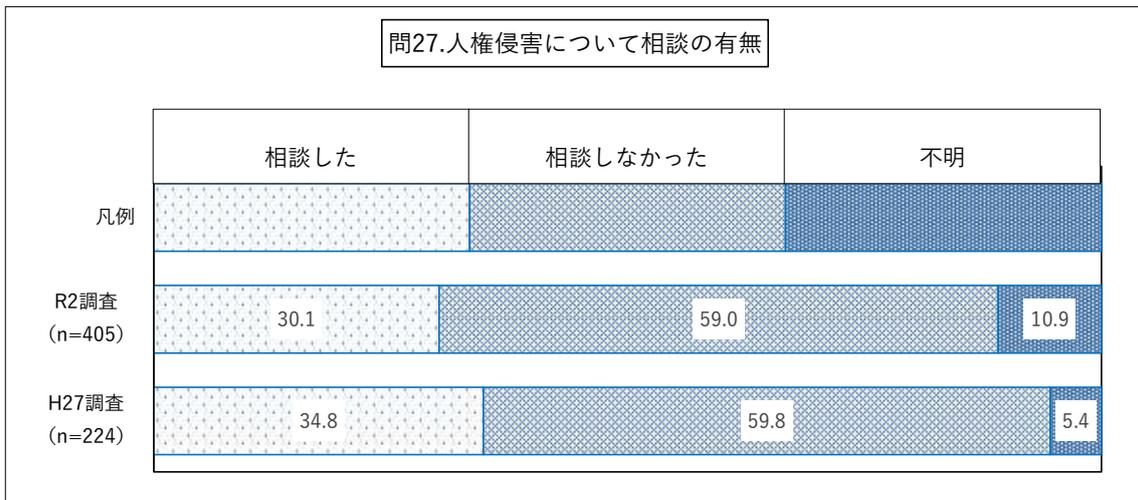


問 27. 問 26 で「されたことがある」と回答した方にお聞きします。あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(1 つに○)

●全体では、半数以上の 59.0%が「相談しなかった」と回答した。

		合計	問27.人権侵害について相談の有無		
			相談した	相談しなかった	不明
全体		405 100.0%	122 30.1%	239 59.0%	44 10.9%
性別	男性	81 100.0%	10 12.3%	64 79.0%	7 8.7%
	女性	323 100.0%	112 34.7%	174 53.9%	37 11.4%
	不明	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%

男性と女性の差を見ると、女性は「相談した」との回答が男性よりも 22.4%高い。一方、男性は「相談しなかった」との回答割合が女性よりも高く、約 8 割の男性が相談していない。



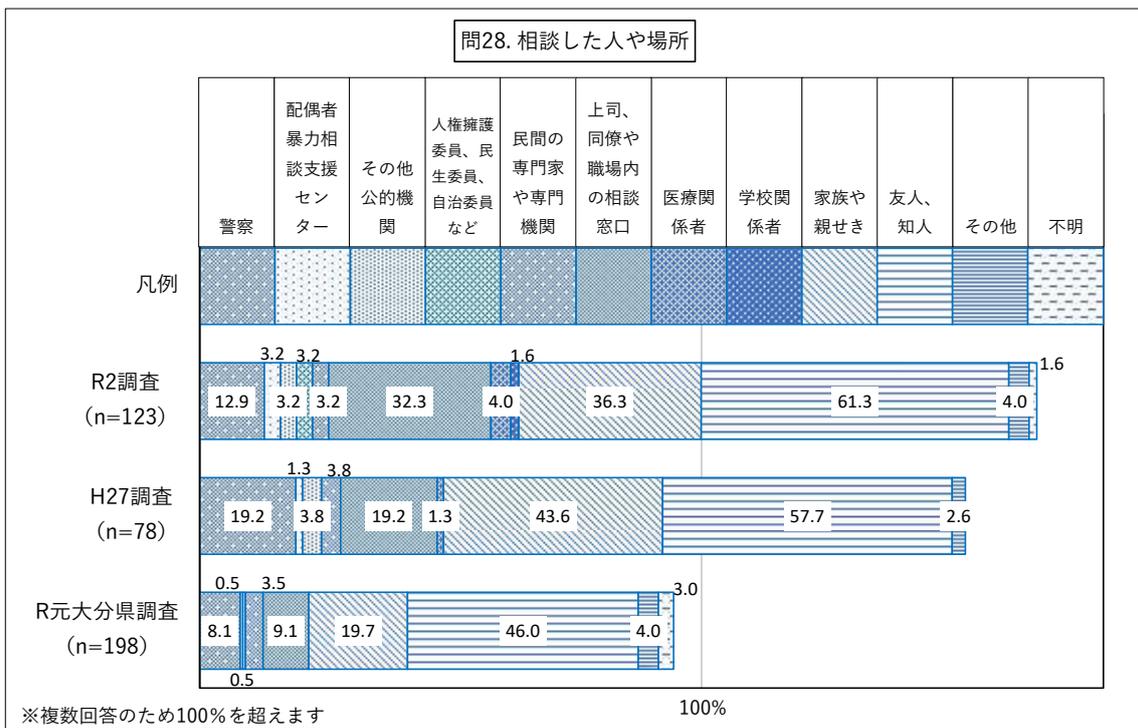
前回調査と比較して、「相談した」と回答した割合は 4.7%減少した。

問 28. 問 27 で「1. 相談した」と答えた方にお聞きします。あなたが相談した人（場所）を教えてください。（〇はいくつでも）

- 全体では、「友人、知人」が最も高く 61.5%、次いで「家族や親せき」が 36.1% となっている。
- 男性は「家族や親せき」との回答がなく、女性が 39.3%を占めているのに比べて対照的である。

	合計	問28.相談した人や場所												
		警察	配偶者暴力相談支援センター	その他公的機関	人権擁護委員、民生委員、自治委員	民間の専門家や専門機関	上司、同僚や職場内の相談窓口	医療関係者	学校関係者	家族や親せき	友人、知人	その他	不明	
全体	122 100.0%	16 13.1%	4 3.3%	4 3.3%	4 3.3%	4 3.3%	39 32.0%	5 4.1%	2 1.6%	44 36.1%	75 61.5%	5 4.1%	1 0.8%	
性別	男性	10 100.0%	1 10.0%	1 10.0%	0 0.0%	1 10.0%	1 10.0%	3 30.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 50.0%	1 10.0%	0 0.0%
	女性	112 100.0%	15 13.4%	3 2.7%	4 3.6%	3 2.7%	36 32.1%	4 3.6%	2 1.8%	44 39.3%	70 62.5%	4 3.6%	1 0.9%	
	不明	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	

男女とも「友人・知人」に相談したとの回答が最も多かった。次いで、男性が「上司、同僚や職場内の相談窓口」であり、女性は「家族や親せき」であった。



大分県調査と前回調査での比較によると、いずれの調査でも「家族や親せき」「知人、友人」が回答割合の大半を占めていることが分かる。また、今回調査は「上司、同僚や職場内の相談窓口」との回答が他の調査結果よりも多くなっている。

問 29. 問 27 で「2. 相談しなかった」と答えた方にお聞きします。あなたが、誰（どこ）にも相談しなかったのはなぜですか。（〇はいくつでも）

- 全体では、「相談するほどのことではないと思った」が最も高く 51.0%となっている。また男性より女性の方が、割合が高い。
- 男性よりも女性の方が 1 人あたりの回答件数が多く、理由がいくつかあることがうかがえる。

	合計	問29.相談しなかった理由													
		誰（どこ）に相談してよいかわらなかった	恥ずかしくて誰にも言えなかった	相談しても無駄だと思った	相談したことがわかると、しつこく思った	相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った	世間体が悪い	他人を巻き込みたくなかった	思い出したくなかった	自分にも悪いところがあると思った	相談するほどのことではないと思った	セクハラ・ストーカー・性的被害だとは思わなかった	その他	不明
全体	239 100.0%	27 11.3%	21 8.8%	89 37.2%	11 4.6%	10 4.2%	58 24.3%	8 3.3%	17 7.1%	23 9.6%	14 5.9%	122 51.0%	12 5.0%	24 10.0%	3 1.3%
性別 男性	64 100.0%	5 7.8%	2 3.1%	20 31.3%	6 9.4%	1 1.6%	16 25.0%	1 1.6%	4 6.3%	3 4.7%	7 10.9%	29 45.3%	0 0.0%	7 10.9%	3 4.7%
女性	174 100.0%	21 12.1%	19 10.9%	68 39.1%	5 2.9%	9 5.2%	42 24.1%	7 4.0%	13 7.5%	20 11.5%	7 4.0%	93 53.4%	12 6.9%	17 9.8%	0 0.0%
不明	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

	割合が多かった回答上位 3 件		
	1	2	3
R2調査 (n=239)	相談するほどのことではない と思った 51.0%	相談しても無駄だと思った 37.2%	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると 思った 24.3%
H27調査 (n=134)	相談するほどのことではない と思った 54.5%	相談しても無駄だと思った 43.3%	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると 思った 28.4%
R元大分県調査 (n=50)	恥ずかしくて誰にも言えな かった 60.0%	思い出したくなかった 28.0%	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると 思った（他 相談しても無駄 だと思った） 26.0%

今回調査と前回調査、及び大分県調査の中で、回答した割合が多かった理由の上位 3 件を比較した。

今回調査と前回調査を見ると、1 番目から 3 番目までの項目はすべて同じだが、今回調査では全体的に割合が減少している。

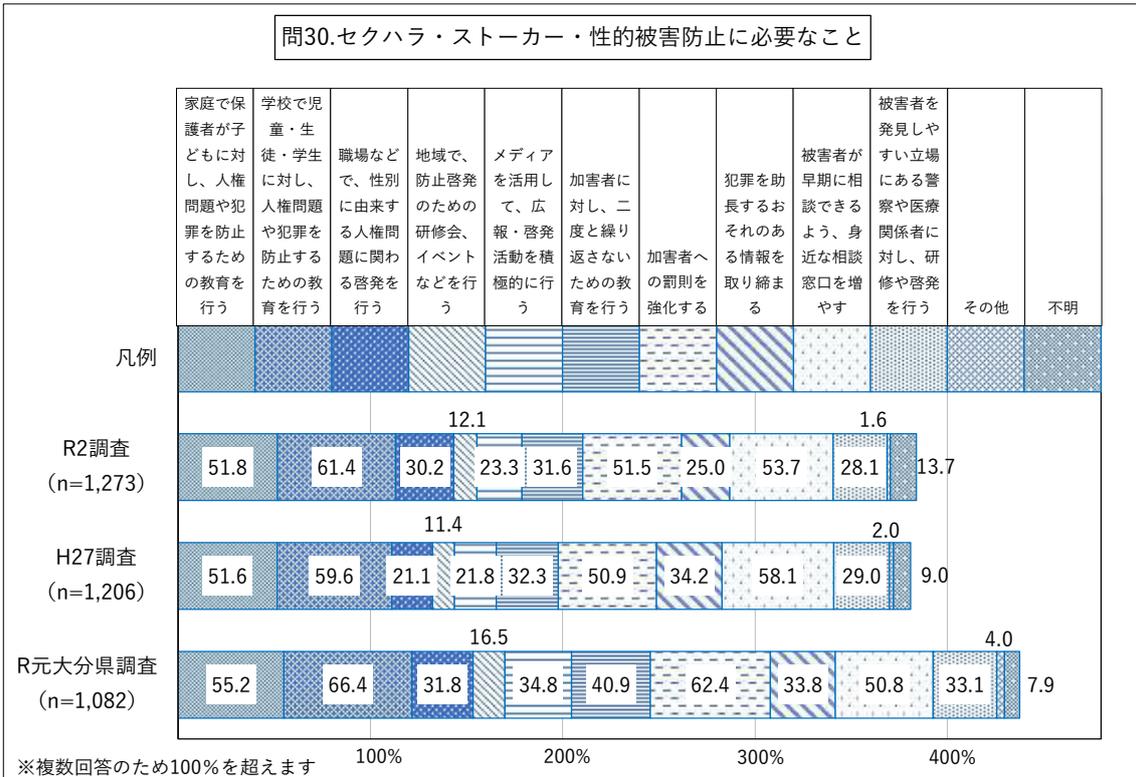
大分県調査の結果は「恥ずかしくて誰にも言えなかった」と回答した割合が最も多く、回答が集中していることが分かる。

問 30. セクハラ・ストーカー・性的被害等を防止するためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 全体では、「学校で児童・生徒・学生に対し、人権問題や犯罪を防止するための教育を行う」が最も高く 61.4%となっている。
- 性別による傾向の違いはほとんどの項目でみられなかった。

		問30.セクハラ・ストーカー・性的被害防止に必要なこと												
合計		家庭で保護者が子どもに対し、人権問題や犯罪を防止するための教育を行う	学校で児童・生徒・学生に対し、人権問題や犯罪を防止するための教育を行う	職場などで、性別に由来する人権問題に関わる啓発を行う	地域で、防止啓発のための研修会、イベントなどを行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	加害者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	加害者への罰則を強化する	犯罪を助長するおそれのある情報を取り締まる	被害者が早期に相談できるような、身近な相談窓口を増やす	被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者に対し、研修や啓発を行う	その他	不明	
全体	1,273 100.0%	659 51.8%	781 61.4%	384 30.2%	154 12.1%	296 23.3%	402 31.6%	656 51.5%	318 25.0%	684 53.7%	358 28.1%	20 1.6%	175 13.7%	
性別	男性	457 100.0%	242 53.0%	281 61.5%	141 30.9%	73 16.0%	108 23.6%	140 30.6%	244 53.4%	102 22.3%	243 53.2%	136 29.8%	7 1.5%	54 11.8%
	女性	790 100.0%	413 52.3%	494 62.5%	241 30.5%	80 10.1%	186 23.5%	258 32.7%	407 51.5%	212 26.8%	437 55.3%	218 27.6%	13 1.6%	102 12.9%
	不明	26 100.0%	4 15.4%	6 23.1%	2 7.7%	1 3.8%	2 7.7%	4 15.4%	5 19.2%	4 15.4%	4 15.4%	4 15.4%	0 0.0%	19 73.1%

男性と女性の差を見ると、男性は「地域で、防止啓発のための研修会、イベントなどを行う」との回答が女性よりも 5.9% 高く回答しており、16.0% となっている。



前回調査、大分県調査との比較を行ったが、回答の傾向に大きな差は見られなかった。

問 31. 妊娠・出産を担う女性は、男性とは異なった体や心の問題に直面することがありますが、女性が生涯にわたり心身ともに健康であるために、どのようなことが大事だと思いますか。（〇はいくつでも）

- 全体では、「ライフステージに合わせた健康づくりの推進」が最も高く 51.8%となっている。
- 年代が若い回答者は、「妊娠・出産・避妊・中絶・性感染症などに関する情報提供」や「心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の充実」についても回答割合が高い傾向にある。

	合計	問31.女性が生涯にわたり心身ともに健康であるために大事なこと													
		ライフステージに合わせた健康づくりの推進	成人以降のライフステージに応じた健康に関する情報や学習機会などの提供	自分の健康を保持促進するために、自ら運動等を行う習慣を持つこと	妊娠・出産・避妊・中絶・性感染症などに関する情報提供	女性が性生活について、主体的・総合的に判断できる力をつけること	受診機会が少ない女性が、健康診断を受診できるような環境づくり	心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の充実	不妊に関する悩みに対応する相談体制の充実	学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施	その他	特になし	わからない	不明	
全体	1,273 100.0%	659 51.8%	255 20.0%	573 45.0%	403 31.7%	350 27.5%	442 34.7%	514 40.4%	321 25.2%	478 37.5%	34 2.7%	35 2.7%	85 6.7%	90 7.1%	
性別	男性	457 100.0%	237 51.9%	113 24.7%	180 39.4%	132 28.9%	115 25.2%	145 31.7%	184 40.3%	131 28.7%	172 37.6%	11 2.4%	13 2.8%	48 10.5%	34 7.4%
	女性	790 100.0%	414 52.4%	140 17.7%	389 49.2%	268 33.9%	232 29.4%	290 36.7%	327 41.4%	189 23.9%	304 38.5%	23 2.9%	21 2.7%	37 4.7%	39 4.9%
	不明	26 100.0%	8 30.8%	2 7.7%	4 15.4%	3 11.5%	3 11.5%	7 26.9%	3 11.5%	1 3.8%	2 7.7%	0 0.0%	1 3.8%	0 0.0%	17 65.4%

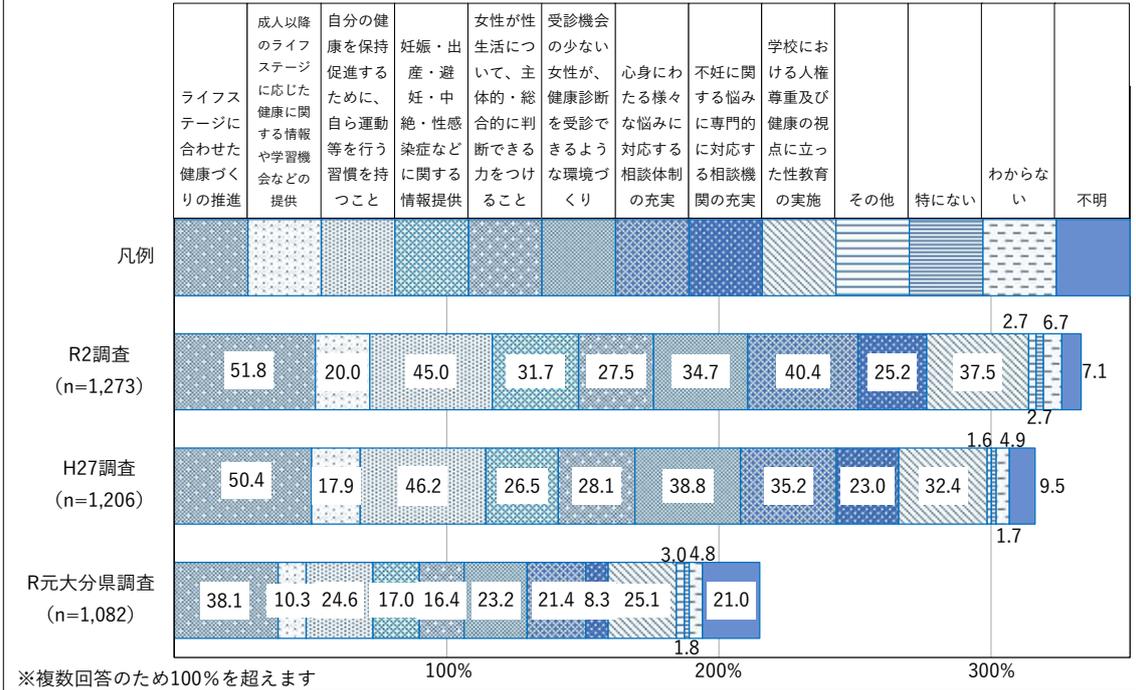
男性と女性の差をみると、男性は「成人以降のライフステージに応じた健康に関する情報や学習機会などの提供」との回答が女性よりも 7.0%高く、24.7%となっている。

女性は「自分の健康を保持促進するために、自ら運動等を行う習慣を持つこと」との回答が男性よりも 9.8%高く、49.2%となっている。

	合計	問31.女性が生涯にわたり心身ともに健康であるために大事なこと													
		ライフステージに合わせた健康づくりの推進	成人以降のライフステージに応じた健康に関する情報や学習機会などの提供	自分の健康を保持促進するために、自ら運動等を行う習慣を持つこと	妊娠・出産・避妊・中絶・性感染症などに関する情報提供	女性が性生活について、主体的・総合的に判断できる力をつけること	受診機会が少ない女性が、健康診断を受診できるような環境づくり	心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の充実	不妊に関する悩みに対応する相談体制の充実	学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施	その他	特になし	わからない	不明	
全体	1,273 100.0%	659 51.8%	255 20.0%	573 45.0%	403 31.7%	350 27.5%	442 34.7%	514 40.4%	321 25.2%	478 37.5%	34 2.7%	35 2.7%	85 6.7%	90 7.1%	
年齢	18歳～19歳	44 100.0%	30 68.2%	14 31.8%	19 43.2%	28 63.6%	22 50.0%	23 52.3%	26 59.1%	23 52.3%	22 50.0%	1 2.3%	0 0.0%	2 4.5%	2 4.5%
	20歳～29歳	127 100.0%	74 58.3%	27 21.3%	50 39.4%	56 44.1%	35 27.6%	54 42.5%	56 44.1%	37 29.1%	49 38.6%	7 5.5%	2 1.6%	10 7.9%	6 4.7%
	30歳～39歳	209 100.0%	120 57.4%	43 20.6%	87 41.6%	83 39.7%	62 29.7%	81 38.8%	79 37.8%	65 31.1%	89 42.6%	10 4.8%	5 2.4%	17 8.1%	2 1.0%
	40歳～49歳	233 100.0%	117 50.2%	55 23.6%	98 42.1%	64 27.5%	58 24.9%	87 37.3%	95 40.8%	65 27.9%	82 35.2%	8 3.4%	5 2.1%	13 5.6%	6 2.6%
	50歳～59歳	275 100.0%	151 54.9%	53 19.3%	138 50.2%	78 28.4%	74 26.9%	87 31.6%	137 49.8%	70 25.5%	103 37.5%	6 2.2%	8 2.9%	19 6.9%	10 3.6%
	60歳～69歳	193 100.0%	92 47.7%	41 21.2%	94 48.7%	58 30.1%	58 30.1%	61 31.6%	70 36.3%	40 20.7%	72 37.3%	2 1.0%	3 1.6%	14 7.3%	18 9.3%
	70歳以上	168 100.0%	68 40.5%	20 11.9%	82 48.8%	32 19.0%	37 22.0%	43 25.6%	47 28.0%	17 10.1%	58 34.5%	0 0.0%	12 7.1%	10 6.0%	30 17.9%
	不明	24 100.0%	7 29.2%	2 8.3%	5 20.8%	4 16.7%	4 16.7%	6 25.0%	4 16.7%	4 16.7%	3 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	16 66.7%

年代別では、59歳以下では「ライフステージに合わせた健康づくりの推進」と回答した割合が最も多くなっている。60歳以上は「自分の健康を保持促進するために、自ら運動等を行う習慣を持つこと」と回答する割合が多いことがわかった。また30歳代以下では、「妊娠・出産・避妊・中絶・性感染症などに関する情報提供」の割合も高く、年代が若くなるほど、ニーズがあることがうかがえる。

問31.女性が生涯にわたり心身ともに健康であるために大事なこと



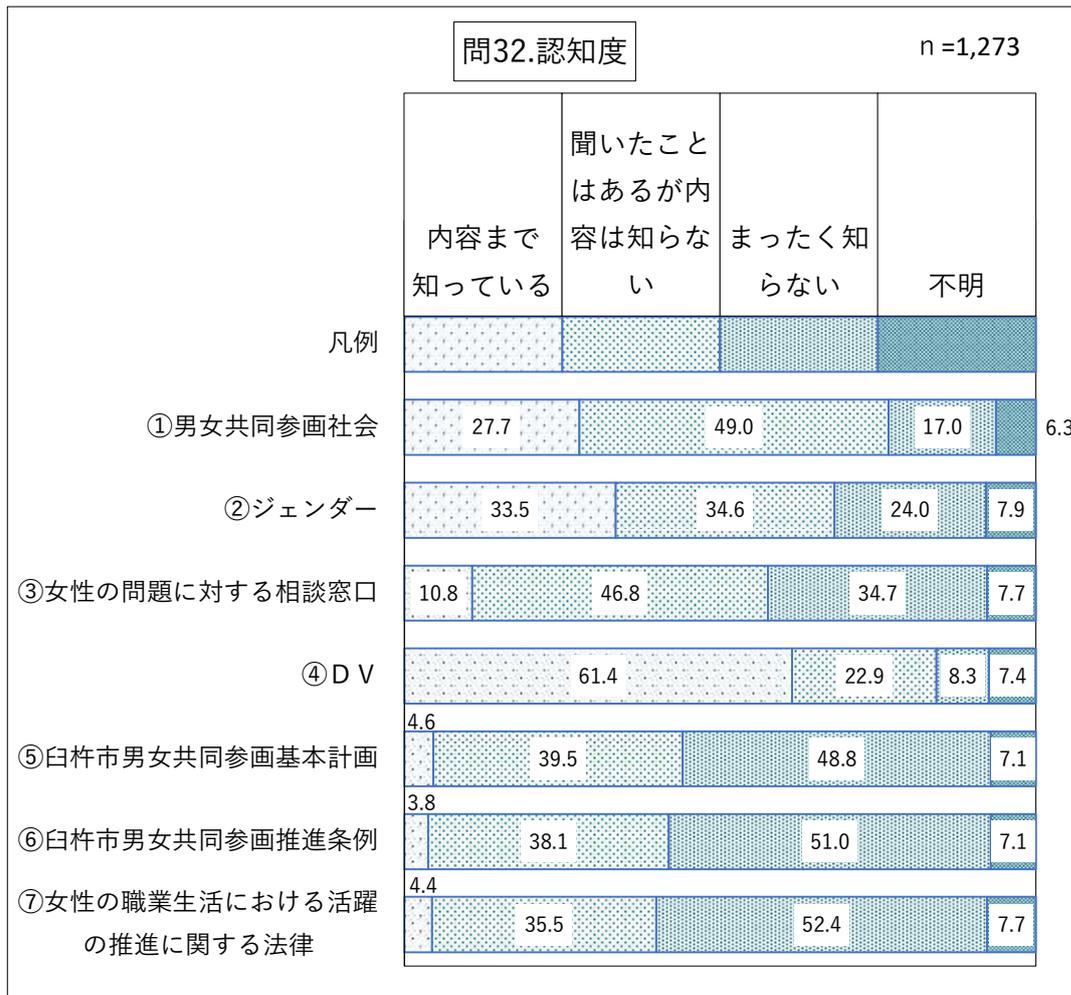
前回調査と比較すると、「妊娠・出産・避妊・中絶・性感感染症などに関する情報提供」「心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の充実」の割合が高くなっており、「受診機会の少ない女性が、健康診断を受診できるような環境づくり」が減少した。大分県調査との比較では「ライフステージに合わせた健康づくりの推進」との項目がどちらも最も割合の高い回答となっており、重要であることが伺える。次いで臼杵市では「自分の健康を保持するために、自ら運動等を行う習慣を持つこと」との回答割合が高く、大分県では「学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施」が高くなっている。

6. 男女共同参画社会の実現とDV防止について

問 32. あなたは次にあげることについて知っていますか。(1つに○)

- ①男女共同参画社会
- ②ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）
- ③女性の問題に対する相談窓口（臼杵市役所 部落差別解消推進・人権啓発課）
- ④DV（夫婦・恋人間(こいびとかん)の暴力)
- ⑤臼杵市男女共同参画基本計画
- ⑥臼杵市男女共同参画推進条例
- ⑦女性の職業生活における活躍の推進に関する法律

- 「DV」が最も認知度が高く、61.4%が「内容まで知っている」と回答している。「聞いたことがある」を含めると、約8割が「聞いたことがある」「知っている」と回答している。
- 「男女共同参画社会」がその次に「知っている」「聞いたことがある」との回答割合が高い項目となっている。



「DV」については6割の人が「内容まで知っている」と回答した。

		問32.認知度			
		内容まで知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	全く知らない	不明
凡例					
① 男女共同参画社会	全体 (n=1,273)	27.7	49.0	17.0	6.3
	男性 (n=457)	28.9	45.5	20.6	5.0
	女性 (n=790)	27.7	51.8	15.1	5.4
② ジェンダー	全体 (n=1,273)	33.5	34.6	24.0	7.9
	男性 (n=457)	30.4	33.5	29.1	7.0
	女性 (n=790)	36.4	35.3	21.5	6.8
③ 女性の問題に対する相談窓口	全体 (n=1,273)	10.8	46.8	34.7	7.7
	男性 (n=457)	11.6	41.8	40.3	6.3
	女性 (n=790)	10.8	50.0	32.5	6.7
④ DV	全体 (n=1,273)	61.4	22.9	8.3	7.4
	男性 (n=457)	56.8	26.0	10.9	6.3
	女性 (n=790)	65.3	21.4	7.0	6.3
⑤ 白杵市男女共同参画基本計画	全体 (n=1,273)	4.6	39.5	48.8	7.1
	男性 (n=457)	5.5	30.2	58.6	5.7
	女性 (n=790)	4.3	45.2	44.2	6.3
⑥ 白杵市男女共同参画推進条例	全体 (n=1,273)	3.8	38.1	51.0	7.1
	男性 (n=457)	3.9	30.4	60.0	5.7
	女性 (n=790)	3.8	42.8	47.1	6.3
⑦ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律	全体 (n=1,273)	4.4	35.5	52.4	7.7
	男性 (n=457)	6.3	31.3	55.8	6.6
	女性 (n=790)	3.4	38.1	51.8	6.7

①「男女共同参画社会」について、女性より男性の方が「まったく知らない」と回答した割合が高い。

②「ジェンダー」については、男性より女性の方が「内容まで知っている」と回答した割合が高い。

③「女性の問題に対する相談窓口」について、男性より女性の方が「聞いたことがある」との回答の割合が高い。男性の40.3%、女性の32.5%が「まったく知らない」と回答している。

④「DV」について、性別に関係なく、5割以上が「内容まで知っている」と回答している。一方で、約2割が「聞いたことはあるが内容は知らない」と回答している。

⑤「臼杵市男女共同参画基本計画」、⑥「臼杵市男女共同参画推進条例」、⑦「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」については、性別に関わらず、ほとんどの回答が「聞いたことはあるが内容は知らない」「まったく知らない」と回答している。

以下は前回調査及び大分県調査との比較を行ったグラフである。

		問32.認知度			
		内容まで知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	まったく知らない	不明
凡例					
② ジェンダー	R2調査 (n=1,273)	33.5	34.6	24.0	7.9
	H27調査 (n=1,206)	13.5	31.1	44.0	11.4
	R元大分県調査 (n=1,082)	25.3	36.5	33.0	5.2
④ DV	R2調査 (n=1,273)	61.4	22.9	8.3	7.4
	H27調査 (n=1,206)	53.6	25.8	10.4	10.2

大分県調査及び前回調査との比較を行ったところ、上記の2項目については大きな違いがみられた。

特に②ジェンダーは前回調査と比較して、「内容まで知っている」という回答の割合が20.0%増加した。「まったく知らない」と回答した割合は20.0%減少している。大分県調査と比較しても、「内容まで知っている」と回答した割合は8.2%多い。

		問32.認知度			
		内容まで知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	まったく知らない	不明
凡例					
⑤ 臼杵市男女共同参画基本計画	R2調査 (n=1,273)	4.6	39.5	48.8	7.1
	H27調査 (n=1,206)	4.4	40.5	45.1	10.0
⑥ 臼杵市男女共同参画推進条例	R2調査 (n=1,273)	3.8	38.1	51.0	7.1
	H27調査 (n=1,206)	3.6	38.1	48.0	10.3

こちらの2項目は、比較した結果大きな違いがみられなかった。

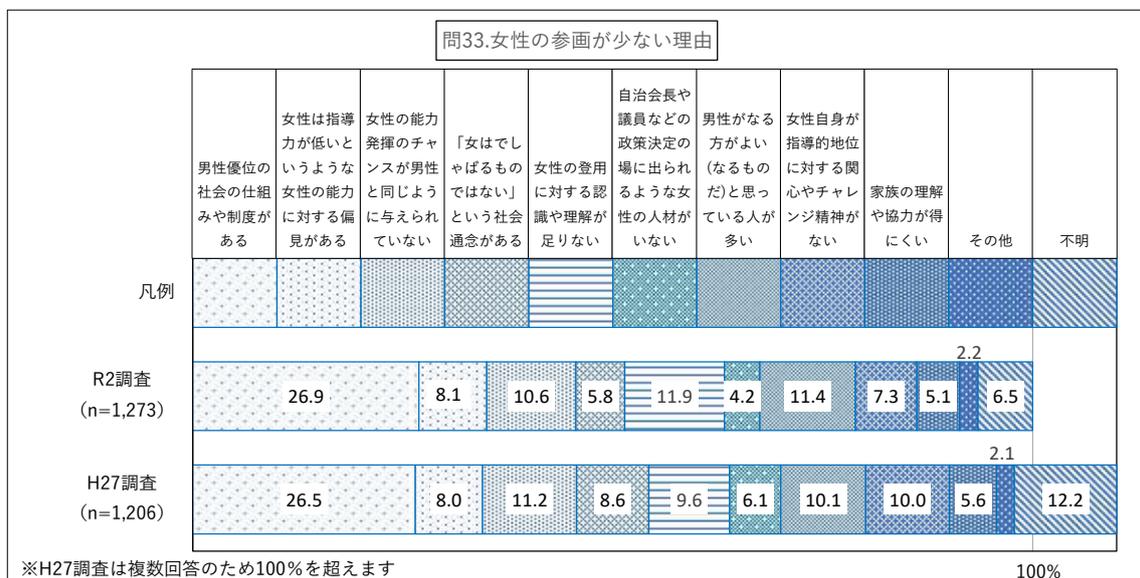
問 33. 女性の社会進出が進んでいますが、議員、審議会委員や役員・管理職などの指導的地位や、自治会などに占める女性の割合はまだ低いのが現状です。女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。(1つに○)

(注：H27年度調査は複数の回答を選択した回答者が多かったため、複数回答として集計を行った。)

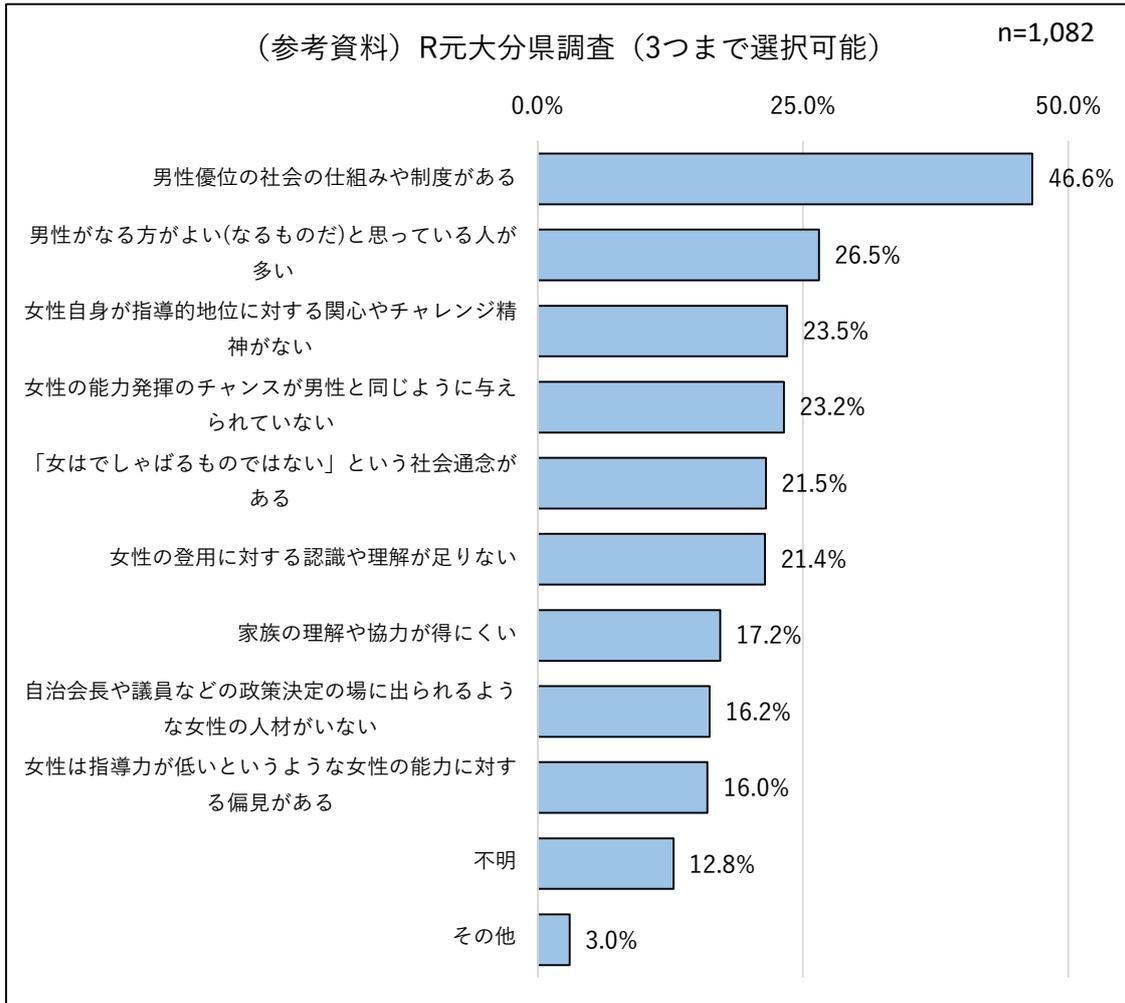
●全体では、「男性優位の社会の仕組みや制度がある」が最も高く 26.9%となっている。

	合計	問33.女性の参画が少ない理由											
		男性優位の社会の仕組みや制度がある	女性は指導力が低いというような女性の能力に対する偏見がある	女性の能力の発揮のチャンスが男性と同じように与えられていない	「女はでしゃばるものではない」という社会通念がある	女性の登用に対する認識や理解が足りない	自治会長や議員などの政策決定の場に出られるような女性の人材が少ない	男性がなる方がよい(なるもの)と思っている人が多い	女性自身が指導的地位に対する関心やチャレンジ精神がない	家族の理解や協力が得にくい	その他	不明	
全体	1,273 100.0%	343 26.9%	103 8.1%	135 10.6%	74 5.8%	151 11.9%	54 4.2%	145 11.4%	93 7.3%	65 5.1%	28 2.2%	82 6.5%	
性別	男性	457 100.0%	122 26.7%	32 7.0%	57 12.5%	17 3.7%	70 15.3%	18 3.9%	49 10.7%	35 7.7%	25 5.5%	9 2.0%	23 5.0%
	女性	790 100.0%	218 27.6%	71 9.0%	75 9.5%	57 7.2%	81 10.3%	36 4.6%	93 11.8%	57 7.2%	40 5.1%	19 2.4%	43 5.3%
	不明	26 100.0%	3 11.5%	0 0.0%	3 11.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 11.5%	1 3.8%	0 0.0%	0 0.0%	16 61.7%

性別で回答の割合に差がみられる項目は「女はでしゃばるものではない」という社会通念がある」との回答で、女性の回答が7.2%となっており、男性の回答の約2倍となっている。反対に、男性では、「女性の登用に対する認識や理解が足りない」との回答が15.3%となっており、女性の回答より高い回答割合となっていた。



前回調査と比較すると、「女性の登用に対する認識や理解が足りない」と回答した割合が2.3%増加している。他方、「女はでしゃばるものではない」という社会通念がある」や「女性自身が指導的地位に対する関心やチャレンジ精神がない」という回答は、それぞれ2.8%、2.7%の減少となっている。



上のグラフは大分県調査の結果である。大分県調査は3つまで選択可能であることから、割合による比較が行えないため、回答の傾向による比較を行うこととした。

今回調査及び前回調査と同様に、「男性優位の社会の仕組みや制度がある」との回答が最も多かった。大分県調査では「男性がなる方がよい(なるものだ)と思っている人が多い」との回答が2番目に多くなっている点も、今回調査、前回調査において3番目に多かったことを考えると、似た傾向にあると言える。

問 34. 男女共同参画社会の実現に向けて、臼杵市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

●全体では、「保育・介護・病院などの施設やサービスを充実する」が最も高く 35.5%となっている。女性は男性よりも 9.9%と約 1 割高い。

(項目が多いため、表を上下 2 段に分けて掲載)

		問34.男女共同参画の実現に向けて臼杵市が力を入れるべきこと								
合計		市の審議会 委員や管理 職など、政 策決定の場 に女性を積 極的に登用 する	民間企業・ 団体等の役 員・管理職 に女性の登 用が進むよ う支援する	女性や男性 の生き方や 悩みに関す る相談の場 を提供する	従来、女性 が少なかっ た分野(科学 技術や防災 など)への女 性の進出を 支援する	保育・介 護・病院な どの施設や サービスを 充実する	男女の平等 と相互の理 解や協力に ついて学習 機会を充実 する	生涯を通じ た男女の健 康増進を支 援する	男女間のあ らゆる暴力 をなくす	
全体		1,273 100.0%	417 32.8%	253 19.9%	148 11.6%	213 16.7%	452 35.5%	133 10.4%	136 10.7%	157 12.3%
性別	男性	457 100.0%	158 34.6%	103 22.5%	56 12.3%	76 16.6%	136 29.8%	52 11.4%	48 10.5%	61 13.3%
	女性	790 100.0%	255 32.3%	150 19.0%	92 11.6%	137 17.3%	314 39.7%	77 9.7%	88 11.1%	96 12.2%
	不明	26 100.0%	4 15.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 7.7%	4 15.4%	0 0.0%	0 0.0%

		問34.男女共同参画の実現に向けて臼杵市が力を入れるべきこと							
合計		労働時間の 短縮や在宅 勤務の普及 など、男女 ともに働き 方の見直し を進める	子育てや介 護等といっ たん仕事を やめた人の 再就職を支 援する	男女の平等 と相互の理 解や協力に ついて広 報・PRする	講演会や研 修会などの イベントの 啓発	その他	特にない	不明	
全体		1,273 100.0%	378 29.7%	426 33.5%	115 9.0%	45 3.5%	18 1.4%	70 5.5%	73 5.7%
性別	男性	457 100.0%	121 26.5%	143 31.3%	48 10.5%	17 3.7%	7 1.5%	32 7.0%	21 4.6%
	女性	790 100.0%	256 32.4%	281 35.6%	67 8.5%	28 3.5%	11 1.4%	38 4.8%	31 3.9%
	不明	26 100.0%	1 3.8%	2 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	21 80.8%

男性は「市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」が最も高く 34.6%となっている。

		問34.男女共同参画の実現に向けて臼杵市が力を入れるべきこと								
合計		市の審議会 委員や管理職 など、政策決 定の場に女性 を積極的に登 用する	民間企業・ 団体等の役員 ・管理職に女 性の登用が進 むよう支援す る	女性や男性の 生き方や悩 みに関する相 談の場を提 供する	従来、女性 が少なかった 分野(科学技 術や防災など)への女性の 進出を支援 する	保育・介護 ・病院など の施設やサ ービスを充 実する	男女の平等 と相互の理 解や協力の ついて学習 機会を充実 する	生涯を通じ た男女の健 康増進を支 援する	男女間のあ らゆる暴力 をなくす	
全体		1,273 100.0%	417 32.8%	253 19.9%	148 11.6%	213 16.7%	452 35.5%	133 10.4%	136 10.7%	157 12.3%
年齢	18歳～19歳	44 100.0%	14 31.8%	11 25.0%	6 13.6%	5 11.4%	14 31.8%	10 22.7%	1 2.3%	10 22.7%
	20歳～29歳	127 100.0%	30 23.6%	23 18.1%	24 18.9%	22 17.3%	50 39.4%	14 11.0%	16 12.6%	13 10.2%
	30歳～39歳	209 100.0%	72 34.4%	35 16.7%	26 12.4%	36 17.2%	74 35.4%	17 8.1%	21 10.0%	23 11.0%
	40歳～49歳	233 100.0%	74 31.8%	55 23.6%	20 8.6%	55 23.6%	84 36.1%	18 7.7%	21 9.0%	38 16.3%
	50歳～59歳	275 100.0%	91 33.1%	64 23.3%	39 14.2%	44 16.0%	105 38.2%	25 9.1%	31 11.3%	41 14.9%
	60歳～69歳	193 100.0%	84 43.5%	40 20.7%	22 11.4%	35 18.1%	61 31.6%	26 13.5%	22 11.4%	19 9.8%
	70歳以上	168 100.0%	52 31.0%	25 14.9%	10 6.0%	16 9.5%	62 36.9%	22 13.1%	24 14.3%	13 7.7%
	不明	24 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.2%	0 0.0%	2 8.3%	1 4.2%	0 0.0%	0 0.0%

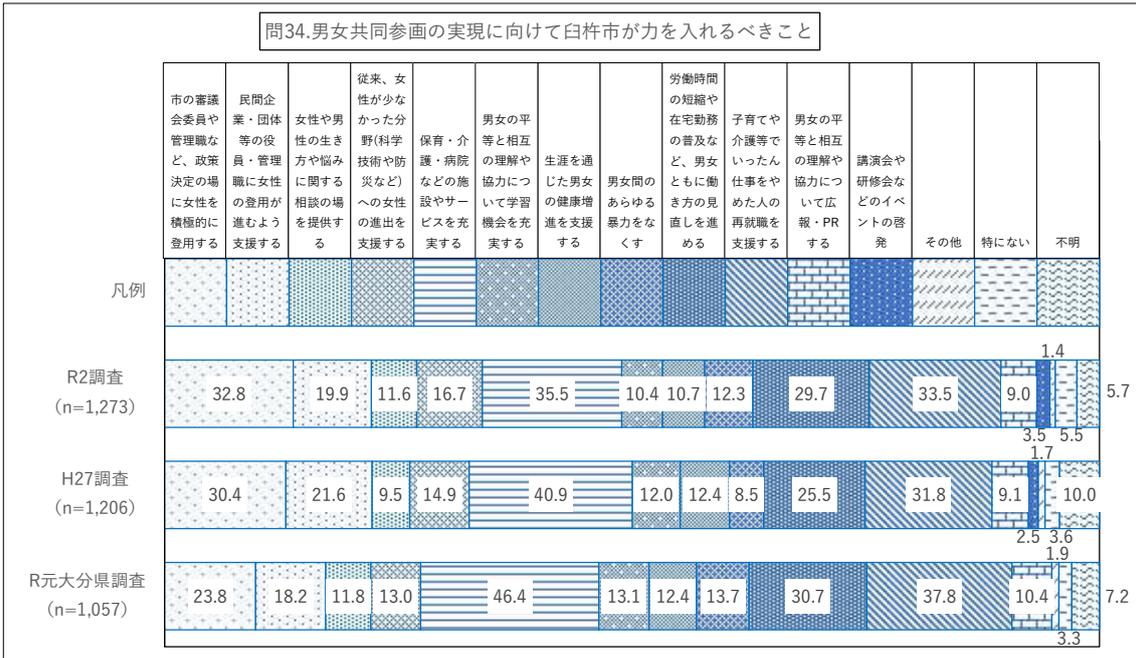
		問34.男女共同参画の実現に向けて臼杵市が力を入れるべきこと							
合計		労働時間の 短縮や在宅 勤務の普及 など、男女 ともに働き 方の見直し を進める	子育てや介 護等でいっ たん仕事を やめた人の 再就職を支 援する	男女の平等 と相互の理 解や協力の ついて広 報・PR する	講演会や研 修会などの イベントの 啓発	その他	特にな い	不明	
全体		1,273 100.0%	378 29.7%	426 33.5%	115 9.0%	45 3.5%	18 1.4%	70 5.5%	73 5.7%
年齢	18歳～19歳	44 100.0%	15 34.1%	15 34.1%	6 13.6%	1 2.3%	1 2.3%	1 2.3%	1 2.3%
	20歳～29歳	127 100.0%	38 29.9%	43 33.9%	17 13.4%	5 3.9%	2 1.6%	9 7.1%	4 3.1%
	30歳～39歳	209 100.0%	86 41.1%	79 37.8%	15 7.2%	5 2.4%	5 2.4%	11 5.3%	4 1.9%
	40歳～49歳	233 100.0%	73 31.3%	81 34.8%	22 9.4%	6 2.6%	5 2.1%	11 4.7%	6 2.6%
	50歳～59歳	275 100.0%	79 28.7%	90 32.7%	25 9.1%	10 3.6%	2 0.7%	14 5.1%	6 2.2%
	60歳～69歳	193 100.0%	53 27.5%	49 25.4%	18 9.3%	11 5.7%	2 1.0%	9 4.7%	9 4.7%
	70歳以上	168 100.0%	33 19.6%	68 40.5%	12 7.1%	7 4.2%	1 0.6%	15 8.9%	21 12.5%
	不明	24 100.0%	1 4.2%	1 4.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	22 91.7%

年代別では、回答にばらつきがみられる。20歳代、40歳代、50歳代では「保育・介護・病院などの施設やサービスを充実する」と回答した割合が最も高い。

18～19歳と30歳代は「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女ともに働き方の見直しを進める」と「子育てや介護等でいったん仕事をやめた人の再就職を支援する」と回答する割合が多かった。

60歳代は「市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」が40%を超えて最も高い割合となった。

70歳以上では「子育てや介護等でいったん仕事をやめた人の再就職を支援する」との回答割合が最も高かった。



大分県調査及び前回調査と比較したところ、「保育・介護・病院などの施設やサービス充実する」と回答した割合が最も少なくなっていることがわかった。他方、「市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」と回答した割合は最も多かった。

問 35. あなたは、女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

- 全体では、「匿名で相談ができる」が最も回答が多く 53.5%となっている。女性は、男性よりも「匿名で相談ができる」と回答した割合が 8.7%高くなっている。
- 性別、年代問わず「匿名で相談ができる」という要望は高い。

		問35.女性に対する相談窓口などで配慮してほしいと思うこと													
合計		メールによる相談ができる	電話による相談ができる	通話料が無料	24時間相談ができる	相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる	同性の相談員がいる	匿名で相談ができる	弁護士など、法的知識のある相談員がいる	臨床心理士、公認心理士など、心理専門職の相談員がいる	その他	特にない	わからない	不明	
全体	1273	423	403	422	594	305	595	681	555	431	30	45	58	79	
	100.0%	33.2%	31.7%	33.2%	46.7%	24.0%	46.7%	53.5%	43.6%	33.9%	2.4%	3.5%	4.6%	6.2%	
性別	男性	457	158	163	134	211	109	189	224	202	142	8	12	28	26
		100.0%	34.6%	35.7%	29.3%	46.2%	23.9%	41.4%	49.0%	44.2%	31.1%	1.8%	2.6%	6.1%	5.7%
	女性	790	265	238	286	379	196	403	456	351	287	22	33	30	32
	100.0%	33.5%	30.1%	36.2%	48.0%	24.8%	51.0%	57.7%	44.4%	36.3%	2.8%	4.2%	3.8%	4.1%	
不明	26	0	2	2	4	0	3	1	2	2	0	0	0	21	
	100.0%	0.0%	7.7%	7.7%	15.4%	0.0%	11.5%	3.8%	7.7%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	80.8%	

		問35.女性に対する相談窓口などで配慮してほしいと思うこと													
合計		メールによる相談ができる	電話による相談ができる	通話料が無料	24時間相談ができる	相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる	同性の相談員がいる	匿名で相談ができる	弁護士など、法的知識のある相談員がいる	臨床心理士、公認心理士など、心理専門職の相談員がいる	その他	特にない	わからない	不明	
全体	1273	423	403	422	594	305	595	681	555	431	30	45	58	79	
	100.0%	33.2%	31.7%	33.2%	46.7%	24.0%	46.7%	53.5%	43.6%	33.9%	2.4%	3.5%	4.6%	6.2%	
年齢	18歳～19歳	44	21	15	19	29	8	23	29	19	14	2	0	3	1
		100.0%	47.7%	34.1%	43.2%	65.9%	18.2%	52.3%	65.9%	43.2%	31.8%	4.5%	0.0%	6.8%	2.3%
	20歳～29歳	127	59	43	45	70	28	62	78	52	49	2	2	8	3
		100.0%	46.5%	33.9%	35.4%	55.1%	22.0%	48.8%	61.4%	40.9%	38.6%	1.6%	1.6%	6.3%	2.4%
	30歳～39歳	209	95	65	86	112	66	108	128	88	84	8	3	11	3
		100.0%	45.5%	31.1%	41.1%	53.6%	31.6%	51.7%	61.2%	42.1%	40.2%	3.8%	1.4%	5.3%	1.4%
	40歳～49歳	233	104	57	85	122	66	117	141	120	96	9	4	8	7
		100.0%	44.6%	24.5%	36.5%	52.4%	28.3%	50.2%	60.5%	51.5%	41.2%	3.9%	1.7%	3.4%	3.0%
	50歳～59歳	275	86	96	93	142	68	130	158	139	90	3	7	10	7
	100.0%	31.3%	34.9%	33.8%	51.6%	24.7%	47.3%	57.5%	50.5%	32.7%	1.1%	2.5%	3.6%	2.5%	
60歳～69歳	193	35	67	52	71	46	90	89	92	63	5	7	8	10	
	100.0%	18.1%	34.7%	26.9%	36.8%	23.8%	46.6%	46.1%	47.7%	32.6%	2.6%	3.6%	4.1%	5.2%	
70歳以上	168	22	58	40	46	21	63	56	43	33	1	22	10	26	
	100.0%	13.1%	34.5%	23.8%	27.4%	12.5%	37.5%	33.3%	25.6%	19.6%	0.6%	13.1%	6.0%	15.5%	
不明	24	1	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0	0	22	
	100.0%	4.2%	8.3%	8.3%	8.3%	8.3%	8.3%	8.3%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	91.7%	

男性で回答割合の多い順に並べると、「匿名で相談ができる」(49.0%)、「24時間相談ができる」(46.2%)、「弁護士など、法的知識のある相談員がいる」(44.2%)となっている。女性の場合は、「匿名で相談ができる」(57.7%)、「同性の相談員がいる」(51.0%)、「24時間相談ができる」(48.0%)という順になっている。女性は同性の相談員がいるということ、男性よりも重視していることがわかる。

年代別には、18～59歳は「匿名で相談ができる」の回答割合が最も多くなっている。60歳代では「弁護士など、法的知識のある相談員がいる」が最も多く、70歳以上では「同性の相談員がいる」が最も多い結果となった。

資料編

- 男女共同参画社会基本法…………… 129
- 臼杵市男女共同参画推進条例…………… 130
- 第2次臼杵市男女共同参画基本計画（抜粋）…………… 134
- 「臼杵市男女共同参画社会づくりのための意識調査」調査票…………… 付録

●男女共同参画社会基本法

【1999年（平成11年）6月23日公布法律第78号、改正：1999年（平成11年）12月22日法律第160号】

第一章 総則

（目的）

第一条 この法律は、男女の人権が尊重され、かつ、社会経済情勢の変化に対応できる豊かで活力ある社会を実現することの緊要性にかんがみ、男女共同参画社会の形成に関し、基本理念を定め、並びに国、地方公共団体及び国民の責務を明らかにするとともに、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の基本となる事項を定めることにより、男女共同参画社会の形成を総合的かつ計画的に推進することを目的とする。

（定義）

第二条 この法律において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 一 男女共同参画社会の形成 男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会を形成することをいう。
- 二 積極的改善措置 前号に規定する機会に係る男女間の格差を改善するため必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供することをいう。

（男女の人権の尊重）

第三条 男女共同参画社会の形成は、男女の個人としての尊厳が重んぜられること、男女が性別による差別的取扱いを受けないこと、男女が個人として能力を発揮する機会が確保されることその他の男女の人権が尊重されることを旨として、行われなければならない。

（社会における制度又は慣行についての配慮）

第四条 男女共同参画社会の形成に当たっては、社会における制度又は慣行が、性別による固定的な役割分担等を反映して、男女の社会における活動の選択に対して中立でない影響を及ぼすことにより、男女共同参画社会の形成を阻害する要因となるおそれがあることにかんがみ、社会における制度又は慣行が男女の社会における活動の選択に対して及ぼす影響をできる限り中立なものとするように配慮されなければならない。

（政策等の立案及び決定への共同参画）

第五条 男女共同参画社会の形成は、男女が、社会の対等な構成員として、国若しくは地方公共団体における政策又は民間の団体における方針の立案及び決定に共同して参画する機会が確保されることを旨として、行われなければならない。

（家庭生活における活動と他の活動の両立）

第六条 男女共同参画社会の形成は、家族を構成する男女が、相互の協力と社会の支援の下に、子の養育、家族の介護その他の家庭生活における活動について家族の一員としての役割を円滑に果たし、かつ、当該活動以外の活動を行うことができるようにすることを旨として、行われなければならない。

(国際的協調)

第七条 男女共同参画社会の形成の促進が国際社会における取組と密接な関係を有していることにかんがみ、男女共同参画社会の形成は、国際的協調の下に行われなければならない。

(国の責務)

第八条 国は、第三条から前条までに定める男女共同参画社会の形成についての基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策（積極的改善措置を含む。以下同じ。）を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(地方公共団体の責務)

第九条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、男女共同参画社会の形成の促進に関し、国の施策に準じた施策及びその他のその地方公共団体の区域の特性に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(国民の責務)

第十条 国民は、職域、学校、地域、家庭その他の社会のあらゆる分野において、基本理念にのっとり、男女共同参画社会の形成に寄与するように努めなければならない。

(法制上の措置等)

第十一条 政府は、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策を実施するため必要な法制上又は財政上の措置その他の措置を講じなければならない。

(年次報告等)

第十二条 政府は、毎年、国会に、男女共同参画社会の形成の状況及び政府が講じた男女共同参画社会の形成の促進に関する施策についての報告を提出しなければならない。

2 政府は、毎年、前項の報告に係る男女共同参画社会の形成の状況を考慮して講じようとする男女共同参画社会の形成の促進に関する施策を明らかにした文書を作成し、これを国会に提出しなければならない。

第二章 男女共同参画社会の形成の促進に関する基本的施策（第十三条～第二十条）

第3章 男女共同参画会議（第二十一条～第二十八条）

附則……（略）……

● 臼杵市男女共同参画推進条例

【2013年（平成25年）3月25日 条例第2号】

第1章 総則

(目的)

第1条 この条例は、男女共同参画の推進に関し、基本理念を定め、市、市民及び事業者の責務を明らかにするとともに、市が実施する施策の基本となる事項を定めることにより、男女共同参画を総合的かつ計画的に推進し、男女（みんな）がともに思いやり支えあう社会を実現することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 男女共同参画 男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うことをいう。
- (2) 積極的改善措置 前号に規定する機会に係る男女間の格差を改善するため必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供することをいう。
- (3) 市民 市内に住所を有するもの及び市内に通勤し、又は通学するものをいう。
- (4) 事業者 市内において事業又は活動を行う個人及び法人その他の団体をいう。
- (5) セクシュアル・ハラスメント 他の者を不快にさせる性的な言動（以下この号において「性的な言動」という。）により個人の生活環境を害すること又は性的な言動に対する個人の対応に起因して当該個人に不利益を与えることをいう。
- (6) ドメスティック・バイオレンス 配偶者等の男女間において、個人の尊厳を侵すような身体的、精神的、性的又は経済的な暴力その他の心身に有害な影響を及ぼす言動をいう。

(基本理念)

第3条 男女共同参画の推進は、男女の個人としての尊厳が重んぜられること、男女が性別による差別的取扱いを受けないこと、男女が個人として能力を発揮する機会が確保されることその他の男女の人権が尊重されることを旨として、行われなければならない。

2 男女共同参画の推進に当たっては、社会における制度又は慣行が、性別による固定的な役割分担等を反映して、男女の社会における活動の選択に対して中立でない影響を及ぼすことにより、男女共同参画の推進を阻害する要因となるおそれがあることに鑑み、社会における制度又は慣行が男女の社会における活動の選択に対して及ぼす影響をできる限り中立なものとするように配慮されなければならない。

3 男女共同参画の推進は、男女が、社会の対等な構成員として、市における政策又は民間の団体における方針の立案及び決定に共同して参画する機会が確保されることを旨として、行われなければならない。

4 男女共同参画の推進は、男女が、相互の協力と社会の支援の下に、子の養育、家族の介護その他の家庭生活における活動について家族の一員としての役割を円滑に果たすとともに、職業生活その他の社会における活動を行うことができるようにしなければならない。

5 男女共同参画の推進は、男女が相互の身体の特徴について理解し合うことにより、性に関する健康と権利を互いに認め合えるようにすることを旨として、行われなければならない。

6 男女共同参画の推進が国際社会における取組と密接な関係を有していることに鑑み、男女共同参画の推進は、国際的協調の下に行われなければならない。

(市の責務)

第4条 市は、前条に定める基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、男女共同参画の推進に関する施策（積極的改善措置を含む。以下同じ。）を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

2 市は、男女共同参画の推進に当たり、市民、事業者、県及び国と連携して取り組むものとする。

3 市は、第1項に規定する施策を総合的に策定し、及び実施するために必要な体制を整備するとともに、財政上の措置を講ずるよう努めなければならない。

(市民の責務)

第5条 市民は、職場、学校、地域、家庭その他の社会のあらゆる分野において、基本理念にのっとり、男女共同参画の推進に努めなければならない。

2 市民は、市が実施する男女共同参画の推進に関する施策に協力するよう努めなければならない。

(事業者の責務)

第6条 事業者は、基本理念にのっとり、その事業活動に関し、男女共同参画の推進に自ら積極的に取り組み、男女が職場における活動に対等に参画する機会の確保に努めるとともに、男女が職業生活における活動と家庭生活における活動その他の活動とを両立して行うことができる職場環境を整備するよう努めなければならない。

2 事業者は、市が実施する男女共同参画の推進に関する施策に協力するよう努めなければならない。

(性別による権利侵害の禁止)

第7条 何人も、職場、学校、地域、家庭その他の社会のあらゆる分野において、性別による差別的取扱い、セクシュアル・ハラスメント又はドメスティック・バイオレンスその他の男女間における暴力的行為を行ってはならない。

(公衆に情報を表示する場合の配慮)

第8条 何人も、公衆に情報を表示する場合は、性別による固定的な役割分担、セクシュアル・ハラスメント又はドメスティック・バイオレンスその他の男女間における暴力的行為を助長し、又は是認する表現を行わないよう努めなければならない。

第2章 男女共同参画の推進に関する基本的施策

(男女共同参画計画)

第9条 市長は、男女共同参画の推進に関する施策を総合的かつ計画的に実施するため、男女共同参画の推進に関する基本的な計画（以下「計画」という。）を策定しなければならない。

2 市長は、計画を策定するに当たっては、市民の意見を聴くとともに、臼杵市男女共同参画推進懇話会に諮問しなければならない。

3 市長は、計画を策定したときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。

4 前2項の規定は、計画の変更について準用する。

(施策の策定等に当たっての配慮)

第10条 市は、男女共同参画の推進に影響を及ぼすと認められる施策を策定し、及び実施するに当たっては、男女共同参画の推進に配慮しなければならない。

(市民及び事業者の理解を深めるための措置)

第11条 市は、広報活動等を通じて、基本理念に関する市民及び事業者の理解を深めるよう適切な措置を講じなければならない。

(教育及び学習の充実)

第12条 市は、学校教育、社会教育その他の教育の分野において、男女共同参画の推進に関する教育及び学習の充実に努めるものとする。

(家庭生活における活動と他の活動の両立)

第13条 市は、家族を構成する男女が共に家庭生活における活動とその他の活動とを両立して行うことができるように、情報の提供その他の必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

(政策等の立案及び決定への共同参画)

第14条 市は、法令等により設置された委員並びに委員会、審議会及びこれらに準ずるものの構成員の選任に当たっては、積極的改善措置を講ずることにより、できる限り男女の均衡を図るよう努めるものとする。

2 市は、民間の団体における方針の立案及び決定に男女が共同して参画する機会が確保されるように、情報の提供その他の必要な支援を行うよう努めるものとする。

(相談及び苦情の申出)

第15条 市民及び事業者は、市が実施する男女共同参画の推進に関する施策、第7条に規定する性別による権利侵害その他男女共同参画社会の推進に関する相談又は苦情の申出をすることができる。

2 市長は、前項の規定による相談又は苦情の申出があった場合は、必要に応じて、関係者に対し説明又は資料の提出等を求め、是正の指示、勧告又は要望その他の必要な措置を行うものとする。

3 市長は、前項の措置を講ずるに当たっては、関係機関等との適切な連携を図るものとする。

4 市長は、第2項の措置を講ずるに当たり、必要と認めるときは、臼杵市男女共同参画推進懇話会の意見を聴くものとする。

(調査研究)

第16条 市は、男女共同参画の推進に関する施策の策定に必要な調査研究を行うよう努めるものとする。

(民間の団体に対する支援)

第17条 市は、民間の団体が行う男女共同参画の推進に関する活動を支援するため、情報の提供その他の必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

(年次報告等)

第18条 市長は、毎年、男女共同参画の推進状況及び男女共同参画の推進に関する施策の実施状況についての報告書を作成し、これを公表するものとする。

第3章 臼杵市男女共同参画推進懇話会

(臼杵市男女共同参画推進懇話会)

第19条 次に掲げる事務を行うため、臼杵市男女共同参画推進懇話会（以下「懇話会」という。）を置く。

(1) 第9条の規定により諮問された事項について調査審議すること。

(2) 男女共同参画の推進に関する重要な事項について、市長の諮問に応じて答申し、及び市長に建議すること。

(組織及び委員等)

第20条 懇話会は、市長が委嘱する委員15人以内をもって組織する。

2 男女のいずれか一方の委員の数は、委員の総数の10分の4未満であってはならない。

3 委員の任期は、2年とし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。

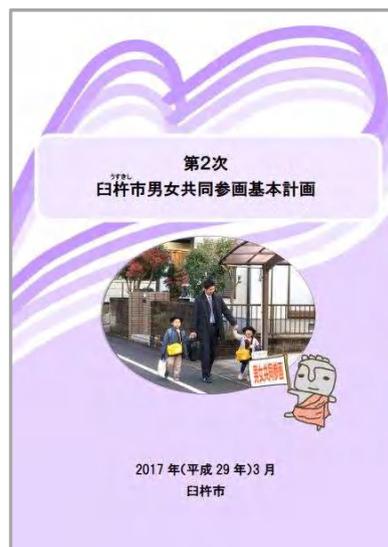
第4章 雑則

(委任)

第21条 この条例の施行に関し必要な事項は、別に規則で定める。

●第2次臼杵市男女共同参画基本計画（抜粋）

臼杵市では、2007年（平成19年）3月に「臼杵市男女共同参画基本計画」を策定し、「男女（みんな）がともに思いやり支えあう社会」を目標に掲げ、男女共同参画社会づくりに取り組んできました。その計画期間である10年が経過し、臼杵市を取り巻く経済社会情勢が変化してきたことから、2017年（平成29年）に「第2次臼杵市男女共同参画基本計画」を策定しています。



計画の期間

第2次臼杵市男女共同参画基本計画の期間は、2017年（平成29年）度を始期、2026年（平成38年）度を終期とする10年間とします。なお、社会情勢の変化などにより必要と考えられる場合は見直しを行います。

本計画の考え方

本計画では、「ブレークスルー思考」を取り入れ、以下のようなプロセスを繰り返し行うことで総合目標を達成することを目指します。

- ①臼杵市の資源から導きだされる「あるべき姿」を考えます。
- ↓
- ②現状や課題を整理します。
- ↓
- ③現状の姿から「あるべき姿」に引き上げるための取組をまとめます。

男女共同参画の「あるべき姿」

第2次臼杵市男女共同参画基本計画では、「臼杵市が目指す男女共同参画社会のすがた」を以下のように考えました。

**臼杵女性(おへまさんたち)の知恵と
世話焼きが光る元気充電のまち**

計画の基本目標

第2次臼杵市男女共同参画基本計画は、以下の3つの基本目標と、重点目標に対して施策を実施しています。

基本目標1 臼杵女性（おへまさんたち）がますます輝き生きる	
重点目標1	臼杵の未来に活かす、井戸端会議の力
重点目標2	どんな仕事も男女平等、そこで輝く！女将の力
重点目標3	臼杵の海の幸・山の幸で創る、おばちゃん達のおもてなし
重点目標4	生涯、個性に充ちた楽しい生活！働く女性にも男性にも
重点目標5	男女が共に支える地域づくりに集まり、臼杵女性の世話（しよわ）焼き

基本目標2 お互いの個性をありのままに認めあう「こころ」を醸成する	
重点目標1	女性を、男性を、皆を、認め合う、あたたかい心のあふれる臼杵
重点目標2	女性が、男性が、皆が、見直す、古い意識と仕組みと慣行
重点目標3	男性も、女性も、皆も、楽しむ、家事・子育て、介護
重点目標4	女性が、男性が、皆が、学ぶ、「男女共同参画」「拡がる選択」

基本目標3 「わかりあうしくみ」を和をもって整える	
重点目標1	身体的性差に配慮した健康支援の「環（わ）かりあうしくみ」を整える
重点目標2	家庭内、男女間等あらゆる暴力の被害者支援の「和（わ）かりあうしくみ」を整える
重点目標3	女性に対するあらゆる暴力の根絶と女性の尊厳を「輪（わ）かりあうしくみ」を整える
重点目標4	ハートフル usuki が輝く「話（わ）かりあうしくみ」を整える



2020年度（令和2年度）

臼杵市の男女共同参画社会づくりのための
意識調査にご協力をお願いします。



日頃から、市政の推進にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

臼杵市では、2017年（平成29年）3月に「第2次臼杵市男女共同参画基本計画」を策定し、「臼杵女性（おへまさんたち）の知恵と世話焼きが光る元気充電のまち」を目標に、様々な施策を実施してまいりました。

また、2013年（平成25年）4月施行の「臼杵市男女共同参画推進条例」により、臼杵市、市民及び事業者の責務を明らかにし、男女共同参画社会を総合的かつ計画的に推進しています。

本調査は、市民皆様の男女共同参画についての現状を把握し、今後の施策をさらに効果的に進めるために実施するものであります。本調査票をお受け取りになられた皆様には、ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

2020年（令和2年）8月

臼杵市長

中野五郎



8月31日（月）までに、同封の返信用封筒で郵便ポストに投函してください。

臼杵市役所（臼杵庁舎）部落差別解消推進・人権啓発課
部落差別解消推進・人権啓発・男女共同参画推進グループ
電話：0972-63-1111（内3172）FAX：0972-63-1464

アンケートについて

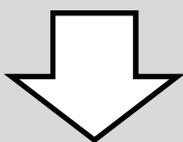
- ・対象：臼杵市在住の18歳以上の方、2,500人（無作為抽出）
- ・無記名式です。（個人情報や回答内容は特定されません）
- ・ご回答いただいた内容は、調査目的以外に使用せず、責任を持って処分します。

回答方法と返送について

① 質問のご回答は、**番号（数字）に○**をつけてください。



② この用紙を同封の**返信用封筒（切手不要）**に入れます。



③ 2020年（令和2年）**8月31日（月）までに郵便ポストに投函**してください。

よろしく
お願い
いたします。

臼杵市役所（臼杵庁舎） 部落差別解消推進・人権啓発課
部落差別解消推進・人権啓発・男女共同参画推進グループ
電話：0972-63-1111（内3172）
FAX：0972-63-1464



男女共同参画社会とは

家庭、職場、地域において、女性も男性も一人ひとりが大切にされ、対等な構成員として喜びも責任も分かち合いつつ、その個性と能力を最大限に発揮できる社会です。

問1. 「男は仕事、女は家庭」のように性別によって役割を固定する考え方がありますが、あなたはその考え方をどう思いますか。 **1つに○**

1. 同感する 2. 同感しない 3. どちらともいえない 4. わからない

問2. あなたは社会や生活の中で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

①～⑧について、右側の1～6の中からあてはまる番号1つに○

項目	男性の方が非常に 優遇されている	男性の方が優遇されている	どちらかと言えば、 男性の方が優遇されている	平等である	どちらかと言えば、 女性の方が優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない
①家庭生活	1	2	3	4	5	6	
②職場	1	2	3	4	5	6	
③学校教育の場	1	2	3	4	5	6	
④地域活動や社会活動	1	2	3	4	5	6	
⑤政治の場	1	2	3	4	5	6	
⑥法律や制度上	1	2	3	4	5	6	
⑦社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6	
⑧社会全体	1	2	3	4	5	6	



問3. あなたの家庭では、次の①～⑪までの役割を、主にどなたがされていますか（現状）。

また、あなたの理想の分担はどのような形ですか。①～⑪について、現状と理想のそれ

ぞれの太枠の1～6の中から、あてはまる番号1つに○（あてはまらない項目につい

ては、記入する必要はありません。）

項 目	現 状						理 想					
	自分	配偶者	夫婦で協力	父（実父・義父）	母（実母・義母）	その他	自分	配偶者	夫婦で協力	父（実父・義父）	母（実母・義母）	その他
①家計の管理	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
②食料品などの買い物	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
③食事の ^{したく} 支度	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
④食事の後片付け	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑤掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑥育児（乳幼児の世話）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑦子どもの教育としつけ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑧学校行事	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑨地域行事	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑩高齢者の世話・介護	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑪家庭の問題における 最終的な決定	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6



問 4. 男性も育児・介護休業をとることができますが、このことについてあなたはどのように思いますか。

1つに○

- | | | |
|---|---|-----------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 男性も育児・介護休業を積極的にとるべきである 2. 育児・介護は女性がすべきであり、男性が休暇をとる必要はない 3. その他（具体的に 4. 男性も育児・介護休業をとることは賛成だが、現実的にはとりづらいと思う | } | <p>⇒問 6 へ</p> <p>⇒問 5 へ</p> |
|---|---|-----------------------------|



問 5. 問 4 で「4. 男性も育児・介護休業をとることは賛成だが、現実的にはとりづらいと思う」と

答えられた方は、その理由をお聞かせください。 1つに○

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| 1. 過去に周囲でとった人がいない | 2. 人事評価や昇給などに悪い影響がある |
| 3. 仕事が忙しい | 4. 仕事で周囲の人に迷惑がかかる |
| 5. 職場にとりやすい雰囲気がない | 6. 休業補償が十分でないので、経済的に困る |
| 7. 男性がとることについて、社会全体の認識が十分でない | |
| 8. その他（具体的に | |

白杵市 男女共同参画社会 目指すべき目

白杵女性（おへまさんたち）の知恵と世話焼きが光る
元気充電のまち





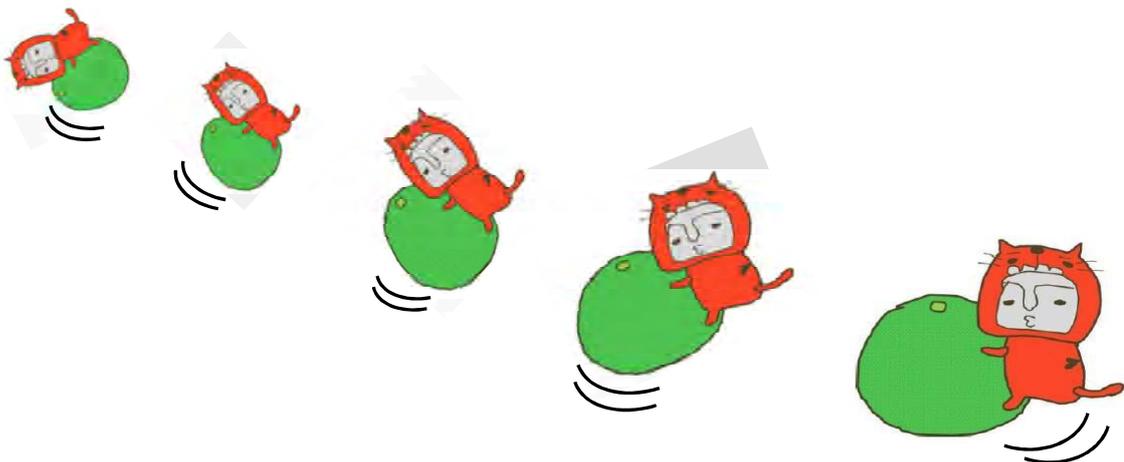
問6. あなたは、次の1~6のうち、優先したいものはどれですか。

また、実際には何を優先していますか。

優先したいもの (○は2つまで)	実際に優先しているもの (○は2つまで)
1. 仕事	1. 仕事
2. 家庭	2. 家庭
3. 地域	3. 地域
4. 個人	4. 個人
5. すべて	5. すべて
6. わからない	6. わからない

問7. 今後、男性が女性とともに家庭生活(家事、育児、介護)や地域活動等へ参加をしていくために必要なことは何だと思いませんか。 **○は2つまで**

1. 男性対象の講習会(料理・育児・介護など)の開催
2. 家庭における妻からの働きかけ
3. 子どものときからの家庭教育
4. 学校における男女平等教育
5. 職場における、育児・介護休暇等を取りやすくする環境づくり
6. 男性の家事参加を促す「家庭参加の日」などの制定
7. 男性が育児や介護、地域活動を行うための仲間(ネットワーク)作りを進めること
8. その他(具体的に)
9. 特に必要なことはない





問 8. 男女ともに、仕事と家庭生活の調和を実現していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。 **それぞれ〇は3つまで**

仕事について (〇は3つまで)	1. 仕事量・残業時間の減少 2. 短時間勤務制度の導入 3. 在宅勤務やフレックスタイム制度(※付録：用語解説参照)の導入 4. 賃金改善・男女間格差の是正 5. パートや派遣社員の労働条件の改善 6. 育児・介護休業制度(※付録：用語解説参照)の充実(延長・義務付けなど) 7. 代替要員の確保など育児・介護休業制度を利用できる職場環境 8. 再雇用制度や起業支援の充実 9. 家事・育児・介護参加への職場・上司の理解 10. 育児休業中・介護休業中の経済的補償 11. その他(具体的に)
家庭生活について (〇は3つまで)	1. 再就職準備のための講座・職業訓練の充実 2. 保育施設や児童クラブ等の内容の充実(預り時間の延長など) 3. ホームヘルプ(※付録：用語解説参照)など家事援助や介護支援の施設・サービスの充実 4. 配偶者・家族とのふれあい(コミュニケーション)の充実 5. 家庭内での家計負担の平等化 6. 家事・育児・介護の技能の向上 7. 家族・周囲の理解・支援 8. その他(具体的に)



※現在働いていない方もお答えください。

問 9. あなたと仕事の関係は次のどれですか。 **1つに○**

1. 継続して働いている
2. 働いていたが、結婚・育児(出産)のため一時やめ、また働いている
3. 働いていたが、その他の事情で一時やめ、また働いている
4. 働いていたが、結婚・育児(出産)のため仕事をやめた
5. 働いていたが、その他の事情で仕事をやめた
6. これまで働いたことはない
7. 定年退職により現在働いていない
8. 現在、学生である
9. 現在、産前産後休暇(産休)中、育児休暇(育休)中である
10. 現在、介護休暇中である
11. その他(例:病休など)

問 10. 一般的に、女性が仕事をもつことについて、あなたはどのように思いますか。 **1つに○**

1. 結婚や出産にかかわらず仕事をもち続けた方がよい
2. 結婚するまでは仕事をもつ方がよい
3. 子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい
4. 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい
5. 仕事をもたない方がよい
6. その他(具体的に)
7. わからない

「ワクワク・ライフ・バランス」

2020年度(令和2年度)「男女共同参画週間」キャッチフレーズ





※現在働いていない方もお答えください。

問 11. あなたの職場では、①～⑮のように性別による不平等の有無がありますか。
また、そのような考え方をどう思いますか。

①～⑮について、右側の 1～3（あるいは 1～2）の中からあてはまる番号 1 つに○

項 目	不平等の有無			考え方	
	あ る	な い	わ か ら な い	あ つ て も よ い	な い 方 が よ い
①募集・採用の機会に格差がある	1	2	3	1	2
②雇用形態 (派遣社員やパートに女性が多いことなど)	1	2	3	1	2
③職種	1	2	3	1	2
④研修・訓練を受ける機会	1	2	3	1	2
⑤賃金	1	2	3	1	2
⑥昇進・昇格	1	2	3	1	2
⑦残業時間	1	2	3	1	2
⑧結婚・妊娠・出産時に退職を促される	1	2	3	1	2
⑨産前・産後休業の取得のしやすさ	1	2	3	1	2
⑩育児休業の取得のしやすさ	1	2	3	1	2
⑪お茶出しや掃除などの雑用を行う頻度	1	2	3	1	2
⑫個人的なことを、必要以上に聞かれる	1	2	3	1	2
⑬飲み会への付き合いの強制	1	2	3	1	2
⑭女性は定年まで勤めにくい雰囲気がある	1	2	3	1	2
⑮役員・管理職への登用に格差がある	1	2	3	1	2



問 12. あなたは育児休業や介護休業を取得したことがありますか。 **1つに○**

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 両方とも取得したことがある | 2. 育児休業のみ取得したことがある |
| 3. 介護休業のみ取得したことがある | 4. 両方とも取得したことがない |

問 13. 一度でも退職したことがある方にお聞きします。 **退職したことがない方は問 16 へ**
あなたがその仕事をやめた理由は何ですか。

何度か退職した場合は、最も新しいことについてお答えください。 **1つに○**

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 結婚 | 2. 妊娠・出産・子育て |
| 3. 自分の病気やけが | 4. 家族の介護や看護 |
| 5. 夫(妻)の転勤 | 6. 自分の収入が必要でなくなった |
| 7. 転職 | 8. 雇用条件に不満があった |
| 9. 職場でセクハラやパワハラがあった | 10. 職場に居づらくなった |
| (※付録：用語解説参照) | |
| 11. 年齢が高くなった | |
| 12. その他（具体的に |) |

問 14. あなたが退職したのは、今から何年前ですか。 **1つに○**

- | | |
|---------|-----------|
| ① 2年以内 | ② 3～5年 |
| ③ 6～10年 | ④ 10年をこえる |

問 15. その退職は、ご自身が納得して選択した退職でしたか。 **1つに○**

- | | |
|--------------------------------|---|
| 1. 自分で希望して退職を選んだ | |
| 2. 勤務を継続できない理由や雰囲気が生じ、仕方なく退職した | |
| 3. 雇用主から退職を促された | |
| 4. 家族から退職を勧められた | |
| 5. その他（具体的に |) |



問 16. 子どもの学歴はどこまで必要だと思いますか。 **1つに○**

	高等学校	専門学校	短大・高専	大学以上	その他
①男の子ども	1	2	3	4	5 ()
②女の子ども	1	2	3	4	5 ()

問 17. ※子どもがいない方でも子どもがいる場合を想定してお答えください。

家庭の中で子どもを育てる場合、子どもに身に付けてほしいことは何ですか。

男の子どもと女の子どもについて、それぞれ①～⑨のうち○は3つまで

項 目	男の子ども	女の子ども
①家事能力	1	1
②職業能力	2	2
③礼儀正しさ	3	3
④行動力	4	4
⑤勤勉さ	5	5
⑥思いやり	6	6
⑦協調性	7	7
⑧自立心	8	8
⑨忍耐力	9	9

「そっか。いい人生は、いい時間の使い方なんだ。」



問 18. あなたは地域社会において、現在どのような活動に参加していますか。

また、今後どのような活動に参加したいですか。 ○はいくつでも

※あてはまらない項目については、記入する必要はありません。

項 目	現 在	今 後
①ボランティア活動(社会奉仕など)	1	1
②学校行事	2	2
③老人クラブ	3	3
④自治会などの地域活動	4	4
⑤女性の会を含めた女性団体・グループ等の地域活動	5	5
⑥スポーツ、レクリエーション活動	6	6
⑦スポーツ、レクリエーション活動以外の趣味活動	7	7
⑧文化・教養・学習活動・公民館活動	8	8
⑨宗教活動	9	9
⑩政治活動	10	10
⑪その他(具体的に)	11	11
⑫特に参加していない・参加したくない	12	12

問 19

付問

問 18 で「⑫特に参加していない・参加したくない」と答えた方におたずねします。

あなたが、活動に参加していないのはどのような理由からですか。 ○は3つまで

1. 関心がないから	2. 活動するための施設が近くにないから
3. 情報が少ないから	4. 家族の理解や協力が得られないから
5. 高齢・病弱だから	6. 他人と一緒に活動するのがわずらわしいから
7. 時間がないから	8. 一緒に参加する仲間がないから
9. 経済的に余裕がないから	
10. その他(具体的に)	



問 19. 自治会などの地域の集まりや作業の中で、女性も男性と共に参加したり、男性と同じように発言したりすることができにくい雰囲気や状況はあると思いますか。

1つに○

1. ということはないと思う	}	⇒問 20 へ
2. わからない		
3. できにくい雰囲気や状況があると思う		⇒付問へ



付問 問 19 で「3. できにくい雰囲気や状況があると思う」と答えた方におたずねします。

それはどんな雰囲気や状況だと思いますか。 ○は 2 つまで

<ol style="list-style-type: none"> 1. 役員は男性のみで、女性の意見が受け入れられにくい 2. 決定事項については、従来、男性が取り仕切っているので、女性が口を挟みにくい 3. 主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれる 4. お茶だしや皿洗いなどは女性だけがする暗黙の役割分担がある 5. 地域活動で女性が発言することはでしゃばりだと思われがちである 6. 地域活動に参加できるような家族の理解や協力が無い 7. 参加する女性側の努力がまだ足りない 8. その他（具体的に)
--	---





DV（ドメスティック・バイオレンス）とは

親密な関係にある男女間（夫婦、恋人など）における、身体的、心理的、性的、経済的、社会的暴力をいいます。DVは重大な人権侵害であるとともに、男女平等意識の妨げとなるにもかかわらず、その多くが潜在化されたままとなっています。

問 20. あなたの配偶者または恋人が、次の表にあげるようなことをした場合、あなたは、それを暴力だと思えますか。各項目について、右側の1~3の中からあてはまる番号1つに○

項 目		あ た ら ん と 思 う	ど ん な 場 合 も 暴 力 に あ た ら ん と 思 わ な い	暴 力 の 場 合 と そ う で な い 場 合 が あ る	暴 力 に あ た ら ん と は 思 わ な い
身 体 的 暴 力	①殴る・蹴る・平手で打つ	1	2	3	
	②髪を引っ張る	1	2	3	
	③突き飛ばす	1	2	3	
	④物を投げつける	1	2	3	
	⑤首を絞める	1	2	3	
	⑥刃物などでおどす	1	2	3	
	⑦殴るふりをしておどす	1	2	3	
精 神 的 暴 力	①無視する	1	2	3	
	②大声で怒鳴る	1	2	3	
	③人格を否定するような暴言を吐く	1	2	3	
	④生命・身体に対する脅迫(殺すぞ・死ぬ等)	1	2	3	

次ページに続く

第4章 配偶者・恋人間の暴力（DV）について

こいびとかん



前ページの続き

各項目について、右側の1～3の中からあてはまる番号1つに○

項 目		あたると思う	ない場合がある	暴力にあたると思わない
性的暴力	①避妊に協力しない	1	2	3
	②性行為の強要	1	2	3
	③ポルノビデオ等を無理やり見せる	1	2	3
	④リベンジポルノ（※付録：用語解説参照）	1	2	3
	⑤中絶の強要	1	2	3
経済的暴力	①生活費を渡さない・使わせない	1	2	3
	②借金の強要	1	2	3
	③外で働くことを禁じる	1	2	3
	④「誰のおかげで生活できているんだ」などと見下す	1	2	3
社会的暴力	①外出を制限する	1	2	3
	②交友関係や電話を細かくチェックする	1	2	3

第4章 配偶者・恋人間の暴力（DV）について

こいびとかん



問 21. あなたは、配偶者または恋人などの親密な男女の関係にある人との間で、次の項目のような経験はありますか。

各項目について、右側の 1～5 の中からあてはまる番号 1 つに○

項目	された事がある			ない	したことがある	
	3年以内		それ以前			
	何度もある	1、2度ある				
身体への攻撃	① たたく、突き飛ばす	1	2	3	4	5
	② 殴る、蹴る	1	2	3	4	5
	③ 体を傷つける可能性のある物で殴る	1	2	3	4	5
威嚇やおどし	① 「殺す」「怪我をさせる」などと言っておどす	1	2	3	4	5
	② 殴るふりをして、おどす	1	2	3	4	5
	③ 刃物などを突きつけて、おどす	1	2	3	4	5
	④ 家具や食器、日用品を投げたり壊すなどして、おどす	1	2	3	4	5
精神的・経済的に追い詰めること	① 何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3	4	5
	② 「誰のおかげで生活できているんだ」「かいしょうなし」「役立たず」「死ぬ」などとののしる	1	2	3	4	5
	③ 大切にしている物をわざと捨てたり壊したりする	1	2	3	4	5
	④ 社会的な活動や就職などを許さない	1	2	3	4	5
	⑤ 交友関係や電話・外出・手紙などのやりとり、お金の使い道を細かく監視・制限する	1	2	3	4	5
	⑥ 生活費などの必要な金を渡さない、食事をさせない	1	2	3	4	5
性に関すること	① 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3	4	5
	② 相手がいやがっているのに、性的な行為を強要する	1	2	3	4	5
	③ 避妊に協力しない	1	2	3	4	5
	④ 中絶を強要する	1	2	3	4	5

太枠の中にひとつでも○がある方は問 22 へ、ない方は問 25 へお進みください。

第4章 配偶者・恋人間の暴力（DV）について

こいびとかん



問 22. 問 21 で太枠の中にひとつでも○がある方にお聞きします。あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。 1つに○

1. 相談した⇒問 2 3へ
2. 相談しなかった⇒問 2 4へ

問 23. 問 22 で「1. 相談した」と答えた方にお聞きします。

あなたが相談した人（場所）を教えてください。 ○はいくつでも

1. 警察
2. 配偶者暴力相談支援センター（※付録：用語解説参照）
（婦人相談所、消費生活・男女共同参画プラザ）
3. その他公的機関（市町村の相談窓口など）
4. 人権擁護委員、民生委員、自治委員など
5. 民間の専門家や専門機関（弁護士、被害者支援団体など）
6. 上司、同僚や職場内の相談窓口
7. 医療関係者（医師、看護師、助産師など）
8. 学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）
9. 家族や親せき
10. 友人、知人
11. その他（具体的に _____)

第4章 配偶者・恋人間の暴力（DV）について

こいびとかん



問 24. 問 22 で「2. 相談しなかった」と答えた方にお聞きします。

あなたが、誰（どこ）にも相談しなかったのはなぜですか。 ○はいくつでも

1. 誰（どこ）に相談してよいのかわからなかった
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかった
3. 相談しても無駄だと思った
4. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った
5. 配偶者、恋人などに「誰にも言うな」と脅された
6. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った
7. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った
8. 世間体が悪い
9. 他人を巻き込みたくなかった
10. 他人に知られると、これまで通りの付き合い(仕事や学校、地域などの人間関係)ができなくなると思った
11. そのことについて思い出したくなかった
12. 自分にも悪いところがあると思った
13. 相手の行為は愛情の表現だと思った
14. 相手と別れた後の自立に不安があったから(経済的なこと、子どものことなど)
15. 相談するほどのことではないと思った
16. それが DV (暴力) だと思わなかった
17. その他 (具体的に)

問 25. 配偶者や恋人間の暴力を防止するためにはどのようなことが必要だと思いますか。

○はいくつでも

1. 家庭で保護者が子どもに対し、暴力がいけないことを教える
2. メディア(※付録：用語解説参照)を活用して広報・啓発活動を積極的に行う
3. 学校または大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う
4. 加害者への罰則を強化する
5. 暴力をふるったことがある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
6. 暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピュータソフトなど)を取り締まる
7. 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
8. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
9. 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者に対し、研修や啓発を行う
10. その他 (具体的に)

第5章 人権について



問 26. あなたは、これまでに次のような行為を職場の上司・同僚、学校やサークルなどの指導者・関係者、近所や地域などで付き合いのある人にしたり、されたりしたことはありませんか。相手について、異性および同性に関係なくお答えください。

各項目について、右側の 1～5 の中からあてはまる番号 1 つに○

項 目	された事がある			ない	したことがある	
	3年以内		それ以前			
	何度もある	1、2度ある				
セクハラ 付録…用語説明参照について	①「男のくせに根性がない」「女には仕事を任せられない」「女性は職場の花でありさえすればいい」などと言う	1	2	3	4	5
	②「結婚はまだ?」「子どもはまだ?」などとしつこく言う	1	2	3	4	5
	③性的な冗談や質問、ひやかしの言葉をしつこく言う	1	2	3	4	5
	④「異性関係が派手だ」などと、性的なうわさを流す	1	2	3	4	5
	⑤異性の同僚をじろじろ眺めたり、容姿を話題にしたりする	1	2	3	4	5
	⑥ヌード写真やわいせつな本を飾ったり、見せびらかしたりする	1	2	3	4	5
	⑦接待や宴席で、お酌やデュエット、ダンスを強要する	1	2	3	4	5
	⑧さわる、抱きつく	1	2	3	4	5
	⑨地位や権限を利用して、性的関係を迫る	1	2	3	4	5
ストーカー 付録…用語説明参照について	①つきまとい・待ち伏せ	1	2	3	4	5
	②盗聴・盗撮	1	2	3	4	5
	③無言電話	1	2	3	4	5
	④敷地内・家宅侵入	1	2	3	4	5
	⑤不審な言動・行動	1	2	3	4	5
	⑥不審なメール・郵便物ののぞき見や盗難	1	2	3	4	5
	⑦ ^{ぼうとう} 罵倒・ ^{きょうはく} 脅迫 (電話も含む)	1	2	3	4	5
性的被害	①ピラマキ	1	2	3	4	5
	②暴行	1	2	3	4	5
	③SNS (※付録：用語解説参照)などのインターネット上に投稿	1	2	3	4	5

太枠の中にひとつでも○がある方は問 27 へ、ない方は問 30 へお進みください。

第5章 人権について

問 27. 問 26 で太枠の中にひとつでも○がある方にお聞きします。

あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

1 つに○

1. 相談した⇒問 28へ

2. 相談しなかった⇒問 29へ



問 28. 問 27 で「1. 相談した」と答えた方にお聞きします。

あなたが相談した人（場所）を教えてください。 ○はいくつでも

1. 警察
2. 配偶者暴力相談支援センター（※付録：用語解説参照）
（婦人相談所、消費生活・男女共同参画プラザ）
3. その他公的機関（市町村の相談窓口など）
4. 人権擁護委員、民生委員、自治委員など
5. 民間の専門家や専門機関（弁護士、被害者支援団体など）
6. 上司、同僚や職場内の相談窓口
7. 医療関係者（医師、看護師、助産師など）
8. 学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）
9. 家族や親せき
10. 友人、知人
11. その他（具体的に _____)





問 29. 問 27 で「2. 相談しなかった」と答えた方にお聞きします。あなたが、誰（どこ）にも相談しなかったのはなぜですか。 はいくつでも

1. 誰（どこ）に相談してよいのかわからなかった
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかった
3. 相談しても無駄だと思った
4. 相談したことがわかると、しつこくなると思った
5. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った
6. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った
7. 世間体が悪い
8. 他人を巻き込みたくなかった
9. 思い出したくなかった
10. 自分にも悪いところがあると思った
11. 相談するほどのことではないと思った
12. セクハラ・ストーカー（※付録：用語解説参照）・性的被害だとは思わなかった
13. その他（具体的に _____ ）

問 30. セクハラ・ストーカー（※付録：用語解説参照）・性的被害等を防止するためにはどのようなことが必要だと思いますか。 はいくつでも

1. 家庭で保護者が子どもに対し、人権問題や犯罪を防止するための教育を行う
2. 学校で児童・生徒・学生に対し、人権問題や犯罪を防止するための教育を行う
3. 職場などで、性別に由来する人権問題に関わる啓発を行う
4. 地域で、防止啓発のための研修会、イベントなどを行う
5. メディア（※付録：用語解説参照）を活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
6. 加害者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
7. 加害者への罰則を強化する
8. 犯罪を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピュータソフトなど）を取り締まる
9. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
10. 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者に対し、研修や啓発を行う
11. その他（具体的に _____ ）

問 31. 妊娠・出産を担う女性は、男性とは異なった体や心の問題に直面することがありますが、女性が生涯にわたり心身ともに健康であるために、どのようなことが大事だと思いますか。 はいくつでも

1. ライフステージ(思春期、妊娠・出産、更年期、高齢期)に合わせた健康づくりの推進
2. 成人以降のライフステージに応じた健康に関する情報や学習機会などの提供
3. 自分の健康を保持促進するために、自ら運動等を行う習慣を持つこと
4. 妊娠・出産・避妊・中絶・性感染症などに関する情報提供
5. 女性が性生活について、主体的・総合的に判断できる力をつけること
6. 受診機会の少ない女性が、健康診断を受診できるような環境づくり
7. 心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の充実
8. 不妊に関する悩みに対応する相談機関の充実
9. 学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施
10. その他(具体的に)
11. 特にない
12. わからない





第6章 男女共同参画社会の実現とDV防止について

問 32. あなたは次の①～⑦にあげることについて知っていますか。

①～⑦について、右側の1～3の中からあてはまる番号1つに○

項 目	知 つ て い る 内 容 ま で	内 容 は 知 ら な い 聞 い た こ と は あ る が	ま っ た く 知 ら な い
① 男女共同参画社会	1	2	3
② ジェンダー（※付録：用語解説参照） （社会的・文化的につくられた性別）	1	2	3
③ 女性の問題に対する相談窓口 （臼杵市役所 部落差別解消推進・人権啓発課）	1	2	3
④ DV（夫婦・恋人間の暴力） <small>こいびとかん</small>	1	2	3
⑤ 臼杵市男女共同参画基本計画	1	2	3
⑥ 臼杵市男女共同参画推進条例	1	2	3
⑦ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律	1	2	3

問 33. 女性の社会進出が進んでいますが、議員、審議会委員や役員・管理職などの指導的地位や、自治会などに占める女性の割合はまだ低いのが現状です。

女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。 1つに○

1. 男性優位の社会の仕組みや制度がある
2. 女性は指導力が低いというような女性の能力に対する偏見がある
3. 女性の能力発揮のチャンスが男性と同じように与えられていない
4. 「女はでしゃばるものではない」という社会通念がある
5. 女性の登用に対する認識や理解が足りない
6. 自治会長や議員などの政策決定の場に出られるような女性の人材がない
7. 男性がなる方がよい(なるものだ)と思っている人が多い
8. 女性自身が指導的地位に対する関心やチャレンジ精神がない
9. 家族の理解や協力が得にくい
10. その他（具体的に)



問 34. 男女共同参画社会の実現に向けて、臼杵市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。 **○は3つまで**

1. 市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
2. 民間企業・団体等の役員・管理職に女性の登用が進むよう支援する
3. 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する
4. 従来、女性が少なかった分野(科学技術や防災など)への女性の進出を支援する
5. 保育・介護・病院などの施設やサービスを充実する
6. 男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する
7. 生涯を通じた男女の健康増進を支援する
8. 男女間のあらゆる暴力をなくす
9. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女ともに働き方の見直しを進める
10. 子育てや介護等でいったん仕事をやめた人の再就職を支援する
11. 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PR する
12. 講演会や研修会などのイベントの啓発
13. その他（具体的に _____ ）
14. 特にない

問 35. あなたは、女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。 **○はいくつでも**

1. メールによる相談ができる
2. 電話による相談ができる
3. 通話料が無料
4. 24 時間相談ができる
5. 相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる
6. 同性の相談員がいる
7. 匿名で相談ができる
8. 弁護士など、法的知識のある相談員がいる
9. 臨床心理士、公認心理士など、心理専門職の相談員がいる
10. その他（ _____ ）
11. 特にない
12. わからない



最後に あなたご自身について

(1) あなたの性別をお聞かせください。 **1つに○**

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

(2) あなたの年齢をお聞かせください。 **1つに○**

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| ① 18～19 歳 | ② 20 歳～29 歳 | ③ 30 歳～39 歳 |
| ④ 40 歳～49 歳 | ⑤ 50 歳～59 歳 | ⑥ 60 歳～69 歳 |
| ⑦ 70 歳以上 | | |

(3) あなたの職業をお聞かせください。 **1つに○**

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 農林漁業 |
| 2. 商工サービス業（店を持つ商工業、サービス業） |
| 3. 自由業（開業医、弁護士、芸術家、僧職など） |
| 4. 管理職（会社や官公庁などの課長以上、大学の講師以上、学校の教頭以上） |
| 5. 事務職（事務員、教員、営業員、公務員など） |
| 6. 専門技術職（技術研究員、医師、看護師、美容師など） |
| 7. 労務職（工員、建築作業員、運転手、販売員など） |
| 8. 家事専業 |
| 9. 学生 |
| 10. パート・アルバイト・臨時雇用 |
| 11. その他 |
| 12. 働いていない |

(4) あなたは結婚されていますか。 **1つに○**

- | |
|----------------------------|
| 1. 結婚している(事実婚を含む) ⇒ (5) へ |
| 2. 結婚していない ⇒ (6) へ |
| 3. 結婚していたが、離婚・死別した ⇒ (6) へ |



最後に あなたご自身について

- (8) 0歳児から小学校入学前の子どもがいる方で、子どもは日中（8時～17時・土日含まない）は主にどなたと（あるいはどこで）過ごしていますか。 **1つに○**

1. あなた自身
2. 配偶者
3. 同居親族
4. 同居していない親族・知人
5. 保育園や幼稚園など
6. ベビーシッターなど
7. その他（具体的に _____)

- (9) 小学生の子どもがいる方で、子どもは学校以外（土日含まない）では主にどなたと（あるいはどこで）過ごしていますか。 **1つに○**

1. あなた自身
2. 配偶者
3. 同居親族
4. 同居していない親族・知人
5. 学童保育など
6. シッターなど
7. 塾・習い事等
8. 子どもだけで留守番
9. その他（具体的に _____)

- (10) 新型コロナウイルスによる社会変化のうち、あなたに与える影響が大きかったものを以下から選んでください。 **○は3つまで**

1. 外出や移動が制限されたこと
2. 仕事（収入）が減少した、または、なくなったこと
3. 支出が増えたこと
4. 仕事のやり方が変わったこと（テレワークの導入や業務量の負担増）
5. 買物での品薄や品切れに対する不安
6. 日常の通院などに対する不安
7. 子どもの休校や小さな子どもの保育への対応
8. 環境の変化による家庭内コミュニケーションの悪化
9. その他（具体的に _____)
10. 特になし



^{みんな}男女がともに、家庭、職場、地域など、あらゆる場面で思いやり支え合う社会を実現するために、ご意見やご要望などがございましたらご記入ください。



お忙しい中ご協力を
ありがとうございました。

8月31日（月）までに、同封の返信用封筒で郵便ポストに投函してください

女性に対する問題（暴力など）相談窓口

部落差別解消推進・人権啓発課

電話：0972-63-1111（内3172）



(付録) 用語解説

言葉		意味
あ 行	育児・介護休業法	男女の労働者に対し、満1歳未満の子の養育のための休業や、常時介護を必要とする親族の介護のための3か月未満の休業を認めています。
	SNS(エス・エヌ・エス) (ソーシャルネットワーク)	友人・知人間のコミュニケーションを円滑にする手段や場を提供したり、趣味や嗜好、居住地域、出身校、あるいは「友人の友人」といったつながりを通じて新たな人間関係を構築する場を提供する、会員制のサービスのこと。
か 行	固定的性別役割分担	男女を問わず個人の能力等によって役割の分担を決めることが適当であるにもかかわらず、男性、女性という性別を理由として、役割を固定的に分ける考え方のことをいいます。
	ジェンダー	「社会的・文化的に形成された性別」のことです。人間には生まれつきの生物学的性別がありますが、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」といいます。
	女性のエンパワーメント	女性が、自己決定する力、仕事上の技術力、経済的な力、物事を決定する場での発言力等を身につけ、その力を発揮し、さまざまな政策決定過程に参画することを意味します。
	ストーカー	「こっそり後をつける」「忍び寄る」の意味の英単語に由来します。ストーカー規制法では「特定の人に対する恋愛感情などが満たされなかったことへの怨恨(えんこん)の感情を満たすため、その人や家族につきまといなどを繰り返すこと」と定義しています。
せ 行	セクハラ (セクシュアル・ハラスメント)	男女共同参画会議の女性に対する暴力に関する専門調査会報告書「女性に対する暴力についての取り組むべき課題とその対策」(2004年(平成16年)3月)では、セクシュアル・ハラスメントについて、「継続的な人間関係において、優位な力関係を背景に、相手の意思に反して行われる性的な言動であり、それは、単に雇用関係にある者の間のみならず、施設における職員とその利用者との間や団体における構成員間など、様々な生活の場で起こり得るものである。」と定義しています。

言葉		意味
た 行	男女共同参画社会	男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会のことです。
	男女雇用機会均等法	正式には「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律」といい、1985年（昭和60年）に制定されました。その後、1997年（平成9年）には、差別禁止規定、職場のセクハラ防止やポジティブ・アクションの促進を盛り込む改正が行われました。さらに、2006年（平成18年）には、差別の禁止範囲を男女双方に拡大し、体力や勤務条件等による間接差別の禁止や妊娠・出産等を理由とする不利益取扱いの禁止等を盛り込む改正が行われました。
	DV （ドメスティックバイオレンス）	「配偶者等からの暴力」のことを指し、「なぐる」「ける」といった身体への暴力だけでなく、「人格を否定するような暴言をはく」、「無視する」、「わざと相手が大切にしまっているものを壊す」、「生活費を渡さない」等の精神的暴力や、「性的行為を強要する」、「避妊に協力しない」等の性的暴力も含まれます。
	DV防止法が定めている 「配偶者」	DV防止法にいう「配偶者」には、婚姻の届出をしていないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含み、同法にいう「離婚」には、婚姻の届出をしていないが事実上婚姻関係と同様の事情にあった者が、事実上離婚したと同様の事情に入ることを含みます。
	配偶者暴力相談支援センター	配偶者暴力相談支援センターは、都道府県の施設において設置されています。配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図るため、相談の受付や、適切な相談機関の紹介、被害者に対するカウンセリング、自立して生活することを促進するための情報提供や援助などの様々な支援を行っています。 【大分県の配偶者暴力相談支援センター：「大分県消費生活・男女共同参画プラザ〈アイネス〉」及び「大分県婦人相談所」】

た
行は
行

言葉		意味
は 行	パワハラ (パワー・ハラスメント)	2012年(平成24年)1月30日、厚生労働省の「職場のいじめ・嫌がらせ問題に関する円卓会議ワーキング・グループ報告」によると、職場のパワーハラスメント(パワハラ)とは、「同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える又は職場環境を悪化させる行為をいう。」とされています。
	フレックスタイム制度	フレックスタイム制は、1日の労働時間帯を、必ず勤務すべき時間帯(コアタイム)と、その時間帯の中であればいつ出社または退社してもよい時間帯(フレキシブルタイム)とに分け、出社、退社の時刻を労働者の決定に委ねるものです。
	ホームヘルプ	訪問介護は、利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、訪問介護員(ホームヘルパー)が利用者の自宅を訪問し、食事・排泄・入浴などの介護(身体介護)や、掃除・洗濯・買い物・調理などの生活の支援(生活援助)をします。通院などを目的とした乗車・移送・降車の介助サービスを提供する事業所もあります。
	ポジティブ・アクション	男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会に係る男女間の格差を改善するため必要な範囲において、男女のいずれか一方に対し、活動に参画する機会を積極的に提供するものであり、個々の状況に応じて実施していくものです。
	メディア	情報を人々に伝える機関や事業のことです。
ま 行	モラル・ハラスメント	身体的暴力がないDVに非常に近いものですが、被害者は知らないうちに混乱を生じ、精神的に追い詰められていきます。DVとは違い、相手はパートナーとは限りません。
	マタニティ・ハラスメント	育児休業制度等の制度を利用しようとする人への嫌がらせ行為(男性も該当する場合があります。)や妊娠、出産をきっかけにした上司や同僚からの嫌がらせ行為のことです。
ら 行	リベンジポルノ	別れた恋人や配偶者に対する報復として、交際時に撮影した相手方のわいせつな写真や映像を、インターネットなどで不特定多数に配布・公開する嫌がらせ行為のことです。
わ 行	ワーク・ライフ・バランス	「仕事と生活の調和」と訳され、老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発等、さまざまな活動について自ら希望するバランスで展開できる状態のことをいいます。

臼杵市役所（臼杵庁舎）
部落差別解消推進・人権啓発課

〒875-8501 臼杵市大字臼杵7-2番1
TEL : 0972-63-1111 FAX : 0972-63-1464